

第Ⅲ部 資 料 編

明5.9
印刷官
員共立
学会

明6.7
千葉
学校

明7.5
(県立)
千葉
師範
学校

明10.9
千葉
女子
師範
学校
(明17.6
廃止)

明17.7
千葉
師範
学
校女
子部

明19.10
千葉
県尋
常
師範
学校
女子
部

明31.4
千葉
県
師範
学校
女子
部

明37.4
千葉
県女
子
師範
学校

昭22.8
東京
医科
歯科
大学
学科

昭18.4
国立
移管
千葉
師範
学校
(男子
部)(女
子部)

明7.7
共立
病院

明9.10
(公立)
千葉
病院

明15.7
県立
千葉
附
属病
院

明21.3
県立
千葉
病
院

大9.4
茂原
学校
附
属
農
業
教
員
養
成
科

大10.3
千葉
県
実
業
補
修
学
校
教
員
養
成
所

昭10.4
青
年
学
校
教
員
養
成
所

昭19.4
国立
移管
千葉
青
年
師
範
学
校

明20.9
国立
移管
第一
高
等
中
学
校
医
学
部
医
学
科

明23.7
第一
高
等
中
学
校
医
学
部
薬
学
科

明27.9
第一
高
等
学
校
医
学
部
医
学
科

明34.4
千葉
医
学
専
門
学
校
医
学
科

大11.4
千葉
医
学
専
門
学
校
附
属
病
院

大12.4
千葉
医
科
大
学
附
属
病
院

大12.4
千葉
医
科
大
学
附
属
医
学
専
門
部
(大14.3
廃止)

大12.4
千葉
医
科
大
学
附
属
薬
学
専
門
部

昭14.5
千葉
医
科
大
学
臨
時
附
属
医
学
専
門
部

昭19.4
千葉
医
科
大
学
附
属
医
学
専
門
部

昭21.9
(千葉
医
科
大
学
附
属)
腐
敗
研
究
所

大10.12
東京
高
等
工
芸
学
校

昭19.4
東京
工
業
専
門
学
校

明42.4
千葉
県
立
園
芸
専
門
学
校

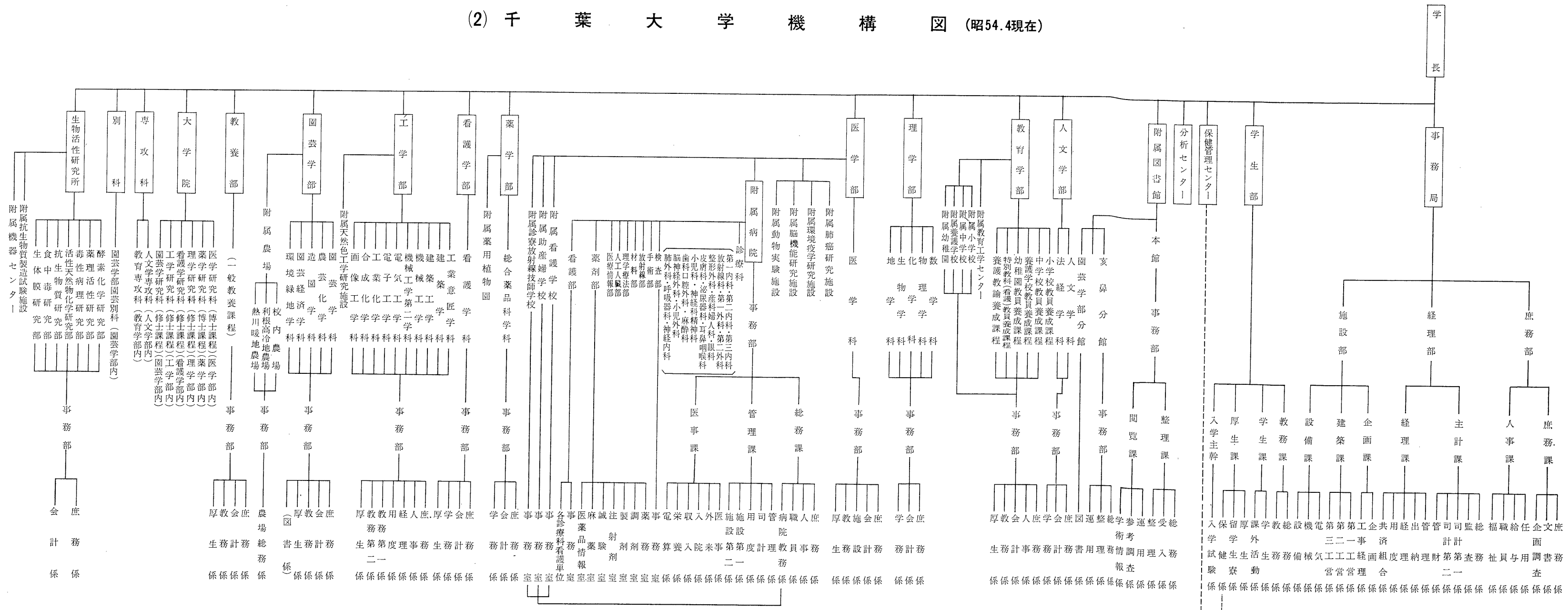
大3.4
千葉
県
立
高
等
園
芸
学
校

昭4.6
国立
移管
千葉
高
等
園
芸
学
校

昭19.4
千葉
農
業
専
門
学
校

[illegible]

(2) 千 葉 大 学 機 構 図 (昭54.4現在)



2 規 程

現 行	旧
(1) 千葉大学評議会規程 第1条 国立大学の評議会に関する暫定措置を定める規則（昭和28年文部省令第11号）に基づき千葉大学に評議会を置く。 第2条 評議会は、次の各号に掲げる評議員をもつて組織する。 一 学長 二 各学部長及び教養部長 三 各学部及び教養部の教授2名 四 生物活性研究所長 五 附属図書館長 六 附属病院長 2 前項第3号の評議員は、各学部及び教養部ごとに教授会において当該学部及び教養部の教授のうちから選挙された者とする。 第3条 前条第1項第3号の評議員の任期は、2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。 2 前項の評議員は、再任されることができる。 3 第1項の評議員は、任期が満了した場合においても、新たに評議員が任命されるまでは、同項の規定にかかわらず引き続きその職務を行う。 第4条 評議会は、学長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項を審議する。 一 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項 二 予算概算の方針に関する事項 三 学部、学科その他重要な施設の設置廃止に関する事項 四 人事の基準に関する事項 五 学生定員に関する事項 六 学生の厚生補導及びその身分に関する重要事項 七 学部、その他の機関の連絡調整に関する事項 八 教育研究の全学的な体制の整備発展に関する事項 九 その他大学の運営に関する重要事項	千葉大学評議会規程 (昭和28.6.1廃止) 第1条 本学の運営を円滑適正にし、且つ学部間の連繫を緊密化するため、本学に評議会を置く 第2条 評議会は前条の目的を達成するため、本学の運営に関する重要なる事項につき学長の諮問に応じ審議するものとする (注) 運営に関する重要なる事項とは、概ね旧制大学の評議会の審議事項（1 学部に於ける学科の設置及廃止 2 講座の設置及廃止に付諮問したる事項 3 大学内部の制規 4 その他文部大臣又は学長の諮問したる事項）とする 第3条 評議会は左の評議員を以て組織する 一 学部長 一 附属病院長、分校主事 一 左記により各学部毎に教授（教授予定者を含む。以下教授と称する）の互選により学長の命ずるもの 記 医 学 部 2 名 薬 学 部 1 名 学芸学部 3 名（内2名4年制一般教養担当の教授の互選によるもの） 工芸学部 2 名 園芸学部 2 名 (注) 教授予定者とは、本学に在職する教官にして教授の資格審査に合格し、且つ講座定員内のものをいう 第4条 学長は必要ある時は評議員以外のものも出席させることができる 第5条 学長は毎月1回評議会を招集し、その議長となる 但し臨時に招集することもある 附 則 一 本規程は昭和24年10月5日より施行する 一 本規程の存続期間は大学管理法（仮称）の制定までとする

規 程

現 行	旧
2 評議会は、前項に掲げる事項の外、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）の規定によりその権限に属せしめられた事項を取り扱う。 第5条 学長は、評議会の会議を招集しその議長となる。 2 前条第2項に規定する事項について、評議員の3分の1以上の請求があるときは、学長は会議を招集しなければならない。 第6条 評議会は、常会及び臨時会とする。 2 常会は毎月1回、臨時会は必要あるとき開くものとする。 第7条 評議会は、評議員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き議決することができない。 2 議事は、出席評議員の過半数で決する。 3 可否同数のときは議長の決するところによる。 第8条 学長は、必要があるときは評議員以外の者を会議に出席させることができる。 第9条 評議会に議事録を具え議事進行の過程及び決定事項を記録する。 第10条 評議会の庶務は、事務局が処理する。 第11条 この規程の改正は、評議員の3分の2以上の同意を必要とする。 第12条 この規程に定めるものの外、必要な事項は評議会が定める。 附 則 1 この規程は、昭和28年6月1日から施行する。 2 昭和26年10月5日施行の千葉大学評議会規程は廃止する。 附 則 この規程の改正は、昭和36年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和39年9月10日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和43年5月9日から施行し、昭和43年4月1日から適用する。	一 本規程施行に関する細則は学長が定める

現 行	旧
附 則 この規程の改正は、昭和47年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和47年7月13日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和48年9月29日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和53年4月1日から施行する。	(2) 千葉大学協議会規程 (昭48.10.1廃止) 第1条 教育公務員特例法に定める事項を行うため、本学に協議会を置く。 第2条 協議会は次に掲げる職員をもつて組織する。 一 学 長 二 学部長 三 評議員である教授 四 腐敗研究所長 五 附属図書館長 六 医学部附属病院長 第3条 学長は必要があるときは、協議会を招集しその議長となる。 第4条 協議会の議決方法その他については、千葉大学評議会規程第5条以下を準用する。 附 則 この規程は昭和27年12月9日から施行する。 千葉大学学部教授会規程 (設置) 第1条 学校教育法、その他の法令に基いて、本学各学部教授会を置く。 (組織) 第2条 教授会は、学部長および教授の全員をもつて組織する。 2 教授会は、学部等の長及び教授をもつて
(3) 千葉大学教授会規程 (設置) 第1条 学校教育法第59条に基づき、本学の各学部、教養部及び生物活性研究所（以下「学部等」という。）に教授会を置く。 (組織) 第2条 教授会は、学部等の長及び教授の全員をもつて組織する。 2 教授会は、学部等の長及び教授をもつて	千葉大学学部教授会規程 (設置) 第1条 学校教育法、その他の法令に基いて、本学各学部教授会を置く。 (組織) 第2条 教授会は、学部長および教授の全員をもつて組織する。 2 教授会は、学部長および教授をもつて構成する教授会の定める規程に基いて、助教

現 行	旧
構成する教授会の定める規程に基づいて、学部等の実情に応じ助教授その他の教官をその構成員に加えることができる。 (権限) 第3条 学部等における、次に掲げる事項は、教授会の審議を経なければならない。 一 学科講座（これに代るべきものを含む。）並びに教育及び研究に関する施設の設置廃止に関する事項 二 学科目の種類及び編成に関する事項 三 学生の入学及び卒業の認定に関する事項 四 学生の試験に関する事項 五 学生団体、学生活動及び学生生活に関する事項 六 学生の懲戒に関する事項 七 学部等の予算に関する事項 八 その他学部等の教育、研究及び運営に関する重要事項 2 教授会は、前項に掲げる事項の外、教育公務員特例法その他の法律の規定により、その権限に属せしめられた事項をつかさどる。 (会議) 第4条 定例教授会は、毎月1回以上開会する。ただし、特に必要がある場合は、臨時に開会することができる。 第5条 学部等の長は、教授会を招集しその議長となる。 第6条 教授会は、その構成員の3分の2以上の出席がなければ、会議を開くことができない。 第7条 教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって成立する。 第8条 学部等の長は、必要あるときは、教授会の構成員以外の者を教授会に出席させることができる。 第9条 教授会構成員の4分の1以上の者が議案を示して請求するときは、学部等の長は、教授会を招集しなければならない。 第10条 学部等の長に事故あるときは、学部等の長があらかじめ教授会の議を経て指名	授又は常勤の講師をその構成員に加えることができる。 (権限) 第3条 当該学部における次に掲げる事項は、教授会の審議を経なければならない。 一 学科講座（これに代るべきものを含む。）ならびに教育および研究に関する施設の設置廃止に関する事項 二 学科目の種類および編成に関する事項 三 学生の入学および卒業の認定に関する事項 四 学生の試験に関する事項 五 学生団体、学生活動および学生生活に関する事項 六 学生の懲戒に関する事項 七 その他当該学部の教育、研究および運営に関する重要事項 2 教授会は、前項に掲げる事項の外、教育公務員特例法その他の法律の規定によりその権限に属せしめられた事項をつかさどる。 (会議) 第4条 定例教授会は、毎月1回以上、開会する。但し、特に必要がある場合は、臨時に開会することができる。 第5条 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。 第6条 教授会は、その構成員の3分の2以上の出席がなければ、会議を開くことができない。 第7条 教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって成立する。 第8条 学部長は、必要あるときは教授会の構成員以外の者を教授会に出席させることができる。 (議事録) 第9条 教授会に議事録を具え、議事進行の過程および決議事項を記録し議長の指名する教授2名の確認を受けるものとする。 第10条 議事録は、学部長が保管する。 (幹事および書記) 第11条 教授会に、幹事および書記を置く。

現	行	旧
した教授が議長の職務を行う。 (議事録)		幹事は、事務長がこれにあたる。
第11条 教授会に議事録を備え、議事進行の過程及び決議事項を記録するものとする。 (幹事及び書記)		2 書記は、幹事の命を受け事務に従事する。 (議事および運営)
第12条 教授会に、幹事及び書記を置く。幹事は、事務長がこれにあたる。		第12条 その他、教授会の議事および運営の方法については、教授会が定める。
2 書記は、幹事の命をうけ事務に従事する。 (議事及び運営)		附 則 本規程は、昭和26年10月5日から施行する。
第13条 その他、教授会の議事及び運営の方法については、教授会が定める。		
附 則 この規程は、昭和26年10月5日から施行する。		
附 則 この規程の改正は、昭和43年11月14日から施行する。		
附 則 この規程の改正は、昭和47年4月1日から施行する。		
附 則 この規程の改正は、昭和47年7月13日から施行する。		
附 則 この規程の改正は、昭和48年9月29日から施行する。		
(4) 千葉大学学長選考基準 (趣旨)		千葉大学学長選考基準 (昭40.3.9廃止)
第1条 学長採用の選考は、教育公務員特例法(昭和24年法律第1号)第4条の規定に基づき、千葉大学評議会(以下「評議会」という。)がこの基準により行う。 (選考の時期)		第1条 学長採用の選考は千葉大学協議会がこの基準によつて行う。
第2条 評議会は、次の場合に学長候補者の選考を行う。 一 学長の任期が満了するとき。 二 学長が辞任を申出たとき。 三 学長が欠員となつたとき。		第2条 学長の選考は次の場合に行う。 一 学長の任期が満了するとき 二 学長が辞任を申出たとき 三 学長が欠けたとき
2 学長候補者の選考は、前項第1号に該当する場合においては、任期満了の30日前までに、同項第2号又は第3号に該当する場合		第3条 学長は原則として、学内の適任者のうちから選考する。
		第4条 協議会は学長を選考するため、学長候補者推薦委員会(以下、委員会という。)の推薦する学長の候補者について、選挙権を有する者に単記無記名投票による選挙を行わせる。

現 行	旧
合においては、辞任の申出があつたとき又は欠員となつたときすみやかに行う。 (選考の方法) 第3条 評議会は、選挙資格を有する者（以下「選挙資格者」という。）による選挙の結果に基づき、学長候補者を選考する。 (選挙資格者) 第4条 選挙資格者は、選挙公示の日に現に在職する本学の学長、専任の教授、助教授、講師及び助手とする。ただし、別に定める者及び選挙の日までにその職を去つた者は、選挙資格を有しない。 (選挙の期日、公示及び通知) 第5条 評議会は、学長候補者の選挙を行う期日を定め、次の各号に定める期間内に公示し、各学部、教養部、生物活性研究所及び医学部附属病院（以下「各部局」という。）の長並びに選挙資格者に通知しなければならない。 一 学長の任期が満了するときは、選挙を行う期日の25日前まで 二 学長が辞任を申出たとき又は学長が欠員となつたときは、その日より10日以内 (学長候補適任者選定委員会) 第6条 評議会は、学長候補者となるべき適任者（以下「学長候補適任者」という。）を選定するため、学長候補適任者選定委員会（以下「委員会」という。）を設ける。 2 委員会は、各部局（医学部附属病院を除く。）から選出された委員をもつて組織する。各部局は、選挙資格者の互選により、各4名の委員を選出する。 3 委員会は、委員の互選により委員長を定める。委員長は、委員会の議長となる。 4 委員会は、委員の5分の4以上の出席がなければ委員会を開くことができない。 第7条 学長候補適任者となるべき者は、各部局（医学部附属病院を除く。）の推薦によるものとする。この推薦は、公示の日から14日以内に評議会に対して、これを行う。 第8条 評議会は、前条の規定による推薦締切後4日以内に、被推薦者の氏名、経歴等	第5条 選挙資格を有する者は、選挙公示の日に現に本学の学長並びに専任の教授、助教授及び講師であるものとする。 選挙公示の日に選挙資格を有していた者が、選挙の日までに前項の職を去つたときは選挙資格を失う。 第6条 学長の選挙事務は協議会が管理する。 第7条 協議会は学長の選挙を行う期日を定め、次の期間内に公示すると共に、学部長並びに選挙資格を有する者に通知しなければならない。 一 学長の任期が満了するときは、満了の日の30日前まで 二 学長が辞任を申出たとき及び学長が欠けたときは、その日より10日以内 第8条 学部長は前条の通知を受けた場合は学長候補者推薦委員（以下、委員という。）を選出し、協議会に報告しなければならない。 第9条 各学部の委員は教授会の構成員のうち、選挙資格を有する者の互選により選出せられた者5名とする。 第10条 協議会は委員会を招集し、学長の候補者を推薦させる。 委員会の議長は、学長又はその代理者をもつて充てる。 委員会は委員の5分の4以上の出席がなければ会議を開くことができない。 第11条 委員会は次の方法によつて学長の候補者を定める。 一 各出席委員は候補者として適当と認める者2名以内を、連記で投票する。 二 議長は得票者の氏名を第1次候補者として、五十音順によりその席上で発表する。 三 各出席委員は第1次候補者の中から3名以内を、連記で投票する。 四 前号の投票において、得票多数の者5名を限度として学長の候補者とする。但し、末位に得票同数の者があるときは、学長の候補者に加える。

現	旧	旧
を委員会の委員となるべき者に通知し、この通知後、すみやかに委員会を招集する。		五 議長は学長の候補者の氏名を、五十音順によりその席上において発表する。
第9条 委員会は、前条の通知後、5日以内に、次の方法により学長候補適任者を選定する。		前項における投票は総て無記名とし、且つ各候補者の得票数及びその順位は、議長及び協議会が協議員のうちから選任した立会人2名の外には示さないものとする。
一 委員会は、2名連記の無記名投票により被推薦者のなかから、学長候補適任者を選定する。		議長は学長の候補者が決まったときは、これを協議会に報告する。
二 委員長は、上位の得票者5名を限度として学長候補適任者とし、その席上で五十音順にこれを発表する。ただし、末位に得票同数の者があるときは、その者を加える。		第12条 協議会は学長の候補者の氏名を五十音順により公示すると共に、選挙資格を有する者に通知しなければならない。
2 前項の得票数は、委員長及び委員の互選による立会人2名のほかには、示さないものとする。		第13条 学長の選挙は、前条の候補者について、指定の期日に、指定の選挙場において行う。
3 委員長は、学長候補適任者を選定したときは、これを評議会に報告する。 (学長候補適任者の公示及び通知)		第14条 有効投票の過半数を得たものを学長候補者とする。
第10条 評議会は、学長候補適任者の氏名を五十音順により公示し、選挙資格者に通知しなければならない。		過半数を得たものがないときは繰返し前条の投票を行う。
(選挙)		投票3回に及んでなお過半数を得たものがないときは、3回目の投票において得票多数の者2名について投票を行う。但し、末位の者と同点者があるときはくじでその順位を定める。
第11条 学長候補者の選挙は、前条の候補適任者について、単記無記名投票によりこれを行う。		前項の投票で有効投票の多数を得た者を学長候補者とする。得票同数のときはくじで定める。
2 前項の投票において、有効投票の過半数を得た者がいないときは、得票多数の者3名について単記無記名投票を行う。ただし、得票同数の者があるときは、その者を加える。		第15条 学長候補者が学長となることに同意しないときは、前2条の規定により再投票を行う。
3 前項の投票において、有効投票の過半数を得た者がいないときは、得票多数の者2名について単記無記名投票を行う。ただし、得票同数の者があるときは、その者を加える。		第16条 協議会は選挙の結果に基き、学長候補者を選考して学長又はその代理者に報告し且つ公示する。
4 前項の投票において、有効投票の過半数を得た者がいないときは、得票多数の者2名について再度単記無記名投票を行う。ただし、得票同数の者があるときは、くじでその順位を定める。 (不在者投票)		第17条 学長の任期は4年とする。但し、再選することができる。
		第18条 この基準の解釈について疑義があるときは、協議会がこれを決定する。
		第19条 この基準の実施に関し必要な事項は協議会が定める。
		第20条 この基準の改正は協議会において出席者の3分の2以上の同意を必要とする。
		附 則
		1 この基準は昭和28年2月1日から施行す

規 程

現 行	旧
第12条 選挙資格者で、公務による出張又は疾病その他身体の故障により、選挙の当日自ら投票所に行くことができない者は、別に定めるところにより、不在者投票をすることができる。 (当選者) 第13条 第11条第1項から第3項までの投票において、有効投票の過半数を得た者を、学長候補者選挙の当選者とする。 2 第11条第4項の投票においては、有効投票の多数を得た者を当選者とする。得票同数のときは、くじで当選者を定める。 (当選者の辞退) 第14条 評議会は、学長候補者選挙の当選者が学長となることに同意しないときは、前5条の規定により再選挙を行う。 2 評議会は、再選挙を行うにいたつたときは、直ちにその旨を公示し、選挙資格者に通知しなければならない。 (選挙の管理) 第15条 学長候補者の選挙は、評議会が管理する。 2 評議会は、選挙管理責任者1名を置くものとし、評議会議長をもつて充てる。 (学長候補者の決定) 第16条 評議会は、選挙の結果に基づき、学長候補者を決定する。 2 評議会は、前項の決定を学長又はその代理者に報告し、公示する。 (学長の任期) 第17条 学長の任期は、4年とする。 2 学長は、再任することができる。ただし、引き続き6年をこえて在任することはできない。 (細則等) 第18条 この基準の実施に関する細則は、評議会が定める。 2 この基準の解釈について疑義があるときは、評議会がこれを決定する。 (改正の手続) 第19条 この基準は、評議会において出席者の3分の2以上の同意を得なければ、改正	る。

現 行	旧
することができない。 附 則 1 この基準は、昭和40年12月9日から施行する。 2 従前の千葉大学学長選考基準（昭和28年2月1日評議会制定）は、これを廃止する。 3 この基準施行の際現に学長の職にある者の任期については、初任より引続き6年をこえて在任することはできない。 附 則 この基準の改正は、昭和42年10月12日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和44年4月4日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和45年6月3日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和47年4月1日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和48年9月29日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和48年10月1日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和53年4月1日から施行する。 (5) 千葉大学学部長選考に関する規程 第1条 学部長候補者の選考に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。 第2条 学部長候補者は、学部の教授（教授予定者を含む。）のうちから、当該学部の教授会の議に基づき学長が選考する。 第3条 学部長候補者の選考は、次の各号の一に該当する場合行う。 一 学部長の任期が満了するとき。 二 学部長が辞任を申出たとき。 三 学部長が欠員となつたとき。	千葉大学学部長選考基準 (昭28.6.1廃止) 第1条 学部長採用の選考は、当該学部教授会の推薦する候補者について、学長がこれを行う。 第2条 学部長は、原則として当該学部内の適任者のうちから選考する。 第3条 学部長の任期は3年とする。但し、再任することができる。この場合は、引続き6年を超えて在任することができない。

規 程

現 行	旧
第4条 学部長は、教授会により決定した、学部長候補者を学長に報告する。 第5条 学部長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、引続き4年をこえて在任することができない。 第6条 学部長候補者選考の実施に関し必要な学部細則は、あらかじめ学長の承認を受けるものとする。 附 則 1 この規程は、昭和28年6月1日から施行する。 2 昭和28年2月1日施行の千葉大学学部長選考基準は廃止する。 附 則 1 この規程の改正は、昭和47年7月13日から施行する。 2 この規程の改正の際現に在職している学部長の任期は、改正後の規程第5条の規定にかかわらず、なお従前のとおり3年とし、改正時における任期のはじめから起算して、引続き4年をこえて在任できないものとする。 (6) 千葉大学教養部長選考基準 第1条 千葉大学教養部長（以下「教養部長」という。）候補者の選考に関しては、この基準の定めるところによる。 第2条 教養部長候補者は、本学の教授（教授予定者を含む。）のうちから千葉大学教養部教授会（以下「教授会」という。）の議に基づき学長が選考する。 第3条 教養部長候補者の選考に関する教授会は、次の各号の一に該当する場合に開かれる。 一 教養部長の任期が満了するとき。 二 教養部長が辞任を申し出たとき。 三 教養部長が欠員となつたとき。 2 教養部長候補者の選挙は前項第1号に該当する場合は任期満了の日の20日前までに、第2号又は第3号に該当する場合はそのつどすみやかに行う。 第4条 教授会は、教養部長候補者の選挙を行う期日を定め、次の各号に定める期間内	第4条 学部長の推薦に関する内規は、予め学長の承認を受けるものとする。 附 則 この基準は昭和28年2月1日から施行する。 註 第1条の「教授会」とは学部において2種の教授会を開く場合は、その広い意義における教授会を指すものとする。 千葉大学教養部長選考基準 (昭44.5.15廃止) 第1条 千葉大学教養部長（以下「教養部長」という。）候補者の選考に関しては、この基準の定めるところによる。 第2条 教養部長候補者は、本学の教授（教授予定者を含む。）のうちから千葉大学教養部教授会（以下「教授会」という。）の議に基づき、学長が選考する。 第3条 教養部長候補者の選考に関する教授会は、次の各号の一に該当する場合に開かれる。 一 教養部長の任期が満了するとき 二 教養部長が辞任を申し出たとき 三 教養部長が欠員となつたとき 第4条 教授会は、その構成員が推薦した者のうちから、教養部長候補者となるべき適任者3名を選定する。 2 前項の推薦は、授教会構成員の単記無記名投票による。

現	行	旧
に公示しなければならない。		
一 教養部長の任期が満了するときは、選挙を行う期日の18日前まで		3 推薦された者が3名を超えるときは、被推薦者全員について単記無記名投票を行ない、得票多数の者3名を適任者とする。
二 教養部長が辞任を申し出たとき又は教養部長が欠員となつたときはその日より10日以内		4 得票同数の者については、さらに決戦投票を行ない適任者を定める。
第5条 教授会は、その構成員が推薦したもののうちから教養部長候補者となるべき適任者3名を選定する。		5 推薦された者が3名に満たない場合には、その欠を補なうために、さらに推薦投票を行ない適任者3名を選定する。
2 前項の推薦は、教授会構成員の単記無記名投票による。		第5条 教養部長候補者となるべき適任者の推薦及び選定の告示は、その日を含めて1週間以前に行なわなければならない。
3 推薦された者が3名を超えるときは、被推薦者全員について単記無記名投票を行い得票多数の者3名を適任者とする。		第6条 第4条より選定された適任者のうちから、教養部長候補者を選出するため選挙を行なう。
4 得票同数の者については、単記無記名の決選投票を行い適任者を定める。		2 前項の選挙資格者は、選挙の当日専任の教授、助教授及び講師である者とする。ただし、海外出張中の者を除く。
5 推薦された者が3名に満たない場合には、その欠を補なうために単記無記名の推薦投票を行い適任者3名を選定する。		3 教養部長候補者選挙の当選者は、有効投票数の過半数を得た者とする。
第6条 教養部長候補者となるべき適任者の推薦及び選定の告示は、その日を含めて7日以前に行わなければならない。		4 前項に該当する者がいないときは、投票多数の者2名について、さらに投票を行ない、得票多数の者を当選者とする。この場合において、得票が同数であるときは、年長者を当選者とする。
第7条 選挙資格者は、選挙公示の日に現に在職する専任の教授、助教授、講師及び助手とする。		第7条 教養部長候補者となるべき適任者は、第6条の選挙の日を含めて1週間以前に告示されなければならない。
第8条 第5条により選定された適任者のうちから教養部長候補者を選出するため選挙を行う。投票は、単記無記名とする。		第8条 第6条の選挙に関する事務は、教養部長が管理する。
2 選挙資格者で公務による出張又は疾病その他身体の故障により選挙の当日自ら投票所に行くことができない者は、別に定めるところにより不在者投票をすることができる。		第9条 教授会は、第6条の選挙の結果を参考として、教養部長候補者を決定する。
3 教養部長候補者選挙の当選者は、有効投票数の過半数を得た者とする。		第10条 教養部長は、第9条により決定した教養部長候補者を学長に報告する。
4 前項に該当するものがないときは、得票多数の者2名について単記無記名の決選投票を行い得票多数の者を当選者とする。この場合において、得票が同数であるときは年長者を当選者とする。		第11条 教養部長の任期は、2年とする。ただし、再任とすることができる。
第9条 教養部長候補者となるべき適任者は、第8条の選挙の日を含めて7日以前に		第12条 この基準を改正するときは、教授会の議を経るものとする。
		附 則
		この基準は、昭和43年4月1日から施行する。

規 程

現 行	旧
告示されなければならない。 2 前項の告示には得票は示さず、氏名は五十音順に発表する。 第10条 教授会は、第8条の選挙の結果に基づき教養部長候補者を決定する。 第11条 教養部長又は選挙管理責任者は第10条により決定した教養部長候補者を学長に報告し公示する。 第12条 第8条の選挙に関する事務は、教養部長又は選挙管理責任者が管理する。 第13条 教養部長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、引続き4年をこえて在任することができない。 第14条 この基準の実施に関する細則は別に定める。 第15条 この基準を改正するときは教授会の議を経るものとする。 附 則 1 この基準は、昭和44年5月15日から施行する。 2 千葉大学教養部長選考基準（昭和43年2月8日制定）は、廃止する。 附 則 1 この基準の改正は、昭和47年7月13日から施行する。 2 この基準の改正の際現に在職する教養部長は、改正時における任期のはじめから起算して、引続き4年をこえて在任できないものとする。 附 則 この基準の改正は、昭和52年1月20日から施行する。 (7) 千葉大学生物活性研究所長選考基準 第1条 研究所長採用の選考は、研究所教授会の議に基づき、学長がこれを行なう。 第2条 研究所長は、本学教授のうちから選考する。 第3条 研究所長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、引続き4年をこえて在任することができない。 第4条 研究所長の選考に関する研究所内規は、予め学長の承認を受けるものとする。	腐敗研究所長選考基準 第1条 研究所長採用の選考は、研究所教授会の推薦する候補者について学長がこれを行う。 第2条 研究所長は、原則として学内の適任者のうちから選考する。 第3条 研究所長の任期は3年とする。但し、再任することができる。 第4条 研究所長の推薦に関する内規は、予め学長の承認を受けるものとする。

現 行	旧
附 則 この基準は、昭和28年2月1日から施行する。 附 則 1 この基準の改正は、昭和47年7月13日から施行する。 2 この基準の改正の際現に在職している研究所長の任期は、改正後の基準第3条の規定にかかわらず、なお従前どおり3年とし、改正時における任期のはじめから起算して、引続き5年をこえて在任できないものとする。 附 則 この規程の改正は、昭和48年9月29日から施行する。 (8) 千葉大学医学部附属病院長選考基準 第1条 医学部附属病院長採用の選考は、医学部教授会の推薦する候補者について学長が行なう。 第2条 医学部附属病院長は、医学部教授のうちから選考する。 第3条 医学部附属病院長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、引続き4年をこえて在任することができない。 第4条 医学部附属病院長の推薦に関する内規は、予め学長の承認を受けるものとする。 附 則 この基準は、昭和28年9月18日から施行する。 附 則 1 この基準の改正は、昭和47年7月13日から施行する。 2 この基準の改正の際現に在職する医学部附属病院長は、改正時における任期のはじめから起算して、引き続き4年をこえて在任できないものとする。 (9) 千葉大学附属図書館長選考基準 第1条 附属図書館長採用の選考は、この基準により学長がこれを行う。 第2条 附属図書館長は、原則として学内の	附 則 この基準は、昭和28年2月1日から施行する。 千葉大学医学部附属病院長選考基準 第1条 医学部附属病院長採用の選考は、医学部教授会の推薦する候補者について学長が行う。 第2条 医学部附属病院長は、原則として医学部臨床教授のうちから選考する。 第3条 医学部附属病院長の任期は2年とする。 第4条 医学部附属病院長の推薦に関する内規は、予め学長の承認を受けるものとする。 附 則 この基準は、昭和28年9月18日から施行する。 千葉大学附属図書館長選考基準 第1条 附属図書館長採用の選考は、この基準により学長がこれを行う。 第2条 附属図書館長は、原則として学内の

現 行	旧
適任者のうちから選考する。 第3条 附属図書館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き4年をこえて在任することができない。 附 則 この基準は、昭和28年2月1日から施行する。 「註」 学長が第1条の選考を行うときは、評議会の意向を徴するものとする。 附 則 1 この基準の改正は、昭和47年7月13日から施行する。 2 この基準の改正の際現に在職している附属図書館長の任期は、改正後の基準第3条の規定にかかわらず、なお従前どおり3年とし、改正時における任期のはじめから起算して、引き続き4年をこえて在任できないものとする。 附 則 この基準の改正は、昭和48年10月1日から施行する。 (10) 千葉大学学生部長選考基準 第1条 千葉大学学生部長（以下「学生部長」という。）の選考は、この基準の定めるところによる。 第2条 学生部長の選考は、次の各号の一に該当する場合に行う。 一 学生部長の任期が満了するとき。 二 学生部長が辞任を申し出たとき。 三 学生部長が欠員になったとき。 2 学生部長の選考は、前項第1号に該当する場合は、任期満了の日の1か月前に、第2号又は第3号に該当する場合は、そのつどすみやかに行う。 第3条 各学部及び教養部の教授会は、本学の専任教授又は助教授のうちから学生部長候補者2名以内を学長に推薦するものとする。 第4条 学長は、前条の候補者のうちから学生部長を選考する。 第5条 学生部長の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、引き続き4年をこえて	適任者のうちから選考する。 第3条 附属図書館長の任期は3年とする。但し、再任することができる。 附 則 この基準は、昭和28年2月1日から施行する。 「註」 学長が第1条の選考を行うときは、協議会の意向を徴するものとする。 千葉大学学生部長選考基準 第1条 千葉大学学生部長（以下「学生部長」という。）の選考は、この基準の定めるところによる。 第2条 学生部長の選考は、次の各号の一に該当する場合に行う。 一 学生部長の任期が満了するとき 二 学生部長が辞任を申し出たとき 三 学生部長が欠員になったとき 2 学生部長の選考は、前項第1号に該当する場合は、任期満了の日の1か月前に、第2号または第3号に該当する場合は、そのつどすみやかに行う。 第3条 各学部の教授会は、本学の専任教授のうちから学生部長候補者2名以内を学長に推薦するものとする。 第4条 学長は、前条の候補者のうちから学生部長を選考する。 第5条 学生部長の任期は2年とし再任を妨げない。 附 則

現 行	旧
在任することができない。 附 則 この基準は、昭和39年3月12日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和44年6月23日から施行する。 附 則 1 この基準の改正は、昭和47年7月13日から施行する。 2 この基準の改正の際現に在職する学生部長は、改正時における任期のはじめから起算して、引き続き4年をこえて在任することができないものとする。 (1) 千葉大学教員選考基準 第1条 教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第4条及び教育公務員特例法施行令（昭和24年政令第6号）第2条の規定に基づき、千葉大学の教授、助教授、講師及び助手の選考は、この基準により行なう。 第2条 教授の選考は、次の各号の一に該当する者について行なう。 一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者 二 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者 三 大学（旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学を含む。以下本条、次条及び第5条において同じ。）において教授の経歴のある者 四 大学において助教授の経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者 五 高等学校及び専門学校（旧高等学校令（大正7年勅令第389号）による高等学校及び旧専門学校令（明治36年勅令第61号）による専門学校をいう。以下次条第5号において同じ。）並びにこれらと同等以上と認められる学校において5年以上教授の経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者 六 芸能体育等については、特殊の技能にひいて、教育の経歴のある者	この基準は、昭和39年3月12日から施行する。 千葉大学教員選考基準 第1条 教育公務員特例法第4条に基き本学教授、助教授並びに講師の採用及び昇任の選考は、この基準により行う。 第2条 教授の選考は、次の各号の一に該当する者について行う。 一 博士（日本における博士の学位と同等と認められる外国の学位を含む。）の学位を有し、教育上の経験又は識見をもっている者 二 公刊された著書論文報告等により博士の学位を有する者に匹敵する研究上の業績があり、教育上の経験又は識見をもっている者 三 高等専門学校以上の学校において3年以上教員の経験があり、教授上學問上の業績がある者 「註」 芸能、体育の諸学科については展覧会、体育会、品評会等において技術優秀の証明を得た者等は本号に準じて考慮する。 四 学術技能に秀いで、教育に経験がある者 「註」 本号は音楽、美術、体育、家政等前3号の基準によつて、判定することが困難な場合を規定したものである。 第3条 助教授の選考は、教授の選考に準ずるものとし、概ね次の各号の一に該当する

規 程

現 行	旧
第3条 助教授の選考は、次の各号の一に該当する者について行う。 一 前条に規定する教授となることのできる者 二 大学において助教授又は専任の講師の経歴のある者 三 大学において3年以上助手又はこれに準ずる職員としての経歴があり、教育研究上の能力があると認められる者 四 修士の学位を有する者又は旧大学令による大学の大学院に3年以上在学した者で、教育研究上の能力があると認められる者 五 高等学校及び専門学校並びにこれらと同等以上と認められる学校において、3年以上教授の経歴があり、又は5年以上助教授若しくは専任の講師の経歴があり、教育研究上の業績若しくは能力があると認められる者 六 研究所、試験所、調査所等に5年以上在職し、研究上の業績があると認められる者	者について行う。 一 博士の学位を有する者 二 研究業績がある者 三 旧制大学の助教授又は専任講師の経歴がある者 四 旧制大学の助手又はこれに準ずる職員として2年以上在職し、研究上、教授上の能力があると認められる者 五 旧制大学の大学院学生として2年以上在学し、かつ研究上、教授上の能力があると認められる者 六 高等専門学校の教授又は専任講師として在職し、研究上、教授上の業績がある者又は能力があると認められる者 七 大学卒業者（高等学校高等科教員免許状所有者を含む。）にあつては2年以上、高等専門学校卒業者にあつては5年以上、高等専門学校の助教授として在職し、研究上若しくは、教授上の業績がある者又は能力があると認められる者 八 担当学科に関連する権威ある研究所、試験所、調査所、事業場等において2年以上（高等専門学校卒業者にあつては5年以上）在職し、教育上、研究上の業績がある者 九 芸能、体育の諸学科については、展覧会、体育会、品評会等において、技術優秀の証明を得た者で、特に教授上若しくは、教育上の業績がある者又は能力があると認められる者
第4条 講師の選考は、次の各号の一に該当する者について行なう。 一 第2条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者 二 その他特殊な専攻分野について教育上の能力があると認められる者	第4条 講師の選考は、次の各号の一に該当する者について行う。 一 教授、助教授の選考に準ずる。但し場合によつては所要の年限又は経歴を除いて考慮することができる。 二 その他、教授能力があると認められる者
第5条 助手の選考は、次の各号の一に該当する者について行う。 一 大学の学部を卒業した者 二 前号の者に準ずる能力があると認められる者	第5条 助手の選考は、教育公務員特例法施行令第2条に基き、次の各号の一に該当する者について行う。 一 高等専門学校以上の学校を卒業した者 二 その学科目に関する知識技能を有する
第6条 教授会は、あらかじめ学長の承認を得て、この基準に関する内規を定めることができる。 附 則 この基準は、昭和29年6月23日から施行する。 附 則 この基準の改正は、昭和48年1月11日から施行する。	

現 行	旧
(12) 千葉大学大学院委員会規程 第1条 千葉大学大学院の管理運営に関する重要事項を審議するため、大学院委員会（以下「委員会」という。）を設ける。 第2条 委員会は、次に掲げる職員をもつて組織する。 一 学長 二 各研究科長 三 各研究科の教授2名 2 前項第3号の委員は各研究科委員会において選出し、その任期は2年とする。 第3条 委員会は次の事項を審議する。 一 大学院の組織運営に関する事項 二 学位授与の認証に関する事項 三 学長の諮問した事項 四 その他大学院に関する重要事項 第4条 学長は会議を招集して、その議長となる。 第5条 会議は、委員の3分の2以上の出席をもつて成立し、出席委員の過半数の同意をもつて議決する。 第6条 学長は、必要あるときは委員以外の者を会議に出席させることができる。 第7条 委員会の庶務は、事務局が処理する。 附 則 この規程は、昭和30年7月1日から施行し、昭和30年4月1日から適用する。 附 則 この規程の改正は、昭和39年4月1日から施行する。 附 則 1 この規程の改正は、昭和50年1月1日から施行する。 2 改正前の第2条第1項第3号の委員は、	者 第6条 教授会は、予め学長の承認を得て、この基準に関する内規を定めることができる。 附 則 この基準は、昭和29年6月23日から施行する。 千葉大学大学院委員会規程 第1条 千葉大学大学院の管理運営に関する重要事項を審議するため、大学院委員会（以下「委員会」という。）を設ける。 第2条 委員会は次に掲げる職員をもつて組織する。 一 学 長 二 医 学 部 長 三 医学研究科の各専門課程の教授1名 前項第3号の委員は、各専門課程ごとに研究科委員の互選によつて定め、その任期は2年とする。 第3条 委員会は次の事項を審議する。 一 大学院の組織運営に関する事項 二 学位授与の認証に関する事項 三 学長の諮問した事項 四 その他大学院に関する重要事項 第4条 学長は会議を招集して、その議長となる。 第5条 会議は、委員の3分の2以上の出席をもつて成立し、出席委員の過半数の同意をもつて議決する。 第6条 学長は必要あるときは委員以外の者を会議に出席させることができる。 第7条 委員会の庶務は、事務局が処理する。 附 則 この規程は、昭和30年7月1日から施行し、昭和30年4月1日から適用する。

現	現	旧
この規程改正の施行と同時にその任期を満了するものとする。		
(13) 千葉大学学位規程		千葉大学学位規程
(目的)		(目的)
第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号。以下「省令」という。)第12条の規定に基づき、千葉大学(以下「本学」という。)において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法、その他学位に関し必要な事項を定めるものとする。		第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号、以下「省令」という。)第11条の規定に基づき、千葉大学(以下「本学」という。)において授与する学位の種類、論文審査および試験の方法、その他学位に関し必要な事項を定めるものとする。
(学位の種類)		(学位の種類)
第2条 本学において授与する学位は、博士及び修士とする。		第2条 本学において授与する学位は、医学博士とする。
2 博士及び修士の種類は、次のとおりとする。		(学位授与の要件)
医学博士 薬学博士 理学修士 薬学修士 保健学修士 工学修士 農学修士		第3条 博士の学位は、本学大学院医学研究科規程の定めるところにより大学院博士課程を修了した者に授与する。
(学位授与の要件)		2 前項に規定するもののほか、本学に学位論文を提出してその審査および試験に合格し、かつ、本学大学院の博士課程に4年以上在学して所定の単位を修得した者と同等以上の学力があると認められた者に授与することができる。
第3条 博士の学位は、本学大学院医学研究科規程及び薬学研究科規程の定めるところにより大学院博士課程を修了した者に授与する。		(学位論文の提出)
2 前項に規定するもののほか、本学に学位論文を提出してその審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力があると認められた者に授与することができる。		第4条 前条第2項に規定する者が学位論文を提出するときは、学位申請書に学位論文、論文目録、論文内容の要旨、履歴書および審査手数料7,500円を添え、研究科長を経て学長に提出しなければならない。
第3条の2 修士の学位は本学大学院理学研究科規程、看護学研究科規程、工学研究科規程及び園芸学研究科規程の定めるところにより大学院修士課程を修了した者並びに本学大学院薬学研究科規程の定めるところにより大学院薬学研究科前期課程を修了した者に授与する。		2 提出した学位論文および既納の審査手数料は返付しない。
(学位論文の提出)		(学位論文)
第4条 第3条第2項に規定する者が学位論文を提出するときは、学位申請書に学位論文を提出するときは、学位申請書に学位論文、論文目録、論文内容の要旨、履歴書および審査手数料7,500円を添え、研究科長を経て学長に提出しなければならない。		第5条 前条第1項の規定により提出する学位論文は、1篇5通とする。ただし、参考として他の論文を添えることができる。
		2 審査のため必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該論文の訳本、模型または標本等の提出を求めることができる。
		(学位論文の受理および審査の付託)
		第6条 第4条第1項の規定により提出された学位論文の受理については、研究科委員会の議を経て学長がこれを決定する。

現	行	旧
文、論文目録、論文内容の要旨、履歴書及び審査手数料2万円を添え、研究科長を経て学長に提出しなければならない。 2 提出した学位論文及び既納の審査手数料は返付しない。 (学位論文) 第5条 前条第1項の規定により提出する学位論文は、1篇5通とする。ただし、参考として他の論文を添えることができる。 2 審査のため必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該論文の訳本、模型又は標本等の提出を求めることができる。 (学位論文の受理及び審査の付託) 第6条 第4条第1項の規定により提出された学位論文の受理については、研究科委員会の議を経て学長がこれを決定する。 2 前項により学位論文を受理したときは、学長は、研究科委員会にその審査を付託するものとする。 (審査委員) 第7条 前条第2項の規定により学位論文が審査に付されたときは、研究科委員会は、論文内容に関連する科目の教授のうちから3名以上の審査委員を選出し、当該論文の審査を委嘱する。ただし、必要があるときは、研究科の他の教官を審査委員に選ぶことができる。 (論文の審査、試験及び試問) 第8条 第6条第1項の規定により受理した学位論文については、審査及び試験並びに試問を行う。 2 試験は、論文を中心として、これに関連ある事項について口頭又は筆答により行う。 3 試問は、口頭又は筆答により専攻学術及び外国語について、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するために行う。この場合外国語について2種類を課する。 4 第3条第2項により学位論文を提出した者が、本学大学院医学研究科に4年以上又は薬学研究科に5年(大学院修士課程を修	2 前項により学位論文を受理したときは、学長は、研究科委員会にその審査を付託するものとする。 (審査委員) 第7条 前条第2項の規定により学位論文が審査に付されたときは、研究科委員会は、論文内容に関連する科目の教授のうちから3名以上の審査委員を選出し、当該論文の審査を委嘱する。ただし、必要があるときは、研究科の他の教官を審査委員に選ぶことができる。 (論文の審査、試験および試問) 第8条 第6条第1項の規定により受理した学位論文については、審査および試験ならびに試問を行う。 2 試験は、論文を中心として、これに関連ある事項について口頭または筆答により行う。 3 試問は、口頭または筆答により専攻学術および外国語について、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するために行う。この場合外国語については2種類を課する。 4 第3条第2項により学位論文を提出した者が、本学大学院に4年以上在学し、所定の単位を修得した者であるときは、前項の試問を免除することができる。 5 学位論文の審査、試験および試問は当該論文を受理した日から1年以内に終了するものとする。 (審査委員の報告) 第9条 前条の規定により学位論文の審査、試験および試問を終了したときは、審査委員は、論文審査の要旨に試験および試問の成績を添え、研究科委員会に文書で報告しなければならない。 (研究科委員会の審議) 第10条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、学位論文の審査、試験および試問の可否について議決する。 2 前項の議決をするには、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。	

現	行	旧
了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の単位を修得した者であるときは、前項の試問を免除することができる。		(研究科長の報告)
5 学位論文の審査、試験及び試問は当該論文を受理した日から1年以内に終了するものとする。		第11条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、研究科長は、その結果をすみやかに、文書で、学長に報告しなければならない。
(審査委員の報告)		(学位の授与)
第9条 前条の規定により学位論文の審査、試験及び試問を終了したときは、審査委員は、論文審査の要旨に試験及び試問の成績を添え、研究科委員会に文書で報告しなければならない。		第12条 学長は、前条の報告に基き、大学院委員会の議を経て学位の授与について決定する。
(研究科委員会)		2 学長は学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、授与できない者には、その旨を通知する。
第10条 研究科委員会は、前条の報告に基いて審議し、学位論文の審査、試験及び試問の可否について議決する。		(学位論文の要旨の公表)
2 前項の議決をするには、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。		第13条 本学は、学位を授与したときは、学位を授与した日から3月以内に、その論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表するものとする。
(研究科長の報告)		(学位論文の公表)
第11条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、研究科長は、その結果をすみやかに、文書で、学長に報告しなければならない。		第14条 学位の授与を受けた者は、学位の授与を受けた日から1年以内に、その学位論文を印刷公表するものとする。ただし、既に印刷公表したものは、この限りでない。
(学位の授与)		2 前項の規定により学位論文を公表する場合には、「千葉大学審査学位論文」と明記しなければならない。
第12条 学長は、前条の報告に基き、大学院委員会の議を経て学位の授与について決定する。		(学位名称の使用)
2 学長は学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、授与できない者には、その旨を通知する。		第15条 学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは、「医学博士(千葉大学)」と付記するものとする。
(学位論文の要旨の公表)		2 学位記の様式は別表第1および別表第2のとおりとする。
第13条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3月以内に、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。		(学位授与の取消)
(学位論文の公表)		第16条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があつたとき、または不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科委員会および大学院委員会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を還付させることがある。
第14条 博士の学位の授与を受けた者は、学位の授与を受けた日から1年以内に、その学位論文を印刷公表するものとする。ただし、既に印刷公表したものは、この限りでない。		2 研究科委員会において、前項の議決をするには、出席委員の4分の3以上の賛成を必要とする。
		(学位記の再交付)

現	行	旧
2 前項の規定にかかわらず、博士の学位の授与を受けた者は、やむを得ない事由がある場合には、研究科長の承認を受けて、当該論文の全文に代えて、その内容を要約したものを印刷公表することができる。		第17条 学位記の再交付を受けようとするときは、その理由を具し学長に願い出なければならない。
3 前2項の規定により学位論文を公表する場合には、「千葉大学審査学位論文」又は「千葉大学審査学位論文(要約)」と明記しなければならない。		(学位授与の報告)
(学位名称の使用)		第18条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、省令第10条の定めるところにより、文部大臣に報告するとともに、学位簿に登録する。
第15条 学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは学位の次に(千葉大学)を附記するものとする。		(細則)
2 学位記の様式は、別表第1、第2及び第3のとおりとする。		第19条 この規程で定めるもののほか、必要な細則は、研究科長が学長の承認を経て定めることができる。
(学位授与の取消)		附 則
第16条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があつたとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科委員会及び大学院委員会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を還付させることがある。		1 この規程は、昭和34年3月20日から施行する。
2 研究科委員会において、前項の議決をするには、出席委員の4分の3以上の賛成を必要とする。		2 千葉医科大学学位規程は廃止する。ただし、旧学位令による学位の授与については、この規程の施行にかかわらず、昭和35年3月31日までなお従前の例による。
(学位記の再交付)		別表第1 第3条第1項の規定により授与する学位記の様式
第17条 学位記の再交付を受けようとするときは、その理由を具し、学長に願い出なければならない。		
(学位授与の報告)		
第18条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、省令第11条の定めるところにより、文部大臣に報告するとともに、学位簿に登録する。		
(細則)		
第19条 この規程で定めるもののほか、必要な細則は、研究科長が学長の承認を得て定めることができる。		
附 則		
1 この規程は、昭和34年3月20日から施行する。		
2 千葉医科大学学位規程は廃止する。ただ		

甲第 号	年 月 日	学位記 氏名 本籍(都道府県名) 年 月 日生
千葉大学 印	の で 医 学 博 士 の 学 位 を 授 与 す る 。	本 学 大 学 医 学 研 究 科 の 博 士 課 程 に お い て 所 定 の 単 位 を 修 得 し 学 位 論 文 の 審 査 お よ び 最 終 試 験 に 合 格 し た 。

現

行

旧

し、旧学位令による学位の授与については、この規程の施行にかかわらず、昭和35年3月31日まで、なお従前の例による。

附 則

この規程の改正は、昭和39年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和40年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和54年4月1日から施行する。

別表第1（第3条第1項の規定により授与する学位記の様式）

学位記	本籍（都道府県名）	氏名	年 月 日 生	本学大学院○研究科の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので○博士の学位を授与する。	年 月 日	千大院○博甲第 号	千葉大学 印
-----	-----------	----	---------	---	-------	-----------	--------

別表第2 第3条第2項の規定により授与する学位記の様式

学位記	本籍（都道府県名）	氏名	年 月 日 生	本大学に学位論文を提出し所定の審査および試験に合格したので医学博士の学位を授与する。	年 月 日	乙第 号	千葉大学 印
-----	-----------	----	---------	--	-------	------	--------

備考 ○印には、本文においては、研究科又は学位の名称を、番号においては、研

現	行	旧
究科の名称の頭文字を記入する。(別表第2及び第3においても同様とする。) 別表第2 (第3条第2項の規定により授与する学位記の様式) 学位記 本籍 (都道府県名) 氏名 年 月 日生 本大学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので〇〇博士の学位を授与する。 年 月 日 千大院〇博乙第 号 千葉大学 印 別表第3 (第3条の2の規定により授与する学位記の様式) 学位記 本籍 (都道府県名) 氏名 年 月 日生 本学大学院〇〇研究科の△△課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので〇〇修士の学位を授与する。 年 月 日 千大院〇修第 号 千葉大学 印 備考 △印には、薬学修士の場合は、「前期」と、その他の修士の場合は、「修士」と記入する。 千葉大学学則 (現学則制定当時) 目次 第1章 総則 第1節 目的 第2節 構成 第2章 学部通則 第1節 修業年限、在学期間、学年、学 千葉大学学則 目次 第1章 総則 第1節 目的 第2節 構成 第2章 学部通則 第1節 修業年限、在学期間、学年、学		

規程

現

行

期及び休業日

第2節 入学、退学、転学、留学、休学及び除籍

第3節 教育課程及び履修方法

第4節 考查及び単位認定

第5節 卒業及び修了

第6節 医学進学課程

第7節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

第8節 専攻科及び別科

第9節 特別聴講学生、聴講生、専攻生、委託研究生、研究生、受託研修生及び外国人学生

第10節 通信教育及び公開講座

第11節 学寮及び留学生寮

第12節 賞罰

附則

千葉大学学則

第1章 総則

第1節 目的

第1条 本学は教育基本法に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図ると共に、深く専門の学芸を教授研究し、大学院においては、学術の理論及び応用を教授研究してその深奥を究め、以て文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

第2節 構成

第2条 本学の学部、学科、課程及び学生定員は次のとおりとする。

学部	学科・課程	入学 定員	3年次編入 定員	総定員
人文学部	人文学科	80		280
	法経学科	230		820
教育学部	小学校教員養成課程	370		1,480
	中学校教員養成課程	120		480
	養護学校教員養成課程	20		80
	幼稚園教員養成課程	30		120
	特別教科(看護)教員養成課程	20		80

旧

期及び休業日

第2節 入学、退学、転学及び休学

第3節 教育課程及び履修方法

第4節 考查及び単位認定

第5節 修了及び卒業

第6節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

第7節 別科生、聴講生、研究生、委託生及び外国人学生

第8節 通信教育及び公開講座

第9節 学寮

第10節 賞罰

附則

千葉大学学則

第1章 総則

第1節 目的

第1条 本学は教育基本法に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学芸を教授研究し、人類文化の向上に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

第2節 構成

第2条 本学の学部、学科及び学生定員は次の通りとする。

文理学部	840
教育学部	4年課程 1,040
	2年課程 620
医学部	320
薬学部	160
工学部	工業意匠学科 80
	建築学科 120
	機械工学科 160
	電気工学科 120
	工業化学科 240
園芸学部	園芸学科 280
	農芸化学科 100
	造園学科 100

第2章 学部通則

第1節 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

第3条 本学の修業年限は4年とする。但し、教育学部の2年課程にあつては、修了

現 行				旧	
	養護教諭養成課程	40		160	
理学部	数 学 科	35		140	
	物 理 学 科	35		140	
	化 学 科	35		140	
	生 物 学 科	20		80	
	地 学 科	35		140	
医学部	医学進学課程	120		240	
	専 門 課 程			480	
薬学部	総合薬品科学科	80		80	
	薬 学 科	—		120	
	製 薬 化 学 科	—		120	
看護学部	看 護 学 科	60	10	250	
工学部	工業意匠学Aコース	50		180	
	科 B //	30	4	128	
	建 築 学 科 A //	40		200	
	科 B //	20	6	112	
	建築工学科 A //	40		80	
	科 B //	10		20	
	機械工学科 A //	40		160	
	科 B //	20	10	90	
	機械工学第 A //	45		170	
	二学科 B //	10	10	70	
	電氣工学科 A //	40		160	
	科 B //	20	10	90	
	電子工学科 A //	45		170	
	科 B //	10	10	70	
	工業化学科 A //	40		160	
	科 B //	20	10	90	
	合成化学科 A //	45		170	
	科 B //	10	10	70	
	画像工学科 A //	85		330	
	科 B //	50	10	220	
園芸学部	園 芸 学 科	50		180	
	農 芸 化 学 科	25		100	
	造 園 学 科	45		150	
	園芸経済学科	40		80	
	環境緑地学科	40		160	

年限を2年とする。

第4条 在学期間は、修業又は修了年限の2倍の年数を超えることができない。

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第6条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日より10月15日まで

後期 10月16日より翌年3月31日まで

第7条 前条の規定は、学部の事情により学長の承認を得て変更することができる。

第8条 休業日は、次のとおりとする。

一 国民の祝日

二 日 曜 日

三 本学創立記念日 11月5日

四 春 季 休 業 4月1日より4月10日まで。

五 夏 季 休 業 7月11日より9月10日まで。

六 冬 季 休 業 12月25日より翌年1月7日まで。

七 臨 時 休 業 学長がその都度定める。

第9条 前条休業日のうち、春季休業、夏季休業及び冬季休業については、学部の事情により学長の承認を得て変更することができる。

第2節 入学、退学、転学及び休学

第10条 入学の時期は、毎学年の始めから30日以内とする。

第11条 入学資格者は、学校教育法第56条及び学校教育法施行規則第69条の定めるところにより、次の各号の一に該当するものでなければならない。

一 高等学校を卒業した者

二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者

四 文部大臣の指定した者

第12条 医学部入学資格者は、修業年限4年

規 程

現

行

農業生産管理学科	—	80
計	2,200	90 8,920

本学に、一般教養に関する教育を一括して行うため教養部を置く。

第2条の2 本学に大学院を置く。

大学院に関する規程は、別に定める。

第2章 学部通則

第1節 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

第3条 本学の修業年限及び修了年限は、次のとおりとする。

学 部	課 程	修了年限	修業年限
人文学部	医学進学課程 専 門 課 程	2年 4年	4年
教育学部			4年
理 学 部			4年
医 学 部			6年
薬 学 部			4年
看護学部			4年
工 学 部			4年
園芸学部			4年

第4条 在学期間は、修業又は修了年限の2倍の年数を超えることができない。

第5条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

第7条 前条の規定は、学部又は教養部の事情により学長の承認を得て変更することができる。

第8条 休業日は、次のとおりとする。

一 国民の祝日に関する法律に規定する休日

二 日曜日

三 本学創立記念日 11月5日

四 春季休業 4月1日から4月7日まで

五 夏季休業 7月11日から8月31日まで

六 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

旧

の大学において2年以上在学し、所定の科目につき所定の単位を履修したもの並びに文部大臣の指定した者でなければならない。

第13条 入学志願者については、選考の上入学を許可する。

第14条 次の各号の一に該当する者であつて本学に編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することがある。

一 本学又は他の大学を卒業、修了又は退学した後、入学を志願する者

二 旧制の専門学校、高等学校高等科、大学予科等の課程を卒業又は修了した者

第15条 本学の学生であつて他の学部又は学科に転学を志願する者、又は他の大学の学生であつて本学に転入学を志願する者については、欠員ある場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することがある。但し、学部において別段の定めある場合は、この限りではない。

第16条 前2条の規定による入学年次の認定については、別に定めるところによる。

第17条 入学を許可された者は、別に定めるところにより入学の手續及び宣誓を行わなければならない。

故なくして宣誓を行わない者に対しては、学長は、その入学許可の取消を行う。

第18条 学生が退学又は他の大学に転学しようとするときは、事由を具して学長に申しいで、その許可を受けなければならない。

第19条 疾病その他の事由によって2ヶ月以上学習することができない場合は、事由を具して学長に願ひいで、その許可を得て当該学期又は学年の終りまで休学することができる。

疾病の場合には、医師の診断書を添付しなければならない。

第20条 疾病その他の事由によつて学習することが不適當と認められる場合には、学長は、休学を命ずることがある。

第21条 休学期間中であつても、その事由が消滅した場合には学長の許可を得て復学す

現 行	旧
七 臨時休業 学長がその都度定める。	ることができる。
第9条 前条の休業日のうち、春季休業、夏季休業及び冬季休業については、学部又はは教養部の事情により学長の承認を得て変更することができる。	第22条 休学期間は、通算して4年を超えることはできない。 休学期間は、これを在学年数に算入しない。
第2節 入学、退学、転学、留学、休学及び除籍	第3節 教育課程及び履修方法
第10条 入学の時期は、毎学年の始めから30日以内とする。	第23条 学科目を分けて一般教育科目、専門科目、外国語及び体育とする。
第11条 入学資格者は、学校教育法第56条及び学校教育法施行規則第69条の定めるところにより次の各号の一に該当するものでなければならない。	第24条 一般教育科目、外国語及び体育は、原則として第2年次末までに履修し、専門科目は、第2年次以降において履修する。但し、教育学部2年課程にあつては、第1年次より前項の各学科目を併せて履修する。
一 高等学校を卒業した者	第25条 一般教育科目、外国語及び体育は、文理学部において、専門科目は各学部において、それぞれ履修する。但し、教育学部の専門科目の一部は文理学部において履修する。
二 通常の課程により12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者	教育学部の2年課程においては、前項の規定によらないことができる。
三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者	第26条 本学において設ける一般教育の科目は次のとおりとする。
四 文部大臣の指定した者	人文科学系列 哲学、倫理学、心理学、文学、歴史、人文地理、音楽、美術
五 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者	社会科学系列 法学、経済学、社会学、統計学
六 その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	自然科学系列 数学、物理学、化学、生物学、地学
第12条 入学志願者については、選考の上入学を許可する。	第27条 学生は、前条の一般教育科目につき各系列より3科目12単位以上を履修し、合計9科目36単位以上を修得しなければならない。
第12条の2 次の各号の一に該当する者であつて、看護学部又は工学部Bコースの3年次に編入学を志願するものがあるときは、選考の上入学を許可する。	教育学部2年課程においては、別に定めるところによる。
一 高等専門学校又は短期大学を卒業した者	第28条 専門科目の履修方法については、各学部の定めるところによる。
二 大学を卒業した者	第29条 学生は他の学部の学科目を履修又は聴講することができる。但し、所属学部長を経て、当該学部長の許可を得なければならない。
三 修業年限4年以上の大学の学部で2年以上在学し、所定の単位を修得した者	
第13条 次の各号の一に該当する者であつて、本学に再入学又は編入学を志願するものがあるときは、欠員のある場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することができる。	
一 本学を卒業、修了又は退学した者（再	

現 行	旧
入学) 二 他の大学、短期大学、国立養護教諭養成所若しくは高等専門学校又は旧制の専門学校、高等学校高等科、大学予科等を卒業又は修了した者（編入学） 第14条 本学の学生であつて他の学部又は学科に転部又は転科を志願する者又は他の大学の学生であつて本学に転学を志願する者については、欠員ある場合に限り、選考の上相当年次に転部、転科又は入学（転学）を許可することがある。 第15条 前3条の規定による選考方法その他必要事項は、学長の承認を得て各学部長が定める。 第16条 医学部専門課程の進学については第39条に定めるものの外、次の各号の一に該当する者であつて進学を志願するものがあるときは、欠員ある場合に限り、選考の上これを許可することがある。 一 医学進学課程を修了した者 二 外国において進学の課程に相当する課程を含む学校教育における14年の課程を修了した者 三 修業年限4年以上の大学において、2年以上在学し、大学設置基準第33条第1項に規定する単位を修得した者 四 前号の外文部大臣の指定した者（昭和29年文部省告示第68号） 第17条 入学の許可を受けようとする者は、所定の期日までに入学料を納め、宣誓書、保証書その他の書類を提出しなければならない。ただし、入学料については、第44条の2の規定により、免除の申請をすることができる。 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。 第18条 学生が退学又は他の大学に転学しようとするときは、事由を具して学長に申し出て、その許可を受けなければならない。 第18条の2 学生は、別に定めるところにより学長に願い出て、その許可を得て外国の大学に留学することができる。	第4節 考查及び単位認定 第30条 学生が学科目を履修した場合には考查を行い、合格した者に対して単位を与える。 考查は、試験、論文、報告書その他によつて行う。 第31条 考查及び単位認定は授業担当学部においてこれを行う。 第32条 前2条の単位に関する規定は、医学部にはこれを適用しない。 第5節 修了及び卒業 第33条 第3条に規定する期間以上在学して所定の科目を履修し、所定の単位を修得した者には、卒業証書又は修了証書を授与する。 医学部においては、所定の科目を履修し、正規の試験に合格した者に対し卒業証書を授与する。 第34条 卒業及び修了の認定については、各学部の教授会の議を経て学長が行う。 第35条 卒業者は、学士の称号を用いることができる。 学士号の種類は、法令の定めるところによる。 第6節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料 第36条 入学（転入学を除く）を志願する者は、検定料金400円を納めなければならない。 第37条 入学を許可された者は、入学料金400円を所定の期日までに納めなければならない。 入学料を納めない者は、入学許可を取消す。 第38条 授業料は、年額金6,000円とし次の2期に納めなければならない。 前期 金3,000円 納期 授業開始後15日以内 後期 金3,000円 納期 授業開始後15日以内 第39条 授業料を2期に納めることが困難な

現	行	旧
前項の許可を得て留学した期間は、第3条に規定する期間に算入する。 第19条 疾病その他の事由によつて2か月以上学習することができない場合は、事由を具して学長に願い出て、その許可を得て休学することができる。 疾病の場合には、原則として学校医の診断書を添付しなければならない。 第20条 疾病その他の事由によつて学習することが不適当と認められる場合には、学長は、休学を命ずることがある。 第21条 休学期間満了の場合又は休学期間中であっても、その事由が消滅した場合には学長の許可を得て復学することができる。ただし、疾病による事由の場合には学校医の診断書を添えなければならない。 第22条 休学期間は、通算して4年を超えることはできない。 休学期間はこれを在学年数に算入しない。 第22条の2 疾病その他の事由により、成業の見込みがないと認められる者は、教授会の議を経て学長がこれを除籍する。 第22条の3 次の各号の一に該当する者は、学長がこれを除籍する。 一 第44条の3に該当する者で、所定の期日までに入学料を納付しないもの 二 授業料の納期を経過し、督促を受けても、納付しない者 三 第4条に規定する期間を超えた者 四 第22条に規定する期間を超えた者 五 休学期間を満了しても、何等の手續をしない者 六 死亡の届出のあつた者 第3節 教育課程及び履修方法 第23条 授業科目を分けて一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び専門教育科目とし、このほか学部又は学科の種類によつては、その専攻分野に関連のある基礎教育科目を置くことができる。 第24条 削除 第25条 一般教育科目、外国語科目、保健体	事情にある者に対しては、願出により延納又は月割分納を許可することができる。 前項の延納を許可する期間は、各期の末日までとする。 第1項の分納月割額は金500円とし、毎月5日までに納めなければならない。 第40条 特別の事由で授業料を納めることができなくなつた者に対しては、願出によりその事情を審査し授業料を減免することができる。但し、減免の事情がなくなつた場合には、その月から月割を以てその期の授業料を徴収する。 第41条 退学又は転学した者、若しくは、退学を命ぜられた者又は停学中の者については、その期の授業料を徴収する。 第42条 1学期を通じて休学を許可された者については、その期の授業料を徴収しない。但し、休学者が中途復学したときは、その月から月割を以つてその期の授業料を徴収する。 第43条 寄宿料は、月額金100円とし、毎月5日までに納めなければならない。 第44条 既納の料金は、返付しない。 第45条 授業料その他の料金を納めない者で、その情状しやく量の余地がない者は除籍する。 第7節 別科生、聴講生、研究生、委託生及び外国人学生 第46条 本学に簡易な程度において特別の技能教育を施すことを目的として、別科を置くことがある。 別科に関する規程は、別にこれを定める。 第47条 本学所定の学科科目の中、1科目又は数科目を選んで聴講を志望する者があるときは、当該学科の授業に妨げない限り、選考の上聴講生として入学を許可することができる。 聴講生に関する規程は、別にこれを定める。 第48条 本学において特殊事項の研究を志望する者があるときは、選考の上研究生とし	

現 行	旧
育科目及び基礎教育科目は教養部において、専門教育科目は各学部において、それぞれ履修する。ただし、教育学部の専門教育科目の一部は人文学部及び理学部において履修する。 第26条 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び基礎教育科目の授業科目、単位数及び履修方法については、教養部の定めるところによる。 第27条 削除 第28条 専門教育科目の授業科目、単位数及び履修方法については各学部の定めるところによる。 第29条 学生は、他の学部又は教養部の授業科目を履修又は聴講することができる。ただし、所属学部長又は教養部長を経て当該学部長又は教養部長の許可を得なければならない。 第29条の2 教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修することを認めることがある。 前項の規定により学生が修得した単位は、30単位を限度として課程修了又は卒業に必要な単位として取り扱う。 前2項の規定は、第18条の2の規定により学生が留学する場合に準用する。 第4節 考查及び単位認定 第30条 学生が授業科目を履修した場合には考查を行い、合格者に対して単位を与える。 考查は、試験、論文、報告書、その他によつて行う。 考查の成績は、優、良、可及び不可の評語をもつて表わし、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。 第30条の2 各授業科目に対する単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間とし、次の基準により計算するものとする。 一 講義については、教室における1時間の講義に対して教室外における2時間	て入学を許可することができる。 研究生に関する規程は、別にこれを定める。 第49条 公共機関から1年以上を在学期間として本学に学生を委託するむねの申請がある場合には、別に定めるところにより入学を許可することができる。 第50条 外国人で本学に入学を志望する者に対しては、別に定めるところにより選考の上入学を許可することができる。 第51条 別科生、聴講生、研究生、委託生、外国人学生については、別段の定あるものを除く外学部学生に関する規定を準用する。 第8節 通信教育及び公開講座 第52条 本学は、法令の定めるところにより通信教育を行うことがある。 通信教育に関する規程は、別にこれを定める。 第53条 本学は一般人の教養を高め、地方文化の向上に資するため公開講座を設けることがある。 公開講座に関する規程は、別にこれを定める。 第9節 学寮 第54条 本学に学寮を設け希望者を選考の上入寮させる。 学寮に関する規程は、別にこれを定める。 第10節 賞罰 第55条 学生として表彰に値する行為があつたときは、学長は教授会及び評議会の議を経てこれを表彰することができる。 第56条 本学の定める規程に背き、学生としての本分に反する行為があつたときは、学長は、教授会及び評議会の議を経てこれを懲戒する。 懲戒は戒告、停学及び放学とする。 附 則 本学則は、昭和26年11月1日からこれを施行する。

現 行	旧
の準備のための学習を必要とするものとし、毎週1時間15週の講義をもつて1単位とする。ただし、教室外の準備のための学習が基準どおりできない事情があるとき、又は教育効果を考慮して必要があるときは、1時間半又は2時間の講義に対してそれぞれ教室外における1時間半又は1時間の準備のための学習を必要とするものとし、毎週1時間半又は2時間15週の講義をもつて1単位とすることができる。 二 演習については、教室内における2時間の演習に対して教室外における1時間の準備のための学習を必要とするものとし、毎週2時間15週の演習をもつて1単位とする。 三 外国語科目については、演習と同一に取扱う。 四 実験・実習・体育実技等の授業については、学習はすべて実験室、実習場等で行われるものとし、毎週3時間15週の実験又は実習をもつて1単位とする。 第31条 考查及び単位認定は、授業担当学部又は教養部においてこれを行う。 第32条 前3条の単位に関する規定は医学部の専門課程にはこれを適用しない。 第5節 卒業及び修了 第33条 第3条に規定する期間以上在学し、かつ、第26条ないし第28条に規定する所定の課程を修めた者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。 第34条 前条の規定により卒業を認定された者に対し、学長は、卒業証書を授与する。 第34条の2 卒業の認定は学年度の終わりに行う。ただし、やむを得ない事由により、この認定を受けることができなかった者については次年度の前期の終わり（医学部にあつては次年度の7月）にこれを行うことができる。 第35条 卒業者は次の区別に従い、学士と称することができる。 人文学部	

規 程

現 行	旧
人文学科 文学士 法経学科 社会科学士 教育学部 教育学士 理 学 部 理学士 医 学 部 医学士 薬 学 部 薬学士 看護学部 衛生看護学士 工 学 部 工学士 園芸学部 農学士 第 6 節 医学進学課程 第36条 医学部の医学進学課程の授業科目は、教養部において履修する。 第37条 医学進学課程の授業科目、単位数及び履修方法については、教養部の定めるところによる。 第38条 医学進学課程の考査及び単位の認定は、教養部において行い、その修了の認定は、医学部教授会の議を経て学長がこれを行う。 第39条 医学進学課程の修了の認定を受けた者は、本学医学部の専門課程に進学するものとする。 第40条 削除 第41条 削除 第42条 削除 第 7 節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料 第43条 入学（転学、編入学及び再入学を含む。）を志願する者は、検定料として、国立の学校における授業料その他の費用に関する省令（以下「省令」という。）に規定する額を納めなければならない。 第44条 入学料は、省令に規定する額とする。 第44条の 2 特別の事情により入学料の納付が困難であると認められる場合には、申請に基づき入学料の全部又は一部を免除することがある。 入学料の免除の取扱いについては、別に定める。 第44条の 3 前条の規定により入学料の免除を申請したが許可されなかつた者及び入学	

現	行	旧
料の一部を免除された者は、別に定める期日までに、入学料の全額（一部を免除された者は、その残額）を納めなければならない。		
第44条の4 次の各号の一に該当する場合には、未納の入学料の全額を免除することができる。		
一 第44条の2の規定により入学料の免除を申請中の者について死亡したことにより除籍した場合		
二 前条に該当する者について死亡又は入学料の未納を理由として除籍した場合		
第45条 授業料は、省令に規定する額とし、年額の2分の1に相当する額をそれぞれ次の2期に納めなければならない。		
前期 4月1日から30日まで（新たに入学する者は、大学が指定する期日）		
後期 10月1日から31日まで		
第46条 経済的理由によつて授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、その他特別の事情がある場合には、申請に基づき授業料の全部又は一部を免除することができる。		
授業料の免除の取扱いについては、別に定める。		
第47条 次の各号の一に該当する場合には、それぞれの額の授業料を免除することができる。		
一 死亡又は行方不明のため除籍した場合 未納の授業料の全額		
二 第44条の3に該当する者について、入学料の未納を理由として除籍した場合 未納の授業料の全額		
三 授業料の未納を理由として除籍した場合 未納の授業料の全額		
四 授業料の徴収猶予を許可している学生に対し退学を許可した場合 月割計算により退学の翌月以降に納付すべき授業料の全額		
第48条 休学を許可した場合は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。		

現	行	旧
第49条 経済的理由によつて納付期限までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、その他特別の事情がある場合には、申請に基づき授業料の徴収を猶予し又は月割分納を許可することがある。		
授業料の徴収猶予及び月割分納の取扱いについては、別に定める。		
第50条 削除		
第51条 寄宿料は、省令に規定する額とし、毎月末日までに納めなければならない。ただし、2か月分以上を前納することができる。		
特別の事情のある場合には、申請に基づき寄宿料を免除することがある。		
寄宿料の免除の取扱いについては、別に定める。		
第52条 次の各号の一に該当する場合には、それぞれの額の寄宿料を免除することができる。		
一 死亡又は行方不明のため除籍した場合 未納の寄宿料の全額		
二 第14条の3に該当する者について、入学料の未納を理由として除籍した場合 未納の寄宿料の全額		
三 授業料の未納を理由として除籍した場合 未納の寄宿料の全額		
第52条の2 既納の料金は返付しない。		
第8節 専攻科及び別科		
第53条 本学に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として専攻科を置く。		
専攻科に関する規程は、別にこれを定める。		
第53条の2 本学に簡単な程度において、特別の技能教育を施すことを目的として、別科を置くことがある。		
別科に関する規程は、別にこれを定める。		
第9節 特別聴講学生、聴講生、専攻生、委託研究生、研究生、受託研修生及び外国人学生		
第54条 他の大学又は外国の大学との協議に基づき、当該大学の学生を特別聴講学生と		

現 行	旧
して入学を許可し、学部又は教養部の授業科目を履修させることがある。 特別聴講学生に関する規程は、別にこれを定める。 第54条の2 本学所定の授業科目の中、1科目又は数科目を選んで聴講を志望する者があるときは、当該学科の授業に妨げのない限り、選考の上聴講生として入学を許可することがある。 聴講生に関する規程は、別にこれを定める。 第55条 本学において特殊の専門事項の攻究を希望する者があるときは、授業研究に妨げのない限り、選考の上専攻生として入学を許可することがある。 専攻生に関する規程は、別にこれを定める。 第56条 公共機関その他から委託研究生としての入学の申出があつたときは別に定めるところによりこれを許可することがある。 第56条の2 本学において特定の専門事項を専心研究しようとする者があるときは、選考の上研究生として入学を許可することがある。 研究生に関する規程は、別にこれを定める。 第56条の3 公共機関から、受託研修生として受入れの申出があつたときは、別に定めるところにより、これを許可することがある。 第57条 外国人で本学に入学を志望する者があるときは、別に定めるところにより、選考の上外国人学生として入学を許可することがある。 第58条 専攻科学生・別科生・特別聴講学生・聴講生・専攻生・委託研究生・研究生・受託研修生・外国人学生については別段の定めあるものを除くほか、学部学生に関する規定を準用する。 第10節 通信教育及び公開講座 第59条 本学は、法令の定めるところにより通信教育を行うことがある。	

規 程

現 行	旧
通信教育に関する規程は、別にこれを定める。 第60条 本学は、一般人の教養を高め、地方文化の向上に資するため、公開講座を設けることがある。 公開講座に関する規程は、別にこれを定める。 第11節 学寮及び留学生寮 第61条 大学の理想のもとに、学生の自治生活を通じ、全人的完成を期することを目的として、本学に学寮及び留学生寮を置く。 学寮及び留学生寮に関する規程は、別にこれを定める。 第12節 賞罰 第62条 学生として表彰に値する行為があつたときは、学長は教授会及び評議会の議を経てこれを表彰することがある。 第63条 本学の定める規定に背き、学生としての本分に反する行為があつたときは、学長は教授会及び評議会の議を経てこれを懲戒する。 懲戒は戒告、停学及び放學とする。 附 則 本学則は、昭和26年11月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和27年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和28年4月1日から施行する。ただし、第26条の改正は、昭和27年度からこれを適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和28年5月22日から施行し、昭和28年4月1日から適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和29年4月1日から施行する。ただし、第35条に定める学士号は、文学士、理学士、教育学士、薬学士、工学士及び農学士については、昭和28年3月の卒業生から、社会科学士及び医学士については、昭和30年3月の卒業生からそれぞれ適用する。 附 則	

現 行	旧
本学則の改正は、昭和29年12月17日から施行する。 附 則 1 本学則の改正は、昭和30年4月1日から施行する。 2 昭和31年3月31日までに改正前の学校教育法第56条第2項及び改正前の学則第12条の規定により、医学部の入学資格を有すると認められた者は、改正後の本学医学部の専門課程に進学することができる。 附 則 本学則の改正は、昭和30年7月1日から施行し、昭和30年4月1日から適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和30年7月22日から施行し、昭和30年4月1日から適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和30年10月19日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和31年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和31年6月14日から施行し、昭和31年4月1日から適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和31年10月18日から施行し、昭和31年10月16日から適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和32年5月23日から施行し、昭和32年4月1日から適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和33年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和34年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和35年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和36年4月1日から施	

規 程

現 行	旧
行する。ただし、第45条から第52条の2までの規定の改正は、昭和35年度から適用する。 附 則 本学則の改正は、昭和37年4月1日から施行する。 附 則 1 本学則の改正は、昭和38年4月1日から施行する。 2 この学則施行の際現に在学する者に係る授業料の額は、第45条の改正規定にかかわらず、なお従前の例による。 3 この学則施行の日以後において、転学、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。 附 則 本学則の改正は、昭和39年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和39年6月27日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和40年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和41年4月1日から施行する。 附 則 本学則の改正は、昭和42年4月1日から施行する。 附 則 本学の改正は、昭和43年9月12日から施行する。 附 則 1 本学則の改正は、昭和44年3月13日から施行し、昭和43年4月1日から適用する。 2 国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和43年法律第37号）附則第2項の規定により存続する文理学部については、なお従前の例による。 附 則 本学則の改正は、昭和44年7月9日から施行する。	

現	行	旧
行し、昭和44年4月1日から適用する。		
附 則		
本学則の改正は、昭和44年8月15日から施行し、昭和44年7月31日から適用する。		
附 則		
本学則の改正は、昭和45年5月1日から施行し、昭和45年4月1日から適用する。		
附 則		
本学則の改正は、昭和46年4月1日から施行する。		
附 則		
本学則の改正は、昭和46年11月11日から施行する。		
附 則		
この学則の改正は、昭和47年4月1日から施行する。		
附 則		
1 この学則の改正は、昭和47年4月1日から施行する。		
2 昭和47年度の入学、転学、編入学又は再入学に係る検定料の額は、改正後の学則第43条の規定にかかわらず、なお従前の例による。		
3 昭和47年度における入学を許可される者に係る入学科の額は、改正後の学則第44条の規定にかかわらず、なお従前の例による。		
4 この学則改正の施行の際現在学する者に係る授業料の額は、改正後の学則第45条の規定にかかわらず、なお従前の例による。		
5 この学則改正の施行の日以後において、転学、編入学又は再入学をした者に係る授業料の額は、改正後の学則第45条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。		
6 昭和47年度において入学した者の同年度に係る授業料の額は、改正後の学則第45条の規定にかかわらず年額24,000円とし、前期6,000円及び後期18,000円の額を当該前期又は後期のそれぞれの納期に納めるものとする。		

規 程

現 行	旧
附 則 この学則の改正は、昭和48年4月17日から施行し、昭和48年4月1日から適用する。 附 則 この学則の改正は、昭和48年9月29日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和49年2月19日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和49年3月20日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和49年4月1日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和50年3月20日から施行する。 附 則 1 この学則の改正は、昭和50年4月1日から施行する。 2 昭和50年度の入学、転学、編入学又は再入学に係る検定料の額は、改正後の学則第43条の規定にかかわらず、なお従前の例による。 附 則 この学則の改正は、昭和50年4月17日から施行し、昭和50年4月1日から適用する。 附 則 この学則の改正は、昭和50年4月22日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和51年3月18日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和51年4月1日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和51年4月22日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和52年4月1日から	

現 行	旧
施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和53年4月1日から施行する。 附 則 この学則の改正は、昭和54年4月1日から施行する。 (15) 千葉大学学生通則 第1章 宣誓書及び保証書 第1条 入学にあたっては、宣誓書を提出しなければならない。 2 宣誓書には、学生の宣誓履行に責任をもつて協力する保証人の連署を必要とする。 第2条 入学にあたっては、保証書を提出しなければならない。 2 保証書には、学生の在学期間中における授業料等の納付に関し連帯して責任をもつ連帯保証人を必要とする。 第3条 前2条の保証人及び連帯保証人は原則として同一人とし、父兄又はこれに準ずる者をもつてあてるとする。 2 保証人及び連帯保証人を変更する場合並びに保証人又は連帯保証人の住所が変つた場合はすみやかに所属学部長に届出なければならない。 第2章 学生証 第4条 学生は、入学と同時に所属学部長から学生証の交付を受けて必ず携帯し、本学教職員の請求があつたときは、何時でもこれを提示しなければならない。 第5条 学生証の有効期間は学則第3条に規定する修業年限の範囲内とする。 2 学生証の有効期間経過後もなお、在学するときは直ちに返納し、あらたに交付を受けるものとする。 第6条 学生は、教養部における課程を修了し専門課程に移ったときは、所属学部長に学生証を提出し証印を受けなければならない。	千葉大学学生通則 第1章 入学 第1条 入学を許可された者は、本学学生としての本分を全うする旨の宣誓をしなければならない。 第2章 学生証 第2条 学生は、学生証の交付を受けて必ず携帯し、本学教職員の請求があつたときは、何時でもこれを提示しなければならない。 第3条 学生証は、毎学年の始めに新たに交付を受けるものとする。 第4条 学生証は、卒業、退学、除籍等の場合、又はその有効期間を経過したときは、直ちに返納しなければならない。 第5条 学生証を紛失したときは、直ちに届出て、再交付を受けなければならない。 第3章 宿所届 第6条 学生は、次の場合、宿所をすみやかに所属学部長に届出なければならない。 (イ) 入学の際 (ロ) 変更の都度 第4章 保証人 第7条 学生は、入学の際、保証人を定め所属学部長に届出なければならない。 保証人を変更し、又は保証人が住所を変更した場合もすみやかに前項の手続をとらなければならない。 第8条 保証人は、保証する学生の修学目的達成のために、その宣誓履行に関し責任をもつて協力するものでなければならない。 第9条 保証人は、父兄又はこれに準ずる者を以てあてる。

現 行	旧
第7条 学生証は、卒業、退学、除籍等の場合は、直ちに返納しなければならない。 第8条 学生証を紛失したときは、直ちに所属学部長に届出て再交付を受けなければならない。 第3章 宿所届 第9条 学生は、次の場合、宿所をすみやかに所属学部長に届出なければならない。 (イ) 入学の際 (ロ) 変更の都度 第4章 身上異動 第10条 学生は、改姓その他一身上に異動のあつた場合、その都度、すみやかに所属学部長に届出なければならない。 第5章 服装 第11条 服装は、任意とするも本学学生として品位を保つものでなければならない。 第6章 健康診断 第12条 学生は、学校保健法により毎年本学施行の健康診断を受けなければならない。 第7章 団体 第13条 学生が、学内において、団体を設立しようとするときは、責任代表者2名以上を定め、所定の様式に従い、責任代表者の署名捺印をもつて所属学部長に届出て、学長の認可を得なければならない。ただし、団体が2学部以上にわたる場合には、学生部長に届出て、学長の認可を得るものとする。 第14条 団体を設立したときは、7日以内に団体員名簿を作成し、所属学部長又は学生部長に提出することを要する。 2 団体員名簿は毎年5月末日現在で更新し、学部長又は学生部長に提出するものとする。 3 この際届出のない団体は、解散したものとして取扱う。 第15条 学内の団体が、学外団体に参加しようとするときは、所属学部長に届出て、学長の認可を得なければならない。ただし、	第5章 身上異動 第10条 学生は、改姓その他一身上に異動のあつた場合、その都度、すみやかに所属学部長に届出なければならない。 第6章 服装 第11条 服装は任意とするも本学学生としての品位を保つものでなければならない。 第7章 身体検査 第12条 学生は、学校身体検査規程により毎年本学施行の身体検査を受けなければならない。 第8章 団体 第13条 学生が、学内において、団体を設立しようとするときは、責任代表者2名以上を定め、所定の様式に従い、責任代表者の署名捺印をもつて所属学部長に届出て、学長の認可を得なければならない。 但し、団体が2学部以上にわたる場合には、学生部長に届出て、学長の認可を得るものとする。 第14条 団体を設立したときは、7日以内に団体員名簿を作成し、所属学部長又は学生部長に提出することを要する。 団体員名簿は毎年5月末日現在で更新し、学部長又は学生部長に提出するものとする。 此の際届出のない団体は解散したものとして取扱う。 第15条 学内の団体が、学外団体に参加しようとするときは、所属学部長に届けて、学長の認可を得なければならない。 但し団体が2学部以上にわたる場合には、学生部長に届けて、学長の認可を得るものとする。 第16条 学生が、学外に於て、本学名を使用して団体的な活動しようとするときは、責任代表者2名以上の連署をもつて所属学部長に届けて、学長の認可を得なければならない。 但し、団体が2学部以上にわたる場合

現	行	旧
	団員が2学部以上にわたる場合には、学生部長に届出て、学長の認可を得るものとする。 第16条 学生が、学外において、本学名を使用して団体的な活動をしようとするときは、責任代表者2名以上の連署をもって所属学部長に届出て、学長の認可を得なければならない。ただし、団員が2学部以上にわたる場合には、学生部長に届出て、学長の認可を得るものとする。 第8章 集会及び施設使用 第17条 学生(団体)が、学内において、集会をしようとするときは、その期日の2日前までに所定の様式に従い、所属学部長に届出て、その認可を得なければならない。ただし、2学部以上にわたる学生(団体)が主催して集会を行なう場合には、学生部長に届出て、その認可を得るものとする。 第18条 学生又は学内団体が、学外から、団体・指導者・講演者等を招聘しようとするときは、その期日の3日前までに所属学部長に届出て、学長の認可を得なければならない。ただし、団員が2学部以上にわたる場合には、学生部長に届出て学長の認可を得るものとする。 第19条 学生(団体)が、集会のために、本学の建物、施設又は物件を使用しようとする場合には、第17条の届出と同時に、所定の様式に従いその場所を管理する関係部局長に願出て、その認可を得なければならない。使用の認可を受けたものは、その集会のため生じた事項の一切について責任を負うものとする。 第9章 掲示等 第20条 学生が、学内において、ビラ、ポスター、パンフレット又は新聞等を掲示し、若しくは配布しようとするときは、あらかじめ関係学部長に届出てその認可を得なければならない。ただし、その内容が2学部以上に関する場合には、学生部長に届出て	には、学生部長に届け出て、学長の認可を得るものとする。 第9章 集会 第17条 学生が、学内において、集会をしようとするときは、その期日の2日前までに所定の様式に従い、所属学部長に届出て、学長の認可を得なければならない。 但し2学部以上にわたる学生が集会をする場合には、学生部長に届け出て、学長の認可を得るものとする。 第18条 学生又は学内団体が、学外から、団体、指導者、講演者を招聘しようとするときはその期日の3日前までに所属学部長に届け出て、学長の認可を得なければならない。 但し、団員が2学部以上にわたる場合には、学生部長に届け出て、学長の認可を得るものとする。 第19条 学生が、集会のために、本学の建物、施設又は物件を使用する場合には、予め所定の手续により、その場所を管理する関係部局長の認可を得なければならない。使用の認可を受けたものは、その集会のために生じた事項の一切について責任を負うものとする。 第10章 掲示等 第20条 学生が、学内において、ビラ、ポスター、パンフレット又は新聞等を掲示し、若しくは配布しようとするときは、予め関係学部長に届け出てその認可を得なければならない。 但し、その内容が2学部以上に関する場合には、学生部長に届け出て、その認可を得るものとする。 第21条 学生が、学内において、ビラ、ポスター類を掲示しようとするときは、本学の定める掲示場に掲示しなければならない。 第22条 学生が、学外において、本学名を使用してビラ、ポスター、パンフレット、又は新聞等を掲示又は配布するには、予め学

現 行	旧
その認可を得るものとする。 第21条 学生が、学内において、ビラ、ポスター類を掲示しようとするときは、本学の定める掲示場に掲示しなければならない。 第22条 学生が、学外において、本学名を使用して、ビラ、ポスター、パンフレット又は新聞等を掲示又は配布するには、あらかじめ学生部長の認可を、学部名を使用する場合には、あらかじめ関係学部長の認可をそれぞれ得なければならない。 第23条 学生が、学内において、印刷物発行、世論調査、デモンストレーション、署名運動、投票、物品販売、寄付募集、拡声器使用、その他本学教職員、学生、外来者等を対象とする行為をしようとするときは、あらかじめ関係部局長に届出て、その認可を得なければならない。ただし、2学部以上にわたる学生が上行為をしようとする場合には、学生部長に届出て、その認可を得るものとする。 本条に定める行為の届出責任者は、その行為実施に関して届出先の部局長の指示に従うとともに、その行為の結果を届出先に報告しなければならない。 第10章 その他 第24条 学生の届出認可事項については、認可後といえども、届出の趣旨に反すると認められるにいたつた場合には、これを取消すことがある。 第25条 本則中、学部長とあるのは、教養部長を含むものとする。 第26条 本則施行に際して必要あるときは、さらに施行細則を定める。 附 則 本則は、昭和26年4月1日より適用する。 附 則 この通則の改正は、昭和44年3月31日から施行し、昭和43年4月1日から適用する。 附 則 この通則の改正は、昭和45年6月23日から施行する。	生部長の認可を、学部名を使用する場合には予め関係学部長の認可をそれぞれ得なければならない。 第23条 学生が、学内において、印刷物発行、世論調査、デモンストレーション、署名運動、投票、物品販売、寄付募集、拡声器使用、その他、本学教職員、学生、外来者等を対象とする行為をしようとするときは、予め関係部局長に届けて、その認可を得なければならない。 但し、2学部以上にわたる学生が右行為をしようとする場合には、学生部長に届出てその認可を得るものとする。 本条に定める行為の届出責任者は、その行為実施に関して届出先の部局長の指示に従うとともに、その行為の結果を届出先に報告しなければならない。 第11章 その他 第24条 学生の届出認可事項については、認可後と雖も、届出の趣旨に反すると認められるにいたつた場合には、これを取消すことがある。 第25条 大学前期2年間一般教養課程履修中の学生は、文理学部所属として取扱う。 第26条 本則施行に際して必要あるときはさらに施行細則を定める。 附 則 第27条 本則は昭和26年4月1日より適用する。

現

行

附 則

この通則の改正は、昭和47年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この通則の改正は、昭和50年 4 月 1 日から施行する。

(16) 千葉大学学寮規程

第 1 条 この規程は、学則第61条の規定に基づき、本学に設置する学寮の管理運営等について定めるものとする。

第 2 条 本学に次の表に掲げるとおり学寮を置く。

学寮名	所属	収容対象	所在地
稲毛寮	学生部	西千葉地区における専門課程の男子学生	千葉市小中台町824
睦 寮	学生部	全学部の女子学生	千葉市小中台町824
無名寮	学生部	教養課程の男子学生	千葉市小中台町824
第一学生寮	医学部	医学部専門課程の男子学生	千葉市亥鼻1の8の1
人生希望寮	医学部	医学部専門課程の男子学生	習志野市泉町3の9の10
浩気寮	園芸学部	園芸学部専門課程の学生	松戸市戸定648 園芸学部構内

第 3 条 学部長及び学生部長は、当該学部及び学生部に所属するそれぞれの学寮を管理する。

第 4 条 学寮の管理運営に関する基本的事項については、千葉大学厚生補導委員会において審議する。

第 5 条 入寮及び退寮は、第 3 条に定める学寮を管理する者（以下「管理者」という。）が、許可する。

2 入寮者の選考については、別に定める。

第 6 条 管理者は、入寮を許可された者が、所定の手続きを怠り、又は指定された期日までに入寮しないときは、その許可を取り消すことがある。

第 7 条 寄宿料については、学則第51条、第

旧

千葉大学学寮規則（昭39.6.27廃止）

第 1 条 千葉大学学寮は新しい大学の理想のもとに自治生活を通じて全人的完成を目指す学生寮である。

第 2 条 学寮は各学部に置くことができる。その名称は学部毎に定める。

第 3 条 学生の収容計画は関係者の意見を汲んで学長が定める。

第 4 条 学寮の主管は当該学部長とする。

第 5 条 入寮及び退寮は本人の申出により学部長がこれを許可する。

第 6 条 学部長は学寮生活に適しない行為があつた者に対しては退寮を命ずることがある。

2 前項の場合には寮生代表の意見を徴する。

第 7 条 学寮には顧問を置く。

2 顧問は学部長が委嘱する。

3 顧問は学寮生活に対し随時適切な助言をする。

第 8 条 建物の設備等の維持保存及び火気取締り等については、大学の定める規程を遵守しなければならない。

第 9 条 各寮の規約は本規則に則り寮毎に定める。

2 各寮の規約を定めるに当つては寮生が顧問と協議の上之作成し学部長の承認を受けるものとする。

附 則

この規則は、昭和26年 4 月 1 日から施行する。

規 程

現	行	旧
52条及び第52条の2の規定を適用する。		
2 前項に定めるほか、寮生は大学が別に定める基準により、当該学寮の諸経費の一部を負担する。		
第8条 管理者は、寄宿料又は寮生が負担すべき諸経費を、所定の納期までに納入しない者に対しては、退寮を命ずることができる。		
第9条 管理者は、学寮生活に適しない行為があつたと認められる寮生に対しては、退寮を命ずることができる。		
2 前項の場合には、寮生の意見を徴する。		
第10条 寮生は、所定の健康診断を受けるものとする。		
2 管理者は、前項の診断により在寮が不相当と認められた者に対しては、退寮を命ずることがある。		
第11条 学寮において当該寮生以外の者の関係する集会・催物等を行おうとする場合は、その責任者は事前に管理者の認可を受けるものとする。		
第12条 管理者は、故意又は重大な過失により、学寮の施設、設備、備品等を損傷し、又は紛失した者に対しては弁償させるものとする。		
第13条 寮生は、学寮の防火・防犯等について、大学の定める規定を遵守するものとする。		
第14条 この規程及び管理者が定めるもののほか、寮生が学寮に関する規約を定めた場合には管理者に届出るものとする。		
附 則		
1 この規程は、昭和39年6月27日から施行する。		
2 千葉大学学寮規則（昭和26年4月1日制定）は、廃止する。		
附 則		
この規程の改正は、昭和40年4月1日から施行する。		
附 則		
この規程の改正は、昭和41年4月1日から施行する。		

現 行	旧
附 則 この規程の改正は、昭和45年11月9日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和46年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和47年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和51年9月1日から施行する。 (17) 千葉大学事務組織規程 第1章 総則 第1条 本学に事務局及び学生部を置く。 第2条 事務局に庶務部、経理部及び施設部を置く。 2 庶務部に庶務課及び人事課を置く。 3 経理部に主計課及び経理課を置く。 4 施設部に企画課、建築課及び設備課を置く。 第3条 学生部に教務課、学生課、厚生課及び入学主幹を置く。 第4条 各学部、教養部、生物活性研究所、医学部附属病院、園芸学部附属農場、附属図書館及び附属図書館玄奘分館に事務部を置く。必要あるときは事務室を置くことができる。 第5条 医学部附属病院事務部に総務課、管理課及び医事課を置く。 第6条 附属図書館事務部に整理課及び閲覧課を置く。 第7条 課及び事務部並びに入学主幹のもとに係を置き所掌事務を分掌させる。 2 第2条及び第3条に定める課及び入学主幹のもとに置く係の名称及び分掌事務に関しては別に定める。 3 第4条に定める事務部(第5条及び第6条に定める課を含む。)に置く係及び事務室の名称並びに分掌事務に関しては学長の承認を得てその部局長が定める。 第2章 事務局	千葉大学事務組織規程 第1章 総則 第1条 本学に事務局及び学生部を置く。 第2条 事務局に庶務課、会計課及び施設課を置く。 第3条 学生部に教務課、学生課及び厚生課を置く。 第4条 各課に別に定める係を置く。 第5条 各学部、教育学部分校、腐敗研究所、医学部附属病院及び附属図書館にそれぞれ事務部を置く。 第6条 前条の各部局における事務分掌に関する規程はその部局長が学長の承認を経て定める。 第2章 事務分課 第7条 庶務課においては次の事務をつかさどる。 一 機密事項に関すること。 二 公印の保管に関すること。 三 儀式及び会議に関すること。 四 諸規程の制定及び改廃に関すること。 五 職員の任免、職階、給与、勤務評定、服務等入事に関すること。 六 職員の栄典、ほう賞、懲戒に関すること。 七 人事記録の作製保管に関すること。 八 職員の研修に関すること。 九 職員の厚生福祉に関すること。 一〇 調査統計に関すること。 二 公文書の授受発送及び整理保管に関す

現	行	旧
第8条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。		ること。
一 大学の総括事務に関し、連絡調整すること。		三 広報及び渉外事項に関すること。
二 機密に関すること。		三 他課に属しないこと。
三 儀式その他諸行事に関すること。		第8条 会計課においては次の事務をつかさどる。
四 評議会その他の会議に関すること。		一 予算の編成及び配当に関すること。
五 学則その他諸規程等の制定及び改廃に関すること。		二 経費及び収入の決算に関すること。
六 学位に関すること。		三 支出負担行為及びその認証に関すること。
七 内地及び外地研究員等に関すること。		四 収入及び支出に関すること。
八 学術団体等との連絡に関すること。		五 現金及び有価証券の出納、保管に関すること。
九 広報及び渉外に関すること。		六 会計の監査に関すること。
一〇 公印の管守に関すること。		七 物品の出納、保管に関すること。
二 公文書類の接受発送及び整理保管に関すること。		八 行政財産の管理に関すること。
三 調査統計その他諸報告に関すること。		九 文部省共済組合に関すること。
三 その他他の部課の所掌に属しないこと。		一〇 庁内の警備に関すること。
第9条 人事課においては、次の事務をつかさどる。		二 その他会計に関すること。
一 職員の任免、分限、懲戒及び服務等に関すること。		第9条 施設課においては次の事務をつかさどる。
二 職員の給与に関すること。		一 営繕工事の企画立案に関すること。
三 職員の定員に関すること。		二 営繕工事の設計及び監督に関すること。
四 職員の勤務評定に関すること。		三 営繕工事の入札に関すること。
五 退職者の恩給、共済組合の長期給付及び退職手当に関すること。		四 電気、電話、瓦斯、水道等諸施設の工事施工に関すること。
六 栄典、表彰に関すること。		五 その他営繕に関すること。
七 人事記録に関すること。		第10条 教務課においては次の事務をつかさどる。
八 職員の団体に関すること。		一 入学及び卒業に関すること。
九 職員の健康及び安全保持並びに福利厚生に関すること。		二 講座、教育課程編成及び単位認定に関すること。
一〇 課の所掌事務の諸報告に関すること。		三 指導要録、学業調査書等に関すること。
二 その他人事に関すること。		四 教員認定講習、通信教育及び公開講座に関すること。
第10条 主計課においては、次の事務をつかさどる。		五 研究集会その他研究調査の助成に関すること。
一 会計事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。		六 研究生、委託生、聴講生、別科生及び外国人学生に関すること。
二 予算及び決算に関すること。		七 進学適性検査監理審査会に関すること。
三 債権管理の総括事務に関すること。		
四 物品管理の総括事務に関すること。		

現 行	旧
五 会計の監査に関すること。 六 支出負担行為の確認に関すること。 七 国有財産に関すること。 八 職員の宿舎に関すること。 九 会計職員の公印の管守に関すること。 〇 会計諸規程に関すること。 二 科学研究費に関すること。 三 課の所掌事務の諸報告に関すること。 三 その他会計事務で経理課の所掌に属しないこと。 第11条 経理課においては、次の事務をつかさどる。 一 債権の管理に関すること。 二 収入及び支出に関すること。 三 歳入歳出外現金及び有価証券に関すること。 四 給与等の支給に関すること。 五 所得税等の徴収に関すること。 六 物品の調達に関すること。 七 物品の管理に関すること。 八 委任経理に関すること。 九 計算証明に関すること。 〇 警備取締りに関すること。 二 共済組合に関すること。ただし、長期給付に関することを除く。 三 課の所掌事務の諸報告に関すること。 三 その他会計経理に関すること。 第12条 企画課においては、次の事務をつかさどる。 一 施設整備に関し、総括し、及び連絡調整すること。 二 工事に関し、予算案を準備すること。 三 工事費の実施配分に関すること。 四 工事の入札及び請負契約事務に関すること。 五 建築、電気、ガス、水道等工事の関係法令等に基づく諸手続に関すること。 六 施設に関する調査及び報告に関すること。 七 その他他課の所掌に属しない施設整備及び営繕に関する事務に関すること。 第13条 建築課においては、次の事務をつか	八 部内所掌事務の調整、連絡に関すること。 九 部内の庶務に関すること。 〇 部関係諸会議に関すること。 二 他課に属しないこと。 第11条 学生課においては次の事務をつかさどる。 一 学生の課外活動の補導に関すること。 二 補導のための大学紹介に関すること。 三 学生通則に関すること。 四 学生の賞罰に関すること。 五 その他学生の文化教養に関すること。 第12条 厚生課においては次の事務をつかさどる。 一 学生の生活相談に関すること。 二 学生の実態調査及び厚生資料の作成に関すること。 三 学生の奨学に関すること。 四 学寮に関すること。 五 卒業生の就職に関すること。 六 学生の健康管理に関すること。 七 その他学生の厚生に関すること。 附 則 この規程は、昭和26年12月1日から施行する。

規 程

現	行	旧
さどる。 一 施設の整備計画に関すること。 二 建築及び土木工事（以下「建築工事」という。）の実施計画に関すること。 三 建築工事の設計に関すること。 四 建築工事費の積算に関すること。 五 建築工事の施工、監督に関すること。 六 建築工事の検査に関すること。 七 その他営繕に関する技術的事項に関すること。 第14条 設備課においては、次の事務をつかさどる。 一 電気、電話、給排水、ガス、冷暖房、衛生設備等（以下「設備」という。）の整備計画に関すること。 二 設備工事の実施計画に関すること。 三 設備工事の設計に関すること。 四 設備工事費の積算に関すること。 五 設備工事の施工、監督に関すること。 六 設備工事の検査に関すること。 七 西千葉地区共通設備の管理に関すること。 八 その他設備に関する技術的事項に関すること。 第3章 学生部 第15条 教務課においては、次の事務をつかさどる。 一 入学（入学者選抜に関する事務を除く。）及び卒業に関すること。 二 講座、教育課程編成及び単位認定に関すること。 三 授業日程に関すること。 四 教員認定講習、単位修得試験、通信教育及び公開講座に関すること。 五 研究集会その他研究調査の助成に関すること。 六 大学院、専攻科、専攻生、聴講生、委託研究生、研究生、受託研修生、別科生及び外国人学生に関すること。 七 学生部内所掌事務の調整、連絡に関すること。 八 学生部の庶務に関すること。		

現	行	旧
九 学生部関係諸会議に關すること。 二〇 その他教務に關すること。 二一 その他他課及び入学主幹に屬しない事項に關すること。 第16条 学生課においては、次の事務をつかさどる。 一 学生の課外活動の補導に關すること。 二 学生相談に關すること。 三 補導のための大学紹介に關すること。 四 学生通則に關すること。 五 学生の賞罰に關すること。 六 その他学生の補導に關すること。 第17条 厚生課においては、次の事務をつかさどる。 一 学生の生活相談に關すること。 二 学生の実態調査及び厚生資料の作成に關すること。 三 学生の奨學に關すること。 四 学寮に關すること。 五 卒業生の就職に關すること。 六 学生の健康管理に關すること。 七 その他学生の厚生に關すること。 第18条 入学主幹は、次の事務をつかさどる。 一 入学者選抜に關する総括及び連絡調整に關すること。 二 入学者選抜方法の改善の企画立案に關すること。 三 入学者選抜に關する委員会に關すること。 四 その他入学者選抜に關すること。 第4章 各部局事務部 第19条 各部局事務部（医学部附属病院及び附属図書館の事務部を除く。）においては、各部局における庶務會計その他の事務をつかさどる。 第5章 医学部附属病院事務部 第20条 総務課においては、次の事務をつかさどる。 一 病院事務の連絡調整に關すること。 二 會議及び行事に關すること。 三 職員の人事に關すること。		

規 程

現 行	旧
四 職員の服務及び福祉に関すること。 五 職員団体に関すること。 六 病院に係る争訟事務の総括に関すること。 七 附属学校に関すること。 八 看護学校等の臨床実習に関すること。 九 調査統計の総括に関すること。 一〇 その他他課に属しない事項に関すること。 第21条 管理課においては、次の事務をつかさどる。 一 構内の警備取締及び災害防止その他構内管理に関すること。 二 予算及び決算に関すること。 三 会計の照査に関すること。 四 職員の給与等の支給に関すること。 五 物品の取得及び管理に関すること。 六 役務に関すること。 七 国有財産に関すること。 八 電気、電話、給排水、ガス及び冷暖房に関すること。 九 その他病院の施設設備の補修に関すること。 第22条 医事課においては、次の事務をつかさどる。 一 患者の診療事務に関すること。 二 医療相談及び患者サービスに関すること。 三 給食及び栄養相談に関すること。 四 診療料金の収納及び債権の管理に関すること。 五 社会保険等保険事務に関すること。 六 寝具その他病室備品に関すること。 七 医療情報事務に関すること。 八 医事に関する調査、統計、報告に関すること。 第 6 章 附属図書館事務部 第23条 整理課においては、次の事務をつかさどる。 一 図書館（分館及び図書室を含む。）事務の連絡調整に関すること。 二 庶務・会計に関すること。	

現	行	旧
三 職員の服務、福祉、研修及び給与に関すること。		
四 会議に関すること。		
五 課の調査及び諸報告に関すること。		
六 渉外に関すること。		
七 備品、消耗品に関すること。		
八 図書の選定に関すること。		
九 図書館資料の受入、登録及び更新に関すること。		
一〇 図書の整理（目録、分類、製本等）に関すること。		
二 その他閲覧課に属さない事務に関すること。		
第24条 閲覧課においては、次の事務をつかさどる。		
一 閲覧及び貸出に関すること。		
二 学術雑誌及び二次文献資料（索引誌、抄録誌等）の収集、選定、整理に関すること。		
三 図書館資料の相互利用及び交換に関すること。		
四 文献の撮影及び複写に関すること。		
五 レファレンスに関すること。		
六 利用案内、展示等に関すること。		
七 図書館資料の保存、配架及び閲覧室、書庫の管理に関すること。		
八 図書館資料及び図書館についての調査研究に関すること。		
九 課の調査及び諸報告に関すること。		
一〇 図書館業務の機械化に関すること。		
二 その他図書館の利用に関すること。		
附 則		
この規程は、昭和26年12月1日から施行する。		
附 則		
この規程の改正は、昭和27年10月1日から施行する。		
附 則		
この規程の改正は、昭和31年12月1日から施行する。		
附 則		
この規程の改正は、昭和32年12月14日から		

規 程

現 行	旧
施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和33年6月20日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和35年1月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和36年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和37年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和38年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和38年12月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和39年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和40年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和41年11月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和43年5月9日から施行し、昭和43年4月1日から適用する。 附 則 この規程の改正は、昭和47年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和48年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和48年9月29日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和50年4月1日から	

現 行	旧
施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和52年4月1日から施行する。 附 則 この規程の改正は、昭和53年4月1日から施行する。	

3 教 職 員

(1) 学長・部局長等一覧

学 長

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 5. 31	昭和32. 5. 31	小 池 敬 事 (医)
昭和32. 6. 1	昭和36. 5. 31	小 林 政 一 (工)
昭和36. 6. 1	昭和37. 1. 30	荒 木 直 躬 (医)
昭和37. 1. 30	昭和37. 3. 1 (事務取扱)	谷 川 久 治 (医)
昭和37. 3. 2	昭和43. 3. 1	谷 川 久 治 (医)
昭和43. 3. 2	昭和44. 4. 1	川喜田 愛 郎 (医)
昭和44. 4. 1	昭和44. 6. 23 (事務取扱)	湊 頤 (薬)
昭和44. 6. 24	昭和45. 7. 31 (事務取扱)	香 月 秀 雄 (医)
昭和45. 8. 1	昭和51. 7. 31	相 磯 和 嘉 (医)
昭和51. 8. 1		香 月 秀 雄 (医)

学 芸 学 部 長 (昭和25.3.31限り廃止)

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 6. 15	昭和25. 3. 31	野 村 武 衛

文 理 学 部 長 (昭和50.3.31限り廃止)

(就 任)	(退 任)	
昭和25. 4. 1	昭和28. 7. 31 (事務取扱)	小 池 敬 事
昭和28. 8. 1	昭和30. 11. 30	前 田 鷹 衛
昭和30. 12. 1	昭和32. 12. 31	吉 岡 俊 亮
昭和33. 1. 1	昭和34. 12. 31	長谷川 理 衛
昭和35. 1. 1	昭和36. 12. 31	川 口 幹
昭和37. 1. 1	昭和39. 12. 31	長 友 治郎吉
昭和40. 1. 1	昭和43. 4. 30	望 月 衛
昭和43. 5. 1	昭和47. 3. 31	鶴 見 卓 三
昭和47. 4. 1	昭和50. 3. 31	白 田 貴 郎

人文学部長

(就任)	(退任)	
昭和43. 4. 1	昭和47. 3. 31	鶴見卓三
昭和47. 4. 1	昭和51. 3. 31	白田貴郎
昭和51. 4. 1		小笠原長和

教育学部長

(就任)	(退任)	
昭和25. 4. 1	昭和27. 7. 15	野村武衛
昭和27. 7. 16	昭和32. 3. 30	佐藤良一郎
昭和32. 3. 31	昭和33. 11. 14	小木曾 恩
昭和33. 11. 15	昭和35. 3. 31	津川正美
昭和35. 4. 1	昭和36. 3. 31	水野治隆
昭和36. 4. 1	昭和44. 3. 31	芳野英昌
昭和44. 4. 1	昭和44. 5. 31	香村寛蔵
昭和44. 6. 1	昭和44. 6. 30 (事務取扱)	飯田 朝
昭和44. 7. 1	昭和47. 6. 30	香村寛蔵
昭和47. 7. 1	昭和50. 6. 30	飯田 朝
昭和50. 7. 1		深山幹夫

理学部長

(就任)	(退任)	
昭和43. 4. 1	昭和44. 2. 28 (事務取扱)	川喜田愛郎
昭和44. 3. 1	昭和44. 6. 12	山口太三郎
昭和44. 6. 13	昭和49. 6. 12	沼田 真
昭和49. 6. 13	昭和51. 4. 1	熊谷寛夫
昭和51. 4. 2		沼田 真

医学部長

(就任)	(退任)	
昭和24. 5. 31	昭和24. 10. 5	(兼)小池敬事
昭和24. 10. 6	昭和27. 10. 4	加賀谷勇之助

教 職 員

昭和27. 10. 5	昭和30. 10. 4	赤 松 茂
昭和30. 10. 5	昭和33. 10. 4	荒 木 直 躬
昭和33. 10. 5	昭和37. 3. 1	谷 川 久 治
昭和37. 3. 2	昭和37. 3. 31 (事務取扱)	谷 川 久 治
昭和37. 4. 1	昭和39. 3. 31	鈴 木 正 夫
昭和39. 4. 1	昭和42. 3. 31	滝 沢 延次郎
昭和42. 4. 1	昭和43. 1. 11	鈴 木 次 郎
昭和43. 1. 11	昭和43. 1. 24 (事務取扱)	谷 川 久 治
昭和43. 1. 25	昭和44. 5. 29	小 林 龍 男
昭和44. 5. 30	昭和44. 11. 30 (事務取扱)	相 磯 和 嘉
昭和44. 12. 1	昭和45. 7. 31	相 磯 和 嘉
昭和45. 8. 1	昭和48. 3. 31	松 本 胖
昭和48. 4. 1	昭和50. 3. 31	横 川 宗 雄
昭和50. 4. 1	昭和51. 7. 31	香 月 秀 雄
昭和51. 8. 1	昭和53. 7. 31	横 川 宗 雄
昭和53. 8. 1		井 出 源四郎

医学部附属病院長

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 12. 1	昭和26. 9. 30	中 山 恒 明
昭和26. 10. 1	昭和28. 9. 30	佐々木 哲 丸
昭和28. 10. 1	昭和30. 9. 30	竹 内 勝
昭和30. 10. 1	昭和32. 9. 30	北 村 武
昭和32. 10. 1	昭和34. 9. 30	斉 藤 十 六
昭和34. 10. 1	昭和36. 9. 30	鈴 木 次 郎
昭和36. 10. 1	昭和38. 9. 30	寛 弘 毅
昭和38. 10. 1	昭和41. 4. 15	三 輪 清 三
昭和41. 4. 16	昭和42. 3. 31	鈴 木 次 郎
昭和42. 4. 1	昭和44. 3. 31	松 本 胖
昭和44. 4. 1	昭和46. 3. 31	百 瀬 剛 一
昭和46. 4. 1	昭和50. 3. 31	香 月 秀 雄
昭和50. 4. 1	昭和52. 3. 31	久 保 政 次

昭和52. 4. 1

佐 藤 博

薬 学 部 長

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 7. 4	昭和26. 9. 30	宮 木 高 明
昭和26. 10. 1	昭和28. 4. 30	三 宅 良 一
昭和28. 5. 1	昭和30. 10. 9 (事務取扱)	小 池 敬 事
昭和30. 10. 10	昭和33. 10. 9	宮 木 高 明
昭和33. 10. 10	昭和33. 11. 14 (事務取扱)	宮 木 高 明
昭和33. 11. 15	昭和35. 3. 31	小 幡 武 郎
昭和35. 4. 1	昭和37. 4. 30	萩 庭 丈 寿
昭和37. 5. 1	昭和39. 4. 30	湊 顕
昭和39. 5. 1	昭和41. 4. 30	萩 庭 丈 寿
昭和41. 5. 1	昭和43. 4. 30	三 宅 良 一
昭和43. 5. 1	昭和46. 3. 31	湊 顕
昭和46. 4. 1	昭和48. 4. 30	三 宅 良 一
昭和48. 5. 1	昭和50. 4. 30	北 川 晴 雄
昭和50. 5. 1	昭和52. 4. 30	山 根 靖 弘
昭和52. 5. 1		山 岸 三 郎

看護学部長 (昭和50. 4. 22前は看護学部創設準備室長)

(就 任)	(退 任)	
昭和49. 4. 11	昭和50. 4. 21	松 本 胖
昭和50. 4. 22	昭和52. 5. 31	松 本 胖
昭和52. 6. 1		宮 入 正 人

工 芸 学 部 長 (昭和26. 3. 31限り廃止)

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 6. 26	昭和25. 7. 30	白 井 武
昭和25. 7. 31	昭和26. 2. 9 (事務取扱)	小 池 敬 事
昭和26. 2. 10	昭和26. 3. 31	小 林 政 一

教 職 員

工 学 部 長

(就 任)	(退 任)	
昭和26. 4. 1	昭和32. 3. 30	小 林 政 一
昭和32. 3. 31	昭和38. 3. 31	長谷川 一 郎
昭和38. 4. 1	昭和41. 3. 31	辻 井 静 二
昭和41. 4. 1	昭和44. 6. 6	茂 木 今朝吉
昭和44. 6. 7	昭和47. 6. 6	分 島 拓
昭和47. 6. 7	昭和50. 6. 6	浅 野 弥 祐
昭和50. 6. 7		須 賀 恭 一

園 芸 学 部 長

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 5. 31	昭和31. 3. 2	武 田 憲 治
昭和31. 3. 3	昭和31. 3. 31 (事務取扱)	小 池 敬 事
昭和31. 4. 1	昭和34. 3. 31	加 藤 浩
昭和34. 4. 1	昭和37. 3. 31	吉 江 修 司
昭和37. 4. 1	昭和40. 3. 31	河 村 貞之助
昭和40. 4. 1	昭和43. 3. 31	林 四 郎
昭和43. 4. 1	昭和48. 3. 31	永 沢 勝 雄
昭和48. 4. 1	昭和50. 3. 31	藤 井 健 雄
昭和50. 4. 1	昭和54. 3. 31	飯 田 格
昭和54. 4. 1		小 島 道 也

教 養 部 長

(就 任)	(退 任)	
昭和43. 4. 1	昭和46. 3. 31	上 野 栄 雄
昭和46. 4. 1	昭和50. 3. 31	竹 田 厚太郎
昭和50. 4. 1	昭和52. 3. 31	近 藤 精 造
昭和52. 4. 1		阿 部 玄 治

留 学 生 部 長 (昭和39.4.1前は留学生課程主事) (昭和47.4.30限り廃止)

(就 任)	(退 任)	
昭和35. 4. 1	昭和36. 12. 31	川 口 幹

資 料 編

昭和37. 1. 1	昭和37. 10. 31	長 友 治郎吉
昭和37. 11. 1	昭和39. 3. 31 (事務取扱)	谷 川 久 治
昭和39. 4. 1	昭和39. 7. 31 (事務取扱)	谷 川 久 治
昭和39. 8. 1	昭和41. 7. 31	田 中 大 二
昭和41. 8. 1	昭和43. 7. 31	望 月 孝 逸
昭和43. 8. 1	昭和45. 7. 31	三 橋 富治男
昭和45. 8. 1	昭和46. 9. 25	西 田 誠
昭和46. 9. 26	昭和47. 4. 30 (事務取扱)	相 磯 和 嘉

生物活性研究所長 (昭和48.9.29前は腐敗研究所長)

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 5. 31	昭和29. 3. 31	(兼) 小 池 敬 事
昭和29. 4. 1	昭和32. 5. 21 (事務取扱)	小 池 敬 事
昭和32. 5. 22	昭和38. 5. 21	相 磯 和 嘉
昭和38. 5. 22	昭和41. 5. 21	宮 木 高 明
昭和41. 5. 22	昭和44. 5. 21	相 磯 和 嘉
昭和44. 5. 22	昭和44. 8. 4 (事務取扱)	宮 木 高 明
昭和44. 8. 5	昭和48. 9. 28	宮 木 高 明
昭和48. 9. 29	昭和49. 1. 9	宮 木 高 明
昭和49. 1. 10	昭和49. 3. 31 (事務取扱)	相 磯 和 嘉
昭和49. 4. 1	昭和53. 3. 31	新 井 正
昭和53. 4. 1		久 我 哲 郎

保健管理センター所長

(就 任)	(退 任)	
昭和48. 4. 12	昭和48. 10. 15 (事務取扱)	村 越 康 一
昭和48. 10. 16	昭和52. 10. 15	村 越 康 一
昭和52. 10. 16		木 下 安 弘

分析センター長

(就 任)	(退 任)	
昭和53. 4. 1		坂 井 進一郎

教 職 員

附属図書館長

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 9. 26	昭和28. 3. 31	大 岡 保 三
昭和28. 4. 1	昭和28. 10. 31	前 田 鷹 衛
昭和28. 11. 1	昭和31. 1. 31	吉 岡 俊 亮
昭和31. 2. 1	昭和34. 1. 31	田 中 康 一
昭和34. 2. 1	昭和35. 3. 31	山 岸 忠 夫
昭和35. 4. 1	昭和39. 10. 15	吉 武 好 孝
昭和39. 10. 16	昭和42. 3. 31	荒 井 栄
昭和42. 4. 1	昭和44. 7. 31	緒 方 惟 精
昭和44. 8. 1	昭和47. 7. 31	荻 原 浅 男
昭和47. 8. 1	昭和49. 3. 31	市 原 権三郎
昭和49. 4. 1	昭和51. 3. 31	石 田 周 三
昭和51. 4. 1	昭和53. 3. 31	三 浦 義 彰
昭和53. 4. 1		竹 田 厚太郎

学 生 部 長 (昭和27. 10. 1前は教務厚生部長)

(就 任)	(退 任)	
昭和24. 7. 11	昭和25. 8. 30	長谷川 修 一
昭和25. 9. 15	昭和27. 9. 30	柏 木 嵩
昭和27. 10. 1	昭和39. 3. 31	柏 木 嵩
昭和39. 4. 1	昭和41. 3. 31	小 林 龍 男
昭和41. 4. 1	昭和43. 3. 31	石 田 周 三
昭和43. 4. 1	昭和44. 7. 31	多 田 顕
昭和44. 8. 1	昭和45. 12. 31	竹 田 厚太郎
昭和46. 1. 1	昭和49. 12. 31	小 松 光
昭和50. 1. 1	昭和50. 3. 19 (事務取扱)	小 松 光
昭和50. 3. 20	昭和54. 3. 19	西 田 誠
昭和54. 3. 20		近 藤 精 造

養護教諭養成所長（昭和53.6.17限り廃止）

（就 任）	（退 任）	
昭和44. 4. 1	昭和44. 5. 31	香 村 寛 蔵
昭和44. 6. 1	昭和44. 6. 30（事務取扱）	飯 田 朝
昭和44. 7. 1	昭和47. 6. 30	香 村 寛 蔵
昭和47. 7. 1	昭和50. 6. 30	飯 田 朝
昭和50. 7. 1	昭和53. 6. 17	深 山 幹 夫

工業短期大学部主事（昭和54.3.31限り廃止）

（就 任）	（退 任）	
昭和27. 4. 1	昭和32. 2. 28	小 林 政 一
昭和32. 3. 1	昭和38. 3. 31	長谷川 一 郎
昭和38. 4. 1	昭和41. 3. 31	辻 井 静 二
昭和41. 4. 1	昭和44. 3. 31	茂 木 今朝吉
昭和44. 4. 1	昭和48. 3. 31	仲 田 光
昭和48. 4. 1	昭和51. 3. 31	志 茂 主 税
昭和51. 4. 1	昭和51. 5. 16（事務取扱）	須 賀 恭 一
昭和51. 5. 17	昭和54. 3. 31	須 賀 恭 一

教 職 員

(2) 千葉大学評議会構成員変遷表

年 度 部 局 等	昭和 24	25	26	27
学 長	24.12. 6～ 小 池 敬 事	小 池 敬 事	小 池 敬 事	小 池 敬 事
学 芸 学 部	24.12. 6～25. 3.31 ◦野 村 武 衛 24.12. 6～25. 3.31 吉 岡 俊 亮 24.12. 6～25. 3.31 田 中 康 一 24.12. 6～25. 3.31 津 川 正 美			
文 理 学 部		25. 4. 1～ (学長が学部長事務 取扱) 25. 4. 1～ 吉 岡 俊 亮 25. 4. 1～ 田 中 康 一	(学長が学部長事務 取扱) 吉 岡 俊 亮 田 中 康 一	(学長が学部長事務 取扱) 吉 岡 俊 亮 田 中 康 一
教 育 学 部		25. 4. 1～ ◦野 村 武 衛 25. 4. 1～ 野 尻 丈 七 25. 4. 1～ 津 川 正 美	◦野 村 武 衛 野 尻 丈 七 津 川 正 美	◦野 村 武 衛 ~27. 7.15 27. 7.16～ ◦佐 藤 良一郎 野 尻 丈 七 津 川 正 美
医 学 部	24.12. 6～ ◦加賀谷 勇之助 24.12. 6～ 赤 松 茂 24.12. 6～ 石 川 憲 夫	◦加賀谷 勇之助 赤 松 茂 石 川 憲 夫	◦加賀谷 勇之助 赤 松 茂 石 川 憲 夫	◦加賀谷 勇之助 ~27.10. 4 27.10. 5～ ◦赤 松 茂 ~27.10. 4 赤 松 茂 27.10. 5～ 加賀谷 勇之助 石 川 憲 夫
医 学 院 部 附 属	24.12. 6～ ◦中 山 恒 明	◦中 山 恒 明	◦中 山 恒 明 ~26. 9.30 26.10. 1～ ◦佐々木 哲 丸	◦佐々木 哲 丸

(。印は部局等の長を示す)

28	29	30	31
小 池 敬 事	小 池 敬 事	小 池 敬 事	小 池 敬 事
~28. 7. 31 (学長が学部長事務取扱) 28. 8. 1~ 。前 田 鷹 衛 吉 岡 俊 亮 ~28. 5. 31 田 中 康 一 28. 6. 1~ 山 岸 忠 夫 28. 6. 1~ 長谷川 理 衛	。前 田 鷹 衛 山 岸 忠 夫 長谷川 理 衛	~30. 11. 30 。前 田 鷹 衛 30. 12. 1~ 。吉 岡 俊 亮 ~30. 5. 31 山 岸 忠 夫 ~30. 5. 31 長谷川 理 衛 30. 6. 1~ 小 出 直三郎 30. 6. 1~ 酒 井 佐 明	。吉 岡 俊 亮 小 出 直三郎 酒 井 佐 明
。佐 藤 良一郎 野 尻 丈 七 津 川 正 美	。佐 藤 良一郎 野 尻 丈 七 津 川 正 美	。佐 藤 良一郎 野 尻 丈 七 津 川 正 美	。佐 藤 良一郎 ~32. 3. 30 32. 3. 31~ 。小木曾 恩 野 尻 丈 七 津 川 正 美
。赤 松 茂 加賀谷 勇之助 石 川 憲 夫	。赤 松 茂 加賀谷 勇之助 石 川 憲 夫	~30. 10. 4 。赤 松 茂 30. 10. 5~ 。荒 木 直 躬 加賀谷 勇之助 ~30. 5. 31 石 川 憲 夫 30. 6. 1~ 中 山 恒 明	。荒 木 直 躬 加賀谷 勇之助 中 山 恒 明
~28. 9. 30 。佐々木 哲 丸 28. 10. 1~ 。竹 内 勝	。竹 内 勝	~30. 9. 30 。竹 内 勝 30. 10. 1~ 。北 村 武	。北 村 武

教 職 員

薬学部	24.12.6~ ◦宮木高明 24.12.6~ 小幡武郎	◦宮木高明 小幡武郎	◦宮木高明 26.9.30 26.10.1~ ◦三宅良一 小幡武郎	◦三宅良一 小幡武郎
工学部	24.12.6~ ◦白井武 24.12.6~ 岡利亮 24.12.6~ 辻井静二	◦白井武 ~25.7.30 25.7.31~26.2.9 (学長が学部長事務取扱) 26.2.10~26.3.31 ◦小林政一 ~26.3.31 岡利亮 ~26.3.31 辻井静二		
工学部			26.4.1~ ◦小林政一 26.4.1~ 辻井静二 26.4.1~ 長谷川一郎	◦小林政一 辻井静二 長谷川一郎
園芸学部	24.12.6~ ◦武田憲治 24.12.6~ 吉江修司 24.12.6~ 河村貞之助	◦武田憲治 吉江修司 河村貞之助	◦武田憲治 吉江修司 河村貞之助 ~26.5.30 26.5.31~ 小寺駿吉	◦武田憲治 吉江修司 小寺駿吉
腐敗研究所	24.12.6~ (学長が所長兼務)	(学長が所長兼務)	(学長が所長兼務)	(学長が所長兼務)
工学部 短期大				
附属図書館	24.12.6~ ◦大岡保三	◦大岡保三	◦大岡保三	◦大岡保三 ~28.3.31

~28. 4. 30 ◦三宅良一 28. 5. 1~ (学長が学部長事務取扱) 小幡武郎 三宅良一	(学長が学部長取事務扱) 小幡武郎 三宅良一	~30.10. 9 (学長が学部長事務取扱) 30.10.10~ ◦宮木高明 小幡武郎 三宅良一	◦宮木高明 小幡武郎 三宅良一
◦小林政一 辻井静二 長谷川一郎	◦小林政一 辻井静二 長谷川一郎	◦小林政一 ~30. 5. 31 辻井静二 長谷川一郎 30. 6. 1~ 菊池省一	~32. 3. 30 ◦小林政一 32. 3. 31~ ◦長谷川一郎 菊池省一 ~32. 3. 30 長谷川一郎 32. 3. 31~ 辻井静二
◦武田憲治 ~28. 5. 31 吉江修司 ~28. 5. 31 小寺駿吉 28. 6. 1~ 渋谷常紀 28. 6. 1~ 河村貞之助	◦武田憲治 ~29. 6. 30 渋谷常紀 河村貞之助	~31. 3. 2 ◦武田憲治 31. 3. 3~31. 3. 31 (学長が学部長事務取扱) ~30. 5. 31 河村貞之助 30. 6. 1~ 穂坂八郎 30. 6. 1~31. 3. 31 加藤浩	31. 4. 1~ ◦加藤浩 穂坂八郎 31. 4. 1~ 吉江修司
~29. 3. 31 (学長が所長兼務)	29. 4. 1~ (学長が所長事務取扱)	(学長が所長事務取扱)	(学長が所長事務取扱)
28. 4. 1~28.10.31 ◦前田鷹衛 28.11. 1~ ◦吉岡俊亮	◦吉岡俊亮	~31. 1. 31 ◦吉岡俊亮 31. 2. 1~ ◦田中康一	◦田中康一

教 職 員

年度 部局等	32	33	34	35
学 長	～32. 5. 31 小 池 敬 事 32. 6. 1～ 小 林 政 一	小 林 政 一	小 林 政 一	小 林 政 一
文 理 学 部	～32. 12. 31 ◦ 吉 岡 俊 亮 33. 1. 1～ ◦ 長谷川 理 衛 ～32. 5. 31 小 出 直三郎 酒 井 佐 明 32. 6. 1～ 坂 崎 侃	◦ 長谷川 理 衛 ～34. 3. 31 坂 崎 侃 酒 井 佐 明 34. 3. 31～ 萩 原 浅 男	～34. 12. 31 ◦ 長谷川 理 衛 35. 1. 1～ ◦ 川 口 幹 萩 原 浅 男 34. 6. 1～35. 1. 1 川 口 幹 35. 1. 1～ 渡 辺 清 彦	◦ 川 口 幹 萩 原 浅 男 渡 辺 清 彦
教 育 学 部	◦ 小木曾 恩 ～32. 6. 29 野 尻 丈 七 津 川 正 美 32. 6. 30～ 芳 野 英 昌	～33. 11. 15 ◦ 小木曾 恩 33. 11. 15～ ◦ 津 川 正 美 芳 野 英 昌 ～33. 11. 14 津 川 正 美 34. 1. 1～ 水 野 治 隆	～35. 3. 31 ◦ 津 川 正 美 芳 野 英 昌 ～35. 4. 1 水 野 治 隆	35. 4. 1～36. 3. 31 ◦ 水 野 治 隆 ～36. 4. 1 芳 野 英 昌 35. 6. 6～ 井 上 新 吉
医 学 部	◦ 荒 木 直 躬 ～32. 5. 31 加賀谷 勇之助 中 山 恒 明 32. 6. 1～ 谷 川 久 治	～33. 10. 4 ◦ 荒 木 直 躬 33. 10. 5～ ◦ 谷 川 久 治 ～33. 10. 5 谷 川 久 治 中 山 恒 明 33. 11. 1～ 鈴 木 正 夫	◦ 谷 川 久 治 鈴 木 正 夫 ～34. 5. 31 中 山 恒 明 34. 6. 1～ 荒 木 直 躬	◦ 谷 川 久 治 鈴 木 正 夫 荒 木 直 躬

36	37	38	39
~36. 5. 31 小林 政一 36. 6. 1~37. 1. 30 荒木 直躬 37. 1. 30~37. 3. 1 谷川 久治 (事務取扱) 37. 3. 2~ 谷川 久治	谷川 久治	谷川 久治	谷川 久治
~36. 12. 31 〇川口 幹 37. 1. 1~ 〇長友 治郎吉 ~36. 5. 31 荻原 浅男 ~36. 5. 31 渡辺 清彦 36. 6. 1~37. 2. 15 渡辺 茂 36. 6. 1~36. 12. 31 長友 治郎吉 37. 2. 1~ 大和田 信 37. 2. 16~ 白田 貴郎	〇長友 治郎吉 大和田 信 白田 貴郎	〇長友 治郎吉 大和田 信 ~38. 5. 31 白田 貴郎 38. 6. 1~ 渡辺 茂	~39. 12. 31 〇長友 治郎吉 40. 1. 1~ 〇望月 衛 ~40. 3. 31 大和田 信 渡辺 茂
36. 4. 1~ 〇芳野 英昌 井上新 吉 36. 4. 10~36. 5. 31 浅見 錦吾 36. 6. 1~ 香村 寛藏	〇芳野 英昌 香村 寛藏 井上新 吉	〇芳野 英昌 香村 寛藏 井上新 吉	〇芳野 英昌 香村 寛藏 井上新 吉
~37. 3. 1 〇谷川 久治 37. 3. 2~37. 3. 31 (学長が学部長事務取扱) ~36. 5. 31 〇鈴木 正夫 ~36. 5. 31 荒木 直躬 36. 6. 1~ 小林 龍男 36. 6. 1~36. 9. 30 寛 弘毅 36. 10. 1~ 鈴木 次郎	37. 4. 1~ 〇鈴木 正夫 小林 龍男 鈴木 次郎	~39. 3. 31 〇鈴木 正夫 小林 龍男 鈴木 次郎	39. 4. 1~ 〇瀧沢 延次郎 ~39. 4. 16 小林 龍男 鈴木 次郎 39. 4. 16~ 川喜田 愛郎

教 職 員

医属 学部院 附	◦北 村 武 ~32. 9. 30 32. 10. 1~ ◦斉藤 十 六	◦斉 藤 十 六	◦斉 藤 十 六 ~34. 9. 30 34. 10. 1~ ◦鈴 木 次 郎	◦鈴 木 次 郎
薬 学 部	◦宮 木 高 明 小 幡 武 郎 ~32. 5. 31 三 宅 良 一 32. 6. 1~ 湊 顕	◦宮 木 高 明 ~33. 10. 9 33. 10. 10~33. 11. 14 (宮木高明が学部長 事務取扱) 33. 11. 15~ ◦小 幡 武 郎 ~33. 11. 14 小 幡 武 郎 湊 顕 33. 11. 15~ 宮 木 高 明	◦小 幡 武 郎 ~35. 3. 31 宮 木 高 明 湊 顕	35. 4. 1~ ◦萩 庭 丈 壽 宮 木 高 明 湊 顕
工 学 部	◦長谷川 一 郎 菊 池 省 一 辻 井 静 二	◦長谷川 一 郎 菊 池 省 一 辻 井 静 二	◦長谷川 一 郎 菊 池 省 一 辻 井 静 二	◦長谷川 一 郎 菊 池 省 一 辻 井 静 二
園 芸 学 部	◦加 藤 浩 ~32. 5. 31 穂 坂 八 郎 吉 江 修 司 32. 6. 1~ 河 村 貞之助 32. 6. 1~ 小 寺 駿 吉	◦加 藤 浩 ~34. 3. 31 河 村 貞之助 小 寺 駿 吉	34. 4. 1~ ◦吉 江 修 司 河 村 貞之助 小 寺 駿 吉 ~34. 5. 31 34. 6. 1~ 加 藤 浩	◦吉 江 修 司 河 村 貞之助 加 藤 浩
腐 敗 研 究 所	◦(学長が所長事務取 扱) ~32. 5. 21 32. 5. 22~ ◦相 磯 和 嘉	◦相 磯 和 嘉	◦相 磯 和 嘉	◦相 磯 和 嘉
附 属 図 書 館	◦田 中 康 一	◦田 中 康 一 ~34. 1. 31 34. 2. 1~ ◦山 岸 忠 夫	◦山 岸 忠 夫 ~35. 3. 31	35. 4. 1~ ◦吉 武 好 孝
工 大 学 短 期				
留 学 生 部				

資料編

~36. 9.30 ◦ 鈴木 次郎 36.10. 1~ ◦ 寛 弘毅	◦ 寛 弘毅	~38. 9.30 ◦ 寛 弘毅 38.10. 1~ ◦ 三輪 清三	◦ 三輪 清三
◦ 萩庭 丈壽 宮木 高明 湊 顕	~37. 4.30 ◦ 萩庭 丈壽 37. 5. 1~ ◦ 湊 顕 宮木 高明 湊 顕 ~37. 4.30 37. 5. 1~ 萩庭 丈壽	◦ 湊 顕 ~38. 5.31 宮木 高明 ~38. 5.31 萩庭 丈壽 38. 6. 1~38. 8. 2 鷗上 三郎 38. 6. 1~ 三宅 良一 38. 8. 3~ 坂口 武一	~39. 4.30 ◦ 湊 顕 39. 5. 1~ ◦ 萩庭 丈壽 坂口 武一 三宅 良一
◦ 長谷川 一郎 菊池 省一 辻井 静二	~38. 3.31 ◦ 長谷川 一郎 菊池 省一 ~38. 3.31 辻井 静二	38. 4. 1~ ◦ 辻井 静二 ~38. 5.31 菊池 省一 38. 4. 1~ 茂木 今朝吉 38. 6. 1~ 小池 新二	◦ 辻井 静二 小池 新二 茂木 今朝吉
~37. 3.31 ◦ 吉江 修司 ~37. 3.31 河村 貞之助 加藤 浩	37. 4. 1~ ◦ 河村 貞之助 37. 4. 1~ 吉江 修司 加藤 浩	◦ 河村 貞之助 吉江 修司 ~38. 5.31 加藤 浩 38. 6. 1~ 林 四郎	~40. 3.31 ◦ 河村 貞之助 吉江 修司 ~40. 3.31 林 四郎
◦ 相磯 和嘉	◦ 相磯 和嘉	~38. 5.21 ◦ 相磯 和嘉 38. 5.22~ ◦ 宮 不高明	◦ 宮木 高明
◦ 吉武 好孝	◦ 吉武 好孝	◦ 吉武 好孝	~39.10.16 ◦ 吉武 好孝 39.10.16~ ◦ 荒井 栄
36. 4. 1~ (工学部長が主事兼務)	(工学部長が主事兼務)	(工学部長が主事兼務)	(工学部長が主事兼務)
			39. 9.10~ ◦ 田中 大二

教 職 員

部局等	年度	40	41	42	43
学 長		谷 川 久 治	谷 川 久 治	谷 川 久 治 ～43. 3. 1 43. 3. 2～ 川喜田 愛 郎	川喜田 愛 郎
文 理 学 部		◦望 月 衛 40. 4. 1～41. 3. 31 小谷野 格 文 ～40. 5. 31 渡 辺 茂 40. 6. 1～41. 3. 31 吉 武 好 孝	◦望 月 衛 41. 4. 1～ 沼 田 真 41. 4. 1～ 鶴 見 卓 三	◦望 月 衛 ～42. 5. 31 沼 田 真 ～43. 3. 31 鶴 見 卓 三 42. 6. 1～43. 3. 31 長 友 治郎吉	◦望 月 衛 ～43. 4. 30 43. 5. 1～ (人文学部長が学部 長兼務) 43. 4. 1～44. 2. 28 山 口 太三郎 43. 4. 1～ 石 田 周 三 44. 3. 1～ 阿 部 玄 治
人 文 学 部					43. 4. 1～ ◦鶴 見 卓 三 43. 5. 1～ 望 月 衛 43. 4. 1～ 真 寛 正 慶
教 育 学 部		◦芳 野 英 昌 香 村 寛 蔵 ～41. 3. 31 井 上 新 吉	◦芳 野 英 昌 香 村 寛 蔵 41. 4. 1～ 加 藤 三 郎	◦芳 野 英 昌 香 村 寛 蔵 加 藤 三 郎	◦芳 野 英 昌 ～44. 3. 31 香 村 寛 蔵 ～44. 3. 31 加 藤 三 郎
理 学					43. 4. 1～44. 2. 28 (学長が学部長事務 取扱) 44. 3. 1～ ◦山 口 太三郎 44. 3. 1～ 浅 井 晃

44	45	46	47
~44. 4. 1 川喜田 愛 郎 44. 4. 2~44. 6. 23 湊 頭 (事務取扱) 44. 6. 24~ 香 月 秀 雄 (事務取扱)	~45. 7. 31 香 月 秀 雄 (事務取扱) 45. 8. 1~ 相 磯 和 嘉	相 磯 和 嘉	相 磯 和 嘉
(人文学部長が学部長 兼務) ~44. 5. 31 阿 部 玄 治 ~44. 5. 31 石 田 周 三 44. 6. 1~ 村 上 正 康 44. 6. 1~ 小笠原 長 和	(人文学部長が学部長 兼務) 村 上 正 康 小笠原 長 和	(人文学部長が学部長 兼務) ~46. 5. 31 村 上 正 康 ~46. 5. 31 小笠原 長 和	(人文学部長が学部長 兼務)
◦ 鶴 見 卓 三 ~44. 4. 9 望 月 衛 ~44. 6. 3 真 覚 正 慶 44. 4. 10~ 白 田 貴 郎 44. 6. 4~ 大 山 正	◦ 鶴 見 卓 三 白 田 貴 郎 大 山 正	~47. 3. 31 ◦ 鶴 見 卓 三 ~47. 3. 31 白 田 貴 郎 大 山 正	47. 4. 1~ ◦ 白 田 貴 郎 47. 4. 1~ 前 田 新太郎 大 山 正
44. 4. 1~44. 5. 31 ◦ 香 村 寛 蔵 44. 6. 1~44. 6. 30 ◦ 飯 田 朝 (学部長事務取扱) 44. 7. 1~ ◦ 香 村 寛 蔵 44. 4. 1~44. 5. 31 市 原 権三郎 ~44. 5. 31 加 藤 三 郎 44. 6. 1~ 竹 内 長 士 44. 6. 1~ 深 山 幹 夫	◦ 香 村 寛 蔵 竹 内 長 士 深 山 幹 夫	◦ 香 村 寛 蔵 ~46. 5. 31 竹 内 長 士 深 山 幹 夫 46. 6. 1~ 飯 田 朝	~47. 6. 30 ◦ 香 村 寛 蔵 47. 7. 1~ ◦ 飯 田 朝 ~47. 6. 30 飯 田 朝 深 山 幹 夫 47. 7. 1~ 土 屋 生
~44. 6. 12 ◦ 山 口 太三郎 44. 6. 13~ ◦ 沼 田 真 ~44. 6. 3 浅 井 晃	◦ 沼 田 真 玉 木 英 彦 ~46. 2. 28 大八木 義 彦 46. 3. 1~ 石 田 周 三	◦ 沼 田 真 玉 木 英 彦 石 田 周 三	◦ 沼 田 真 ~48. 2. 28 玉 木 英 彦 ~48. 2. 28 石 田 周 三 48. 3. 1~ 浅 井 晃

教 職 員

部				44. 3. 1~ 鹿 股 信 雄
医 学 部	○ 滝 沢 延次郎 川喜田 愛 郎 鈴 木 次 郎	○ 滝 沢 延次郎 川喜田 愛 郎 鈴 木 次 郎 41. 4. 16~ 北 村 武	42. 4. 1~43. 1. 11 ○ 鈴 木 次 郎 43. 1. 11~43. 1. 24 (学長が学部長事務 取扱) 43. 1. 25~ ○ 小 林 龍 男 川喜田 愛 郎 北 村 武 43. 3. 2~ 宮 内 義之介	○ 小 林 龍 男 宮 内 義之介 北 村 武
医属 学院 部附	○ 三 輪 清 三	○ 三 輪 清 三 41. 4. 16~42. 3. 31 ○ 鈴 木 次 郎	42. 4. 1~ ○ 松 本 胖	○ 松 本 胖 ~44. 3. 31
薬 学 部	○ 萩 庭 丈 壽 坂 口 武 一 三 宅 良 一	○ 萩 庭 丈 壽 41. 5. 1~ ○ 三 宅 良 一 三 宅 良 一 坂 口 武 一 41. 5. 1~ 湊 頭	○ 三 宅 良 一 坂 口 武 一 湊 頭	○ 三 宅 良 一 43. 5. 1~ 湊 頭 坂 口 武 一 湊 頭 43. 5. 1~ 山 根 靖 弘
工 学 部	○ 辻 井 静 二 小 池 新 二 茂 木 今朝吉	○ 茂 木 今朝吉 小 池 新 二 辻 井 静 二	○ 茂 木 今朝吉 小 池 新 二 辻 井 静 二 42. 6. 1~ 浅 野 弥 祐	○ 茂 木 今朝吉 浅 野 弥 祐 辻 井 静 二

資料編

~44. 6. 3 鹿股 信雄 44. 6. 4~ 玉木 英彦 44. 6. 4~44. 8. 31 井上 勝也 44. 9. 1~ 大八木 義彦			48. 3. 1~ 野中 到
~44. 5. 29 ○小林 龍男 44. 5. 30~44. 11. 30 ○相磯 和嘉 (学部長事務取扱) 44. 12. 1~ ○相磯 和嘉 ~44. 5. 31 宮内 義之介 ~44. 5. 31 北村 武 44. 6. 1~44. 6. 23 香月 秀雄 44. 6. 1~ 横川 宗雄 44. 6. 24~ 笥 弘毅	~45. 7. 31 ○相磯 和嘉 45. 8. 1~ ○松本 胖 笥 弘毅 横川 宗雄	○松本 胖 ~46. 5. 31 笥 弘毅 横川 宗雄 46. 6. 1~ 北村 武	~48. 3. 31 ○松本 胖 北村 武 ~48. 3. 31 横川 宗雄
44. 4. 1~ ○百瀬 剛一	~46. 3. 31 ○百瀬 剛一	46. 4. 1~ ○香月 秀雄	○香月 秀雄
○湊 顕 ~44. 5. 31 坂口 武一 ~44. 5. 31 山根 靖弘 44. 6. 1~ 北川 晴雄 44. 6. 1~ 萩庭 丈壽	~46. 3. 31 ○湊 顕 北川 晴雄 萩庭 丈壽	46. 4. 1~ ○三宅 良一 北川 晴雄 ~46. 5. 31 萩庭 丈壽 46. 6. 1~ 山根 靖弘	○三宅 良一 北川 晴雄 山根 靖弘
~44. 6. 6 ○茂木 今朝吉 44. 6. 7~ ○分島 拓 ~44. 5. 31 浅野 弥祐 ~44. 5. 31 辻井 静二 44. 6. 1~ 入江 春雄 44. 6. 1~ 高田 周三	○分島 拓 入江 春雄 ~45. 4. 30 高田 周三 45. 5. 1~ 橋本 栄久	○分島 拓 ~46. 5. 31 入江 春雄 橋本 栄久 46. 6. 1~ 日置 隆一	~47. 6. 6 ○分島 拓 47. 6. 7~ ○浅野 弥祐 日置 隆一 橋本 栄久

教 職 員

園芸学部	40. 4. 1~ ◦林 四 郎 吉 江 修 司 40. 4. 1~ 河 村 貞之助 40. 6. 1~ 永 澤 勝 雄	◦林 四 郎 永 澤 勝 雄 河 村 貞之助	◦林 四 郎 ~43. 3.31 永 澤 勝 雄 河 村 貞之助	43. 4. 1~ ◦永 澤 勝 雄 43. 4. 1~ 林 四 郎 河 村 貞之助 ~44. 3.31
教養部				43. 4. 1~ ◦上 野 栄 雄 43. 4. 1~ 木 内 信 敬 43. 4. 1~ 竹 田 厚太郎
腐敗研究所	◦宮 木 高 明	~41. 5.21 ◦宮 木 高 明 41. 5.22~ ◦相 磯 和 嘉	◦相 磯 和 嘉	◦相 磯 和 嘉
附属図書館	◦荒 井 栄	~42. 3.31 ◦荒 井 栄	42. 4. 1~ ◦緒 方 惟 精	◦緒 方 惟 精
留学生部	◦田 中 大 二	~41. 7.31 ◦田 中 大 二 41. 8. 1~ ◦望 月 孝 逸	◦望 月 孝 逸	~43. 7.31 ◦望 月 孝 逸 43. 8. 1~ ◦三 橋 富治男
工大学部 短期	(工学部長が主事兼務)	(工学部長が主事兼務)	(工学部長が主事兼務)	(工学部長が主事兼務)
年度 部局等	48	49	50	51
学 長	相 磯 和 嘉	相 磯 和 嘉	相 磯 和 嘉	~51. 7.31 相 磯 和 嘉 51. 8. 1~ 香 月 秀 雄
人文学部	◦白 田 貴 郎 ~49. 3.31 前 田 新太郎 ~49. 3.31 大 山 正	◦白 田 貴 郎 49. 4. 1~50. 3.31 中 村 秀 吉 49. 4. 1~ 前 田 新太郎	~51. 3.31 ◦白 田 貴 郎 50. 4. 1~51. 3.31 大 山 正 ~51. 3.31 前 田 新太郎	51. 4. 1~ ◦小笠原 長 和 51. 4. 1~ 白 田 貴 郎 51. 4. 1~ 清水川 繁 雄

資料編

◦永澤勝雄 林四郎 44. 4. 1~ 藤井健雄	◦永澤勝雄 林四郎 藤井健雄	◦永澤勝雄 林四郎 藤井健雄 46. 6. 1~ 柴沼忠三	◦永澤勝雄 柴沼忠三 藤井健雄 ~48. 3. 31 ~48. 3. 31 ~48. 3. 31
◦上野栄雄 ~44. 6. 3 木内信敬 ~44. 6. 3 竹田厚太郎 44. 6. 4~45. 3. 31 近藤精造 44. 6. 4~45. 3. 31 小林信次	◦上野栄雄 ~46. 3. 31 45. 4. 1~ 阿部玄治 45. 4. 1~ 細井輝彦	46. 4. 1~ ◦竹田厚太郎 ~47. 3. 31 阿部玄治 ~47. 3. 31 細井輝彦	◦竹田厚太郎 47. 4. 1~ 吉松勉 47. 4. 1~ 大関信雄
~44. 5. 21 ◦相磯和嘉 44. 5. 22~44. 8. 4 ◦宮木高明 (所長事務取扱) 44. 8. 5~ ◦宮木高明	◦宮木高明	◦宮木高明	◦宮木高明
~44. 7. 31 ◦緒方惟精 44. 8. 1~ ◦荻原浅男	◦荻原浅男	◦荻原浅男	~47. 7. 31 ◦荻原浅男 47. 8. 1~ ◦市原権三郎
◦三橋富治男	~45. 7. 31 ◦三橋富治男 45. 8. 1~ ◦西田誠	~46. 9. 25 ◦西田誠 46. 9. 26~ (学長が部長事務取扱)	~47. 4. 30 (学長が部長事務取扱)
44. 4. 1~ ◦仲田光	◦仲田光	◦仲田光	◦仲田光 ~48. 3. 31
52	53	54	
香月秀雄	香月秀雄	香月秀雄	
◦小笠原長和 ~53. 3. 31 白田貴郎 ~53. 3. 31 清水川繁雄	◦小笠原長和 53. 4. 1~ 大山正 53. 4. 1~ 尾吹善人	◦小笠原長和 大山正 尾吹善人	

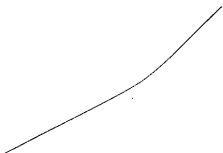
教 職 員

教育学部	。飯田朝夫 深山幹夫 土屋生	。飯田朝夫 深山幹夫 土屋生	。飯田朝夫 50. 7. 1~ 。深山幹夫 50. 5. 31 深山幹夫 土屋生 50. 6. 1~ 竹内長士	。深山幹夫 竹内長士
理学部	。沼田真晃 浅井中到	。沼田真晃 49. 6. 13~ 。熊谷寛夫 浅井晃 野中到 50. 2. 28 50. 3. 1~ 沼田真	。熊谷寛夫 浅井真晃	。熊谷寛夫 51. 4. 1 51. 4. 2~ 。沼田真晃 沼田真晃 51. 4. 1 51. 4. 2~52. 2. 28 渡辺康義 52. 3. 1~ 前田四郎
医学部	48. 4. 1~ 。横川宗雄 北村武 48. 4. 1~ 井出源四郎	。横川宗雄 北村武 井出源四郎	50. 4. 1~ 。香月秀雄 北村武 井出源四郎	。香月秀雄 51. 7. 31 51. 8. 1~ 。横川宗雄 北村武 井出源四郎
医附属 学部病	。香月秀雄	。香月秀雄 50. 3. 31	50. 4. 1~ 。久保政次	。久保政次 52. 3. 31
薬学部	。三宅良一 48. 5. 1~ 。北川晴雄 北川晴雄 山根靖弘 48. 4. 30 48. 5. 1~48. 5. 31 三宅良一 48. 6. 1~ 山岸三郎	。北川晴雄 山岸三郎 山根靖弘	。北川晴雄 50. 4. 30 50. 5. 1~ 。山根靖弘 山岸三郎 山根靖弘 50. 5. 31 50. 6. 1~ 北川晴雄	。山根靖弘 山岸三郎 北川晴雄
看護学			50. 4. 22~ 。松本 胖	。松本 胖

◦深山幹夫 ~52. 5. 31 竹内長士 ~52. 4. 1 土屋生 52. 6. 1~ 四ノ宮 晟 52. 4. 2~ 井上 弘	◦深山幹夫 四ノ宮 晟 井上 弘	◦深山幹夫 四ノ宮 晟 井上 弘	
◦沼田 真 浅井 晃 前田四郎	◦沼田 真 浅井 晃 前田四郎	◦沼田 真 浅井 晃 前田四郎	
◦横川宗雄 ~52. 4. 1 北村武 ~52. 5. 31 井出源四郎 52. 4. 2~ 堀越達郎 52. 6. 1~ 大谷克己	◦横川宗雄 ~53. 7. 31 53. 8. 1~ ◦井出源四郎 堀越達郎 大谷克己	◦井出源四郎 堀越達郎 大谷克己	
52. 4. 1~ ◦佐藤 博	◦佐藤 博	◦佐藤 博	
~52. 4. 30 ◦山根靖弘 52. 5. 1~ ◦山岸三郎 ~52. 4. 30 山岸三郎 ~52. 5. 31 北川晴雄 52. 5. 1~ 山根靖弘 52. 6. 1~ 日野 亨	◦山岸三郎 山根靖弘 日野 亨	◦山岸三郎 山根靖弘 日野 亨	
~52. 5. 31 ◦松本 胖 52. 6. 1~ ◦宮入正人 52. 4. 1~52. 5. 31 宮入正人	◦宮入正人 黒川 稔 石川 生	◦宮入正人 山口 覚太郎 石川 稔生	

教 職 員

部				
工 学 部	◦浅野 弥 祐 ~48. 5.31 日 置 隆 一 ~48. 5.31 橋 本 栄 久 48. 6. 1~ 須 賀 恭 一 48. 6. 1~ 藤 澤 義 男	◦浅野 弥 祐 須 賀 恭 一 男 藤 澤 義 男	~50. 6. 6 ◦浅野 弥 祐 50. 6. 7~ ◦須賀 恭 一 ~50. 5.31 須 賀 恭 一 ~50. 5.31 藤 澤 義 男 50. 6. 1~ 橋 本 栄 久 50. 6. 7~ 浅野 弥 祐	◦須賀 恭 一 浅野 弥 祐 橋 本 栄 久
園 芸 学 部	48. 4. 1~ ◦藤 井 健 雄 48. 4. 1~ 池ノ上 容 48. 4. 1~ 小 島 道 也	~50. 3.31 ◦藤 井 健 雄 ~50. 3.31 池ノ上 容 小 島 道 也	50. 4. 1~ ◦飯 田 格 50. 4. 1~ 野 村 健 一 小 島 道 也	◦飯 田 格 野 村 健 一 小 島 道 也
教 養 部	◦竹 田 厚太郎 ~49. 3.31 吉 松 勉 ~49. 3.31 大 関 信 雄	~50. 3.31 ◦竹 田 厚太郎 49. 4. 1~ 五味 洵 正 詞 49. 4. 1~ 高 田 安 之	50. 4. 1~ ◦近 藤 精 造 ~51. 3.31 五味 洵 正 詞 ~51. 3.31 高 田 安 之	~52. 3.31 ◦近 藤 精 造 51. 4. 1~ 小 林 信 次 51. 4. 1~ 吉 田 治
生 物 研 究 所	~49. 1. 9 ◦宮 木 高 明 49. 1.10~49. 3.31 (学長が所長事務取扱)	49. 4. 1~ ◦新 井 正	◦新 井 正	◦新 井 正
附 属 館 図 書 館	~49. 3.31 ◦市 原 権三郎	49. 4. 1~ ◦石 田 周 三	~51. 3.31 ◦石 田 周 三	51. 4. 1~ ◦三 浦 義 彰
工 業 短 期 大 学 部	48. 4. 1~ 志 茂 主 税	志 茂 主 税	~51. 3.31 志 茂 主 税	51. 4. 1~51. 5.16 (工学部長が主事事務取扱) 51. 5.17~ (工学部長が主事兼務)

52. 4. 1～ 石川 稔 生			
52. 6. 1～ 石黒 義彦			
◦須賀 恭一 ～52. 4. 1 浅野 弥祐 橋本 栄久 52. 4. 2～ 小原 二郎	◦須賀 恭一 小原 二郎 橋本 栄久	◦須賀 恭一 小原 二郎 橋本 栄久	
◦飯田 格 野村 健一 ～52. 5. 31 小島 道也 52. 6. 1～ 岩佐 亮二	◦飯田 格 ～54. 3. 31 野村 健一 ～54. 3. 31 岩佐 亮二	54. 4. 1～ ◦小島 道也 岩佐 亮二 54. 4. 1～ 大泉 久一	
52. 4. 1～ ◦阿部 玄治 ～53. 3. 31 小林 信次 吉田 治 ～53. 3. 31	◦阿部 玄治 53. 4. 1～54. 3. 19 近藤 精造 53. 4. 1～ 村上 正康 54. 3. 20～ 木内 信敬	◦阿部 玄治 木内 信敬 村上 正康	
◦新井 正 ～53. 3. 31	53. 4. 1～ ◦久我 哲郎	◦久我 哲郎	
◦三浦 義彰 ～53. 3. 31	53. 4. 1～ ◦竹田 厚太郎	◦竹田 厚太郎	
(工学部長が主事兼務)	(工学部長が主事兼務)		

教 職 員

(3) 千葉大学職員定員の推移

年度	区分	学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	教 諭	その他 の職員	計
昭和									
24		1	167	121	64	140	72	1,063	(1,474) 1,628
25		1	156	135	74	143	68	1,072	(1,310) 1,649
26		1	118	152	74	154	50	1,024	(872) 1,573
27		1	117	149	70	147	54	972	1,510
28		1	120	151	70	148	57	974	1,521
29		1	124	153	68	150	57	952	1,505
30		1	124	153	66	150	57	936	1,487
31		1	126	155	65	152	56	917	1,472
32		1	128	158	64	151	56	914	1,472
33		1	127	158	65	154	56	940	1,501
34		1	130	160	63	159	56	955	1,524
35		1	138	164	64	177	56	963	1,563
36		1	145	170	64	182	56	1,088	1,706
37		1	154	176	63	194	56	1,217	1,861
38		1	163	179	61	200	56	1,233	1,893
39		1	171	190	62	207	56	1,253	1,940
40		1	184	201	61	213	57	1,255	1,972
41		1	199	210	60	220	59	1,275	2,024
42		1	216	228	62	237	61	1,302	2,107
43		1	228	235	58	238	64	1,305	2,129
44		1	244	247	59	246	67	1,323	2,187
45		1	255	248	62	256	69	1,341	2,232
46		1	270	253	63	259	70	1,340	2,256
47		1	275	256	65	272	71	1,349	2,289
48		1	284	258	66	271	75	1,340	2,295
49		1	294	263	68	273	78	1,332	2,309
50		1	306	272	69	281	80	1,348	2,357
51		1	319	286	70	288	83	1,347	2,394
52		1	334	299	70	297	84	1,359	2,444
53		1	344	310	72	314	85	1,362	2,488
54		1	352	322	73	324	87	1,365	2,524

注：()書は、旧制学校の定員を内数で示す。

(4) 千葉大学における定員削減等の推移

行政整理による減員数

年 度	教 育 職 員	その他の職員	計	備 考
昭和				
29	△ 3	△ 20	△ 23	
30	△ 2	△ 16	△ 18	
31	△ 3	△ 15	△ 18	

定員削減による減員数

年 度	教 育 職 員	その他の職員	計	備 考
昭和				
44	△ 10	△ 16	△ 26	第 1 次定員削減
45	△ 3	△ 16	△ 19	
46	△ 2	△ 15	△ 17	
47		△ 24	△ 24	第 2 次定員削減
48	△ 4	△ 25	△ 29	
49	△ 5	△ 24	△ 29	
50		△ 20	△ 20	第 3 次定員削減
51		△ 19	△ 19	
52		△ 9	△ 9	
53		△ 13	△ 13	第 4 次定員削減
54		△ 12	△ 12	

教 職 員

(5) 昭和54年4月1日現在部局別・職種別現員一覽表

職種区分 部局名	教 育 職 員							事 務 系 職 員							合 計
	学 長	教 授	助 教 授	講 師	助 手	教 諭	小 計	事務 職員	技術 職員	技能 職員	労務 職員	医療 職員	教務 職員	小 計	
学 長	1						1								1
事 務 局 長								1						1	1
庶 務 部								36						36	36
経 理 部								48		6	11			65	65
施 設 部								8	19	4				31	31
学 生 部								33		5	1			39	39
保健管理セン ター		1		1	3		5					2		2	7
分析センター					1		1		1					1	2
附 属 図 書 館								37						37	37
人 文 学 部		24	20	6	2		52	17		2				19	71
教 育 学 部		59	51	13	5	87	215	42	1	11	9	3	3	69	284
理 学 部		16	21	4	19		60	21	1	1	2		2	27	87
医 学 部		38	29	29	74		170	34	23	18	16	8	4	103	273
薬 学 部		13	8	5	14		40	14		5			6	25	65
看 護 学 部		11	10	2	20		43	19	2	2	3		1	27	70
工 学 部		57	38	33	59		187	66	30	4	8		10	118	305
園 芸 学 部		26	20	5	24		75	25	9	12	2		1	49	124
教 養 部		42	43	13	3		101	27		2	3			32	133
医学部附属病 院		2	4	35	89		130	108	12	129	48	363		660	790
生物活性研究 所		7	7		15		29	8	7	4		2	4	25	54
合 計	1	296	251	146	328	87	1,109	544	105	205	103	378	31	1,366	2,475

4 講座・学科目等

講座・学科目等の変遷

昭和54年4月1日現在(廃止されたものは()で示した)

講座・学科目等	変遷概要	講座・学科目等	変遷概要
(学芸学部)		指導)	
(一般教養)		(人文科学教育)	昭24設置、昭25廃止
(哲学)	昭24設置、昭25廃止	(社会科学教育)	昭24設置、昭25廃止
(心理学)	昭24設置、昭25廃止	(自然科学教育)	昭24設置、昭25廃止
(歴史学)	昭24設置、昭25廃止	(音楽)	昭24設置、昭25廃止
(文学)	昭24設置、昭25廃止	(美術)	昭24設置、昭25廃止
(人文地理学)	昭24設置、昭25廃止	(家政学)	昭24設置、昭25廃止
(芸術学)	昭24設置、昭25廃止	(職業)	昭24設置、昭25廃止
(外国語(英仏独))	昭24設置、昭25廃止	(体育)	昭24設置、昭25廃止
(法学)	昭24設置、昭25廃止	(文理学部)	
(経済学)	昭24設置、昭25廃止	(哲学)	昭25「哲学第一」設置、昭39「哲学」と改称、昭43廃止
(社会学)	昭24設置、昭25廃止	(倫理学)	昭25「哲学第二」設置、昭39「倫理学」と改称、昭43廃止
(数学)	昭24設置、昭25廃止	(社会心理学)	昭25「心理学」設置、昭28「心理学第一」と改称、昭39「社会心理学」と改称、昭43廃止
(物理学)	昭24設置、昭25廃止	(実験心理学)	昭28「心理学第二」設置、昭39「実験心理学」と改称、昭43廃止
(化学)	昭24設置、昭25廃止	(国史学)	昭25「史学第一」設置、昭39「国史学」と改称、昭43廃止
(地学)	昭24設置、昭25廃止	(外国史学)	昭25「史学第二」設置、昭39「外国史学」と改称、昭43廃止
(生物学)	昭24設置、昭25廃止	(国語学)	昭25「国文学第二」設置、昭39「国語学」と改称、昭43廃止
(体育)	昭24設置、昭25廃止	(国文学)	昭25「国文学第一」設置、昭39「国文学」と改称、昭43廃止
(学芸部)		(中国文学)	昭25設置、昭43廃止
(哲学)	昭24設置、昭25廃止	(英語学)	昭25「英文学第二」設置、昭39「英語学」と改称、昭43廃止
(国語国文学)	昭24設置、昭25廃止	(英文学)	昭25「英文学第一」設置、昭39「英文学」と改称、昭43廃止
(史学)	昭24設置、昭25廃止	(独語学)	昭25「独文学第一」設置、昭39「独語学」と改称、昭43廃止
(人文地理学)	昭24設置、昭25廃止	(独文学)	昭25「独文学第二」設置、昭39「独文学」と改称、昭43廃止
(英語英文学)	昭24設置、昭25廃止	(仏文学)	昭25「仏文学」設置、昭32
(法律学・政治学)	昭24設置、昭25廃止		
(社会学・経済学)	昭24設置、昭25廃止		
(数学)	昭24設置、昭25廃止		
(物理学)	昭24設置、昭25廃止		
(化学)	昭24設置、昭25廃止		
(地学)	昭24設置、昭25廃止		
(生物学)	昭24設置、昭25廃止		
(教育部)			
(教育心理学)	昭24設置、昭25廃止		
(教育学)	昭24設置、昭25廃止		
(教育方法及び)	昭24設置、昭25廃止		

	「仏語」と改称、昭39「仏文学」と改称、昭43廃止		生物学及び植物分類学・形態学」、「動物生理化学」、「植物生理生態学」に組替、昭43廃止
(公 法 学)	昭25「法学」設置、昭39「公法学」、「私法学」に分離、昭43廃止	(鉱物学・岩石学)	昭25「地学第一」、「地学第二」設置、昭39「鉱物学・岩石学」、「地質学・地史学」、「地理学」に組替、昭43廃止
(私 法 学)	昭39「法学」を「公法学」、「私法学」に分離、昭43廃止	(地質学・地史学)	昭25「地学第一」、「地学第二」設置、昭39「鉱物学・岩石学」、「地質学・地史学」、「地理学」に組替、昭43廃止
(政 治 学)	昭25設置、昭43廃止	(地 理 学)	昭25「地学第一」、「地学第二」設置、昭39「鉱物学・岩石学」、「地質学・地史学」、「地理学」に組替、昭43廃止
(経 済 学)	昭25設置、昭43廃止	(一 般 教 育 等)	
(社 会 学)	昭25設置、昭43廃止	(哲 学)	昭39設置、昭43廃止
(代数学・幾何学)	昭25「数学第一」、「数学第二」設置、昭39「代数学・幾何学」、「解析学」、「応用解析学」に組替、昭43廃止	(倫 理 学)	昭39設置、昭43廃止
(解 析 学)	昭25「数学第一」、「数学第二」設置、昭39「代数学・幾何学」、「解析学」、「応用解析学」に組替、昭43廃止	(芸 術)	昭39設置、昭43廃止
(応用解析学)	昭25「数学第一」、「数学第二」設置、昭39「代数学・幾何学」、「解析学」、「応用解析学」に組替、昭43廃止	(心 理 学)	昭39設置、昭43廃止
(統 計 学)	昭25設置、昭43廃止	(歴 史 学)	昭39設置、昭43廃止
(力学・量子力学)	昭25「物理学第一」設置、昭39「力学・量子力学」と改称、昭43廃止	(文 学)	昭39設置、昭43廃止
(電気磁気学)	昭25「物理学第二」設置、昭39「電気磁気学」と改称、昭43廃止	(法 学)	昭39設置、昭43廃止
(光学及び熱力学)	昭25「物理学第三」設置、昭39「光学及び熱力学」と改称、昭43廃止	(政 治 学)	昭39設置、昭43廃止
(物 理 化 学)	昭25「化学第一」設置、昭39「物理化学」と改称、昭43廃止	(経 済 学)	昭39設置、昭43廃止
(無機及び分析化学)	昭25「化学第二」設置、昭39「無機及び分析化学」と改称、昭43廃止	(社 会 学)	昭39設置、昭43廃止
(有 機 化 学)	昭25「化学第三」設置、昭39「有機化学」と改称、昭43廃止	(統 計 学)	昭39設置、昭43廃止
(動物形態学・発生学及び植物分類学・形態学)	昭25「生物学第一」、「生物学第二」、「生物学第三」設置、昭39「動物形態学・発生学及び植物分類学・形態学」、「動物生理化学」、「植物生理生態学」に組替、昭43廃止	(人 文 地 理 学)	昭39設置、昭43廃止
(動物生理化学)	昭25「生物学第一」、「生物学第二」、「生物学第三」設置、昭39「動物形態学・発生学及び植物分類学・形態学」、「動物生理化学」、「植物生理生態学」に組替、昭43廃止	(教 学)	昭39設置、昭43廃止
(植物生理生態学)	昭25「生物学第一」、「生物学第二」、「生物学第三」設置、昭39「動物形態学・発生学及び植物分類学・形態学」、「動物生理化学」、「植物生理生態学」に組替、昭43廃止	(物 理 学)	昭39設置、昭43廃止
		(化 学)	昭39設置、昭43廃止
		(生 物 学)	昭39設置、昭43廃止
		(地 学)	昭39設置、昭43廃止
		(英 語)	昭39設置、昭43廃止
		(独 語)	昭39設置、昭43廃止
		(仏 語)	昭39設置、昭43廃止
		(保 健 体 育)	昭25「体育」設置、昭38「保健体育」と改称、昭43廃止
		人 文 学 部	
		哲 学	昭43設置
		東 洋 哲 学	昭45「中国哲学」設置、昭46「東洋哲学」と改称
		倫 理 学	昭43設置
		実 験 心 理 学	昭43設置
		社 会 心 理 学	昭43設置
		応 用 心 理 学	昭54設置
		日 本 史 学	昭43設置
		東 洋 史 学	昭43「西洋史学・東洋史学」

資料編

西洋史学	設置、昭47「東洋史学」、 「西洋史学」に分離	経営学	昭44「経営学総論・会計学」 設置、昭50「経営学」と改称
国語学	昭43設置	経営管理	昭45「経済政策・財政学」設 置、昭48「経営管理・貨幣 金融論」設置、昭52「経済政 策」、「財政学・金融論」、 「経営管理」に組替
国文学	昭43設置	社会学・社会 調査	昭43「社会学原論・社会調 査」設置、昭51「社会学・社 会調査」と改称
英語学	昭43設置	教育学部	
英米文学	昭43設置	国語学	昭25「人文科学教育」設置、 昭34「国語学・国文学及び 国語科教育」、「英語学・英 文学及び英語科教育」に分 離、昭38「国語学・国文学 及び国語科教育」を「国語 学」、「国文学」、「国語科教 育」に分離
独語学	昭43設置	国文学	昭38「国語学・国文学及び 国語科教育」を「国語学」、 「国文学」、「国語科教育」に 分離
独文学	昭43設置	漢文学	昭42設置
仏語学	昭43「仏語・仏文学」設置、 昭52「仏語学」、「仏文学」に 分離	書道	昭25「美術第一」設置、昭34 「美術及び美術科教育第一」 と改称、昭38「書道」、「美 術理論・美術史」、「美術科 教育」に分離
仏文学	昭52「仏語・仏文学」を「仏 語学」、「仏文学」に分離	国語科教育	昭38「国語学・国文学及び 国語科教育」を「国語学」、 「国文学」、「国語科教育」に 分離
憲法・行政法	昭43設置	歴史学	昭25「社会科教育第二」設 置、昭34「歴史学及び社会科 教育」、「法学・政治学及び社 会科教育」、「人文地理学及 び社会科教育」に分離、昭 38「歴史学及び社会科教育」 を「歴史学」、「社会科教育」 に分離
民法	昭43設置	地理学	昭38「人文地理学及び社会 科教育」を「地理学」、「社会 科教育」に分離
商法	昭45「商法・民事訴訟法」設 置、昭51「商法」、「民事訴 訟法・国際法」に分離	法律学	昭44設置
民事訴訟法・ 国際法	昭51「商法・民事訴訟法」 を「商法」、「民事訴訟法・国 際法」に分離	社会学	昭42設置
刑事法	昭44「労働法・経営管理」設 置、昭48「刑法・労働法」と 改称、昭52「刑事法・行政 学」、「労働法・基礎法学」 に分離、昭53「刑事法・行政 学」を「刑事法」、「行政学」 に分離	経済学	昭37「法学・政治学及び社 会科教育」を「法学・政治 学・経済学及び社会科教育」 と改称、昭38「経済学」 と改称
労働法・基礎 法学	昭48「刑法・労働法」を「刑 事法・行政学」、「労働法・ 基礎法学」に分離	哲学	昭25「社会科教育第一」設 置、昭34「哲学・倫理学・ 社会学及び社会科教育」と 改称、昭38「哲学」、「社会 科教育」に分離
政治学原論・ 政治史	昭43設置	社会科教育	昭38「歴史学及び社会科教 育」を「歴史学」、「社会科教 育」に分離、「人文地理学及
行政学	昭53「刑事法・行政学」を 「刑事法」、「行政学」に分離		
理論経済学	昭43「経済学原論・経済史」 設置、昭51「理論経済学」、 「経済史」に分離		
経済史	昭51「経済学原論・経済史」 を「理論経済学」、「経済史」 に分離		
経済政策	昭45「経済政策・財政学」設 置、昭48「経済管理・貨幣 金融論」設置、昭52「経済政 策」、「財政学・金融論」に 組替		
財政学	昭54「財政学・金融論」を 「財政学」、「金融論」に分離		
金融論	昭54「財政学・金融論」を 「財政学」、「金融論」に分離		
統計学・計量 経済学	昭53設置		

	び社会科教育」を「地理学」、 「社会科教育」に分離、「哲 学・倫理学・社会学及び社 会科教育」を「哲学」、「社会 科教育」に分離				「美術及び美術科教育第一」 と改称、昭38「書道」、「彫 塑」、「構成」に分離
代数学及び幾 何学	昭25「数学教育」設置、昭34 「数学及び数学科教育」と改 称、昭38「代数学及び幾何 学」、「解析学及び応用数 学」、「数学科教育」に分離	構 成		昭38「美術及び美術科教育 第一」を「書道」、「彫塑」、 「構成」に分離	
解析学及び応 用数学	昭38「数学及び数学科教育」 を「代数学及び幾何学」、 「解析学及び応用数学」、 「数学科教育」に分離	美術理論・美 術史		昭38「美術及び美術科教育 第二」を「絵画」、「美術理 論・美術史」、「美術科教 育」に分離	
数 学 科 教 育	昭38「数学及び数学科教育」 を「代数学及び幾何学」、 「解析学及び応用数学」、 「数学科教育」に分離	美 術 科 教 育		昭38「美術及び美術科教育 第二」を「絵画」、「美術理 論・美術史」、「美術科教 育」に分離	
物 理 学	昭25「理科教育第一」設置、 昭34「物理学及び理科教 育」、「化学及び理科教育」 に分離、昭38「物理学及び 理科教育」を「物理学」、「理 科教育」に分離	体 育 実 技		昭25「体育」設置、昭34「保 健体育及び保健体育科教 育」と改称、昭38「体育実 技」、「学校保健」、「体育理 論・体育史」、「保健体育科 教育」に分離	
化 学	昭38「化学及び理科教育」を 「化学」、「理科教育」に分離	学 校 保 健		昭38「保健体育及び保健体 育科教育」を「体育実技」、 「学校保健」、「体育理論・ 体育史」、「保健体育科教 育」に分離	
生 物 学	昭25「理科教育第二」設置、 昭34「生物学及び理科教育 第一」、「生物学及び理科教 育第二」に分離、昭38「生 物学及び理科教育第一」及び 「生物学及び理科教育第二」 を「生物学」、「理科教育」に 分離	体育理論・体 育史		昭38「保健体育及び保健体 育科教育」を「体育実技」、 「学校保健」、「体育理論・ 体育史」、「保健体育科教 育」に分離	
地 学	昭42設置	保健体育科教 育		昭38「保健体育及び保健体 育科教育」を「体育実技」、 「学校保健」、「体育理論・ 体育史」、「保健体育科教 育」に分離	
理 科 教 育	昭38「物理学及び理科教育」 を「物理学」、「理科教育」に 分離、「化学及び理科教育」 を「化学」、「理科教育」に分 離、「生物学及び理科教育 第一」及び「生物学及び理科 教育第二」を「生物学」、「理 科教育」に分離	看 護 基 礎 学		昭47設置	
		内科系看護学		昭45設置	
		外科系看護学		昭46設置	
		母子看護学		昭47設置	
声 楽	昭25「音楽」設置、昭34「音 楽及び音楽科教育」と改称、 昭38「声楽」、「器楽」、「音 楽科教育」に分離	電 気		昭25「職業第二」設置、昭34 「職業及び職業科教育第二」 と改称、昭38「技術職業及 び技術職業科教育第二」と 改称、同年「電気」、「農 業」、「職業科教育」に分離	
器 楽	昭38「音楽及び音楽科教育」 を「声楽」、「器楽」、「音楽 科教育」に分離	機 械		昭25「職業第一」設置、昭34 「職業及び職業科教育第一」 と改称、昭38「技術職業及 び技術職業科教育第一」と 改称、同年「機械」、「農業」 に分離	
作 曲	昭47設置				
音 楽 科 教 育	昭38「音楽及び音楽科教育」 を「声楽」、「器楽」、「音楽 科教育」に分離	食 物 学		昭43設置	
絵 画	昭25「美術第二」設置、昭34 「美術及び美術科教育第二」 と改称、昭38「絵画」、「美 術理論・美術史」、「美術科 教育」に分離	被 服 学		昭25「家政」設置、昭34「家 政学及び家庭科教育」と改 称、昭38「被服学」、「家庭 科教育」に分離	
彫 塑	昭25「美術第一」設置、昭34	家 庭 管 理		昭52設置	
		家庭科教育		昭38「家政学及び家庭科教	

農 業	育」を「被服学」、「家庭科教育」に分離	社会教育	昭25「教育学第二」設置、昭38「社会教育」と改称
職業科教育	昭38「技術職業及び技術職業科教育第一」を「機械」、「農業」に分離、「技術職業及び技術職業科教育第二」を「電気」、「農業」、「職業科教育」に分離	社会工学センター (一般教養)	昭53設置
英語学	昭41設置	(人文第一)	昭25設置、昭38廃止
英米文学	昭38「英語学・英米文学及び英語科教育」を「英米文学」、「英語科教育」に分離	(人文第二)	昭25設置、昭38廃止
英語科教育	昭38「英語学、英米文学及び英語科教育」を「英米文学」、「英語科教育」に分離	(社会科学)	昭25設置、昭38廃止
異常児教育	昭40設置	(自然第一)	昭25設置、昭38廃止
異常児心理	昭40設置	(自然第二)	昭25設置、昭38廃止
幼児教育	昭43設置	(体育)	昭25設置、昭38廃止
幼児心理	昭50設置	理 学 部	
保育内容の研究	昭43設置	代数学・幾何学	和43設置
基礎医科学	昭52設置	解析学	昭43設置
臨床医科学・看護学	昭53設置	応用数学	昭43設置
教育保健	昭53設置	統計数学	昭43設置
教育学	昭25「教育学第一」設置、昭36「幼児教育」設置、昭38「教育学第一」を「教育学」、「教育制度」に分離、「幼児教育」を「教育学」と改称	理論物理学	昭43設置
教育史	昭25「教育実習」設置、昭34「教育学第三」と改称、昭38「教育史」、「教育制度」に分離	原子物理学	昭43設置
教育制度	昭38「教育学第一」を「教育学」、「教育制度」に分離、「教育学第三」を「教育史」、「教育制度」に分離	物性物理学	昭43設置
教育社会学	昭47設置	実験物理学	昭44設置
教育心理学	昭25「教育心理学第一」設置、昭38「教育心理学」と改称	物理化学	昭43設置
発達心理学	昭25「教育心理学第二」設置、昭38「発達心理学」と改称	無機化学・分析化学	昭43設置
職業指導	昭38「技術職業及び技術職業科教育第三」を「職業科教育」、「職業指導」に分離	有機化学	昭43設置
		生 化 学	昭46「天然物化学」設置、昭52「生化学」と改称
		形 態 学	昭43設置
		生 理 学	昭43設置
		生 態 学	昭43設置
		系 統 学	昭46設置
		地 質 学	昭47「古生物学」設置、昭49「地質学」と改称
		鉱 物 学	昭43「地質学」設置、昭49「鉱物学」と改称
		応 用 地 学	昭43「第四紀学」設置、昭49「応用地学」と改称
		地 球 物 理 学	昭50設置
		医 学 部	
		解剖学第一	昭24設置
		解剖学第二	昭24設置
		解剖学第三	昭24設置
		生理学第一	昭24「生理学」設置、昭27「生理学第一」と改称
		生理学第二	昭27設置
		生化学第一	昭24「医化学」設置、昭39「生化学」と改称、昭42「生化学第一」と改称
		生化学第二	昭42設置

講座・学科目等

微生物学	昭24「細菌学」設置、昭45「微生物学」と改称	脳機能研究施設 神経内科研究部	昭52設置
薬理学	昭24設置	動物実験施設	昭53設置
病理学第一	昭24設置	医学部 附属病院	
病理学第二	昭24設置	第一内科	昭24設置
衛生学	昭24設置	第二内科	昭24設置
公衆衛生学	昭28設置	第三内科	昭49設置
寄生虫学	昭31「医動物学」設置、昭39「寄生虫学」と改称	放射線科	昭29設置
法医学	昭24設置	第一外科	昭24設置
内科学第一	昭24設置	第二外科	昭24設置
内科学第二	昭24設置	整形外科	昭29設置
内科学第三	昭49設置	産科婦人科	昭24「産婦人科」設置、昭42「産科婦人科」と改称
放射線医学	昭29設置	眼科	昭24設置
外科学第一	昭24設置	皮膚科	昭24「皮膚泌尿器科」設置、昭35「皮膚科」と改称
外科学第二	昭24設置	泌尿器科	昭35設置
整形外科	昭29設置	耳鼻咽喉科	昭24設置
産科婦人科学	昭24設置	小児科	昭24設置
眼科学	昭24設置	神経科精神科	昭24「神経科」設置、昭42「神経科精神科」と改称
皮膚科学	昭24「皮膚泌尿器科学」設置、昭35「皮膚科学」と改称	歯科口腔外科	昭24「歯口科」設置、昭34「歯科口腔外科」と改称
泌尿器科学	昭35設置	麻酔科	昭39設置
耳鼻咽喉科学	昭24設置	脳神経外科	昭45設置
小児科学	昭24設置	小児外科	昭51設置
神経精神医学	昭24「精神病学」設置、昭30「神経精神医学」と改称	肺外科	昭40「肺研科」設置、昭42「肺外科」と改称
歯科口腔外科学	昭37設置	呼吸器科	昭47設置
麻酔学	昭39設置	神経内科	昭53設置
脳神経外科学	昭45設置	検査部	昭41設置
肺癌研究施設 第一臨床研究部	昭34「肺癌研究施設臨床研究部」設置、昭43「第一臨床研究部」、「第二臨床研究部」に分離	手術部	昭47設置
肺癌研究施設 第二臨床研究部	昭43肺癌研究施設「臨床研究部」を「第一臨床研究部」、「第二臨床研究部」に分離	放射線部	昭48設置
肺癌研究施設 病理研究部	昭40設置	材料部	昭50設置
環境疫学研究施設 農村医学研究部	昭39「農山村医学研究施設 農山村予防医学研究部」設置、昭49同研究施設を環境疫学研究施設と改称、同研究部を「農村医学研究部」、「免疫研究部」に分離	理学療法部	昭51設置
環境疫学研究施設 免疫研究部	昭49農山村医学研究施設を環境疫学研究施設と改称、「農山村医学研究部」、「免疫研究部」に分離	人工腎臓部	昭53設置
脳機能研究施設 神経薬理研究部	昭41「脳機能研究施設向神経薬理研究部」設置、昭54同施設「神経薬理研究部」と改称	医療情報部	昭50設置
		薬剤部	昭24「薬局」設置、昭37「薬剤部」と改称（昭54薬剤部長が技官から教官となる）
		薬学 部	
		衛生薬学	昭24「薬品分析学」、「公衆衛生学」設置、昭25「公衆衛生学」を「衛生化学・公衆衛生学」と改称、昭27「衛生化学・公衆衛生学」を「衛生化学及び公衆衛生学」と改称、昭39「薬品分析学」を「薬品

医薬品素材学	分析化学」と改称、「衛生化学及び公衆衛生学」を「衛生化学」と改称、昭54「薬品分析化学」と「衛生化学」が合体し「衛生薬学」を設置	(服飾意匠)	昭24設置、昭26廃止
	昭24「薬化学」、「生薬学」設置、昭42「薬品合成化学」設置、昭43「薬品製造学」設置、昭54「薬化学」、「生薬学」、「薬品合成化学」、「薬品製造学」が合体し、「医薬品素材学」を設置	(建築計画)	昭24設置、昭26廃止
薬効・安全性学	昭24「厚生化学」、「製薬学」、「生物薬品化学」、「基礎医学」設置、昭25「厚生化学」を「生化学」と改称、「製薬学」を「薬物学」と改称、「生物薬品化学」を「薬品化学」と改称、「基礎医学」を「生理解剖」と改称、昭26「生理解剖」を「解剖学生理学」と改称、昭31「解剖学生理学」を「微生物学」と改称、昭39「微生物学」を「微生物薬品化学」と改称、昭42「薬品物理化学」設置、昭54「生化学」、「薬物学」、「薬品化学」、「微生物薬品化学」、「薬品物理化学」が合体し「薬効・安全性学」を設置	(建築構造)	昭24設置、昭26廃止
	昭24「調剤及び薬剤学」設置、昭25「薬剤学」と改称、昭44「製剤工学」設置、昭54「薬剤学」と「製剤工学」が合体し「医療薬剤学」を設置	(室内計画)	昭24設置、昭26廃止
医療薬剤学	昭51設置	(木材工芸)	昭24設置、昭26廃止
	昭51設置	(精巧機器)	昭24設置、昭26廃止
薬用植物園	昭51設置	(金属材料)	昭24設置、昭26廃止
	昭51設置	(機器工作)	昭24設置、昭26廃止
看護学部	昭51設置	(塑性加工)	昭24設置、昭26廃止
	昭51設置	(電力工学第一)	昭24設置、昭26廃止
機能・代謝学	昭51設置	(電力工学第二)	昭24設置、昭26廃止
	昭51設置	(工業化学第一)	昭24設置、昭26廃止
病態学	昭51設置	(工業化学第二)	昭24設置、昭26廃止
	昭51設置	(平版印刷)	昭24設置、昭26廃止
基礎保健学	昭51設置	(凸版印刷)	昭24設置、昭26廃止
	昭51設置	(写真)	昭24設置、昭26廃止
基礎看護学	昭51設置	(映画)	昭24設置、昭26廃止
	昭51設置	(応用物理)	昭24設置、昭26廃止
社会保健学	昭51設置	工 学 部	
	昭51設置	意匠論・意匠史	昭26「造形学」設置、昭31「造形学及造形史」と改称、昭35「造形理論」と改称、昭36「造形学及造形史」と改称、昭38「意匠原論及び意匠史」と改称、昭46「意匠論・意匠史」と改称
成人看護学第一	昭51設置	造 形	昭26「造形技術」設置、昭31「絵画及彫塑」と改称、昭35「造形技術」と改称、昭38「基礎造形」と改称、昭46「造形」と改称
	昭52設置	視 覚 情 報	昭26「商業図案」設置、昭32「商業意匠」と改称、昭38「視覚意匠」と改称、昭46「視覚情報」と改称
成人看護学第二	昭52設置	工 業 意 匠	昭26「工業図案」設置、昭32「工業意匠」と改称、昭38「製品意匠」と改称、昭46「工業意匠」と改称
	昭52設置	(色彩計画)	昭39設置、昭46廃止
精神看護学	昭52設置	材 料 計 画	昭46「意匠材料・人間工学」設置、昭54「材料計画」、「人間工学」に分離
	昭52設置	人 間 工 学	昭54「意匠材料・人間工学」を「材料計画」、「人間工学」に分離
小児看護学	昭53設置	空間造形計画	昭53特設工学課程から振替
	昭54設置	設備・機器計画	昭53特設工学課程から振替
看護教育学	昭54設置	視 環 境 計 画	昭53特設工学課程から振替
	(工 芸 学 部)	建 築 史 ・ 居 住 学	昭26「建築計画」設置、昭31「建築計画第二」と改称、昭38「建築史・居住学」と改称、昭39「建築史及居住学」
(造 形 学)	昭24設置、昭26廃止		
(絵 画)	昭24設置、昭26廃止		
(図 案)	昭24設置、昭26廃止		
(商 業 美 術)	昭24設置、昭26廃止		
(工 芸 設 計)	昭24設置、昭26廃止		

	と改称、昭41「建築史・居住学」と改称	電気機器工学	昭26「電力工学・照明工学」設置、昭37「電気機器工学」、「電力工学・照明工学」に分離
建築計画	昭26「室内計画」設置、昭31「建築計画第一」と改称、昭38「建築計画」と改称	電力工学・照明工学	昭37「電力工学・照明工学」を「電気機器工学」、「電力工学・照明工学」に分離
室内計画・木材工芸	昭26「木工構造及工作」設置、昭31「木材工芸」と改称、昭38「室内計画・木材工芸」と改称	基礎電気工学	昭53特設工学課程から振替
材料・施行	昭26「建築構造及材料」設置、昭31「建築構造第二」と改称、昭46「材料・施行」と改称	電力系統工学	昭53特設工学課程から振替
住居計画	昭53特設工学課程から振替	計測工学	昭37「電気基礎学」を「基礎電子工学」、「基礎電気工学」に分離、昭38「基礎電子工学」を「計測工学」と改称
材料・生産	昭53特設工学課程から振替	基礎電子工学	昭26「電子装置・高周波工学」設置、昭37「応用電子工学」、「電気通信工学」に分離、昭38「応用電子工学」を「電子工学」と改称、昭45「基礎電子工学」と改称
計画工学	昭53特設工学課程から振替		
建築構造学	昭26「構造力学及構造設計」設置、昭31「建築構造第一」と改称、昭38「建築構造学」と改称	電子制御工学	昭46設置
		応用電子工学	昭45設置
建築構造設計	昭40設置	応用情報工学	昭53特設工学課程から振替
防災工学	昭51設置	電気通信工学	昭53特設工学課程から振替
建築生産	昭53特設工学課程から振替	無機工業化学	昭26設置
金属材料	昭26設置	有機工業化学	昭26「有機工業化学」設置、昭38「有機工業化学」と改称
機械要素	昭26「計測及精密機械」設置、昭38「機械要素」と改称	高分子化学	昭26「有機工業化学2」設置、昭38「高分子化学」と改称
熱力学及び熱機関	昭26「原動機」設置、昭31「水力機械及び熱機関」と改称、昭38「水力学及び熱力学」と改称、昭54「熱力学及び熱機関」と改称	化学工学	昭31設置
		有機材料化学	昭53特設工学課程から振替
機械工作	昭26「切削加工」設置、昭38「機械工作」と改称	無機材料化学	昭53特設工学課程から振替
精密加工学	昭53特設工学課程から振替	工業物理化学	昭43「反応工学」設置、昭45「工業物理化学」と改称
機械力学	昭53特設工学課程から振替	有機合成化学	昭42設置
弾性及び塑性工学	昭26「設計及塑性加工」設置、昭31「設計製図及塑性加工」と改称、昭36「弾性及塑性加工」と改称	高分子合成化学	昭44「有機材料化学」設置、昭45「高分子合成化学」と改称
		無機合成化学	昭42「無機材料化学」設置、昭45「無機合成化学」と改称
自動制御	昭36設置	環境化学	昭53特設工学課程から振替
流体工学	昭50「応用力学」設置、昭54「流体工学」と改称	化学計測学	昭53特設工学課程から振替
生産機械工学	昭49設置	写真化学・応用写真	昭26「映画」設置、昭33「映画工学」と改称、昭38「応用写真工学」と改称、昭51「写真化学・応用写真」と改称
設計工学	昭53特設工学課程から振替	写真工学	昭26「写真」設置、昭33「写真工学」と改称
塑性工学	昭53特設工学課程から振替	画像形成工学	昭26「印刷」設置、昭31「印刷工学第一」、「印刷工学第二」に分離、昭38「印刷工学第一」を「製版工学」と改称、昭51「画像形成工学」と改称
回路工学	昭26「電子装置高周波工学」設置、昭37「応用電子工学」、「電気通信工学」に分離、昭38「電気通信工学」を「回路工学」と改称	印刷工学	昭31「印刷」を「印刷工学第
電気材料学・高電圧工学	昭26「電気基礎学」設置、昭37「基礎電子工学」、「基礎電気工学」に分離、昭38「基礎電気工学」を「電気材料学・高電圧工学」と改称		

	一、「印刷工学第二」に分離、昭38「印刷工学第二」を「印刷工学」と改称	(設備・機器計画)	昭51設置、昭53工業意匠学科へ振替
応用印刷工学	昭38設置	(視環境計画)	昭51設置、昭53工業意匠学科へ振替
画像材料学	昭40「基礎材料学」設置、昭51「画像材料学」と改称	(材料・生産)	昭51設置、昭53建築学科へ振替
画像計測工学	昭37「広報工学」設置、昭51「画像計測工学」と改称	(計画工学)	昭51設置、昭53建築学科へ振替
応用画像工学	昭37「写真計測工学」設置、昭51「応用画像工学」と改称	(視覚工学)	昭53設置、画像工学科へ振替
視覚工学	昭53特設工学課程から振替	(写真工芸科学)	昭51設置、昭53画像工学科へ振替
写真工芸科学	昭53特設工学課程から振替	(感材技術学)	昭51設置、昭53画像工学科へ振替
感材技術学	昭53特設工学課程から振替	(製版技術学)	昭51設置、昭53画像工学科へ振替
製版技術学	昭53特設工学課程から振替	(印刷技術学)	昭51設置、昭53画像工学科へ振替
印刷技術学	昭53特設工学課程から振替	(画像技術学)	昭51設置、昭53画像工学科へ振替
画像技術学	昭53特設工学課程から振替	(精密加工学)	昭53設置、機械工学科へ振替
応用物理学	昭26「応用物理」設置、昭38「応用物理学」と改称	(設計工学)	昭51設置、昭53機械工学第二学科へ振替
分析化学	昭40設置	(機械力学)	昭51設置、昭53機械工学科へ振替
工業数学	昭42設置	(塑性工学)	昭52設置、昭53機械工学第二学科へ振替
情報処理工学	昭48設置	(応用情報工学)	昭53設置、電子工学科へ振替
天然色工学研究施設 天然色工学基礎研究部	昭37設置	(基礎電気工学)	昭51設置、昭53電気工学科へ振替
天然色工学研究施設 天然色材料計測研究部	昭42「色彩工学計測研究部」設置、昭43「天然色材料計測研究部」と改称	(電気通信工学)	昭52設置、昭53電子工学科へ振替
天然色工学研究施設 天然色応用工学研究部	昭47設置	(電力系統工学)	昭51設置、昭53電気工学科へ振替
天然色工学研究施設 隔測画像処理研究部	昭51設置	(環境化学)	昭52設置、昭53合成化学科へ振替
天然色工学研究施設 隔測画像解析研究部	昭53設置	(有機材料化学)	昭51設置、昭53工業化学科へ振替
天然色工学研究施設 隔測画像地象海象判読研究部	昭53設置	(無機材料化学)	昭51設置、昭53工業化学科へ振替
(特設工学課程)		(化学計測学)	昭53設置、合成化学科へ振替
(建築生産)	昭53設置、建築工学科へ振替	園芸学部	
(住居計画)	昭51設置、昭53建築学科へ振替	果樹園芸学	昭24設置
(空間造形計画)	昭51設置、昭53工業意匠学科へ振替	蔬菜園芸学	昭24設置
		花卉園芸学	昭24設置
		育種学	昭24「作物学及育種学」設置、昭28「作物学」、「育種学」に分離
		園芸環境工学	昭40設置
		園芸機械及び	昭26「営農工学」設置、昭28

講座・学科目等

施設学	「農業工作学Ⅰ」、「農業工作学Ⅱ」に分離、昭38「農業工作学Ⅰ」を「農業工作学」と改称、昭53「園芸機械及び施設学」と改称	園芸流通経済学	昭54設置
農業気象学	昭28「営農工学」を「農業工作学Ⅰ」、「農業工作学Ⅱ」に分離、昭38「農業工作学Ⅱ」を「農地施設学」と改称、昭42「営農気象学」と改称、昭53「農業気象学」と改称	環境植栽学	昭24「庭園設計論並びに造園植栽学」設置、昭27「造園植栽学」と改称、昭49「環境植栽学」と改称
土壌学及び植物栄養学	昭24「土壌及肥科学」設置、昭38「土壌学・肥科学」と改称、昭46「土壌学及び植物栄養学」と改称	環境植物病学	昭24「植物病学」設置、昭49「環境植物病学」と改称
生物化学	昭24設置	環境生物学	昭24「応用昆虫学」設置、昭49「環境生物学」と改称
食品及び栄養化学	昭24「栄養及食品化学」設置、昭38「栄養学・食品化学」と改称、昭46「栄養化学」と改称、昭51「食品及び栄養化学」と改称	緑化植物学	昭50設置
農産製造学	昭24設置	緑地保全学	昭51設置
醱酵工業学及び応用微生物学	昭24「応用微生物学及び醱酵工業学」設置、昭29「醱酵工業学及び応用微生物学」と改称	附属農場 校内農場	昭24設置
造園原論及び造園史並びに風景計画論	昭24「造園史並びに風景計画論」設置、昭27「造園学造園史風景計画論」と改称、昭28「造園学及造園史並びに風景計画学」と改称、昭29「造園原論及造園史並びに風景計画論」と改称	附属農場 利根高冷地農場	昭24設置
都市及び地方計画学	昭24「公園計画論並びに都市及び地方計画学」設置、昭27「都市及び地方計画及造園設計」と改称、昭28「都市及び地方計画学」と改称	附属農場 熱川暖地農場	昭25設置
造園工学	昭24設置	教 養 部	
造園施設学	昭48設置		
庭園学	昭54設置	哲学	昭43設置
園芸経営技術学	昭26「総合農学」設置、昭39「農業経営管理學」と改称、昭42「農業経営技術学」と改称、昭53「園芸経営技術学」と改称	倫理学	昭43設置
園芸経営経済学	昭24「農業経済学」設置、昭28「農村生活科学」と改称、昭42「農業経営経済学」と改称、昭53「園芸経営経済学」と改称	心理学	昭43設置
栽培管理学	昭28「作物学及育種学」を「育種学」、「作物学」に分離、昭53「作物学」を「栽培管理学」と改称	歴史学	昭43設置
(畜産学)	昭24「畜産学及畜産物利用学」設置、昭28「畜産学」と改称、昭53廃止(山口大学へ移管)	文学	昭43設置
		芸術	昭43設置
		日本語・日本事情	昭50設置
		法学	昭43設置
		政治学	昭43設置
		経済学	昭43設置
		社会学	昭43設置
		統計学	昭43設置
		地理学	昭43「人文地理学」設置、昭46「地理学」と改称
		数学	昭43設置
		物理学	昭43設置
		化学	昭43設置
		生物学	昭43設置
		地学	昭43設置
		地域科学	昭51設置
		比較文化	昭52設置
		自然史	昭53設置
		英語	昭43設置
		ドイツ語	昭43「独語」設置、昭54「ドイツ語」と改称
		フランス語	昭43「仏語」設置、昭54「フランス語」と改称
		ロシア語	昭48「露語」設置、昭54「ロシア語」と改称

保健体育	昭43設置 (留 学 生 部) (昭38.3以前は文理学部留学生課程)	食中毒研究部	昭24「腐敗研究部」設置、昭48「食中毒研究部」と改称
(日 本 語)	昭35設置、昭47廃止	生体膜研究部	昭52設置
(日 本 事 情)	昭39設置、昭47廃止	抗生物質製造試験施設	昭50設置
(文 学)	昭39設置、昭47廃止	機器センター	昭51設置
(心 理 学)	昭39設置、昭47廃止	保健管理センター	
(統 計 学)	昭39設置、昭47廃止	分析センター	
(数 学)	昭35設置、昭47廃止	(養護教諭養成所)	
(物 理 学)	昭35「物理」設置、昭39「物理理学」と改称、昭47廃止	(工業短期大学部)	
(化 学)	昭35設置、昭47廃止	(一般教育等)	
(生 物 学)	昭37設置、昭47廃止	(人文学科)	昭27設置、昭53廃止
(地 学)	昭37設置、昭47廃止	(社会科学)	昭27設置、昭53廃止
(美 学)	昭39設置、昭47廃止	(自然科学)	昭27設置、昭53廃止
(英 語)	昭35設置、昭47廃止	(外国語)	昭29設置、昭53廃止
(独 語)	昭36設置、昭47廃止	(保健体育)	昭27「体育」設置、昭42「保健体育」と改称、昭53廃止
(仏 語)	昭35設置、昭47廃止	(機械工学科)	昭40「機械科」設置、昭44「機械工学科」と改称、昭53廃止
(保健体育)	昭36「体育」設置、昭38「保健体育」と改称、昭47廃止	(電気工学科)	昭40「電気科」設置、昭44「電気工学科」と改称、昭53廃止
(図 学)	昭42設置、昭47廃止	(工業化学科)	昭41設置、昭53廃止
生物活性研究所 (昭48.9以前は腐敗研究所)		(印刷工学科)	昭27「印刷科」設置、昭44「印刷工学科」と改称、昭53廃止
酵素化学研究部	昭24「微生物化学部」設置、昭48「酵素化学研究部」と改称	(写真工学科)	昭27「写真科」設置、昭44「写真工学科」と改称、昭53廃止
薬理活性研究部	昭31「食中毒研究部」設置、昭48「薬理活性研究部」と改称	(木材工芸科)	昭32設置、昭53廃止
毒性病理研究部	昭38「食品防腐剤研究部」設置、昭48「毒性病理研究部」と改称	(工業意匠学科)	昭34「工業意匠科」設置、昭44「工業意匠学科」と改称、昭53廃止
活性天然物化学研究部	昭42「有害真菌研究部」設置、昭48「活性天然物化学研究部」と改称		
抗生物質研究部	昭27「抗生物質部」設置、昭48「抗生物質研究部」と改称		

5 大 学 院

大 学 院 の 変 遷

研 究 科	専 攻	変 遷 概 要
医学研究科 (博士課程)	生 理 系	昭30設置、解剖学 (1.2.3)、生理学 (1.2)、医化学、薬理学 (以上昭30) 微生物化学(腐敗研究所微生物化学研究部)、病態薬理学 (腐敗研究所食中毒研究部)(以上昭38) 医化学→生化学(昭39改称) 脳機能学(脳機能研究施設向神経薬研究部)(昭42)、生化学→生化学(1.2)(昭42分離)、臨床検査学(病院中央検査部)(昭47) 腐敗研究所微生物化学研究部→生物活性研究所酵素化学研究部、腐敗研究所食中毒研究部→生物活性研究所薬理活性研究部(以上昭48、研究所の改組による研究部門名の変更) 脳機能研究施設、向神経薬研究部→神経薬理研究部 (昭54改称)
	病 理 系	昭30設置、細菌学、病理学(1.2)(以上昭30) 医動物学(昭31) 食品微生物学(腐敗研究所腐敗研究部)、実験化学療法学 (腐敗研究所抗生物質研究部)(以上昭38) 食品微生物学→衛生微生物学(昭39改称) 医動物学→寄生虫学(昭39改称) 肺癌病理学(肺癌研究施設病理研究部)(昭44) 細菌学→微生物学(昭45改称) 腐敗研究所腐敗研究部→生物活性研究所毒性病理研究部 (昭48研究所の改組による研究部門名の変更) 免疫学(環境疫学研究施設免疫研究部)(昭50) 衛生微生物学→細胞病理学(昭51改称)
	社 会 医 学 系	昭30設置、衛生学及び公衆衛生学、法医学(以上昭30) 農山村医学(農山村医学研究施設農山村医学研究部)(昭40) 食品衛生学(腐敗研究所食品防腐剤研究部)(昭39) 衛生学及び公衆衛生学→衛生学、公衆衛生学 (昭48主科目名称分離) 腐敗研究所食品防腐剤研究部→生物活性研究所食中毒研究部 (昭48研究所の改組による研究部門名の変更)

資料編

	内 科 系	農山村医学（農山村医学研究施設農山村医学研究部）→農村医学（環境疫学研究施設農村医学研究部）（昭49研究施設の改組により研究部門名及び主科目名を改称） 昭30設置、内科学（1.2）、放射線医学、皮膚泌尿器科学、神経精神医学、小児科学（以上昭30） 皮膚泌尿器科学→皮膚科学（昭35分離、泌尿器科学は、外科系へ） 肺癌内科学（肺癌研究施設第二臨床研究部）（昭44） 内科学（3）（昭51） 神経内科学（脳機能研究施設神経内科研究部）（昭53）
	外 科 系	昭30設置、外科学（1.2）、整形外科、産科婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科学（以上昭30） 泌尿器科学（昭35） 歯科口腔外科学（昭38） 麻酔学（昭40） 肺癌外科学（肺癌研究施設臨床研究部）（昭40） 肺癌病理学（肺癌研究施設病理研究部）（昭40） 肺癌研究施設，臨床研究部→第一臨床研究部（昭43部門増による名称変更） 肺癌病理学→昭44から病理系の科目へ 脳神経外科学（昭46）
薬学研究科 （博士課程）	総合薬品科学	昭39「薬学専攻」（修士課程）設置 昭45「製薬化学専攻」（修士課程）増設 昭54「総合薬品科学専攻」（博士課程）に改組
理学研究科 （修士課程）	数 学 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	昭50設置 昭50設置 昭50設置 昭50設置 昭50設置
看護学研究科 （修士課程）	看 護 学	昭54設置
工学研究科 （修士課程）	工 業 意 匠 学 建 築 学	昭40設置 昭40設置

大 学 院

	機 械 工 学	昭40設置
	機械工学第二	昭52増設
	電 気 工 学	昭40設置
	電 子 工 学	昭49増設
	工 業 化 学	昭40設置
	合 成 化 学	昭45増設
	写 真 工 学	昭41増設
	印 刷 工 学	昭42増設
園芸学研究 科 (修士課程)	園 芸 学	昭44設置
	農 芸 化 学	昭44設置
	造 園 学	昭44設置
	農業生産管理学	昭46増設
	環 境 緑 地 学	昭53増設

6 歳入・歳出

(1) 千葉大学歳入決算額の推移

項 年度	附属病院収入	授業料及入学 検定料	学校財産 処分収入	雑 収 入	計	増 加 指 数	対増 前減 年比 率
昭和	円	円	円	円	円	倍	倍
24	77,548,136	4,032,648	0	1,922,755	83,503,539	1	
25	86,398,166	8,985,860	0	3,018,872	98,402,898	1.2	1.2
26	139,238,454	13,030,680	0	4,746,550	157,015,684	1.9	1.6
27	178,482,976	17,976,180	0	5,907,015	202,366,171	2.4	1.3
28	212,888,878	22,060,150	0	7,113,158	242,062,186	2.9	1.2
29	253,949,750	27,224,950	0	7,464,652	288,639,352	3.5	1.2
30	255,982,750	29,217,850	0	8,184,736	293,385,336	3.5	1.0
31	269,811,002	38,921,500	0	9,954,075	318,686,577	3.8	1.1
32	275,712,678	42,483,900	0	10,265,958	328,462,536	3.9	1.0
33	310,639,244	42,909,750	0	11,750,097	365,299,091	4.4	1.1
34	350,007,273	46,993,850	0	10,719,566	407,720,689	4.9	1.1
35	369,656,690	46,209,275	0	5,161,559	421,027,524	5.0	1.0
36	486,544,385	48,837,350	0	6,717,027	542,098,762	6.5	1.3
37	591,372,500	50,052,800	0	6,459,304	647,884,604	7.8	1.2
38	665,176,924	60,079,000	118,700	9,753,664	735,128,288	8.8	1.1
39	747,246,515	68,867,425	0	26,858,125	842,972,065	10.1	1.1
40	999,800,458	85,193,050	2,193,000	26,348,305	1,113,534,813	13.3	1.3
41	1,047,404,007	118,057,050	81,168,830	30,108,784	1,276,738,671	15.3	1.1
42	1,205,026,674	122,348,050	14,250,000	44,159,969	1,385,784,693	16.6	1.1
43	1,453,834,873	138,153,250	14,191,000	55,891,312	1,662,070,435	19.9	1.2
44	1,318,085,055	137,661,171	14,045,126	62,945,584	1,532,736,936	18.4	0.9
45	1,439,847,047	136,269,800	14,000,000	75,268,517	1,665,385,364	19.9	1.1
46	1,582,285,777	142,143,400	14,000,000	91,302,146	1,829,731,323	21.9	1.1
47	1,961,485,216	196,027,166	8,000,000	107,549,210	2,273,061,592	27.2	1.2
48	2,125,323,741	280,844,800	8,000,000	114,133,612	2,528,302,153	30.3	1.1
49	2,893,031,208	336,192,700	8,000,000	163,551,710	3,400,775,618	40.7	1.3
50	3,583,821,017	568,152,800	6,000,000	204,731,457	4,362,705,274	52.2	1.3
51	4,281,666,423	649,303,800	0	242,348,885	5,173,319,108	62.0	1.2
52	4,689,504,622	901,313,100	0	266,069,074	5,856,886,796	70.1	1.1
53	5,049,463,097	1,040,036,000	0	294,296,154	6,383,795,251	76.4	1.1

(2) 千葉大学歳出決算額の推移

歳入・歳出

年度 昭和	項 国立学校	大学附属病院	研究所	施設整備費	文部本省	計	増加指数
	円	円	円	円	円	円	倍
24	139,503,742	97,067,563	0	0	7,226,848	243,798,153	1
25	179,966,996	114,163,006	2,791,434	0	13,767,287	310,688,723	1.3
26	240,526,228	173,339,232	4,985,445	0	18,135,092	436,985,997	1.8
27	326,135,984	213,004,109	7,651,233	0	11,644,419	558,435,745	2.3
28	392,859,267	270,579,687	10,503,070	0	1,714,619	675,656,643	2.8
29	447,776,505	281,327,696	12,983,653	0	6,410,964	748,498,818	3.1
30	457,933,614	277,799,548	11,980,081	0	680,342	748,393,585	3.1
31	489,683,567	300,410,883	15,445,361	0	2,060,651	807,600,462	3.3
32	542,356,389	330,783,904	14,958,095	0	1,928,686	890,027,074	3.7
33	556,364,615	343,951,787	16,866,858	0	4,442,970	921,626,230	3.8
34	636,460,499	365,619,850	21,229,002	0	27,498,104	1,050,807,455	4.3
35	708,560,350	429,006,619	23,871,782	0	45,490,110	1,206,928,861	5.0
36	894,226,041	545,749,039	29,298,507	0	117,298,520	1,586,572,107	6.5
37	1,125,413,057	634,595,445	38,157,224	0	460,218,112	2,258,383,838	9.3
38	1,320,571,111	732,972,934	50,087,715	0	620,173,790	2,723,805,550	11.2
39	1,515,533,954	842,810,563	56,773,373	753,699,995	47,812,630	3,216,630,515	13.2
40	1,685,169,507	1,011,036,341	63,925,517	237,915,200	46,505,406	3,044,551,971	12.5
41	1,877,272,258	1,169,729,362	70,430,125	314,087,000	37,246,000	3,468,764,745	14.2

42	2,182,959,775	1,358,322,449	84,457,664	296,045,101	37,153,821	3,958,938,810	16.2
43	2,420,504,683	1,560,657,090	94,675,263	405,491,000	38,702,880	4,520,030,916	18.5
44	2,899,967,752	1,538,964,239	107,662,114	592,431,414	36,790,040	5,175,815,559	21.2
45	3,342,417,116	1,808,571,534	121,525,279	799,668,989	27,448,195	6,099,631,113	25.0
46	3,662,481,804	2,117,036,233	154,245,535	539,123,969	21,689,176	6,494,576,717	26.6
47	4,150,155,675	2,642,801,574	175,967,363	397,256,000	15,409,316	7,381,589,928	30.3
48	4,964,481,993	3,041,596,940	189,248,899	358,149,960	11,832,522	8,565,310,314	35.1
49	6,629,862,559	4,066,047,264	244,693,870	246,990,000	12,244,500	11,199,838,193	45.9
50	7,723,184,835	4,774,372,970	247,881,164	989,892,000	19,203,000	13,754,533,969	56.4
51	8,592,329,270	5,459,821,879	318,293,016	1,282,491,908	20,520,000	15,673,456,073	64.3
52	9,358,711,557	6,495,827,276	340,092,826	2,739,467,588	25,837,000	18,959,936,247	77.8
53	10,351,966,932	7,379,635,868	351,699,514	1,645,803,840	29,267,000	19,758,373,154	81.0

- 注：1 昭和24年度～昭和38年度の施設整備費は文部本省を含む。
 2 昭和24年度の項は、その後と異なるが、便宜上対応する項に分類した。
 3 一般会計分については、文部本省欄に一括計上した。

科学研究費補助金

7 科学研究費補助金

(1) 科学研究費補助金の推移

(単位 千円)

区 分	年 度 昭 和 件	40		41		42		43	
		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
がん特別研究	1		—		—	3	9,200	4	12,800
	2		—		—	1	1,000	2	4,520
特 定 研 究	1	5	11,412	7	17,200	1	2,200	1	2,860
	2	2	1,656	1	4,300		—	2	3,730
	継続		—		—		—		—
総 合 研 究		2	2,682	2	3,320	4	6,940		
試 験 研 究		4	3,456	10	8,890	10	9,300		
機 関 研 究	A		—	1	9,140	1	6,200		
	B	2	4,403		—	1	1,310		
	C		—		—		—		
	継続	3	2,655	3	6,540	1	5,800		
各 個 研 究		31	4,986	26	5,170	29	6,270		
自然災害特別研究	1								
	2								
環境科学特別研究	1								
	2								
総 合 研 究	A							3	4,980
	B								—
	継続								—
試 験 研 究	1							6	5,460
	2								—
	継続								—
一 般 研 究	A							1	6,890
	B							2	13,690
	C							6	5,870
	D							10	2,070
	継続							2	3,820
奨 励 研 究	A							6	900
海外学術調査			—		—		—		—
合 計		49	31,250	50	54,560	51	48,220	45	67,590

44		45		46		47		48	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2	6,800	2	7,200	2	6,500	2	10,300	3	15,000
2	5,050	2	2,570	1	1,500	1	2,100	1	2,300
2	4,710	1	3,830	4	13,800	1	7,500	1	4,900
1	900	2	6,600	1	3,500	3	5,450	2	3,000
	—		—	1	4,020	1	4,220		—
4	7,880	2	4,000	1	2,800	2	2,600	4	8,420
	—		—		—		—		—
1	1,500	1	1,630	1	890	1	3,500		—
5	6,460	2	2,000	2	2,090	3	4,150	—	—
2	1,500	4	3,950	1	990	2	2,500	5	6,750
2	1,600	6	5,180	6	4,620		—	3	3,650
1	2,110		—		—	1	10,720	2	26,890
4	11,430	1	4,750	2	5,500	5	21,330	5	21,200
8	4,310	11	11,350	11	12,510	10	9,880	11	13,790
11	2,390	13	3,000	8	2,450	5	1,500	13	4,080
	—	5	1,750	3	1,750	2	1,500	4	2,400
6	950	11	2,140	19	4,040	13	3,530	20	5,910
	—	1	8,500		—		—	1	8,500
51	57,590	64	68,450	63	66,960	52	90,780	75	126,790

科学研究費補助金

区 分	年 度 件 数	49		50		51		52	
		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
がん特別研究	1		—		—		—		—
	2	1	1,000	1	3,600	4	12,300	4	10,500
特 定 研 究	1	3	15,000	3	16,400	4	23,000	2	14,150
	2	1	700	2	1,050	2	1,600	4	3,500
	継続		—		—		—		—
総 合 研 究			/		/		/		/
試 験 研 究			/		/		/		/
機 関 研 究	A		/		/		/		/
	B		/		/		/		/
	C		/		/		/		/
	継続		/		/		/		/
各 個 研 究			/		/		/		/
自然災害特別研究	1		—		—		—		—
	2		—	1	3,000		—	1	800
環境科学特別研究	1		/		/		/	1	11,500
	2		/		/		/		—
総 合 研 究	A	3	8,300	4	7,200	2	4,000	4	8,860
	B		—		—	1	1,200	1	1,600
	継続	1	2,600	3	8,300		—		—
試 験 研 究	1	2	3,400	1	1,710	3	6,400	1	2,300
	2	3	5,000	2	4,590	5	7,410	5	9,700
	継続	2	3,600	1	500	1	500	2	3,500
一 般 研 究	A	2	19,200	1	10,000	4	46,000	3	18,800
	B	1	2,000	11	34,170	7	24,400	10	33,500
	C	14	17,950	16	19,200	13	19,460	17	25,730
	D	10	3,480	15	5,390	13	4,950	12	4,865
	継続	9	7,050	1	1,000	3	2,800	10	8,100
奨 励 研 究	A	11	3,050	18	5,280	22	6,700	20	7,070
海外学術調査		2	10,900	3	9,000	1	2,700		—
合 計		65	103,230	83	130,390	85	163,420	97	164,475

53		合 計		備 考
件数	金 額	件数	金 額	
	—	18	67,800	
3	8,000	23	54,440	
1	9,000	36	145,962	
3	2,500	26	38,486	
	—	2	8,240	
		8	12,942	昭和43年度から2段階方式に変更のため下欄へ記入
		24	21,646	
		2	15,340	昭和43年度から研究種目変更のため下欄へ記入
		3	5,713	
			—	
		7	14,995	
		86	16,426	
	—		—	昭和47年度から新設
	—	2	3,800	
2	16,400	3	27,900	昭和52年度から新設
	—		—	
1	3,500	30	62,540	昭和43年度から2段階方式に変更
	—	2	2,800	
4	4,800	12	23,220	
	—	25	33,970	昭和43年度から2段階方式に変更
2	1,860	31	44,250	
3	3,500	26	26,650	
3	35,100	18	175,710	昭和43年度から新設
7	31,100	55	203,070	
24	40,600	141	180,650	
14	5,910	124	40,085	
21	16,250	60	46,420	
31	11,690	177	51,260	
2	12,500	10	52,100	昭和38年度から新設
121	202,710	951	1,376,415	

科学研究費補助金

(2) 科学研究費補助金等研究課題一覧

年 度	区 分	研 究 課 題	研究代表者		交付金 (千円)
			所属	氏 名	
昭和 26	科学研究費交付金	記紀の神話伝説の中国文献に典拠せるものに関する文献学的研究	文理	萩原 淺男	
		粉体力学の実験的研究	文理	若林 隆夫	
		落花生の結実に関する研究	教育	小林 実	
		組織学的鍍銀法の研究	医	森田 秀一	
		発生初期に於ける発生能力の研究	医	鈴木 重武	
		血液成分微量測定	医	赤松 茂	
		間脳に関する薬理学的研究	医	小林 龍男	
		心臓に於けるアレルギー性変化の実験的研究	医	石橋 豊彦	
		光電管溷濁計に依る溶菌現象の研究	医	田波潤一郎	
		人ならびに諸動物の血清学的構造	医	加賀谷 勇之助	
		グルクロン酸の解毒に関する研究	医	田坂 定孝	
		内科的疾患の種々の場合の電気泳動法(Tiselins装置)による体液蛋白体の研究	医	石川 憲夫	
		全身麻酔の研究	医	中山 恒明	
		トラコーマ病原体の電子顕微鏡的研究	医	伊東彌恵治	
		腎臓移植	医	並木 重郎	
		腐敗毒に関する研究	薬	宮木 高明	
		嵌合に関する研究	工	林 則行	
		深絞りにおける絞り率の研究	工	馬場秋次郎	
		木材組立圧縮材に関する研究	工	辻井 静二	
		天然色写真に関する研究その4 多層式天然色フィルムの色感光度測定の研究	工	源田秀三郎	
		百合の栽培適地に関する基礎的研究	園	穂坂 八郎	
		果樹の無袋栽培特に無袋果実の性状に関する研究	園	永沢 勝雄	
		瓜類の雌雄花の分化に関する研究	園	藤井 健雄	
		火山灰土に於ける磷酸肥料の肥効増進に関する研究	園	吉江 修司	
		花の中に含まれるアミノ酸の研究	園	信濃 栄	
		本邦に於ける公園の発達とその社会的背景	園	小寺 駿吉	
		酵素の作用機序	医	赤松 茂	
		放線菌抗生物質の試験製造の研究	研	相磯 和嘉	
	科学試験研究費	ストレプトマイシンの組織変調作用に関する研究	医	滝沢延次郎	5
		循環器早期障害の研究(病巣感染の臨床ならびに実験的研究)(継)	医	松本修一郎	5
		ホモスルファミン(スルファニール)およびメチルズルフォンに関する研究(継)	医	田坂 定孝	5
		食道外科(継)	医	中山 恒明	10

26			除虫菊およびデキタリスの栽培試験	薬	長谷川長八	5
27	科学研究費交付金	総合研究	酵素の作用機序		赤松 茂	930
			日本人の指紋（掌紋、足紋）の研究		小池 敬事	470
		各個研究	キルケゴールの生涯と思想	文理	梶田啓三郎	30
			20世紀英米文学（小説）における「人間像」の研究	文理	吉武 好孝	40
			智利硝石偏光子	文理	山口太三郎	50
			房総の地下水の研究	文理	山岸 忠夫	50
			嵌合に関する研究（工作物の真円度及び表面粗さが嵌合結合度に及ぼす影響）	工	林 則行	70
			気化器の低速及び加速性能に及ぼすエア・ブリードの作用研究	工	浅野 弥祐	90
			塩化ビニール電線の絶縁性能の向上について	工	菊地 省一	50
			木造組立材（主として圧縮材）に関する研究	工	辻井 静二	80
			海水マグネシアの焼結に関する研究	工	茂木今朝吉	80
			枇杷果実の大きさによる耐寒性の強弱に関する研究	園	永沢 勝雄	150
			2・3の果樹の人工受粉の能率化に関する基礎的研究	園	大野 正夫	40
			撒布農薬特に殺虫剤の消失に関する研究	園	野村 健一	50
			園芸作物病害に対する有機水銀剤並に有機硫黄剤の薬効について	園	河村貞之助	60
			細胞形質の微細構造と機能の研究	医	森田 秀一	50
			発生初期に於ける発生能力の研究	医	鈴木 重武	50
			直流通電作用の本態に関する研究	医	鈴木 正夫	60
			血液成分の微量測定法	医	赤松 茂	50
			間脳に関する薬理学的研究	医	小林 龍男	50
			食品腐敗細菌の蒐集分類保存に関する研究	研	相磯 和嘉	50
			内科的疾患における液体蛋白体の電気泳動法による研究	医	石川 憲夫	50
			温泉の循環並びに温調節に関する研究	医	田坂 定孝	50
			頸髄剥出に依り惹起せられたる中枢神経系内変化の組織的研究	医	鈴木 次郎	50
			Steptorinose Steptodornose の外科的応用	医	伊藤健次郎	40
			腐敗毒に関する研究	薬	宮木 高明	50
			油脂水素添加の理論	薬	三宅 良一	50
			甲状腺ホルモン作用物質の研究	薬	湊 顕	50
	科学研究助成補助金	助成研究	千葉県における慣行農業水利権に関する調査研究	教育	土屋 生	10
			粉体力学の実験的研究	文理	若林 隆夫	20
			CO.Mn 系サーミスターの電気伝導機構に関する研究	文理	青木 育雄	15
			動物臓器（肝腎臓）のヒスタミナーゼについて	研	安藤 宗八	20
			真蕨羊歯（シダ植物）の発生及び生活環を実験室内にて遂行せしめる	文理	西田 誠	25

科学研究費補助金

27			秩父結晶片岩の岩石学的研究	文理	近藤 精造	15
			曲げ加工に関する研究	工	戸沢 康寿	25
			輻射器の周波数特性改善について	工	小郷 寛	25
			無水フタル酸と芳香族化合物のフリーデルクラッフ反応による縮合生物に関する研究	工	角田 隆弘	25
			覆下栽培に関する研究	教育	花光長一郎	10
			深層挿木法による苗木繁殖に関する基礎的研究	園	飯島 亮	20
			動力噴霧機用ゴムホース接合金具及び「ノズル」の抵抗について	園	児玉 義彦	20
			体質の実験発生的研究	医	野中 俊郎	25
			防腐剤の薬理学的研究（特にデヒドロ醋酸について）	研	柴田 鉄郎	25
			循環器早期障害の研究	医	松本修一郎	25
			化学療法剤の気管枝注入法による肺結核の治療	医	湯田 好一	25
			デヤゾ化合物の反応	薬	萩庭 丈寿	30
28	科学研究費交付金	総合研究	酵素の研究	医	赤松 茂	400
			日本人の指紋(掌紋、足紋)の研究(継2年)	学長	小池 敬事	450
		各個研究	ドイツ文章論の研究	文理	田中 康一	30
			房総における地下水と地質構造	文理	山岸 忠夫	30
			硬質金属板の電弧穿孔法	文理	山口太三郎	60
			血液成分微量測定	医	赤松 茂	50
			間脳に関する薬理学的研究	医	小林 竜男	60
			(i) 放射性同位元素による臨床的研究	医	石川 憲夫	60
			(ii) 放射線ないし放射能物質による障碍特に造血臓器に及ぼす影響についての研究			
			環境気温と内分泌機能	医	福田 篤郎	60
			頸動脈球を起点とする神経伝導路の研究	医	鈴木 次郎	60
			油脂水素添加反応の機構	薬	三宅 良一	50
			日本工業の初期における意匠の発達	工	小池 新二	50
			工作物の真円度表面粗さ及び締代がハメアイ結合度におよぼす影響について	工	林 則行	80
			高周波交流を利用するPH測定法に関する研究	工	谷 恵吉郎	60
			木造組立材(主として圧縮材)に関する研究	工	辻井 静二	60
			多元系合金における複平衡状態の研究	工	六崎 賢亮	80
			海水マグネシアの焼結に関する研究	工	茂木今朝吉	60
			写真乳剤の化学増感の研究	工	笹井 明	100
			落花生の空莢機構について	園	渋谷 常紀	60
			枇杷果実の大きさによる耐寒性の強弱に関する研究	園	永沢 勝雄	100
			果樹の人工授粉の能率化増量花粉の撒布に関する研究	園	大野 正夫	40
			撒布農薬特に殺虫剤の消失に関する研究	園	野村 健一	60

資 料 編

28		園芸作物病害に対する有機水銀剤並びに有機硫黄剤の薬効について	園	河村貞之助	60
		食品腐敗細菌の蒐集一分類保存に関する研究	研	相磯 和嘉	50
科学試験補助 研究金		建築物の熱絶縁構造の試作研究と現状調査	工	小林 政一	20
		蔬菜採種量の構成要素及び採種環境の後作用に関する研究	園	藤井 健雄	30
		電極第3作用と低周波電流による治療的応用	医	鈴木 正夫	25
		阿蘇火山病の研究	医	滝沢延次郎	40
	科学研究費助成補助金	地域の交通構造の地理学的研究	教育	清水馨八郎	15
		A 平野の交通構造の研究			
		B 大都市圏の交通構造			
		ドイツ文学との関連から見た近代日本文学の比較文学史的研究	文理	竹内英之助	20
		Co、Mn、Ni 系サーシスター 電気伝導機構に関する研究	文理	青木 育雄	20
		細菌及動物臓器のアミン酸化酵素による第二級アミン(アドレナリン等、 $R-CH_2NHCH_3$)の分解に就いて	研	安藤 宗八	20
		真囊羊菌類の発生及び系統学的研究	文理	西田 誠	20
		秩父結晶片岩の岩石学的研究	文理	近藤 精造	20
		深絞り限界拡張に関する研究	工	戸沢 康寿	25
		極超短波電力の測定に就いて	工	山本 博	25
		市街地併用住宅の研究	工	小泉正太郎	25
		有機珪素樹脂塗料の研究	工	亀島 秀樹	25
		化学薬剤による芝生の除草並に成長抑制	園	本田 倅	25
		定電位法による経波イオン電流の研究	医	本間 三郎	30
		体質の実験発生学的研究	医	野中 俊郎	30
		水産加工食品の嫌気性腐敗と其の防止に関する研究	研	那須 昭夫	20
		生体「レ」線映画による食道癌の早期診断法の研究	医	国井 光智	30
		諸種発熱の本態とその対策に関する研究	医	三宅 一郎	30
29	科学研究費交付金	防腐剤デヒドロ酢酸の毒性に関する研究	研	設楽 一郎	20
		1、3、5-トリニトロベンゼンによる活性メチレンの呈色反応に就いて	薬	木村 道也	20
		1、4-ナフトキノ誘導体の抗菌機構の研究	薬	池田仁三郎	20
		日本人の指紋(掌紋、足紋)の研究(継3年)	学長	小池 敬事	480
		ドイツ文法用語に関する研究	文理	田中 康一	40
		錯視と図形残効に関する研究	文理	盛永 四郎	50
		竹林の生態学的研究	文理	沼田 真	40
		撚線の機械的性質(特に弾性特性)に関する研究	文理	太和田 信	70
		硬質金属板の電孤穿孔法	文理	山口太三郎	100
		17世紀イギリスにおける「貧困者」の実態	文理	鶴見 卓三	40

科学研究費補助金

29		に関する研究				
		新田集落の歴史地理学的研究	教育	菊地 利夫		30
		薬理学的にみた神経活動の化学的機構	医	小林 龍男		70
		(イ) 放射性同位元素による臨床的研究	医	石川 憲夫		50
		(ロ) 放射線ないし放射性物質による障害特に造血臓器に及ぼす影響				
		気管支外科の研究	医	伊藤健次郎		40
		頸動脈球を起点とする神経伝導路の研究	医	鈴木 次郎		50
		食道ならびに胃癌の早期診断に対する直達鏡の改良工夫	医	中山 恒明		110
		単純性甲状腺腫の治療に関する研究	医	佐々木哲丸		50
		唾液腺X線撮影の実験的研究	医	石浦 純一		50
		千葉刑務所における梅毒ならびにその治療成績	医	竹内 勝		40
		学童身長の地域差に関する要因の分析的研究	医	柳沢利喜雄		50
		細胞原形質構造の電子顕微鏡による研究	医	森田 秀一		60
		唾液腺分泌の病理学的研究	医	滝沢延次郎		50
		日本住血吸虫病中間宿主ミヤイリガイ殺滅剤の研究	薬	宮木 高明		50
		日本工業の初期における意匠の発達	工	小池 新二		50
		多元素合金における複平衡状態の研究	工	六橋 賢亮		80
		落花生の空莢の生成機構について	園	渋谷 常紀		80
		枇杷果実の栄養の差による耐寒性の強弱に関する研究	園	永沢 勝雄		90
		散布農薬特に殺虫剤の消失に関する研究	園	野村 健一		80
		園芸作物病害に対する有機水銀剤ならびに有機硫黄剤の薬効について	園	河村貞之助		100
		火山灰地帯の畑地灌漑における地上部地下部の気候に関する研究	園	中原 孫吉		90
		Hyaluronidase が精子の生理ならびに受精に及ぼす作用について	園	加藤 浩		70
		食品腐敗細菌の蒐集分類保存に関する研究	研	相磯 和嘉		90
科学費試験補助金	試験研究	智利硝石偏光子	文理	山口太三郎		25
		蔬菜採種量の構成要素及び採種環境の後作用に関する研究(継2年)	園	藤井 健雄		35
		電極第3作用と低周波電流による治療的応用(継2年)	医	鈴木 正夫		50
		阿蘇火山病の研究(継2年)	医	瀧沢延次郎		50
科学研究助成補助金	助成研究	Co, Mn, Ni 混合酸化物半導体の電気伝導機構に関する研究	文理	青木 育雄		20
		真のう羊歯類(特にハナヤスリ群)の発生学及びその菌根との関係についての研究	文理	西田 誠		20
		秩父結晶片岩の構造岩石学的研究	文理	近藤 精造		20
		下総合地の地形学的研究	文理	川崎 逸郎		20
		都市交通構造の地理学的研究	教育	清水馨八郎		20
		1. 大都市の交通地域の分化現象—東京都の場合—				

29		2. 都市人口と交通量との関係—全国都市について—			
			塑性曲げにおける垂直応力の影響	工	戸沢 康寿 25
			マイクロ波に於ける振動子法とサーシスター法の相互比較	工	山本 博 25
			金属版面に対する亜麻仁油ワニスの親和性に関する研究	工	角田 隆弘 25
			落花生の開花結実に関する研究	教育	小林 実 27
			果菜類における側枝の発生発育に関する研究	園	渡辺 齊 27
			定電位法による経皮イオン電流の研究	医	本間 三郎 20
			磷酸モノエステラーゼの構造	医	麻生 芳郎 20
			細菌性ウィールス(ファージ)による無毒性デフテリー菌の有毒性転換に関する研究	医	波多野基一 20
			各種細菌(分解物)の蛔虫卵殺滅機序に関する研究	医	実川 渉 25
			肺循環系に関する臨床的ならびに実験的研究	医	渡辺 昌平 20
			蛋白尿生成機転に関する臨床的研究—特に腎フリラン試験による腎機能との関連について—	医	村越 康一 20
			学童トラコーマ集団検診における肉眼的並に細隙灯所見及びP氏小体検出の比較	医	鈴木 宣民 20
			P ³² をトレーサーとせる実験的副鼻腔尖の研究	医	奥田 稔 25
			ポリニトロベンゼン化合物と活性メチレンとの反応に関する研究	薬	木村 道也 20
			腐敗毒の研究	研	林 誠 20
30	科学研究費交付金	総合研究	肺癌の研究	医	河合 直次 880
			日本人の指紋(掌紋・足紋)の研究(継2年)	学長	小池 敬事 600
		各個研究	錯視と図形残効	文理	盛永 四郎 80
			オスマン帝国に於ける土地制度の変遷と土地法規について	文理	三橋富治男 80
			磷酸酵素の研究	医	赤松 茂 120
			薬理学的にみた神経活動の化学的機構	医	小林 龍男 150
			唾液腺内分泌の病理学的研究	医	滝沢延次郎 150
			トラコーマの病原に関する研究	医	川喜田愛郎 150
			高血圧症の循環分析およびその臨床的応用	医	斎藤 十六 150
			肺切除後の胸腔に関する諸問題	医	伊藤健次郎 100
			唾液腺X線撮影の実験的研究	医	北村 武 220
			油脂水素添加反応の速度論	薬	三宅 良一 100
			加工表面の研究	工	中村 常郎 100
			田園風景の構造に関する研究	園	横山 光雄 160
			Hyaluronidase が精子の生理並びに受精に及ぼす作用について	園	加藤 浩 140
	科学試験費補		智利硝子偏光子(継2年)	文理	山口太三郎 280
			蔬菜採種量の構成要素及び採種環境の後作用に関する研究(継3年)	園	藤井 健雄 350

科学研究費補助金

30	助金		食道癌治療の検討 女子尿路障碍（特に子宮頸部癌による）の研究 魚介類によるアレルギー様腐敗中毒に関する試験研究 ヨード卵蛋白の研究	医 医 研 薬	中山 恒明 百瀬 剛一 相磯 和嘉 湊 顕	300 100 200 200
	科学研究費補助金	助成研究	甲殻類の眠柄ホルモンに関する研究 シダ類の胚発生及び組織発生学的研究 都市交通の地理学的研究 肺循環の臨床的ならびに実験的研究 特に肺水腫肺うつ血の成因について 諸種化学薬剤耐性結核菌についての臨床的並びに実験的研究 副鼻腔毛細脈管の研究 テレビジョン用ブラウン管による人体筋活動電位描記 時計地板用特細密錐の切削の研究 住宅暖房の計画的な研究 銅板の硝酸による腐蝕に関する研究 園芸作物病害に対する有機水銀剤ならびに有機硫黄剤のウエザリングについて 腐敗毒の研究 水分および電解質代謝に関する研究 微熱に関する研究 臓器の欠落とその代償に関する病理形態学的研究	文理 文理 教育 医 医 医 医 工 工 工 園 研 医 医 医	山本 芳弘 西田 誠 清水馨八郎 渡辺 昌平 福永 和雄 奥田 稔 渡部 士郎 志茂 主税 小泉正太郎 角田 隆弘 石井 賢二 林 誠 吉利 和 笹本 修吾 嶋田 博	25 40 30 30 30 30 30 30 30 30 30 50 30 30 30
31	科学研究費交付金	総合研究	代謝の酵素学的研究 肺癌の研究(継2年)	医 医	赤松 茂 河合 直次	1,000 900
			癌の本態に関する研究 (特に癌細胞の代謝、発生培養、移植及び抗癌性物質に関する研究)	医	荒木 直躬	4,500
		各個研究	尿路及び性器結核の保存的療法の検討	医	百瀬 剛一	100
			尿尿消化槽に関する研究	医	谷川 久治	120
			口腔癌の二次感染に関する細菌学的研究	医	佐藤 伊吉	120
			旋盤の主軸台の精度の工作物仕上り精度との関連性に就て	工	林 則行	130
			田園風景の構造に関する研究	園	横山 光雄	200
			球後視束炎の研究	医	鈴木 宜民	160
	科学費補助金 試験助研金		果樹の隔年結果に関する研究	園	永沢 勝雄	400
			カシンベック病の研究	医	滝沢延次郎	300
			肺結核と肺癌の関連	医	河合 直次	300
			食道癌治療の検討(継2年)	医	中山 恒明	300
			魚介類によるアレルギー様腐敗中毒に関する試験研究(継2年)	研	相磯 和嘉	300
	科学	助成研究	シダ植物の個体発生及び組織発生学的研究(継2年)	文理	西田 誠	40

資 料 編

31	研究助成補助金	メラニン形式の機作と銅酵素模型の研究 落花生の生理生態学的研究 運動照射の自動照準法に関する研究 諸種神経筋疾患の電気診断学並びに治療に関する研究 テレビジョン用ブラウン管による人体筋活動電位描記(継2年) 胸部外科領域に於ける高齢者の麻酔 硼酸錯塩形成にもとづくテトラサイクリン系化合物の分析 ビタミンAび関係物質の合成(ビタミンAアルデヒドの合成) 大腸菌の生活環と種々の物理的或は化学的処理に対する感受性との関聯について	文理 教育 医 医 医 医 薬 工 研	井坂 三郎 小林 実 梅垣洋一郎 村越 康一 渡部 士郎 嶋村 欣一 関口 慶二 須賀 恭一 丸山 洋一	30 30 30 30 40 30 30 30 20
	化進学補助研究金促	海産動物油脂の撰択的水素添加及びその応用に関する研究	薬	三宅 良一	3,170
32	科学研究費交付金	総合研究 代謝の酵素学的研究(継2年) 微生物の胞子に関する生理学的並びに化学的研究 各個研究 知覚における Bezugs-system の研究 粉末法磁区図形による磁壁エネルギーの評価について ホスホリビドの合成 細胞微細構造の光学顕微鏡像と電子顕微鏡像との比較研究 実験的腎性高血圧 磷酸酵素の研究 慢性胃潰瘍の実験的作成 線維素溶解現象に関する研究 人体吸虫類の体外飼育並に治療剤に関する研究 放射性同位元素の肝機能検査への応用に関する研究 回路理論による光沢(反射像映の鮮明度)の研究 深絞り容器の残留応力 迅速カラー写真法の基礎的研究 根瘤線虫卵の生理と土壤線虫の防除に関する研究	医 研 文理 文理 文理 医 医 医 医 医 医 医 医 工 工 工 工 園	赤松 茂 柳田 友道 盛永 四郎 高田 安之 原 一郎 森田 秀一 福田 篤郎 赤松 茂 岡林 篤 加賀谷 勇之助 横川 宗雄 三輪 清三 中村 常郎 馬場秋次郎 笹井 明 河村貞之助	1,390 700 100 20 30 150 170 200 200 190 30 180 30 30 180 30
	科学試験研究費	低周波育髄通電の生理及び臨床応用 脊椎々体並に椎間板に対する前方直達的(経胸経腹膜等)手術療法の研究 皮膚に於けるビタミンB ₁ 、B ₂ 、B ₆ 代謝の研究 カシンベック病の研究(継2年)	医 医 医 医	鈴木 正夫 鈴木 次郎 竹内 勝 滝沢延次郎	350 400 350 400

科学研究費補助金

32	補助金		肺結核と肺癌の関連(継2年)	医	河合 直次	300
			尿尿消化槽の改良に関する研究	医	谷川 久治	400
			アルキールポリアミン類の生物学的応用	薬	宮木 高明	300
			果樹の隔年結果に関する研究(継2年)	園	永沢 勝雄	450
			圃場における殺虫剤の効果増進に関する研究	園	野村 健一	400
33	科学研究費交付金	総合研究	微生物の胞子に関する生理学的並びに化学的研究(継2年)	研	柳田 友道	800
			代謝の酵素学的研究(継3年)	医	赤松 茂	1,500
			誘発筋電図研究とその臨床的応用	医	鈴木 正夫	1,000
		各個研究	知覚におけるBezugs-systemの研究	文理	盛永 四郎	100
			ドイツ語の特質とドイツ文体論の研究	文理	竹内英之助	30
			Fe-Co Alloy のDāmani Pattern	文理	高田 安之	30
			青年期における価値観の形成に関する実証的研究	教育	村瀬 隆二	150
			脳内における微量活性物質の薬理学的研究	医	小林 龍男	150
			人体寄生虫類の細胞学的並びに細胞化学的研究	医	横川 宗雄	200
			心脈管力学的分析の臨床応用	医	斎藤 十六	200
			胃下垂症の病因並びにその治療に関する研究	医	中村 武	200
			鉤虫の感染経路に関する研究	医	柳沢利喜雄	200
			運動照射法に関する研究	医	梅垣洋一郎	200
			引張成形法に関する基礎的研究	工	馬場秋次郎	200
			迅速カラー写真法の基礎的研究	工	笹井 明	200
			Protens Morganii 基他グラム陰性桿菌のMistidine decarboxylase activityに関する研究	研	相磯 和嘉	200
	科学試験研究費補助金		飲料水の化学成分異常による慢性骨病の研究	医	滝沢延次郎	500
			脊椎々体並に椎間板に対する前方直達手術療法の研究(経腹的経胸的)の研究(継2年)	医	鈴木 次郎	400
			Exponential wave (所謂三角波)の試作とその臨床的応用	医	三輪 清三	300
			皮膚に於けるビタミンB ₁ B ₂ B ₆ 代謝の研究(継2年)	医	竹内 勝	300
			尿尿消化槽の改良に関する研究(継2年)	医	谷川 久治	480
			肺癌の外科療法に関する研究	医	河合 直次	500
			アルキルポリアミン類の生物学的応用(継2年)	薬	宮木 高明	300
			果樹の隔年結果に関する研究(継3年)	園	永沢 勝雄	600
			圃場における殺虫剤の効果増進に関する研究(継2年)	園	野村 健一	500
	科学研究費	総合研究	微生物の胞子に関する生理学的並びに化学的研究(継3年)	研	柳田 友道	800
			誘発筋電図研究とその臨床的応用(継2年)	医	鈴木 正夫	1,100
		機関研究	人体神経及び筋の電気生理学的並びに電気	医	鈴木 正夫	4,250

34	交付金	治療学的研究			
	各個研究	視空間の不等質性に関する研究 18世紀イギリス農村社会の研究 ドイツ語の Lant-Archine (音響記録集) 作成と Akus-tisch (聴覚的) な研究 Co多結晶の do-main pattern とその微細構造について 新田集落の研究 脳の機能解剖学的研究 脳内における微量活性物質の薬理学的研究 無菌動物を用いる感染防禦機構の研究 鉤虫の感染経路に関する研究 胆道疾患の研究 脊椎固定に関する研究—特に代用椎体の研究 微生物によるアルカロイド構造の変改 引張成形法に関する基礎的研究 果樹花粉の活性化に関する研究 造園樹木の植栽分布に関する調査研究 水和系、乳剤系並びに粉剤系、殺線虫剤の考案と実用に関する研究 土壌の冷却機構に関する研究 麴カビの磷酸代謝に関する研究	文理 文理 文理 文理 教育 医 医 医 医 医 医 薬 工 園 園 園 園 研	盛永 四郎 鶴見 卓三 田中 康一 高田 安之 菊地 利夫 草間 敏夫 小林 龍男 田波潤一郎 柳沢利喜雄 綿貫 重雄 鈴木 次郎 宮木 高明 馬場秋次郎 大野 正夫 飯島 亮 河村貞之助 関口 有方 西 荒介	90 120 100 80 110 150 100 180 200 200 170 190 130 90 60 200 220 50
35	科学試験研究費補助金	飲料水の化学成分異状による慢性骨病の研究(継2年) Exponential wave (所謂三角波) の試作並びに強さ期間曲線測定装置の臨床普及型の試作とそれらの臨床的応用 心脈管力学的分析法の改良とその臨床的応用 病態栄養学の研究 夜尿症の研究 放射性沃素 (I^{131}) の模倣線源の製作	医 医 医 医 医 医	滝沢延次郎 三輪 清三 斎藤 十六 中山 恒明 百瀬 剛一 寛 弘毅	550 440 550 500 300 450
	科学研究費交付金	総合研究 超微形態学的病理学確立に関する研究 誘発筋電図の臨床的応用(継3年) 微生物の増殖に関する細胞生化学的研究 機関研究 癌の本態に関する研究特に癌細胞の代謝及び抗癌性物質に関する研究 各個研究 視空間の不等質性に関する研究 Walt Whitmanと日本文学 日本選挙制度の歴史的政治的実態の調査と研究 二枚貝の核酸代謝の研究 液浸粉体光弾性実験法による粉体力学の研究 学級の syntality 形成に関するQ—方法論的研究—類型的因子の実験的研究	医 医 研 医 文理 文理 文理 文理 文理 教育	滝沢延次郎 三輪 清三 柳田 友道 荒木 直躬 盛永 四郎 吉武 好孝 杢 正夫 石田 周三 若林 隆夫 竹内 長士	1,100 800 900 3,840 110 100 80 100 150 30

科学研究費補助金

35		白血球増多因子に関する研究	医	福田 篤郎	150
		摂取食物に関する研究	医	宮内義之介	200
		鉤虫の感染経路に関する研究	医	柳沢利喜雄	200
		肺癌発生の基礎的研究	医	井出源四郎	150
		無菌動物を用いる感染防禦機構の研究	医	田波潤一郎	200
		肺高血圧と大循環系の高血圧とその比較研究	医	斎藤 十六	200
		胆道系疾患の研究	医	綿貫 重雄	220
		脊椎側彎病の研究—特に治療法について	医	鈴木 次郎	50
		鼻粘膜炎症を修飾する因子の研究—内分泌	医	奥田 稔	50
		微生物によるアルカロイドの構造の変換	薬	宮木 高明	200
		カラーテレビジョンの天然色写真録画に関する研究	工	源田秀三郎	200
		圧縮曲げ加工に関する研究	工	戸沢 康寿	210
		光干渉による電圧測定法	工	越川 純男	50
		水和系乳剤系並粉剤系殺線虫剤の考案と実用に関する研究	園	河村貞之助	200
		果樹花粉の活性化に関する研究	園	大野 正夫	190
		育苗条件が果菜類の苗の光合成作用に及ぼす影響	園	渡辺 斎	200
		哺乳動物卵子の第2極体形成の機構並びにその意義について	園	石橋 功	50
	科学試験研究費補助金	眩光防止用偏光板の試作研究	文理	山口太三郎	350
		合成樹脂による包埋標本の製作	医	草間 敏夫	550
		循環器系疾患の健康管理基準設定に関する研究	医	柳沢利喜雄	650
		病態栄養学の研究(継2年)	医	中山 恒明	500
		神経興奮の生理的反復に関する実験的研究	医	本間 三郎	500
		夜尿症の研究(継2年)	医	百瀬 剛一	400
		C. T. V. (カラーテレビジョン)録画に関する Automatic Color Computer 試作の研究	工	源田秀三郎	850
		果樹園の灌水法に関する研究	園	永沢 勝雄	600
36	科学研究費交付金	総合研究 ウイルス及びウイルス病に関する総合的研究	医	川喜田愛郎	4,000
		超微形態学的病理学確立に関する研究(継2年)	医	滝沢延次郎	1,800
		肺癌の発生	医	滝沢延次郎	1,900
		移行性幼線虫症に関する研究(線虫類幼虫の異所寄生及び迷入による症患者群の研究)	医	横川 宗雄	1,400
		誘発筋電図の臨床的研究(継2年)	医	三輪 清三	1,600
		制癌性化合物の合成的研究	薬	宮木 高明	1,700
		微生物の増殖に関する細胞生化学的研究(継2年)	研	柳田 友道	1,500
		機関研究 (C) 癌の本態に関する研究	医	荒木 直躬	500
		(C) 人体神経及び筋の電気生理学的並びに電気治療学的研究	医	鈴木 正夫	650

36	(A) 医薬品検定の基準に関する基礎的研究	業	萩庭 丈寿	4,700
	各個研究	二枚貝の核酸代謝の研究	文理 石田 周三	100
		コバルト単結晶の磁壁	文理 高田 安之	80
		液浸粉体光弾性実験法による粉体力学の研究	文理 若林 隆夫	180
		遷延感作と膠原病	医 岡林 篤	200
		胆道系疾患の研究	医 綿貫 重雄	200
		脊椎側彎症の研究、特に治療法について	医 鈴木 次郎	100
		除蛋白骨の骨移植の研究	医 佐藤 伊吉	200
		カロリメーターゾンデによる諸種器官血流量の測定	医 萩原弥四郎	80
		鼻腔機能としての Air onditioning	医 奥田 稔	80
		抗原性異物としての癌細胞に対する生体反応と特異的抗体によるその修飾	医 桜井 信夫	200
		テレビ電話に関する基礎研究	工 小郷 寛	80
		電子流に対するホール類似効果	工 藤沢 義男	180
		放電加工用電極に関する研究	工 六碓 賢亮	200
		大気圏外に应用される天然色写真の基礎的研究	工 源田秀三郎	200
		延喜式の意匠学的研究	工 福井 晃一	50
		「はす種子」蛋白質に関する研究	園 信濃 栄	200
		畑作物栽培に関する気象環境改善の研究	園 中原 孫吉	280
		土壌の色に関する研究	園 小島 道也	80
		果樹の無袋栽培に関する研究	園 高橋 英吉	80
		病原性好塩菌の腸炎超炎性に関する研究	研 相磯 和嘉	200
		独立革命期におけるアメリカ植民地の都市に関する研究	工短 仲田 光	100
	科学試験研究費補助金	眩光防止用偏光板の試作研究(継2年)	文理 山口太三郎	400
		日本に於けるカンベン病の病因に関する研究	医 滝沢延次郎	670
		消化器癌手術の栄養学的研究	医 中山 恒明	650
		各種皮膚疾患に於ける組織化学的研究	医 竹内 勝	470
		線スキャニング (Linear Scanning) 装置の試作とその臨床的応用	医 笥 弘毅	650
		循環器系疾患の健康管理基準設定に関する研究(継2年)	医 柳沢利喜雄	550
		C T V (カラーテレビジョン) 録画に関する Automatic Color Computer 試作の研究(継2年)	工 源田秀三郎	870
		果樹園の灌水法に関する研究(継2年)	園 永沢 勝雄	500
37	科学研究費交付金	総合研究	医 川喜田愛郎	4,500
		ウイルス及びウイルス病に関する総合的研究(継2年)	医 横川 宗雄	1,600
		移行性幼線虫症に関する研究(線虫類幼虫の異所寄生及び迷入による疾患群の研究)(継2年)	医 滝沢延次郎	2,500
		肺癌の発生(継2年)	薬 宮木 高明	2,100
		制癌性化合物の合成的研究(継2年)	園 野村 健一	950
		薬剤抵抗性昆虫の防除に関する基礎的研究		

科学研究費補助金

37		微生物の増殖に関する細胞生化学的研究 (継3年)	研	柳田 友道	1,500
	機関研究	向精神薬の基礎的研究、特にサルに於ける情動の解析	医	小林 龍男	7,800
	(A)	カラーテレビジョンの天然色フィルム撮像系の研究	工	源田秀三郎	7,470
	(A)	成育環境、特に気温地温及び日長が作物生態に及ぼす影響	園	林 四郎	2,400
	(A)	医薬品検定の基準に関する基礎的研究(継)	薬	萩庭 丈寿	650
	各個研究	運動と物の知覚に関する研究	文理	盛永 四郎	110
		スピネルの Distortion	文理	青木 育雄	80
		マムシ卵膜の生化学的研究	文理	井坂 三郎	80
		損傷と兇器に関する研究(自動車による損傷について)	医	宮内義之介	200
		アメリカ鉤虫の経口感染成立のための条件設定に関する研究	医	柳沢利喜雄	200
		Niederdrucksystem における血行力学的研究特に肺動脈系に於ける Peaking 現象を中心にして	医	斎藤 十六	150
		胆嚢胆道系疾患の病態診断とその治療に関する臨床的研究	医	三輪 清三	150
		肺臓外科に於ける肺機能	医	綿貫 重雄	200
		男子不妊症の研究	医	百瀬 剛一	80
		昏睡の覚醒機序について	医	松本 胖	200
		除蛋白骨の骨移植の研究	医	佐藤 伊吉	200
		実験的鼻副鼻腔炎特に鼻茸発生機序について	医	奥田 稔	200
		γ系を中心とする脊椎機構に関する薬理学的研究	医	久我 哲郎	80
		整形外科領域に於ける接着剤の研究	医	石川 芳光	60
		Diaryliodonium 化合物の合成並びに求核置換反応	薬	坂井進一郎	80
		電子流に対するホール類似効果	工	藤沢 義男	200
		計算装置の記憶素子に使用する感光材料の研究	工	源田秀三郎	200
		曲げ加工性試験に関する研究	工	戸沢 康寿	220
		果樹の単為結果機構に関する研究	園	永沢 勝雄	220
		独立革命期に於けるアメリカ植民地の商人の経営に関する研究	工短	仲田 光	120
	科学試験研究費補助金	試験研究	医	滝沢延次郎	700
		日本に於けるカンシンベック病の病因に関する研究(継2年)	学長	谷川 久治	800
		無菌動物飼育用ビニール・アイソレーターの作製および改良の研究「試作研究」	医	竹内 勝	700
		³⁵ S Thiamine の代謝(とくに皮膚)の研究	医	寛 弘毅	700
		カラスキャンニング装置の試作とその臨床的応用	医	湊 顕	650
		ラジオアイソトープによる軟膏の経皮吸収に関する研究	薬		

38	科学研究費交付金	特定研究 (総合)	肺臓における発癌因子の研究 日本脳炎ウイルスに関する研究 ウイルスの基礎的研究	医 医 医	滝沢延次郎 川喜田愛郎 川喜田愛郎	2,900 2,700 2,000
		総合研究	近世における集落構造の地域差とその展開に関する歴史地理学的研究	教育	菊地 利夫	1,100
			尿尿処理に関する総合的研究(消火判定法、消化促進施設の改良研究)	医	谷川 久治	1,460
			薬剤抵抗性昆虫の防除に関する基礎的研究(継2年)	園	野村 健一	900
		機関研究 (A)	無菌及びS. P. F 動物の応用に関する基礎研究	医	鈴木 正夫	7,000
			(A) 向精神薬の基礎的研究特にサルにおける情動の解析(継)	医	小林 龍男	750
			(A) 医薬品検定の基定の基準に関する基礎的研究(継)	薬	萩庭 丈寿	680
			(A) カラーテレビジョンの天然色フィルム撮像系の研究(継)	工	源田秀三郎	870
		各個研究	運動と物の知覚に関する研究	文理	盛永 四郎	130
			金属材料の高温動の強度特性に関する研究	文理	大和田 信	200
			全国方言語彙の研究—日本方言辞典を作るために—	文理	大岩 正仲	130
			スピネルのDistortion	文理	青木 育雄	150
			コムシ卵膜の生化学的研究	文理	井坂 三郎	90
			中部日本の中生代古生物と微地質構造の研究	文理	前田 四郎	80
			結晶片岩中の硫化鉱物と酸化鉱物	文理	兼平慶一郎	270
			近世関東に於ける地主経営の発達	文理	佐々木 陽一郎	50
			放射線の生物作用機構に関する実験発生学的研究	医	野中 俊郎	200
			損傷と兇器に関する研究(自動車による損傷)	医	宮内義之介	200
			エネルギー性力学的心全と力学的心全の比較研究	医	斎藤 十六	150
			胆嚢胆道系疾患の病態診断とその治療に関する臨床的研究	医	三輪 清三	80
			肝胆道系腫瘍の研究	医	綿貫 重雄	200
			学童側癱症の集団検診による実態調査並にその予防についての研究	医	鈴木 次郎	200
			皮膚疾患における糖代謝とビタミンB ¹ とに関する組織化学的研究	医	竹内 勝	200
			昏睡の覚醒機序に関する研究—昏睡とncclestid との関連—	医	松本 胖	200
			Endotoxin に対する生体反応	医	福田 篤郎	200
			微小電極による運動ニューロン発火の研究	医	本間 三郎	80
			腫瘍間質の組織化学的研究	医	林 豊	200
			放射性同位元素の動注による癌の組織内照射治療法の研究	医	有水 昇	80
			ガス液境界相に於けるガス濃度の測定	薬	三宅 良一	200

科学研究費補助金

38		金属キレートに基づく医薬品分析について	薬	坂口 武一	200	
		天然色製版用カラースキャナーの基礎的研究	工	源田秀三郎	200	
		テレビ電話の走査方式に関する研究	工	小郷 寛	180	
		室内計画の人間工学的研究	工	小原 二郎	220	
		固体塩の熱分解反応に関する研究 特に分解生成物の諸性質について	工	橋本 栄久	200	
		曲げ加工性試験に関する研究	工	戸沢 康寿	200	
		住宅需要の地域的性格に関する研究	園	宮崎 元夫	230	
		高等植物における含硫アミノ酸の生体内合成機作に関する研究	園	田村 五郎	80	
		中生代(白亜紀)の材化石の研究	留	西田 誠	70	
		独立革命期におけるアメリカ植民地都市に関する研究	工短	仲田 光	80	
	科学試験研究費補助金	試験研究	人体の横断および縦断の完全連続標本の作製	医	福山 右門	750
			植物異常分解成分飲用による骨病の研究	医	滝沢延次郎	800
			肺癌のX線像に関する病理形態学的研究	医	香月 秀雄	600
		子宮頸癌の組織化学的研究	医	御園生雄三	800	
		頸部廓清術の基礎的研究	医	北村 武	900	
		高血圧、脳卒中予防の地区別、職種別実施計画の設定とその効果の眼底所見を主とする追跡的研究	医	柳沢利喜雄	750	
		ラジオ・アイソトープによる軟膏の経皮吸収に関する研究(継2年)	薬	湊 顕	700	
		蔬菜礫耕の実用化に関する研究	園	藤井 健雄	600	
39	科学研究費交付金	特定研究(1)	肺臓における発癌因子の研究	医	滝沢延次郎	3,200
			日本脳炎ウイルスに関する研究	医	川喜田愛郎	2,000
		(2)	ウイルスの基礎的研究	医	川喜田愛郎	1,510
			薬物による高次神経活動の解析に関する研究	医	小林 竜男	1,550
			がん細胞の細胞化学的研究	医	三浦 義彰	7,880
		千葉工業地域大気汚染・水質汚濁の社会及び臨床医学的並びに生物学的研究	学長	谷川 久治	1,000	
		東南アジアおよび中近東地域における工業技術並びに工業教育振興のための基礎的研究	工	辻井 静二	840	
	総合研究	近世における集落構造の地域差とその展開に関する歴史地理学的研究(継2年)	教育	菊地 利夫	700	
		尿尿処理に関する総合的研究(継2年)	学長	谷川 久治	1,900	
		薬剤抵抗性昆虫の防除に関する基礎的研究(継3年)	園	野村 健一	1,170	
	機関研究(A)	(A)	E L 蒸着膜と結像系への応用	工	小郷 寛	5,150
		(B)	血圧調節反射機構に関する組織学的並びに機能学的研究	医	福山 右門	2,740
		(A)	無菌及び S. P. F. 動物の応用に関する基礎研究(継)	医	鈴木 正夫	700
(A)		カラーテレビジョンの天然色フィルム撮像	工	源田秀三郎	880	

39	系の研究(継)			
各 個 研 究	全国方言語彙の研究	文理	大岩 正伸	100
	スピネルのDistortion	文理	青木 育雄	90
	二枚貝の核酸分解酵素の研究	文理	石田 周三	180
	Endotoxinに対する生体反応	医	福山 篤郎	200
	筋紡錘の核袋核鎖繊維に関する研究	医	本間 三郎	90
	自己免疫過程の本態に関する研究	医	岡林 篤	220
	人体寄生吸虫類の生理 特に細胞学的並に細胞化学的研究	医	吉村 裕之	220
	血清電解質並に血漿蛋白分画の異常によつて生ずる心活動 異常の電気学的並に力学的実験研究	医	斉藤 十六	220
	胃癌集団検診の研究	医	三輪 清三	220
	肝胆道系癌の研究	医	綿貫 重雄	240
	肺癆痕癌に関する研究	医	香月 秀雄	80
	学童側彎症の集団検診による実態調査並にその予防についての研究	医	鈴木 次郎	220
	慢性副鼻腔炎の疫学的研究	医	奥田 稔	80
	皮膚疾患における糖代謝とビタミンB ₁ とに関する組織化学的研究	医	竹内 勝	220
	前立腺癌における下垂体-副腎系の研究	医	百瀬 剛一	240
	ビタミンB ₁ と金属イオンとの反応性	薬	山根 靖弘	220
	薬剤性菌の化学療法に関する基礎的検討	薬	山岸 三郎	220
	錠剤の崩壊に関する研究	薬	仲井 由宣	90
	電子ビームによる写真製版の基礎研究	工	石原 俊	200
	ハサミゲージに関する研究	工	林 則行	220
	有機基を含む縮合リン酸塩の生成ならびにリン低級酸素酸の縮合反応	工	植田 四郎	90
	写真製版用感光材料の乳剤製造に関する基礎的研究	工	源田秀三郎	220
	混合粒子法 カラー乳剤の研究	工	入江 春雄	90
	Aspergillus amstelodami の scospore と aonidiospore の発芽時における窒素代謝に関する研究	園	矢吹 稔	80
	トマト加工品の色調に関する研究 <model system によるリコピン色調の変化について>	園	竹花秀太郎	90
	中生代の材化石の研究	留	西田 誠	80
	抗生物質の生合成	研	赤松 暢	80
	学級における児童生徒の対人認知に関する研究	教育	井上 健治	50
科学試験研究費補助金	試験研究			
	肺癌のX線像に関する病理形態学的研究(継2年)	医	香月 秀雄	790
	植物異常分解成分飲用による骨病の研究(継2年)	医	滝沢延次郎	900
	高血圧、脳卒中予防の地区別、職種別、実施計画の設定とその効果の眼底所見を主とする追跡的研究(継2年)	医	柳沢利喜雄	900
	蔬菜礫耕の実用化に関する研究(継2年)	園	藤井 健雄	640

科学研究費補助金

40	科学研究費補助金	特定研究 (1)	日本脳炎ウイルスに関する研究	医	川喜田愛郎	2,232
			癌とウイルスとの関係に関する研究	医	〃	3,420
			ウイルスの基礎的研究	医	〃	1,350
			薬物による高次神経活動の解析に関する研究	医	小林 竜男	1,530
			肺臓における発癌因子の研究	医	滝沢延次郎	2,880
		特定研究 (2)	千葉工業地域大気汚染水質汚濁の社会及び臨床医学的並びに生物学的研究	学長	谷川 久治	900
			東南アジアおよび中近東地域に於ける工業技術ならびに工業教育振興のための基礎的研究	工	辻井 静二	756
		総合研究	日本における英学導入史の総合的研究 —英詩・英文学を中軸として	文理	吉武 好孝	972
			交通災害に関する法医学的研究	医	宮内義之介	1,710
		機関研究 (A)	E L 蒸着膜と結像系への応用(継)	工	小郷 寛	1,755
		(B)	血圧調節反射機構に関する組織学的並びに機能学的研究(継)	医	福山 右門	540
		(B)	ラジオアイソトープ法による医薬品の作用機序に関する研究	薬	湊 顕	1,683
		(B)	ガラス室ビニールハウスにおける作物の炭酸ガス吸収並びに補給に関する研究	園	藤井 健雄	2,720
		(A)	無菌およびS.P.F動物の応用に関する基礎研究(継)	医	田波潤一郎	360
		各個研究	二枚貝の核酸分解酵素の研究	文理	石田 周三	162
			戦後の我国における欧米哲学摂取の状況—その実態と背景—	文理	福鎌 達夫	135
			スピネルの Distortion	文理	青木 育雄	72
			政治的理性の批判	文理	前田 康博	81
			学級における児童生徒の対人認知に関する研究	教育	井上 健治	63
			血清電解質ならびに血漿蛋白分割の異常によって生じる心活動異常の電気学的力学的ならびに病理組織学的実験研究	医	斎藤 十六	225
			胃癌集団検診の研究	医	三輪 清三	225
			制癌剤動注法の基礎的臨床的研究	医	綿貫 重雄	216
			脊髄損傷に対する神経移植法の研究	医	鈴木 次郎	216
			若年性緑内障及び半眼の隅角所見と機能の関連性に就いて	医	鈴木 宜民	243
			臭鼻症の本能に関する研究(生化学的研究)	医	北村 武	225
			筋紡錘発射の解析に関する研究	医	本間 三郎	225
			X線立体顕微鏡の利用による人体臓器模型作製の研究	医	遠山 富也	216
			男性不妊症の細胞学的研究	医	永野 俊雄	90
			悪性度に関連した腫瘍基質の組織化学的研究	医	林 豊	90
			薬物代謝の種特異性に関する研究	薬	北川 晴雄	180
			異項環キノン誘導体の合成	薬	池田仁三郎	180

40			気化器の研究	工	浅野 弥祐	90
			プレハブ鉄筋コンクリート構造の接合部に関する実験的研究	工	小林 秀弥	225
			ポデ、チブからポデ、チブの得られる感光性樹脂の研究	工	角田 隆弘	279
			社会福祉施設の建築計画に関する研究	工	伊藤 誠	207
			熱分解過程の構造変化	工	橋本 栄久	207
			静電写真用材料に関する基礎的研究	工	高橋 恭介	81
			線虫と他微生物とによる複合病 (Complex disease)に関する研究	園	河村貞之助	234
			土壌の色に関する研究	園	小島 道也	180
			蔬菜ビニール栽培における炭酸ガス施用に関する研究	園	伊東 正	108
			切花の品質と収量の解析	園	横井 政人	90
			シダ類配偶体の分類学的研究	留	百瀬 静男	162
			関東地域の中生代の研究	留	前田 四郎	99
			抗生物質の生合成	研	赤松 暢	90
			好塩細菌の高濃度 Na ⁺ or K ⁺ 依存性のNucleotidaseの研究	研	畝本 力	90
	試験研究		リグニン分解成分飲用による骨病の研究	医	滝沢延次郎	1,053
			異形吸虫類及び異形吸虫症に関する研究	医	横川 宗雄	873
			ホルモン依存性癌の下垂体組織内照射法の研究	医	百瀬 剛一	900
			果樹における生長調整物質の作用効果と体内外条件との関係	園	永沢 勝雄	630
41	科学研究費補助金	特定研究 (1)	肺における「がん」増殖と進展の特殊性	医	滝沢延次郎	2,500
			癌とウイルスとの関係に関する研究	医	川喜田愛郎	4,000
			癌細胞増殖機構に及ぼすホルモンの研究	医	三浦 義彰	2,500
			薬物による高次神経活動の解析に関する研究	医	小林 竜男	1,700
			千葉工業地域の大気汚染と水質汚濁の医学的研究	学長	谷川 久治	1,500
			草地生態系の解析法に関する研究	文理	沼田 真	1,500
			ウイルスの基礎的研究	医	川喜田愛郎	3,500
			(2) 脳の情報処理機構に関する電子顕微鏡学的研究	医	大谷 克巳	4,300
		総合研究	アメリカ近代倫理思想研究	文理	白田 貴郎	1,220
			交通災害に関する法医学的研究(継2年)	医	宮内義之介	2,100
		機関研究 (A)	免疫病理学に関する基礎的病床の研究	医	川喜田愛郎	9,140
			E L 蒸着膜と結像系への応用(継続A)	工	小郷 寛	3,650
			ラジオアイソトープ法による医薬品の作用機序に関する研究(継続B)	薬	湊 顕	1,990
			ガラス室ビニールハウスにおける作用の炭酸ガス吸収並びに補給に関する研究(継続B)	園	藤井 健雄	900

科学研究費補助金

41	各個研究	色彩対比の分析的研究	文理	大山 正	120
		宗門人別帳による徳川時代人口の研究	文理	佐々木 陽一郎	120
		軟体動物における核酸代謝の研究	文理	石田 周三	180
		下総台地洪積層の岩石学的研究	文理	近藤 精造	140
		希薄な非平衡電離気流における荷電粒子のふるまい	工	本間 弘樹	110
		気化器の研究	工	浅野 弥祐	250
		プレストレスを与えた交叉リブを有する床又は壁用コンクリート立版	工	小林 秀弥	260
		活性メチレン基を有する高分子化合物の合成及びその応用	工	長久保国治	270
		火山灰土の果樹の生理的特性に関する研究	園	野田 健男	300
		動力噴霧機の性能向上に関する研究	園	児玉 義彦	240
		過排卵々子の形態的研究	園	石橋 功	90
		一特に卵子の正常性受精と発育について一			
		外国人留学生のための日本語教育の基礎的研究	留	林田 明	100
		シダ類配偶体の分類学的研究	留	百瀬 静男	120
		関東地方東部の地質学的研究	留	前田 四郎	150
		リボ蛋白の生合成	医	麻生 芳郎	250
		慢性植込み交叉熱電対による肝血流動態の研究	医	萩原弥四郎	250
		エネルギー性力学的心不全の研究及び非観血的心力学的分析法の再検討	医	斉藤 十六	250
		骨系統的疾患に対する生化学的検討特に核酸蛋白質代謝異常に関する研究	医	井上 駿一	110
		唾液腺症の免疫学的研究	医	北村 武	260
		エリテマトーデスにおける免疫機序の研究	医	小林 健正	150
		高齢者癌の手術に対する麻酔と術后処置に関する研究	医	米沢 利英	270
		薬物代謝よりみた薬効及び毒性の評価の研究	薬	北川 晴雄	250
		錠剤の崩壊機構に関する研究	薬	仲井 由宣	230
		好塩細菌の高濃度Na ⁺ or K ⁺ 依存性のNucleotidaseの研究	薬	畝本 力	130
		金属メルカプト化合物の写真化学的性質の研究	工	笹井 明	270
		鳴り砂の振動数分析及び梵鐘の振動数分析を通じて楽音機構うなりの機構を究明する	文理	高原 光	300
	試験研究	異形吸虫類及び異形吸虫症に関する研究(継2年)	医	横川 宗雄	960
		リグニン分解成分飲用による骨病の研究	医	滝沢延次郎	1,000
		超音波による癌診断(体腔内ゾンデBスコープ法P.P.I法による)	医	綿貫 重雄	1,180
		ホルモン依存性癌の下垂体組織内照射法の研究(継2年)	医	百瀬 剛一	720
		ポータブルシンチレーションスキャナー	医	寛 弘毅	870
		無線式小型電気刺激装置の実験的研究	医	本間 三郎	1,050

41			子宮頸部上皮内癌の組織化学的研究	医	御園生雄三	790
			日本産植物より得られるインドール系アルカロイドの加工並びに利用に関する研究	薬	萩庭 丈寿	800
			果樹における生長調整物質の作用効果と体内外条件との関係(継2年)	園	永沢 勝雄	750
			作物の根群層の地象環境調節に関する研究	園	中原 孫吉	770
42	科学研究費補助金	がん特別研究 (1)	肺における「がん」増殖と進展の特殊性	医	滝沢延次郎	2,500
			癌細胞増殖機構に及ぼすホルモンの研究	医	三浦 義彰	2,500
			癌とウイルスとの関係に関する研究	医	川喜田愛郎	4,200
			(2) 肺癌発生に与えるアルミニウムの影響	医	香月 秀雄	1,000
		特定研究 (1)	草地生態系の解析法に関する研究	文理	沼田 真	2,200
		総合研究	わが国におけるドイツ語教育の諸問題—教育制度の再検討と教授法・教科内容の具体案に関する研究	文理	田中 康一	1,460
			照明環境の情報処理に関する研究	工	田辺 隆治	1,630
			交通災害に関する法医学的研究	医	宮内義之介	2,250
			薬物代謝よりみた薬効と毒性の研究	薬	北川 晴雄	1,600
		機関研究 (A)	微生物の生産する毒性物質の研究	研	相磯 和嘉	6,200
			(B) プレテンションを与えた無型枠プレストレストコンクリートプレハブ部材の研究	工	小林 秀弥	1,310
			(A) 免疫病理学に関する基礎的臨床的研究(継続)	医	川喜田愛郎	5,800
		各個研究	教職に関する心理学的研究	教育	井上 健治	100
			民衆詩派と外国文学	教育	太田 三郎	150
			基本権の権利性と体系的の研究	文理	尾吹 善人	140
			鳴り砂の振動数分析および梵鐘の振動数分析を通じて楽音の発音機構、うなりの機構を究明する	文理	高原 光	250
			弱塩基性イオン交換体を利用する稀元素のイオン交換クロマトグラフィー	工	黒田 六郎	300
			軟体動物における核酸代謝の研究	文理	石田 周三	180
			木部の系統解剖学的研究	文理	亙理 俊次	150
			中央日本における農林業的土地利用の遷移特に耕境変動に関する研究	教育	白浜 兵三	200
			シダ類配偶体の分類学的研究	留	百瀬 静男	100
			板の剪断に関する研究	工	大和田 信	270
			地域開発過程における環境施設及び居住慣行の変化再編に関する研究	工	小泉正太郎	330
			化学反応による無機縮合リン酸塩の合成	工	植田 四郎	280
			金属メルカプト化合物の写真化学的性質の研究	工	笹井 明	280
			もやし原料豆(Mung Bean)の硬実発生の生態学的研究	教育	石井 善一	100
			1. 特に水分及び温度の関係について			
			果樹類の栽植密度と気象条件との関係	園	渡辺 斉	260

科学研究費補助金

42		柑橘の薬剤摘果機構に関する研究	園	大野 正夫	200	
		線虫と他微生物とによる複合病 (complex disease) の発病機構と植物抵抗に関する研究	園	平野 和弥	100	
		リポ蛋白質の生合成	医	麻生 芳郎	190	
		副鼻腔上気道及び肺臓に及ぼす大気汚染物質と細菌感染との相互作用	医	田波潤一郎	250	
		呼吸筋支配神経発射と換気機構に関する研究 特に肺循環動態の変動及び異常換気状態を中心にして	医	斉藤 十六	270	
		特発性食道拡張症の成因と治療に関する研究	医	佐藤 博	270	
		先天性幽内狭窄症の筋電図学的並びに組織学的研究	医	綿貫 重雄	270	
		放射線ステロイドによる血中コルチゾール簡易測定法	医	中島 伝徳	200	
		唾液腺症の免疫学的研究	医	北村 武	250	
		外用ステロイドの抗炎症性に関する研究	医	麻生 和雄	270	
		脱髄性脳脊髄炎の病理発生機序に関する研究	医	松本 胖	120	
		癌患者の手術に対する麻酔と術后処置に関する研究	医	米沢 利英	270	
		被膜錠よりの主薬溶出に関する熱解析的研究	薬	仲井 由宜	270	
		ニトロ基を有する放線菌代謝産物の構造と生物作用	薬	小山 泰正	250	
	試験研究		ヨウ化水銀写真乳剤の製造と特性に関する研究	工	鈴木 伸	880
			電燈による害虫類の誘引・忌避に関する研究	園	野村 健一	940
			作物の根群層の地象環境調節に関する研究 (継2年)	園	中原 孫吉	910
			無線式小型電気刺激装置の実験的研究 (継2年)	医	本間 三郎	900
			フェノール系有機酸飲用による骨病の研究	医	滝沢延次郎	900
		エンテロトキシンの精製及びその血清学的検出法に関する研究	研	藤原喜久夫	1,000	
		異形吸虫類及び異形吸虫症に関する研究 (継3年)	医	横川 宗雄	970	
		泌尿器科領域における 冷凍外科 (Cryosurgery) に関する研究	医	百瀬 剛一	1,100	
		日本産植物より得られるインドール系アルカロイドの加工並びに利用に関する研究 (継2年)	薬	萩庭 丈寿	800	
		生体アミン類の医薬性に関する研究	研	林 誠	900	
43	科学 研究 費補	がん特別 研究 (1)	白血病のウイルス学的研究	学長	川喜田愛郎	3,300
			癌細胞増殖機構に及ぼすホルモンの研究	医	御園生雄三	2,750
			癌細胞オルガネラの核酸の研究	医	三浦 義彰	4,000
			肺における「癌」増殖と進展の特殊性	医	滝沢延次郎	2,750

科学研究費補助金

43		学術的研究	ヒトの培養筋芽細胞の分化に関する電子顕微鏡的研究	医	嶋田 裕	150
			一酸化炭素の作用機序に関する研究、一酸化炭素による血糖上昇機序について	医	平野 英男	150
			連続切片による羊涙腺上皮とその神経支配の電顕的研究	医	山内 昭雄	150
			芳香族アジド化合物の感光性とアジドポリマーの研究	工	山岡 亜夫	150
		試験研究 (1)	医療施設の体系的組織化に関する建築計画的な研究	工	伊藤 誠	600
			ヨウ化水銀写真乳剤の製造と特性に関する研究	工	鈴木 伸	1,000
			電灯による害虫類の誘引忌避に関する研究	園	野村 健一	960
			肝胆道系に対する超音波新技術の開拓	医	綿貫 重雄	1,000
			泌尿器科領域における冷凍外科に関する研究	医	百瀬 剛一	1,000
			生体アミン類の医薬性に関する研究	研	林 誠	900
	科学研究費補助金	がん特別研究 (1)	がん細胞オルガネラの核酸の研究	医	三浦 義彰	4,300
			肺癌発生の場に関する基礎的研究	医	香月 秀雄	2,500
			(2) 細胞の増殖に伴う酵素蛋白質代謝の変異に関する研究	医	橘 正道	3,850
		特定研究 (1)	化学発癌の抑制物質とその抑制機能の研究	医	宮木 高明	1,200
			地域性を生かした小中高校における地学の実験実習についての研究	教養	近藤 精造	1,200
			草地生態系(川渡特別研究地域等)の生産と保護に関する研究	理	沼田 真	3,510
		総合研究 (A)	(2) 視聴覚教育教材の開発に関する研究	工	近藤 厚実	900
			畦面被覆及び構造の地上地下環境調節作用に関する研究	園	中原 孫吉	1,780
			鞭虫症の病害性ならびに治療剤の開発に関する研究	医	横川 宗雄	2,200
		一般研究 (A)	R I 医薬品の生体内分布と線量測定及び人体におよぼす影響	医	寛 弘毅	1,800
			薬物代謝よりみた薬効と毒性の研究	薬	北川 晴雄	2,100
			照明環境の情報処理に関する研究(継続)	工	田辺 隆治	1,500
44		一般研究 (B)	細菌における薬剤耐性の遺伝生化学的機序	薬	山岸 三郎	2,110
			(C) 窒素を含む有機硫黄化合物の研究	理	武島 達夫	2,500
			造血組織の核酸前駆体獲得機構に関する研究	医	橘 正道	4,110
			軟体動物におけるテデニル酸の代謝に関する研究	理	石田 周三	4,100
			体表循環の正常化に関する基礎的並びに臨床的研究	医	萩原弥四郎	720
		(C)	19C 中葉のアメリカ文学と自然の概念	人	原田 敬一	450

44	本部の系統解剖学的研究 木元コリンエステラーゼ薬の血圧上昇作用 機構の中枢における Adrenergic 及び Cholinergic receptor の意義について 異グロブリン血症の成立機転 銅塩による Thiamine の新蛍光定量法 視覚系の電氣的活動と薬物の作用 気管支肺臓に及ぼす大気汚染物質と細菌感 染との相互作用 インドール系アルカロイド並びにその薬用 植物資源に関する研究 (D) 両眼視機制の実験的研究 離農の部落社会構造に及ぼす影響 教職に関する心理学的研究 強い衝撃波直後の非平衡電離境界層熱伝達 セルロースグリコール酸ナトリウムとジア ゾ系化合物による水溶性感光材料の製造に 関する研究 血液脳脊髄液関門のカルシウム透過性支配 因子 脊柱側湾症の原因別進展様相と治療適応に 関する研究 小児における副腎皮質ステロイド治療の副 腎質機能抑制の再検討 糖尿病性網膜症の免疫学的研究物にインス リン結合抗体について 柑橘の薬剤摘果機構に関する研究 真空電弧を蒸着源とする真空蒸着法	理 亙理 俊次 350 医 久我 哲郎 1,100 医 岡村 篤 600 薬 山根 靖弘 870 医 村山 智 340 医 田波潤一郎 200 薬 坂井進一郎 400 人 大山 正 200 教育 皆川 勇一 250 教育 井上 健治 120 工 本間 弘樹 330 工 渡辺綱市郎 200 医 福田 篤郎 240 医 井上 駿一 200 医 中島 博徳 240 医 石川 清 210 園 大野 正夫 200 理 山口太三郎 200
奨励研究 (A)	糸状菌による蛋白質の菌体外分泌機作に関 する研究 人工的温度変化が生体リズムに及ぼす影響 について特に温度変化と自律神経中枢の興 奮性について 死体皮膚の紫外線感受性に関する研究 肺癌発生に対する金属粉塵の影響特にアル ミニウムについて Cephalexin B-lactamase (Cephalexinase) に安定な合成 Cephalexin 開発の基 礎研究 チオミヒラーケトンによる水銀及び貴金属 類の化学分析	園 矢吹 稔 150 医 平野 英男 150 医 津金澤督雄 200 医 小林 延年 150 薬 沢井 哲夫 150 薬 田口 清美 150
試験研究 (1)	大気汚染が園芸作物におよぼす影響 水士面施用殺虫剤の作用機作 抗リンパ球血清の精製に関する研究 農村貧血の成因に関する研究、これに摂取 食品の量と質に関する問題 固形医薬品製剤からの主薬溶出試験法の研 究	園 永沢 勝雄 890 園 野村 健一 890 医 佐藤 博 1,850 医 柳沢利喜雄 1,500 薬 仲井 由宜 1,330
(2)	教育用の合成樹脂包埋標本の試作	医 大谷 克己 500

科学研究費補助金

44		シンチカメラによる臓器像の三次元的表示方法(断層シンチグラム)の実用化と装置の試作	医	筧 弘毅	1,000
		肝胆道系疾患に対する超音波新技術の開拓(継続)	医	綿貫 重雄	1,000
		医療施設の体系的組織化に関する建築計画的研究(継続)	工	伊藤 誠	600
45	科学研究費補助金	がん特別研究 (1) 肺癌発生の場に関する基礎的研究	医	香月 秀雄	2,500
		がん細胞オルガネラの核酸の研究	医	三浦 義彰	4,700
		(2) Aflatoxin 発がん作用機作説の再検討	研	宮木 高明	1,570
		ニトロフラン誘導体のDAB肝癌抑制機序の研究	研	蟹沢 成好	1,000
		特定研究 (1) 草地生態系の生産と保護に関する研究	理	沼田 真	3,830
		(2) 視聴覚教育教材の開発に関する研究	工	近藤 厚実	1,600
		脳障害による運動失調と運動神経細胞に対する情報処理の研究	医	本間 三郎	5,000
		総合研究 (A) 畦間被覆および構造の地上地下環境調節作用に関する研究(継続)	園	中原 孫吉	1,630
		鞭虫病の病害性ならびに治療剤の開発に関する研究	医	横川 宗雄	2,200
		RI. 医薬品の生体内分布と線量測定及び人体におよぼす影響	医	筧 弘毅	1,800
		一般研究 (A) 細菌における薬剤耐性の遺伝生化学的機序(継続)	薬	山岸 三郎	200
		(B) 含窒素複素環化合物の合成研究	薬	池田仁三郎	4,750
		窒素を含む有機硫黄化合物の研究(継続)	理	武島 達夫	400
		(C) 色彩知覚における誘導現象の時間空間条件	人	大山 正	1,800
		19世紀中葉のアメリカ文学と自然の概念	人	原田 敬一	850
		ヘテロ原子を含む光化学反応	工	山田 和俊	700
		平面研削盤の弾性変形を利用する寸法、形状の制御	工	中野 嘉邦	1,100
		果樹園設定のための局地風に関する農業気象学的基礎研究	園	中原 孫吉	900
		内臓反射の形態学的研究	医	福山 右門	700
		培養筋芽細胞の電子顕微鏡的および位相差映画観察	医	嶋田 裕	1,600
		異グロブリン血症の成立機転	医	岡林 篤	1,000
		脊柱側湾症治療適応の決定と治療法に関する研究	医	井上 駿一	700
		ラジオアイソトープ 99mTc による唾液腺機能検査法及び診断法	医	北村 武	850
		好塩性細菌における塩類の代謝調節に及ぼす影響	研	林 誠	1,150
		視覚系の電気的活動と薬物の作用(継続)	医	村山 智	550
		気管支、肺臓におよぼす大気汚染物質と細菌感染との相互作用(継続)	医	田波潤一郎	300
		銅塩によるThiamineの新蛍光定量法(継続)	薬	山根 靖弘	300

45	(D)	現代ドイツ大学の思想と制度に関する歴史的研究	教育	椎名 萬吉	140
		第2次桂内閣研究	人	宇野 俊照	140
		コンピュータシミュレーションによるイン トネーション信号弁別モデルの研究とその 学習評価システムの研究	教育	鈴木 博	140
		上告理由の研究(上訴制度の研究その2)	人	花村 治郎	170
		弱塩基性イオン交換体の分析化学的研究	工	黒田 六郎	290
		青少年層対策としての社会施設の地域的研 究	工	小泉正太郎	260
		糸状菌の菌体外酵素分泌に関する特異的 蛋白質の誘導的生成とその役割について	園	矢吹 稔	300
		真菌の産生する新生理活性物質 Fusariocin A その他の作用機作と構造研究	研	伊藤 達也	300
		組織培養で形成された神経筋接合部の電気 生理学的研究	医	加濃 正明	280
		小児における副腎皮質ステロイド治療の副 腎皮質機能抑制の検討	医	中島 博徳	280
		向精神神経薬の中樞作用に関する電子顕微 鏡的研究	医	小泉 準三	200
		老年者消化管系手術後の代謝に関する研究	医	樋口 道雄	200
		気道生理学的にみた鼻腔と肺機能の相互関 係	医	戸川 清	300
		奨励研究 (A)	教育	田畑 治	100
		金属のリン化反応機構及び速度論的研究並 びに金属リン化合物半導体の合成研究	工	佐々木義典	200
		画像再生機構における光化学初期過程の研 究、高感度高分解能分光発光計の試作	工	三輪 卓司	200
		感光性アジドポリマーの開発研究	工	山岡 亜夫	190
		酸化還元酵素モデルの合成機能	工	岩淵 晋	200
		マグネシウム過剰下における作物の代謝変 動に関する研究	園	嶋田 典司	200
		高等植物における亜硫酸還元酵素系につい て	園	田村 五郎	200
		背負動力ミストダスタの振動に関する研究	園	飯本 光雄	200
		微少電極法による機能的多束系としての洞 神経の脳幹への投射に関する研究	医	道場 信孝	200
		カテコールアミン特にノルエピネフリンの 眼圧下降作用の各種 Adrenergicpotentiator による増殖(Potentiatin) についての実験 的研究とその抗綿内障治療への応用に関す る臨床的研究	医	北沢 克明	250
		薬物代謝・酵素の研究	薬	鎌滝 哲也	200
	(1)	試験研究	教養	中野 芳彦	1,000
		都市中間層の政治行動および態度に関する 構造分析的研究	医	綿貫 重雄	1,000
		膵胆道癌及び胆石溶解に対する超音波新技 術の開拓	園	永沢 勝雄	890
		大気汚染が園芸作物におよぼす影響(継続)	園	野村 健一	890
		水・土面施用殺虫剤の作用機作(継続)	医	柳沢利喜雄	1,000
		農村貧血の成因に関する研究ことに摂取食			

科学研究費補助金

45		品の量と質に関する問題(継) 抗リンパ球血清の精製に関する研究(継) 固形医薬品製剤からの主薬溶出試験法の研究(継)	医 薬	佐藤 博 仲井 由宜	1,000 400
	(2)	土壌の酸性及びアルカリ性度が造園樹木の生育におよぼす影響 人工霧発生装置とその応用に関する研究 男性不妊の研究 小笠原諸島の薬用植物特にヤロート (Ochrosia Nahaiona) の塩基成分に関する研究 シンチカメラによる臓器像の三次元的表示方法の実用化と装置の試作(継)	園 園 医 薬 医	安藤俊比古 三原 義秋 片山 喬 坂井進一郎 寛 弘毅	850 700 1,400 1,000 1,000
	海外学術調査	千葉大学南米アンデス地域の古生物学的研究	留	前田 四郎	8,500
46	科学研究費補助金	がん特別研究 (1)	医	香月 秀雄	2,500
		(2)	医 研	三浦 義彰 蟹沢 成好	4,000 1,500
		特定研究 (1)	教養	近藤 精造	600
		児童生徒の発達過程に対応した地学の実験実習の内容と方法について			
		海拔高別による果樹の農業生態学的研究	園	永沢 勝雄	2,500
		生物環境の総合制御	園	三原 義秋	2,600
		都市生態系の特性に関する基礎的研究	理	沼田 真	8,100
		草地生態系の生産と保護に関する研究(継続)	理	沼田 真	4,020
		(2)	医	本間 三郎	3,500
		脳障害による運動失調と運動神経細胞に対する情報処理の研究			
		総合研究 (A)	医	永野 俊雄	2,800
		細胞内高分子の生合成と存在様式			
		畦間被覆および構造の地上地下環境調節作用に関する研究(継続)	園	中原 孫吉	890
		一般研究 (B)	園	大泉 久一	3,800
		飼料作物の再生長機構の解明に関する研究			
		臓器移植のための臓器凍結保存に関する研究	医	岩崎 洋治	1,700
		含窒素複素環化合物の合成研究(継続)	薬 人	池田仁三郎 大山 正	700 1,300
		(C) 系列的情報に対する知覚—記憶過程の分析的研究			
		19世紀中葉のアメリカ文学と自然の概念	人	原田 敬一	900
		脊髄副交感神経の解剖学的解析	医	福山 右門	2,420
		動物における核酸塩基のサルベージ反応に関する研究	医	橘 正道	1,000
		肝吸虫症の治療剤開発に関する研究	医	横川 宗雄	1,710
		多層断層シンチグラムの研究、装置の実用化と臨床的応用	医	有水 昇	800
		細小ファイバースコープによる胆道系の生理学的並に形態学的研究——特に胆道内圧	医	西村 明	1,000

(D)	測定法と肝内結石除去法				
	Gardneria 属アルカロイドの薬理学的研究	薬理	原田 正敏	710	
	蛋白質分解酵素（キモトリプシンーCおよびカルボキシペプチダーゼB）の特異性部位決定の研究	理	飛田 亨	680	
	精細胞票の塩基性および非塩基性蛋白質の構造と機能	理	安藤 鋭郎	990	
	学校用家具のシステム化に関する研究	工	小原 二郎	1,000	
	果樹園設定のための局地風に関する農業気象学の基礎研究(継続)	園	中原 孫吉	200	
	ラジオアイソトープ 99 ^m Tc 唾液腺機能検査法および診断法(継続)	医	北村 武	850	
	キレートおよび金属錯体のイオン交換樹脂に対する吸着状態の研究	理	中務 幸雄	340	
	ホログラフイー干渉による振動、歪み解析	工	江森 康文	330	
	花粉活性剤としての核酸関連物質利用に関する研究	園	大野 正夫	270	
	培養筋細胞膜の電気生理学的研究	医	加濃 正明	350	
	向精神神経薬の中樞作用に関する電子顕微鏡的研究	医	小泉 準三	300	
	稲作生産組織の展開と部落	教育	皆川 勇一	180	
	膜不溶性蛋白質の酵素機能に関する薬物学的研究	薬	毛利 哲郎	350	
	真菌の産生する毒性物質 fusariocin 類の制がん作用機作と構造	研	伊藤 達也	330	
奨励研究 (A)	薄層クロマトグラフィーによる金属元素の分離	工	小熊 幸一	220	
	中学生高校生のための地域施設環境計画の研究	工	三国 政勝	180	
	北海道雨竜地方の中部第三系貝化石の層位、古生物学的研究	教養	大原 隆	180	
	A-D変換方式による時間及び振幅量の高分解能デジタル計測	工	池田 宏明	140	
	酸化還元酵素モデルの合成の機能(Ⅱ)	工	岩淵 晋	200	
	糸状菌菌体外酵素分泌機能の遺伝生化学的解析	園	矢吹 稔	200	
	電気モデルによる地中配管加熱法の解析的研究	園	山中捷一郎	220	
	尿素回路の調節機構に関する研究	医	重定 勝哉	220	
	哺乳動物の中樞神経系の抑制、伝達物質グリシンの代謝	医	長谷川修司	220	
	血液中の細胞増殖因子の研究	医	福井 紀子	220	
	増生性糸球体腎炎における単球及び上皮細胞の貪食性について	医	重松 秀一	220	
	寄生蠕虫症におけるレアギンに関する研究	医	小島 莊明	280	
	定量的シンチグラムによる脾機能検査	医	内山 暁	200	
	ラジオアイソトープ利用による骨腫瘍診断法の研究	医	村田 忠雄	210	
	膀胱腫瘍の染色体の研究	医	長山 忠雄	250	
	Ultrasonoglophography (超音波バルブ法に	医	浅野 尚	220	

科学研究費補助金

46			よる声帯動態の記録法) の試作研究			
			Alkoxyphenylhydrazide の Fischer Indole 合成における異常反応とその応用	薬	村上 泰興	220
			病態動物、特に高血圧自然発症ラットにおける薬物代謝の研究	薬	鎌滝 哲也	220
			動物細胞核の低分子 RNA の研究	医	守山 洋一	220
		試験研究 (1)	抗リンパ球血清の精製に関する研究	医	佐藤 博	900
			多剤耐性菌に有効な化学療法開発の試み	薬	山岸 三郎	1,190
			都市中間層の政治行動及び態度に関する構造分析的研究(継続)	教養	中野 芳彦	850
			膵胆道癌及び胆石溶解に対する超音波新技術の開拓(継続)	医	綿貫 重雄	1,000
		(2)	人工腎臓小型化に関する研究特に灌流液回路の小型化について	医	小高 通夫	990
			土壌の酸性およびアルカリ性度が造園樹木の生育におよぼす影響(継続)	園	安藤俊比古	170
			人工霧発生装置とその応用に関する研究(継続)	園	三原 義秋	700
			男性不妊の研究(継続)	医	片山 喬	1,000
			小笠原諸島の薬用植物特にヤロド (Oehrosia Nahaiana) の塩基成分に関する研究(継続)	薬	坂井進一郎	900
47	科学研究費補助金	がん特別研究 (1)	肺癌発生の局所環境因子に関する基礎的研究	医	香月 秀雄	3,700
			がん細胞の増殖と核酸の役割の研究	医	三浦 義彰	6,600
		(2)	発癌抑制物質を用いてのアゾ色素発癌機構の研究	研	宮木 高明	2,100
		特定研究 (1)	都市生態系の特性に関する基礎的研究	理	沼田 真	7,500
			草地生態系の生産と保護に関する研究(継続)	理	沼田 真	4,220
		(2)	外国語教育における発音学習の自動評価システムのためのソフトウェア開発	教育	竹蓋 幸生	250
			太陽紫外線が施設園芸作物の生育と病害に及ぼす効果に関する研究	園	三原 義秋	2,200
			微量の汚染化学物質の濃縮現象としての食物連鎖の実験的研究と海域(東京湾)棲息微小生物の異常成分蓄積状況調査	学長	相磯 和嘉	3,000
		総合研究 (A)	現代アメリカ思想の倫理的基礎に関する研究	人	白田 貴郎	1,000
			イギリス政治史における中央と地方	人	鶴見 卓三	1,600
			細胞内高分子の生合成と存在様式(継続)	医	永野 俊雄	3,500
		一般研究 (A)	インドールアルカロイド類の分離並びに化学構造に関する研究	薬	萩庭 丈寿	10,720
		(B)	含水酸化鉄の生成機構と活性	理	井上 勝也	2,310
			二硫化炭素の有機化学反応	理	武島 達夫	6,700
			尿素回路の調節機構に関する研究	医	橘 正道	3,240
			人体寄生吸虫類の免疫診断学的研究	医	横川 宗雄	4,380

47		正常ヒト体液中の抗真菌因子に関する研究	研	新井 正	4,700
		含窒素複素環化合物の合成研究(継続)	薬	池田仁三郎	500
	(C)	瞬時的系列刺激に対する視知覚過程と誘発電位	人	大山 正	1,500
		統計調査における調査誤差の数学的モデルの実証的研究および誤差評価の簡便化の研究	理	浅井 晃	1,050
		多心皮類の系統学的研究	理	西田 誠	650
		非対称カラー・イクイデンシントメトリーの研究	工	久保 走一	600
		園芸作物における細胞中無機元素の微細分布に及ぼす塩類濃度の影響	園	嶋田 典司	830
		臓器移植のための臓器凍結保存に関する研究	医	岩崎 洋治	1,150
		高度脊柱変形(側彎、亀背形式)に対する矯正手術と身体とくに脊髄機能に及ぼす影響に関する研究	医	井上 駿一	1,100
		大気汚染と嗅覚障害	医	北村 武	800
		好塩性細菌の代謝調節と膜面物質輸送におよぼす塩類の役割	研	林 誠	1,200
		多層断層シンチグラムの研究、装置の実用化と臨床的応用(継続)	医	館野 之男	1,000
		学校用家具のシステム化に関する研究	工	小原 二郎	1,000
	(D)	詩人ジョン・キーツ研究一文献のおよび文学思潮の追求	人	水之江有一	200
		会社合併契約の実証的研究	人	三東 三司	220
		線維素溶解現象に関する組織化学的研究	医	上山滋太郎	320
		インドール誘導体の酸化反応	薬	中川 昌子	380
		薬物の吸収効率測定法の研究	薬	鈴木 徳治	380
	奨励研究(A)	金属硫化物触媒の開発と基礎的研究	工	上松 敬禧	220
		感光性イオン橋かけ高分子ー(高分子カルボン酸の金属塩)を用いる画像形成法	工	杉田 和之	250
		反射性循環調節の形態学的研究とくに頸動脈洞反射について	医	千葉 胤道	300
		実験的糸球体腎炎における糸球体基底膜融解過程の解析	医	重松 秀一	280
		免疫グロブリンE(1 g E)によるヒト白血球のヒスタミン遊離の機序とその臨床への応用に関する研究	医	富岡 玖夫	250
		放射化分析による赤血球寿命の測定	医	内山 暁	260
		骨肉腫に対するいわゆるLate Amputationの組織学的研究—とくに大量長期Cobalt照射及び化学療法(Infasion法)併用療法についての検討	医	松井 宣夫	250
		螢光抗体法によるプロスタグランディンの研究	医	伊藤 晴夫	250
		鼻アレルギー患者血中の各免疫グロブリン分画(α-Eも含む)におけるAllergenに対するAntibody Activityの定量	医	島田 哲男	280
		ジスル、フィドブリッジを有するジケトペラジン誘導体の合成研究	薬	佐藤 忠夫	270

科学研究費補助金

47			ラット肝臓リボソーム上のアミノアシル tRNA 結合部位	薬	五十嵐一衛	260
			動物細胞核の低分子RNAの研究	医	守山 洋一	310
			ニワトリ胚におけるミオシン・アクチンの性質と筋原繊維の構造形成	理	大日方 昂	350
		試験研究 (1)	果樹における化学物質の吸収・転流に関する研究	園	大野 正夫	1,150
			生物学的製剤による移植免疫抑制法に関する研究	医	佐藤 博	1,500
			マイコトキシン産生機構と制御に関する研究	研	山崎 幹夫	1,500
		(2)	中枢抑制及び向精神作用を有する indole 誘導体の合成	薬	石井 永	1,000
			膀胱腫瘍に対する経尿道的凍結外科療法	医	百瀬 剛一	1,500
48	科学研究費補助金	がん特別研究 (1)	がん細胞の増殖と核酸の役割の研究	医	三浦 義彰	6,250
			肺癌発生の局所環境因子に関する研究	医	香月 秀雄	3,750
			癌原生物質と生体標的部位との相互作用に関する物理化学生化学的研究	研	宮木 高明	5,000
		(2)	腫瘍ウイルスによる変換細胞と変換細胞内ウイルスゲノムに対する核酸合成阻害剤の影響	医	桑田 次男	2,300
		特定研究 (1)	都市生態系の特性に関する基礎的研究	理	沼田 真	4,900
		(2)	微量の汚染化学物質の濃縮現象としての食物連鎖の実験的研究と海域(東京湾)棲息微小生物の異状成分蓄積状況調査	学長	相磯 和嘉	2,000
			酸化還元酵素モデルの合成と機能	工	岩淵 晋	1,000
		総合研究 (A)	現代アメリカ思想の倫理的基礎に関する研究	人	白田 貴郎	1,020
			イギリス政治史における中央と地方	人	鶴見 卓三	1,800
			サイクロトロンによるラジオアイソトープの病態分析及び診断利用に関する研究	医	寛 弘毅	2,700
			嗅覚検査のための基準臭と検査方式の研究	医	北村 武	2,900
		一般研究 (A)	インドールアルカロイド類の分類並びに化学構造に関する研究	薬	萩庭 丈寿	5,540
			大規模施設園芸団地設備の電算機による集中計画制御	園	三原 義秋	21,350
		(B)	含水酸化鉄の生成機構と活性(継)	理	井上 勝也	100
			精細胞核の塩基性および非塩基性蛋白質の構造と機能	理	安藤 鋭郎	6,800
			試料傾斜法による細胞内微細周期構造の三次元的解析	医	永野 俊雄	2,800
			遷延性抗原刺激、免疫応答の実験病理学的研究	医	岡林 篤	2,200
			インドール誘導体の合成研究	薬	日野 亨	4,400
			生体モデルを考慮した光制御反応	工	山田 和俊	5,000
		(C)	統計調査における調査誤差の数学的モデルの実証的研究および誤差評価の簡便化の研究	理	浅井 晃	700

	究(継)			
	多心皮類の系統学的解析	理	西田 誠	500
	臓器移植のための臓器凍結保存に関する研究(継)	医	岩崎 洋治	500
	大気汚染と嗅覚障害(継)	医	北村 武	1,100
	頭頸部交感神経に関する実験組織学的研究	医	福山 右門	1,600
	ヌクレオチド合成諸経路のホスホリボシルピロリン酸による共軌的調節	医	橘 正道	1,900
	ヒト同種腎移植の免疫病理学的研究	医	近藤洋一郎	780
	実験的日本人住血吸虫症の免疫病理	医	横川 宗雄	1,800
	脊椎外科領域におけるHalo-Pelvic Tracti-onの応用と身体他部とくに脊髄機能におよぼす影響に関する研究	医	井上 駿一	1,370
	構造材料の高速引張りに関する研究	工	大和田 信	1,650
	工作機械の弾性変形を利用する適応制御	工	中野 嘉邦	1,390
	パーソナリティ形成過程としての地域計画方式の研究	工	小泉正太郎	800
	知覚系における分岐効果に関する分類ならびに条件分析	教養	野口 薫	1,000
	合成リン脂質の界面物質	教養	林 誠人	1,000
(D)	心身問題と行為の論理構造	人	中村 秀吉	340
	短期記憶における知覚—記憶過程の分析	人	御領 謙	340
	1810~1820年代のイギリス文学—キーツとその周辺	人	水之江有一	260
	ドイツ労働立法の形成展開と我国労働立法への影響	人	手塚 和彰	230
	公共投資基準論の体系的整理	人	前田新太郎	250
	工業開発の社会的影響に関する調査	教育	皆川 勇一	230
	近代的大学論の形成に関する歴史的研究ベルリン大学成立(1809)との関連	教育	椎名 萬吉	300
	患者の精神医学的側面と治療看護の効果との相関について	教育	十東 支朗	380
	ネーデルンド総和法についての研究	理	広川 完	180
	尿素回路の調節機構の研究	医	森 正敬	450
	フレミー酸化における置換基の立体効果とそのOxidative Couplingの応用	薬	石井 永	400
	セルロース陰イオン交換体 ECTEOLAを用いる金属イオンの分離に関する研究	工	小熊 幸一	320
	情報記録材料に用いる高分子金属錯体の光磁性に関する研究	工	広橋 亮	400
試験研究	生物学的製剤による移植免疫抑制法に関する研究(継)	医	佐藤 博	1,450
(1)	マイコトキシン産生機構と制御に関する研究(継)	研	山崎 幹夫	1,200
(2)	教員養成大学附属学校における教育実習改善のための理論的実験的研究	教育	四ノ宮 晟	1,000
	膀胱腫瘍に対する経尿道的凍結外科療法(継)	医	百瀬 剛一	1,000
	運動単位活動記録と電気刺激装置の試作に関する研究	医	本間 三郎	800

科学研究費補助金

48	科学研究費補助金		高分解能スキャンイメージの研究装置の開発と実用化	医	寛 弘毅	750
			インドールアルカロイド特にレゼルピンを原料とする降圧剤の開発	薬	坂井進一郎	2,200
			深在性真菌症に対する化学療法剤の試作開発に関する研究	研	新井 正	2,000
	奨励研究 (A)		ガス発生分析法による鉄酸化物のSO ₂ に対する活性	理	石川 達雄	270
			ガスクロマトグラフィー原子吸光による有機金属の分析	理	中川 良三	280
			魚類、卵母細胞核内の特異構造（マイクロカリオゾーム、バンド構造、紐状構造及び糸球状構造）の組織化学的研究	医	安澄 文興	320
			副腎皮質ホルモンの心筋作用に関する研究	医	福田康一郎	320
			中枢神経系の抑制伝達物質グリシンの輸送と代謝	医	長谷川修治	300
			好塩基球および肥満細胞の細胞内代謝機構の解析	医	富岡 玖夫	320
			¹⁸ F 標識アミノ酸による臓器スキヤニング	医	川名 正直	380
			尿路結石の研究とくに尿酸排泄動態に対するプロスタンディン影響について	医	伊藤 晴夫	280
			薬理学的交感神経切除の緑内障治療への応用に関する研究	医	北沢 克明	370
			脳の電気活動の発生と発育に対する薬物の作用	医	黒見 坦	280
			ジスルフィドブリッジを有するジケトピペラジン誘導体の合成研究	薬	佐藤 忠夫	290
			蛋白合成とポリアミン	薬	五十嵐一衛	270
			ストレス負荷動物の潰瘍発生、胃運動各種生体成分の変動におけるアドレナリン作動性の関与とストレス解除後に出現する持続性過血糖の原因について	薬	矢野 眞吾	300
			Zn-22%A _l 超塑性合金の組織と変形に関する研究	工	加藤 光治	300
			平面ケーブル構造の模型実験	工	大山 宏	270
			老人福祉施設入居者の医療施設利用に関する研究	工	河口 豊	270
			金属リン化合物半導体材料の合成ならびにリン化反応機構に関する研究	工	佐々木義典	270
			自然環境の保護と野外リクリエーションのための土地利用計画に関する研究一特に自然環境を構成する緑地の解析を中心として	園	油井 正昭	230
			ラット肝ミトコンドリアの膜間スペースに局在するb ₆ 様チトクロームについて	園	福島 和雄	300
			表面弾性波によるレーザー光の偏向に関する基礎的研究	工	山口 正恒	290
49	科学研究	海外学術調査	アンデス中部地域の古生物学的研究	理	前田 四郎	8,500
		がん特別研究 (2)	5-ニトロフアンのナフチリジン誘導体の発癌性に関する研究	医	井出源四郎	1,000
		特定研究 (1)	環境教育カリキュラムの基礎的研究	理	沼田 真	2,000

49	費補助金		都市生態系の構造と動態に関する研究	理工	沼田 真	7,000
			光化学スモッグ反応における亜硫酸ガスの役割	工	鈴木 伸	6,000
		(2)	酸化還元酵素モデルの合成と機能	工	岩淵 晋	700
		総合研究 (A)	サイクロトロンによるラジオアイソトープの病態分析及び診断利用に関する研究(継続)	医	寛 弘毅	2,600
			寄生蠕虫症とレアギン	医	横川 宗雄	2,700
			マイクロベドロロジーの立場からする土壌調査	園	小島 道也	2,800
			園芸施設環境制御装置の設計基準に関する総合研究	園	三原 義秋	2,800
		一般研究 (A)	肝の機能と調節	医	三浦 義彰	10,000
			インドールアルカロイド類の分離ならびに化学構造に関する研究(継続)	薬	萩庭 丈寿	400
			薬物代謝よりみた薬物相互作用の研究	薬	北川 晴雄	9,200
			大規模施設園芸団地設備の電算機による集中計画制御(継続)	園	高倉 直	950
		(B)	養殖ハマチに発する脊柱彎曲性寄型の成因とその毒性病理学的研究	学長	相磯 和嘉	2,000
			精細胞核の塩基性及び非塩基性蛋白質の構造と機能(継続)	理	安藤 鋭郎	1,300
		(C)	試料傾斜法による細胞内微細周期構造の三次元的解析(継続)	医	永野 俊雄	300
			インドール誘導体の合成研究(継続)	薬	日野 亨	2,400
			生態モデルを考慮した光制御反応(継続)	工	山田 和俊	300
			イギリス、ロマン派文学における想像力理論の生成とその展開	人	水之江有一	900
			軍隊教育の研究	教育	城丸 章夫	700
			多変量解析法による統計調査の簡略化の研究	理	浅井 晃	1,350
			多心皮類の起源に関する研究	理	西田 誠	800
			頭頸部交感神経に関する実験組織学的研究(継続)	医	福山 右門	300
			臓器移植のための臓器凍結保存に関する研究(継続)	医	岩崎 洋治	300
			反射性循環調節の形態学的研究、特に延髄孤束核と脊髄交感神経核におけるモノアミン神経の関与について	医	道場 信孝	1,300
			6-Hydroxydopamine (6-HD) による化学的交感神経切除 (Chemical, Sympathectomy) による緑内障治療に関する研究	医	北沢 克明	1,500
			大脳基底核と向精神薬とくに Phenothiazine 誘導体および Butyrophenone 誘導体の中枢作用の比較	看	石川 稔生	1,300
			Fischer indolization の機構および2位置換 Phenyldiazone 類の異常反応の機構の解明	薬	石井 永	1,700
			パーソナリティ形成過程としての地域計画方式の研究(継続)	工	小泉正太郎	800

科学研究費補助金

49	科学研究費補助金		セルロースイオン交換体を用いる分離分析法に関する研究	工	黒田 六郎	1,100
			リモートセンシング画像処理に関する基礎的研究	工	源田秀三郎	1,650
			花粉懸濁液による果樹の人工受粉に関する研究	園	大野 正夫	1,000
			地下カンガイに関する研究	園	中山 敬一	1,500
			知覚の分岐効果における個人差	教養	野口 薫	1,400
			一価カチオンアニオンによる酵素活性修飾に関する研究	研	林 誠	1,750
		(D)	行為の説明と意味	人	中村 秀吉	260
			視覚マスキングと視覚誘発電位	人	御領 謙	320
			アメリカ合衆国の教育行政学におけるEfficiency 原理の生成発展に関する研究	教育	青木 薫	280
			帰化水性植物の定着機構に関する研究	理	生嶋 功	320
			ニワトリ胚における胚ミオシン分子の性質について	理	大日方 昂	300
			冠拡張剤の心機能、心筋組織血流、心筋組織酸素分圧に及ぼす影響	医	米沢 利英	400
			高等動物のピリミジン生合成経路における酵素集合	医	森 正敬	400
			リボゾームにおけるポリアミンの存在意義	薬	廣瀬 聖雄	400
			インドール及びトリプトファン誘導体の酸化反応	薬	中川 昌子	400
			老化による自律神経及び平滑筋の薬物感受性の変化	研	橋本 久邦	400
		試験研究	臨床応用のための抗リンパ球血清の作製ならびに精製と投与法	医	佐藤 博	1,700
		(1)	薬剤耐性プラスミドの疫学、分子遺伝学的研究とそれにもとづく新しい薬剤開発の試み	薬	山岸 三郎	1,700
		(2)	運動単位活動記録と電気刺激装置の試作に関する研究 (継続)	医	本間 三郎	1,600
			真菌アレルギーの標準化と応用に関する研究	医	久保 政次	1,700
			チャンネルイメージ増巾器を用いたR I イメージング	医	館野 之男	1,500
			気管支内聴音装置 Bronehomicrophone の開発に関する研究	医	里村 洋一	1,800
			深在性真菌症に対する化学療法剤の試作開発に関する研究 (継続)	研	新井 正	2,000
		奨励研究	^{18}F 標識化合物による臓器スキャンニング	医	川名 正直	290
		(A)	迷走神経内の無髄線維の起源についての電子顕微鏡的研究	医	井上 勝博	240
			ADH分泌の神経性調節について	医	波多奈美代	300
			薬物受容体の形成と発達について	医	黒見 坦	290
			麻痺性尖足のリハビリティーションを目的とした植込み電極による末梢神経電気刺激の臨床応用	医	山根友二郎	290
			鼻アレルギーによる特異的減感作療法の免疫学的研究	医	島田 哲男	250

資料編

49		ニワトリ精子核内塩基性蛋白質（ガリン）の構造と機能	理	中野 実	290		
		非リボゾーム性ペプチド鎖伸長酵素の精製と生理的意義	薬	五十嵐一衛	290		
		円環状弾性表面派を利用したVHF帯ドラノバーサルフィルタの設計に関する研究	工	山口 正恒	300		
		壬生狂言など大念仏狂言の演劇的研究	教養	森 康尚	250		
		花卉の鉢物培地に関する研究	園	佐藤 幸夫	260		
50	科学研究費補助金	海外学術調査	アンデス中部地域の地史的、古生物学的研究	理	前田 四郎	1,100	
			アンデス地帯中南部における東西両斜面の森林植物相の成立とその比較研究	理	西田 誠	9,800	
		自然災害特別研究 (2)	地震波伝播速度観測による地震予知の研究	理	村山 必典	3,000	
		がん特別研究 (2)	5-ニトロフランのオプチリジン誘導体の発癌性に関する研究	医	井出源四郎	3,600	
		特定研究 (1)	環境教育カリキュラムに関する基礎的研究	理	沼田 真	2,300	
			都市生態系の構造と動態に関する研究	理	沼田 真	7,800	
			光化学スモッグ反応における亜硫酸ガスの役割	工	鈴木 伸	6,300	
			(2)	VTRによる医学教育のための生命現象記録	医	本間 三郎	600
				小脳による心脈管系の制御機構に関する研究	医	道場 信孝	450
		総合研究 (A)	西欧倫理思想の日本における受容に関する研究	人	白田 貴郎	1,600	
			寄生蠕虫症とレアギン（継続）	医	横川 宗雄	2,700	
			血液ガスレベルの調節に関する生理的及び病態生理的研究	医	本田 良行	2,200	
			代謝活性に関する金属キレート生成反応	薬	山根 靖弘	2,000	
			都市生活の人間の生理的、心理的機能に及ぼす影響	工	菊池 安行	1,400	
			マイクロペドロロジーの立場からする土壌調査（継続）	園	小島 道也	2,800	
			園芸施設環境制御装置の設計基準に関する総合研究（継続）	園	三原 義秋	2,800	
		一般研究 (A)	薬物代謝より見た薬物相互作用の研究（継続）	薬	北川 晴雄	1,000	
			飼料作物の再生不能現象	園	大泉 久一	10,000	
			(B)	脊柱彎曲性奇型の成因究明のための養殖変型ハマチの研究	学長	相磯 和嘉	3,000
				含水酸化鉄生成機構の磁氣的電氣的研究	理	井上 勝也	5,000
				本態性高血圧症の内分泌学的研究	医	熊谷 朗	2,200
				X線マイクロビームを利用したX線診断法（特に輪郭抽出による自動診断等吸収曲線による診断及三次元表示像による診断について）	医	館野 之男	1,800
				宮崎肺吸虫症の発症機転の解明に関する研究	医	横川 宗雄	2,520

科学研究費補助金

50	科学研究費補助金	脊髄先天奇型をともなった脊柱変形の診断と治療法に関する研究	医	井上 駿一	2,000
		微生物におけるプラスミドの遺伝生化学的背景とその生理的意義	薬	山岸 三郎	4,700
		インドールアルカロイド含有植物より塩基成分の分離と生合成的部分合成に関する研究	薬	坂井進一郎	6,000
		隔測における画像情報の高性度化に関する研究及び隔測装置の開発	工	源田秀三郎	2,500
		作物における雌雄性形質の人為的変換法の開発と育種的利用	園	飯塚 宗雄	1,500
		自家不和合成アブラナ科蔬菜の原種採種の能率化に対する炭酸ガスの利用に関する研究	園	藤井 健雄	2,950
		(C) 血液精巣関門の形態学的研究	医	永野 俊雄	1,100
		胃癌の癌細胞による血管変化とその転移機序の解明について	医	長尾 孝一	1,350
		胸腺リンパ球(T細胞)リセプターの形態学的同定とその活性	医	近藤洋一郎	1,550
		コラーゲン(collagen)を利用した眼局所への薬物投与法の緑内障治療への応用に関する研究	医	北沢 克明	1,250
		コリシン E ₁ の誘発合成機構	医	中沢 淳	820
		耳下腺腫瘍の電子顕微鏡による病理学的研究	医	北村 武	1,000
		医薬品の薬効におよぼす添加剤の基礎的研究	薬	仲井 由宣	800
		薬物の肝臓における初回通過効果(First passeffect)に関する研究	薬	鈴木 徳治	1,500
		インドール系アルカロイド生合成経路解明を目的としたチョウジソウ類の栽培とその含有塩基の研究	薬	相見 則郎	1,400
		直交変換フィルタの光学情報処理への応用	工	戸谷 隆美	1,800
		酸化ウランおよびその混合触媒の接触作用に関する研究	工	野崎 文男	1,500
		花粉懸濁液による果樹の人工授粉に関する研究	園	大野 正夫	830
		霜の生成融解条件と作用の被害量についての実験的研究	園	羽生 寿郎	1,700
		高等植物緑葉の硝酸還元系酵素に関する研究	園	田村 五郎	1,000
		高等植物の重複受精の電子顕微鏡による解析	教養	吉田 治	800
		異系骨髓移植による放射線キメラマウスの免疫学的解析	教養	玉野井逸朗	800
		(D) 色光刺激による視覚マスキングと視覚誘発電位	人	御領 謙	350
		ドイツ大学の学習改革(studienreform)に関する歴史的研究	教育	椎名 萬吉	300
		蚊族の産卵フェロモンに関する基礎的研究	教育	鈴木 健二	320
		正則関数族 N ⁺ に関する研究	理	柳原 二郎	250
		外来水生植物の定着機構に関する研究	理	生嶋 功	320
		高等動物のピリミジン生合成経路における	医	森 正敬	390

50	酵素集合	C-GMPによる肝の再生	医	福井 紀子	390
		血管内凝固による糸球体障害の進展に関する基礎的研究	医	重松 秀一	370
		糖尿病性網膜症とプロスタグランディンの研究	医	石川 清	320
		冠拡張剤の心機能、心筋組織血流、心筋組織酵素分圧に及ぼす影響	医	米沢 利英	390
		前立腺癌患者のprolactin分泌能に関する研究	医	片山 喬	390
		1-ブロムインドールおよび3-ブロムインドレニンの合成と反応性について	薬	日野 享	390
		温床ミカン用摘果剤NAAの形態的作用機作に関する研究	園	野間 豊	420
		都市地域の緑被地構造とその回復に関する研究	園	田畑 貞寿	420
		植物油を燃料とした農用小型ディーゼルエンジンの運転性能	園	飯本 光雄	370
	試験研究 (1) (2)	臨床応用のための抗リンパ球血清の作成ならびに精製と投与法	医	佐藤 博	1,710
		気管支内聴音装置 (Bronchomicrophon) の開発に関する研究(継続)	医	里村 洋一	500
		真菌アレルギーの標準化と応用に関する研究	医	久保 政次	1,650
		極底線量X線による乳幼児股関節撮影装置の試作	医	井上 駿一	2,940
	奨励研究 (A)	ムガル期インドにおける土地所有関係	人	小谷 汪之	240
		含水酸化鉄微細結晶のドリフト移動度	理	金子 克美	300
		ニワトリ精子成熟過程における各精細胞の分別及特製づけ	理	中野 実	300
		精巣上体上皮の吸収と分泌に関するラジオオートグラフィとフリーズレプリカ法による研究	医	鈴木二美枝	300
		器官培養したマウス神経筋標本の薬理学的研究	医	黒見 坦	270
		肺と血管作動性物質レニンアンギオテンシン系と各種肺疾患について	医	栗山 喬之	270
		鼻アレルギーにおける特異的減感作療法—抗原抗体複合物による減感作—	医	藤田 祥祐	270
		肝吸虫駆虫剤の開発に関する基礎的研究	医	小林 仁	270
		2-アチルインドールアルカロイド、ブルナマイシンの部分合成	薬	山中 悦二	270
		円弧状弾性表面波の音響導波路への結合に関する基礎的研究	工	山口 正恒	380
		金属キレート高分子触媒の速度論的研究	工	上松 敬禧	330
		吸い込み壁間の非相似現象の解析	工	西川 進栄	250
		陰イオン交換セルロースDEAEの無機分析化学への応用	工	善国 信隆	330
		凍結乾燥法による易焼結性酸化粉末の製造とその粉末特性の焼結に及ぼす影響	工	服部 豪夫	330
		牧草の刈取処理による貯蔵養分量の差が再	園	野島 博	300

科学研究費補助金

50			生に及ぼす影響 コンダクティングペーパーアナログによる 地中暖房管の熱伝導解析	園	山中捷一郎	300
			マルコフ決定過程における評価の一般化と その最適政策についての研究	教養	安田 正実	300
			米より分離されたカビ <i>Aspergillus fumig-</i> <i>atus</i> が生産するけいれん性代謝産物 Fumit- remorgin 類の比較構造	研	藤本 治宏	270
		海外学術 調査	アンデス地帯中南部における東西両斜面の 森林植物相互の成立とその比較研究 東南アジアの地史、古生物の研究 中央アメリカ地域原生園芸植物の遺伝質解 析と利用	理 理 園	西田 誠 橋本 亘 飯塚 宗雄	2,500 1,400 5,100
51	科学 研究 費 補 助 金	がん特別 研究 (2)	正常及び癌細胞の増殖のシグナルの研究	医	三浦 義彰	1,800
			腫瘍抗原に対する免疫応答の調節機構	医	多田 富雄	3,500
			5-ニトロフランのナフチリジン誘導体の 発癌性に関する研究	医	井出源四郎	4,500
			インターフェロンの細胞増殖抑制作用に関 する研究	医	桑田 次男	2,500
		特定研究 (1)	環境教育カリキュラムの基礎的研究	理	沼田 真	3,500
			都市生態系の構造と動態に関する研究	理	沼田 真	9,000
			免疫応答の遺伝的統御に関する研究	医	多田 富雄	7,500
			光化学スモッグ反応における亜硫酸ガスの 役割	工	鈴木 伸	3,000
			(2) VTR による医学教育のための生命現象記 録	医	本間 三郎	600
			電子デバイス用新規フォトレジストの開 発・改良に関する研究	薬	津田 穰	1,000
		総合研究 (A)	凍結技術による細胞膜系の超微形態と機能	医	永野 俊雄	1,500
			代謝活性に関する金属キレート生成反応	薬	山根 靖弘	2,500
		(B)	大学における看護教育過程に関する総合研 究	看	石川 稔生	1,200
		一般研究 (A)	電子顕微鏡による細胞表面リセプターおよ び抗原の発生学的ならびに病理学的研究	医	嶋田 裕	19,000
			薬物代謝よりみた、薬物相互作用の研究 (継続)	薬	北川 晴雄	1,000
			土壌伝染性病原菌における耐性菌および耐 久器官の形成についての比較形態学的研究	園	飯田 格	13,500
			産業微生物の安全性確保に関する基礎的研 究	研	新井 正	9,000
			リモートセンシングの画像処理に関する基 礎的研究	工	源田秀三郎	4,500
		(B)	教員養成大学・附属学校における教育実習 改善のための理論的・実証的研究	教育	四ノ宮 晨	2,300
			ヌクレオチド合成の調節—外的刺激に対す る細胞の代謝応答との連係	医	橋 正道	4,600

51	経皮経肝的門脈、カテーテル法による肝内シャント率測定及びその臨床応用	医	奥田 邦雄	3,000
	実験的側弯症の研究	医	井出源四郎	3,600
	脊椎脊髄外科におけるintrogenic paralysis防止法に関する研究	医	井上 駿一	2,000
	脊髄損傷に対する顕微外科的知覚・運動機能再建に関する研究	医	辻 陽雄	3,200
	強い電離衝撃波の構造に関する研究	工	本間 弘樹	5,700
(C)	肺癌における抗癌剤の術後長期間歇投与に関する基礎的研究	学長	香月 秀雄	900
	視覚的同時性と視覚マスキングにおよぼす刺激類似性の効果	人	大山 正	2,000
	工業地帯における企業をめぐる地域関係と住民生活の展開	人	塩原 勉	2,300
	唾液腺混合腫瘍の電子顕微鏡による病理学的研究	医	北村 武	1,600
	胸腺由来リンパ球(T細胞)リセプターの形態学的同定とその活性(継続)	医	近藤洋一郎	800
	エンドトキシンショックにおける主要臓器の病態	医	小高 通夫	1,500
	交感神経支配平滑筋の発達過程	医	黒見 垣	1,460
	インドール誘導体の酸化反応の研究	薬	日野 亨	1,400
	インドールアルカロイドの化学転換反応に関する研究	薬	坂井進一郎	1,400
	ポリアミンの生理作用に関する分子生物学的研究	薬	広瀬 聖雄	1,400
	ラットストレス潰瘍の発生と進展の機序に関する研究	薬	原田 正敏	1,400
	直交変換フィルタの光学情報処理への応用(継続)	工	戸谷 隆美	1,000
	精密ホブ盤の熱変形制御	工	中野 嘉邦	1,700
	秋植え球根作物の春植栽培に関する研究	園	青葉 高	1,400
	緑被地の変容とその構造に関する研究	園	田畑 貞壽	1,000
(D)	ドイツ大学の学習改革(studienreform)に関する歴史的研究	教育	椎名 万吉	340
	多様体の局所理論の研究	理	平田 和彦	400
	含水酸化鉄生成機構の磁氣的、電氣的的研究	理	井上 勝也	410
	標的細胞破壊におけるリンパ球協同作用の機序	医	藤本 重義	400
	小児慢性甲状腺炎の臨床的研究	医	新美 仁男	400
	ガンマ錘運動神経刺激によるネコ筋紡錘・錘内筋電位の細胞内導出	医	中島 祥夫	400
	ポリアミンによる蛋白合成促進機構	薬	五十嵐一衛	400
	公園緑地の維持管理に関する研究—特に植栽木の経年変化と管理体制について—	園	三沢 彰	400
	複数組合併存下の企業内労使関係	教養	河西 宏祐	350
	19世紀後半のイギリスにおける国家構造(constitution)の構造的変化とそれへの理論的対応に関する国制論史的、政治思想史的研究	教養	岩重 政敏	290
	ハマビシ科植物の解剖学的研究	教養	福田 泰二	370

科学研究費補助金

51	科学研究費補助金		古代における農耕共同体の研究—東大寺領越中・越前庄園の開田図を中心にして— 痙攣性カビ毒の検索	教養 研	吉村 武彦 藤本 治宏	390 400
		試験研究 (1)	臨床応用のための抗リンパ球血清の作製ならびに精製と投与方法（継続） 微生物による chemical mutagen の変異解析法の改良とその応用 建築設計計画のための人体位諸数値の計測研究 新規・酸化還元樹脂の開発と実用化	医 薬 工 工	佐藤 博 山岸 三郎 小原 二郎 小嶋 邦晴	500 1,800 2,400 2,200
		(2)	極低線量 X 線による乳児股関節撮影装置の試作 前立腺におけるステロイド結合蛋白質の迅速定量法 磁性流体気管支造影剤の臨床への応用に関する研究 省エネルギートレンチハウスの開発 地下カンガイの実用化に関する研究	医 医 医 園 園	井上 駿一 島崎 淳 滝沢 弘隆 三原 義秋 中山 敬一	1,830 1,000 680 2,000 1,900
		奨励研究 (A)	界面活性剤の活量と水溶性高分子との会合体形成 精巢上体上皮の閉鎖帯の消長に関するフリーズレプリカ法による研究 上丘浅層における求心性線維の神経終末の分布：Colgi 染色標本の光顕的並びに電顕的観察 α 運動神経細胞の分離と培養 ネコの筋紡錘における FM 振動刺激の効果 動物組織内ホスホリボシルピロリン酸の高精度定量法の確立 法医学の分野における HLA 系の応用について アレルギー性炎症における好酸球の機能に関する基礎的研究 (1)好酸球よりの arylsulfatase 遊離の機序 肺と血管作動性物質—レニン、アンギオテンシン系と慢性低酸素血症を伴う各種肺疾患について— アレルギー性炎症における SRS-A の生物学的意義 (1)aryl sulfatase によるヒト SRS-A 不活性化の機序 パターンリバーサル装置を用いた視覚誘発電位の研究とその視路疾患への応用についての臨床的研究 α ジケトン型試薬による体液中グアニジン類の特異的微量定量法 Tb-py-Fe 合金薄膜の ΔE 効果を利用した弾性表面波速度の制御に関する研究 日本における伝統的家制度の親族構造論的研究 超塑性合金におけるくびれの拡散に関する	教育 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 薬 工 工 工 工	越沼 征勝 鈴木二美枝 徳永 穀 増子 貞彦 溝手 宗昭 久田 俊和 木内 政寛 鳥居 敏明 栗山 喬之 吉田 象二 千葉 弥幸 田辺 信三 山口 正恒 清水 昭俊 広橋 光治	300 300 300 300 290 300 300 300 300 300 300 300 340 220 350

51		力学的挙動について				
		コンタクトホイール式ベルト研削における振動現象について	工	坂宮 和彦	330	
		金属リン化合物半導体材料の合成ならびにリン化反応機構に関する研究	工	佐々木義典	340	
		光酸化還元能を有する高分子酵素モデルの合成と機能に関する研究	工	中平 隆幸	340	
		高等植物における硝酸還元酵素の誘導機作について	園	中川 弘毅	310	
		アンセルムスの証明に関する歴史的かつ体系的の研究	教養	坂井 昭宏	280	
		棘皮動物、原索動物及び下等脊椎動物における染色体核型の比較研究	教養	小林 浩二	320	
		産業と労働における重層構造基盤の研究	教養	犬塚 先	280	
	海外学術調査	中央アメリカ地域原生園芸植物の遺伝質解析と利用	園	飯塚 宗夫	2,700	
52	科学研究費補助金	がん特別研究 (2)	細胞周期のGoGi転換機構の研究	医	三浦 義彰	3,000
			化学発癌剤による肺癌発生機序に関する形態学的研究	医	井出源四郎	3,000
			前立腺ガン治療法の評価	医	島崎 淳	2,000
			腫瘍抗原に対する免疫応答の調節機構	医	多田 富雄	2,500
		自然災害特別研究 (2)	干害の発生要因に関する研究	園	羽生 寿郎	800
		環境科学特別研究 (1)	大気汚染の光化学的基礎研究	工	鈴木 伸	11,500
		特定研究 (1)	生体運動における分子識別	理	丸山 工作	6,000
			免疫応答の遺伝的統御に関する研究	医	多田 富雄	8,150
			(2) 筋原細胞における収縮及び調節蛋白の出現とその構造形成	理	大日方 昂	1,000
			失明者の感覚及び感覚異常に関連した無眼球症ラットの脳内諸構造物の形態学的変化	医	大谷 克己	400
			速筋及び遅筋の機能分化に対する運動神経細胞の制御機構について	医	熱海佐保子	600
			電子デバイス用新規フォトレジストの開発・改良に関する研究	薬	津田 穰	1,500
		総合研究 (A)	決定論と自由の関係の意味論的研究	人	中村 秀吉	1,600
			西欧倫理思想の日本における受容に関する研究	人	白田 貴郎	2,000
			維管束植物の系統分類系に関する研究	理	西田 誠	3,000
			環境教育の方法論に関する研究	理	沼田 真	2,260
			(B) 看護系大学の設置基準に関する総合的研究	看	宮入 正人	1,600
		一般研究 (A)	深海底附近に懸垂した受波器による人工地震及び反射波の観測	理	村内 必典	12,800
			電子顕微鏡による細胞表面リセプターおよび抗原の発生学ならびに病理学的研究(継続)	医	嶋田 裕	1,000

科学研究費補助金

52	科学研究費補助金	酸素欠乏時の人体呼吸機能に及ぼす影響	医	本田 良行	4,000
		土壌伝染性病原菌における耐性菌および耐久器管の形成についての比較形態学的研究(継続)	園	飯田 格	700
		産業微生物の安全性確保に関する研究(継続)	研	新井 正	2,000
		筋肉の弾性要素—新しい構造蛋白質の研究	理	丸山 工作	2,000
		(B) 教員養成大学附属学校における教育実習改善のための理論的実証的研究(継続)	教育	四ノ宮 晨	500
		スクレオチド合成の調節—外的刺激に対する細胞の代謝応答との連系(継続)	医	橘 正道	600
		経皮経肝の門脈カテーテル法による肝内シャント率測定及びその臨床応用(継続)	医	奥田 邦雄	600
		脊椎脊髄外科における iatrogenicparalysisの防止法に関する研究(継続)	医	井上 駿一	500
		実験的側弯症の研究(継続)	医	井出源四郎	500
		宮崎肺炎症の病態生理学的研究	医	横川 宗雄	2,600
		白血球型別HLA系の個人識別への応用	医	木村 康	2,000
		本態性高血症と動脈硬化症の代謝内分泌学的研究	医	熊谷 朗	4,600
		好酸球の機能とその生物学的意義	医	岡本 昭二	2,500
		カドミウムの催奇型性に関する研究	医	堀越 達郎	5,400
		肺癌の抗癌剤長期間歇投与による宿主抵抗性の変動と免疫療法の研究	医	山口 豊	1,300
		脊髄損傷に対する顕微外科的知覚運動機能再建に関する研究(継続)	医	辻 陽雄	600
		日本産植物より得られるインドールアルカロイドとその化学的研究	薬	坂井進一郎	6,000
		アニリン系薬物の代謝と毒性発現機序に関する比較薬理学的研究	薬	北川 晴雄	1,700
		写真的方法による精密導電パターンの直接形成法—材料および方式に関する研究—	工	山岡 亜夫	1,800
		強い電離衝撃波の構造に関する研究(継続)	工	本間 弘樹	1,100
		水田土壌の斑紋生成に関する研究	園	小島 道也	5,600
		(C) 視覚過程の時間的特性の実験的研究	人	大山 正	2,100
		宋、元時代の役法と郷村統治制度	人	小山 正明	1,400
		正則関数族 N^+ とその応用	理	柳原 二郎	1,000
		嶺岡、瀬戸川帯の海底噴出溶岩の地質学的、岩石学的研究	理	兼平慶一郎	1,500
		哺乳類精細管上皮結合の動態	医	永野 俊雄	2,000
		心筋硬塞急性期における血行再建術の研究	医	伊藤健次郎	1,500
		神経の過格筋に対する Trophic 物質	医	長谷川修二	1,500
		人白血病細胞のDNA合成系酵素群と細胞増殖調節(白血病病態の臨床生化学的解剖)	医	藤岡 成徳	1,500
		組織肥満細胞の細胞内代謝に関する研究	医	富岡 攻夫	1,500
		扁桃を病巣及び自己抗体産性リンパ組織とする腎炎発症の免疫学的研究	医	石川 哮	1,500
		β -ラクタム抗生物質の細菌細胞表層透過性及び作用機作の研究	薬	澤井 哲夫	1,600

52		交感副腎系に作用する生薬成分とそれらの併用に関する薬理学的研究	薬	原田 正敏	1,500
		インモニコーム基に対するバイヤー、ビリガー型酸化反応の検討とその応用	薬	石井 永	1,500
		花粉懸濁液による果樹の人工受粉に関する研究	園	大野 正夫	730
		結霜条件下の放射冷却葉面の熱収支に関する研究	園	羽生 寿郎	2,000
		蔬菜における光合成産物の分配パターン制御技術に関する研究	園	伊東 正	1,900
		双子葉植物の器官発生の比較形態学的研究	教養	福田 泰二	1,000
	(D)	界面活性物質の形成する黒膜の性質と化学構造	教育	山中 照子	390
		水性植物の繁殖様式の類型化に関する研究	理	生嶋 功	380
		細胞間、相互作用に関する遺伝子表現	医	藤本 重義	420
		上丘浅層と二丘旁体核との相互的線維結合について(Golgi原法による分析)	医	大谷 克巳	420
		脊髄内多シナプス性運動制御機構の研究	医	神田 健郎	420
		性ホルモンのマウス移植腫瘍に及ぼす影響	医	脇坂 正美	300
		ポリアミンによる蛋白合成促進機構	薬	五十嵐一衛	420
		酵素感光剤の研究	工	青柳 象平	440
		DEAEセルロースを用いる金属元素のイオン交換分離に関する研究	工	小熊 幸一	390
		都市の緑地保全政策に関する研究	園	白井 彦衛	440
		向神経性カビ毒の化学的研究	研	藤本 治宏	420
		頸部脊髄活動電位の基礎的ならびに臨床的研究	医	玉置 哲也	425
	試験研究 (1)	吸虫症の免疫診断法標準化に関する研究	医	横川 宗雄	2,300
		建築設計計画のための人体位諸数値の計測研究(継続)	工	小原 二郎	2,500
		新規酸化還元樹脂の開発と実用化(継続)	工	小嶋 邦晴	1,000
	(2)	EMiスキャナの断層撮影に出現した脳障害部位の判読に要する人脳合成樹脂包埋標本	医	大谷 克巳	700
		学童脊柱変形に対するモアレトポグラフィ法による早期自動診断に関する研究	医	井上 駿一	2,300
		患者管理法テスト、Pmpによる臨床教育効果の評価に関する研究	医	本間 三郎	2,500
		面形状を測定する精密画像解析装置の研究	工	磯部 孝	2,200
		発光分析と原子吸光分析による土壌・底質・沈積物中の重金属元素定量方法の標準化	理	大八木義彦	2,000
奨励研究 (A)		精巣導管上皮の結合装置に関する研究	医	鈴木二美枝	330
		免疫反応を利用したアセチルコリン受容体分布の形態学的研究	医	石川 裕二	330
		電子回路による神経インパルス伝導模型を利用した教育実習方法の開発	医	溝手 宗昭	400
		抑制性T細胞の分化と遺伝子表現に関する研究	医	奥村 康	330

科学研究費補助金

52		膠原病患者末梢血液リンパ球中の抗原認識T細胞の定量化に関する研究	医	野崎 忠信	330
		アレルギー性炎症における好酸球の機能に関する基礎的研究	医	鳥居 敏明	330
		糖尿病における膵ラ氏島ソマトスタチン産生細胞の生理学的及び病理学的意義	医	牧野 英一	330
		アレルギー性炎症におけるSRS-Aの生物学的意義	医	吉田 象二	330
		皮膚浸潤細胞の免疫細胞学的検討(1)皮膚リンパ球系腫瘍細胞の膜表面マーカーの検索	医	川上恵美子	330
		声帯のBiomechanicsに関する研究	医	小林 伸行	330
		肝薬物代謝酵素活性化の機構に関する研究	薬	北田 光一	330
		円弧状すだれ電極と音響導波路を用いたVHF帯弾性表面波フィルタに関する研究	工	山口 正恒	380
		超塑性合金の盛り上げ加工について	工	広橋 光治	400
		水素を反応ガスに用いた近接法による高効率cbs-Imp太陽電池の製作	工	吉川 明彦	380
		β -ヒドロキシン酸を原料とするスピロラク톤の合成	工	藤田 力	380
		主鎖中に α -ジケトン結合を含むポリマーの合成と応用	工	阿久津文彦	380
		合弁花植物の合弁花冠における融着部(花冠筒部)の発生の比較形態学的研究	教養	西野 栄正	350
		木材細胞壁の弾性定数の理論的及び実験的研究	教育	大釜 敏正	360
		三元複合材料の破壊に関する時間温度換算則の研究	工	芳我 攻	370
		陰イオン交換セルロースDEAEの無機分析化学への応用	工	善国 信隆	370
53	科学研究費補助金	がん特別研究			
		(2) 消化器癌患者における免疫療法の基礎的臨床的研究	医	佐藤 博	3,000
		前立腺癌の特殊性	医	島崎 淳	2,500
		抑制性T細胞による腫瘍免疫抑制の機序に関する研究	医	藤本 重義	2,500
		環境科学特別研究			
		(1) 湾岸都市の環境動態に関する総合的生態学的研究	理	沼田 真	6,000
		大気汚染の光化学的基礎研究	工	鈴木 伸	10,400
		特定研究			
		(1) 免疫応答の遺伝的統御に関する研究	医	多田 富雄	9,000
		(2) 幼若筋細胞の収縮タンパク質に関する研究	理	大日方 昂	800
		筋細胞の発生に対する運動神経細胞の制御	医	嶋田 裕	500
		インドール系植物塩基の化学変換に関する研究	薬	坂井進一郎	1,200
		総合研究(A)			
		決定論と自由の関係の意味論的研究(継続)	人	中村 秀吉	1,400
		西欧倫理思想の日本における受容に関する研究(継続)	人	白田 貴郎	400
		維管束植物の系統分類に関する研究(継続)	理	西田 誠	1,000

53		環境教育の方法論に関する研究(継続)	理	沼田 真	2,000
		生物活性を存する植物、微生物成分の生成研究	研	山崎 幹夫	3,500
一般研究 (A)		筋肉の弾性要素、新しい構造蛋白質の研究(継続)	理	丸山 工作	1,000
		深海底附近に懸垂した受波器による人工地震反射波の観測(継続)	理	村内 必典	600
		酸素欠乏の人体呼吸機能に及ぼす影響(継続)	医	本田 良行	1,500
		前立腺のアンドロゲン依存性に関する基礎的および臨床的研究	医	島崎 淳	9,000
		脊髄反射による運動制御機構の実験的研究	医	本間 三郎	13,500
		土壌伝染性病原菌における耐性菌および耐久器官形成についての比較形態学的研究(継続)	園	飯田 格	500
		わが国の醸造用ブドウの品質に関する研究	園	廣保 正	12,600
	(B)	低次元磁性系の常磁性共鳴における非対角項効果に関する研究	理	山田 勲	8,100
		宮崎肺吸虫症の病態生理学的研究(継続)	医	横川 宗雄	800
		白血球型別HLA系の個人識別への応用(継続)	医	木村 康	1,000
		本態性高血圧症と動脈硬化症の代謝内分泌学的研究(継続)	医	熊谷 朗	600
		好酸球の機能とその生物学的意義(継続)	医	岡本 昭二	1,000
		肺癌の抗癌剤長期間歇投与による宿主抵抗性の変動と免疫療法の研究(継続)	医	山口 豊	1,300
		カドミウムの催奇型性に関する研究(継続)	医	堀越 達郎	300
		経皮経肝の門脈カテーテル法による肝内シャント率測定及びその臨床応用(継続)	医	奥田 邦雄	600
		脊椎脊髄外科におけるiatrogenic paralysisの防止法に関する研究(継続)	医	井上 駿一	500
		頭頸部腫瘍(特に耳下腺腫瘍)による超音波病理学の確立	医	金子 敏郎	8,200
		尿素回路へのアンモニア窒素流入の調節機構	医	橘 正道	4,600
		Transfer Factorによる肺癌の免疫化学療法に関する研究	医	藤沢 武彦	1,500
		アニリン系薬物の代謝と毒性発現機序に関する比較薬理学的研究(継続)	薬	北川 晴雄	1,700
		日本産植物より得られるインドールアルカロイドとその化学的研究(継続)	薬	坂井進一郎	500
		教育用画像提示システムの研究	工	小郷 寛	4,300
		写真的方法による精密導電パターンの直接形成法(材料及び方式に関する研究)(継続)	工	山岡 亜夫	2,250
		水田土壌の斑紋生成に関する研究(継続)	園	小島 道也	300
		6-置換アデニン誘導物質による表現型の変換	園	飯塚 宗夫	3,400
		Histoplasma capsulatumの生産する食細胞傷害性毒素の研究	研	新井 正	1,000
	(C)	視覚過程の時間的特性の実験的研究(継続)	人	大山 正	400

科学研究費補助金

53	科学研究費補助金	宋・元時代の役法と郷村統治制度（継続）	人	小山 正明	200
		フランス絶対王成立期における身分制議会の研究	人	高橋 清徳	1,300
		標本調査分析用プログラム・パッケージの作成	理	浅井 晃	1,400
		総和法と正則関数族N+についての研究	理	広川 亮	1,000
		嶺岡・瀬戸川帯の海底噴出溶岩の地質学的岩石学的研究（継続）	理	兼平慶一郎	200
		筋細胞膜の形態分化に対する神経の影響	医	嶋田 裕	2,000
		血管構築からみた腎炎慢性化の実験病理学的研究	医	近藤洋一郎	1,350
		反射性循環調節の中枢神経内経路におけるモノアミン神経の関与	医	千葉 胤道	1,800
		R S V変換細胞の抗原構造形成における組織適合遺伝子の関与	医	藤本 重義	1,500
		歩行運動におけるガンマ運動神経上位中枢活動の解析	医	中島 祥夫	2,000
		組織肥満細胞の細胞内代謝に関する研究	医	富岡 玖夫	1,700
		溶血性貧血の赤血球非解糖系酵素に関する研究	医	藤岡 成徳	1,900
		F抗原による実験肝炎及びヒト肝炎の免疫学的研究	医	若新 政史	1,750
		Sastained Release Carinogenesis in Dogs	医	松村 公人	1,700
		頸椎および胸椎後従靱帯骨化の形成機序に関する硬組織学的研究	医	松井 宣夫	1,800
		尿酸カルシウムの結晶化を抑制する尿中高分子物質の研究	医	伊藤 晴夫	1,700
		鼻アレルギーにおける化学変性抗原による減感作療法	医	藤田 祥祐	1,700
		支配神経の機能の発達におよぼす効果器の影響とそれに対する薬物の作用	医	黒見 坦	1,700
		ポリアミンによる蛋白合成の調節	薬	広瀬 聖雄	1,700
		トリプトファン、メラトニンおよび関連化合物の酸素化反応	薬	中川 昌子	1,600
		イオン交換クロマトグラフ法による環境試料の微量分析	工	黒田 六郎	1,700
		弾性追従現象の理論的実験的研究	工	鵜戸口英善	1,900
		近接法による低コスト高効率Cds-Inp薄膜太陽電池の製作に関する研究	工	西巻 正郎	2,100
		蔬菜における光合成産物の分配パターン制御技術に関する研究（継続）	園	伊東 正	200
		幼苗作物の細胞外凍結後の融解条件と被害に関する研究	園	山中捷一郎	1,900
		無彩色の現われ方と照明の知覚	教養	野口 薫	1,800
		双子葉植物の器官発生の比較形態学的研究（継続）	教養	福田 泰二	800
		ストレス負荷による交感神経性細胞のシナプス経路性変化—電子顕微鏡的研究—	医	門田 健	1,600
		(D) 区分所有権をめぐる紛争と救済の実証的研究	人	花村 治郎	400
		インドネシア進出の日本企業の経営諸問	人	村山 元英	400

53	題・実証研究			
	ドイツ第二帝制期におけるAntisemitismusの成立と中産階級へのその浸透	人	下村 由一	450
	水生植物の繁殖様式の類型化に関する研究	理	生嶋 功	450
	秋吉石灰岩の石炭紀こけ虫の研究	理	坂上 澄夫	470
	DNAとニワトリプロタミン(ガリン)及びその部分分解ペプチドとの複合体の研究	理	中野 実	460
	虚血性脊髄性固縮における脊髄組織アセチルコリンに関する研究	医	村山 智	440
	硝子体出血の酵素学的研究	医	石川 清	410
	同種脾組織片移植に関する研究	医	渡辺 一男	440
	膠原病における特異的T細胞障害性自己抗体の役割とその臨床的意義	医	野崎 忠信	440
	Scanning radioimmunoassay	医	斉藤 康栄	440
	カエルの呼吸における中枢化学感性の存在について	医	榊原 吉一	440
	水溶性造影剤による頸椎症術後 Myelogramと症状との関係	医	宮坂 斉	440
	大規模ランダムスペース行列処理に関する研究	工	池田 宏明	230
奨励研究 (A)	陳腐化する品目を取扱う在庫モデルの解析	理	中神 潤一	280
	水および非水溶液中における種々のクラウンエーテルと金属イオンとの錯体に関する研究	理	武田 裕行	380
	培養神経筋接合の機能分化とその形態学	医	増子 貞彦	370
	脳室系周囲灰白質に至る脊髄および視床下部由来の線維	医	山田 仁三	370
	マウス移植腫瘍に及ぼすステロイドホルモンの影響	医	脇坂 正美	370
	超音波パルス法によるヒト生体鼓膜の振動様式測定法	医	兼坂 俊章	350
	アセチルコリン受容体の分化に対する神経の影響	医	石川 裕二	370
	脊髄性固縮と脊髄反射活動電位(GABA誘導体の痙縮治療薬との関連において)	医	鈴木 俊雄	370
	ミトコンドリア膜機能の変調によるアセチルブルタミン酸単位の調節	医	石田 久枝	370
	動脈硬化進展抑制に関する血管壁代謝の研究	医	斉藤 康	370
	リンパ球亜集団(Subpopulation)の分離とその活性	医	谷口 克	370
	ヒトインターフェロンによる細胞のDNA合成阻害機序	医	布施 晃	370
	ヒト副腎皮質腫瘍におけるステロイド生合成調節機構の基礎的臨床的研究	医	西川 哲男	370
	高血圧症におけるカリクレイン・キニン系の臨床的意義	医	山田 研一	370
	好酸球の機能に関する基礎的研究	医	鳥居 敏明	370
	糖尿病における膵ラ氏島ソマトスタチン産生細胞の生理学的及び病理学的意義	医	松島 保久	370

科学研究費補助金

53	科学研究費補助金	アレルギー性炎症における SRS-A の生物学的意義	医	吉田 象二	370
		皮膚浸潤細胞の免疫細胞学的検討	医	田辺恵美子	370
		インドール誘導体とK O ₁ の反応	薬	谷口 幹雄	370
		薬物非品質化の消化管吸収、薬効に及ぼす効果について	薬	山本 恵司	370
		低速電子多重散乱法による高分子エネルギー帯構造の研究及び応用	工	上野 信雄	410
		超塑性合金の変形挙動（特に2相境界層の拡散現象について）	工	広橋 光治	420
		ベルト研削における工作物材質と研削量Z'について	工	坂宮 一彦	380
		水素を反応ガスに用いた近接法による高効率Cds-Inp太陽電池の製作	工	吉川 明彦	470
		現代制御理論による制御系設計法の体系化（クレーンの自動制御）	工	美多 勉	410
		エコシステムにおける有害物質の循環過程と安定性に関するシステム的研究	工	平田 廣則	380
		組成変動のないPb (Zr, Ti) O ₈ を用いた圧電材料の開発	工	掛川 一幸	400
		オーチャードガラスの貯蔵物質の転流と再生葉の光合成との関係に関する研究	園	野島 博	400
		ヒト主要組織適合抗原の公衆衛生学的研究 1) 大学入学者における若年性糖尿病とHLA	保健管理センター	岩本 逸夫	370
		多孔質壁をもつ流路における波動の伝播	工	吉田 博夫	350
		暖房温室における伝熱形態の研究（屋外気象要因が熱貫流率におよぼす影響）	園	林 真紀夫	400
	試験研究 (2)	学童脊柱変形に対するモアレトポグラフィによる早期自動診断に関する研究(継続)	医	井上 駿一	1,600
		患者管理法テスト、PMPによる臨床教育効果の評価に関する研究(継続)	医	本間 三郎	700
		面形状を測定する精密画像解析装置の研究(継続)	工	磯部 孝	1,200
		微量分析法による単一細胞レベルでの細胞分化の研究	理	大日方 昂	860
		頭頸部腫瘍の物理的特性の測定とその臨床的応用	医	金子 敏郎	1,000
	海外学術調査	熱帯圏北半球アメリカ地域原生園芸植物の遺伝質解析と利用	園	飯塚 宗夫	10,600
		南アメリカ南部の後期中生代及び新生代の化石植物相の研究	理	西田 誠	1,900

備考

1 昭和25年度以前については資料収集が不可能であったため掲載されていない。

2 区分欄の科学研究費補助金等及びその研究種目の目的は次のとおりである。

(イ) 科学研究費補助金等

・科学研究費交付金（昭和14年度～昭和39年度）

人文科学、自然科学の重要な基礎的研究を振興させることを目的とする交付金で総合研究、機関研究、特定研究、各個研究の4種がある。

・科学試験研究費補助金（昭和20年度～昭和39年度）

応用研究のうち基礎的段階にある重要研究を躍進させることを目的とする補助金である。

- 科学研究助成補助金（昭和26年度～昭和32年度）

研究機関に所属する研究歴の若い優秀な研究者を育成することを目的とする補助金である。

- 化学研究促進補助金（昭和30年度～昭和31年度）

わが国の産業を振興し、国民生活を充実するために化学の分野における科学研究の振興を図ることを目的とする補助金である。

- 科学研究費補助金（昭和40年度以降）

わが国の学術の振興に寄与するため、優れた学術研究を格段に発展させることを目的とする補助金である。

(ロ) 研究種目

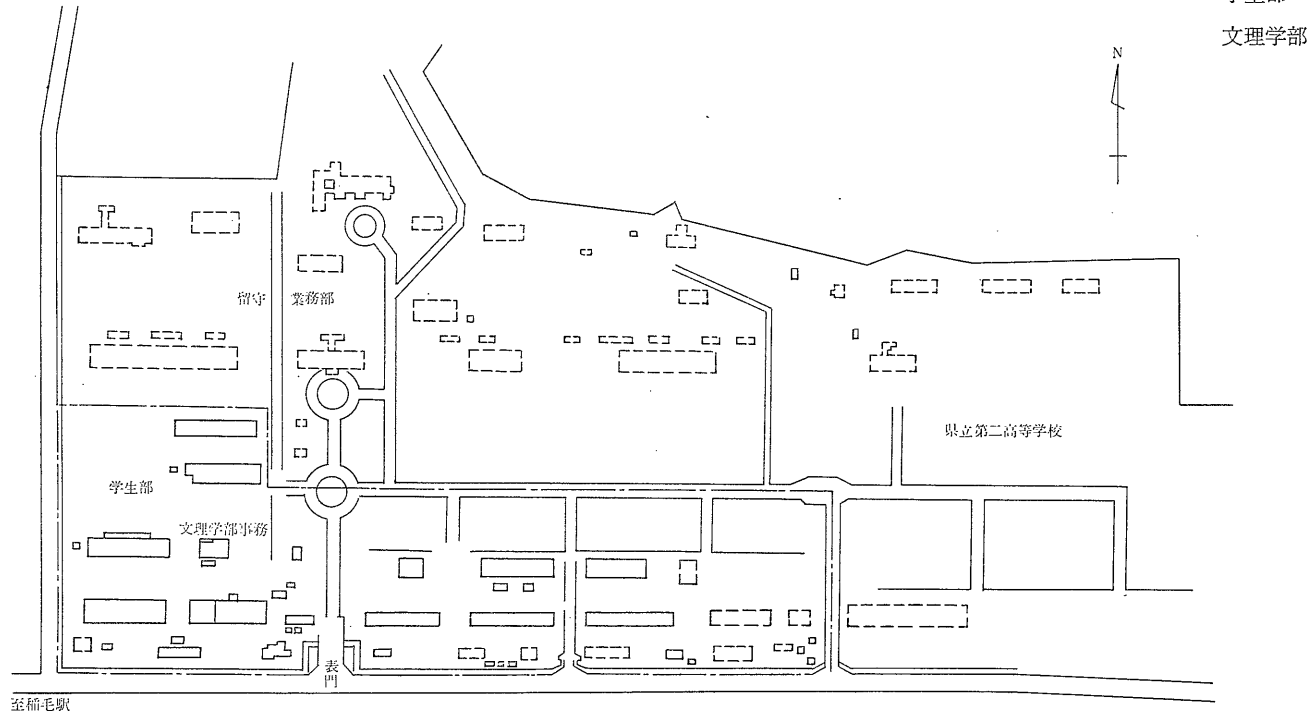
- 総合研究……多数の研究者が共同して行なう研究（昭和39年度まで）
- 機関研究……同一の研究機関に所属する研究者が共同して行う研究で金額により(A)(B)(C)に区分する（昭和42年度まで）
- 各個研究……研究機関に研究者として所属する者が主として1人で行なう研究（昭和42年度迄）
- 助成研究……研究歴の若い研究者が行う研究（昭和32年度まで）
- 特別研究……重要課題について年限を設けなくて長期にわたって行う研究（昭和41年度以降）
- 特定研究……重要課題について一定期間（3年）行う研究（昭和38年度以降）
- 総合研究……1研究機関を越えて広く異なる機関に所属する研究者が共同して行う研究(A)、そのうち研究連絡を主とするもの(B)（昭和40年度以降）
- 一般研究……同一の研究機関に所属する研究者が1人又は共同して行う研究で金額により(A)(B)(C)(D)に区分する（昭和43年度以降）
- 奨励研究……研究機関に所属する研究歴の若い研究者が1人で行う研究(A)（昭和43年度以降）
- 試験研究……重要な応用的研究のうち基礎的段階のもので、研究の成果が実用に移される可能性をもつ研究（昭和20年度以降）
- 海外学術調査……国内で文献、資料に基づく研究を行った後、更にこれを発展させるため海外で総合的、実証的に調査を行うもの（昭和38年度以降）

8 施設

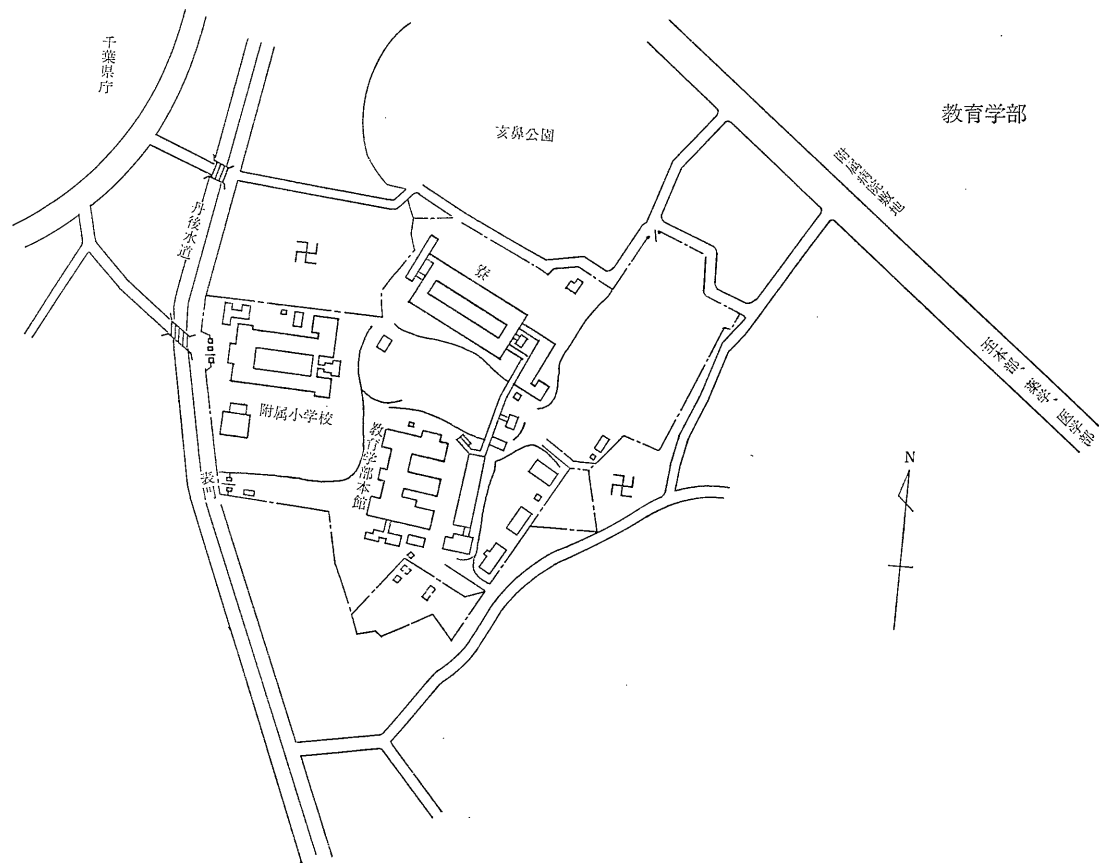
1356

(1) 千葉大学建物配置の変遷

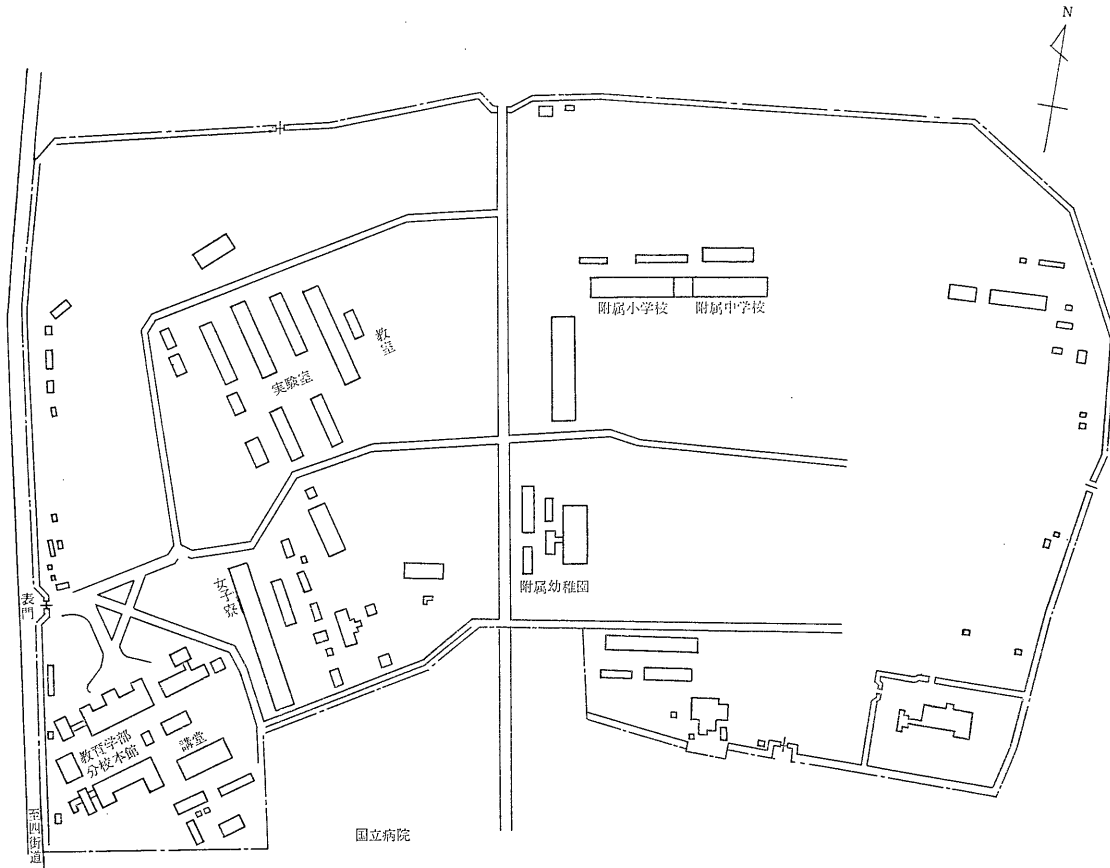
○初期（昭和27.4現在）



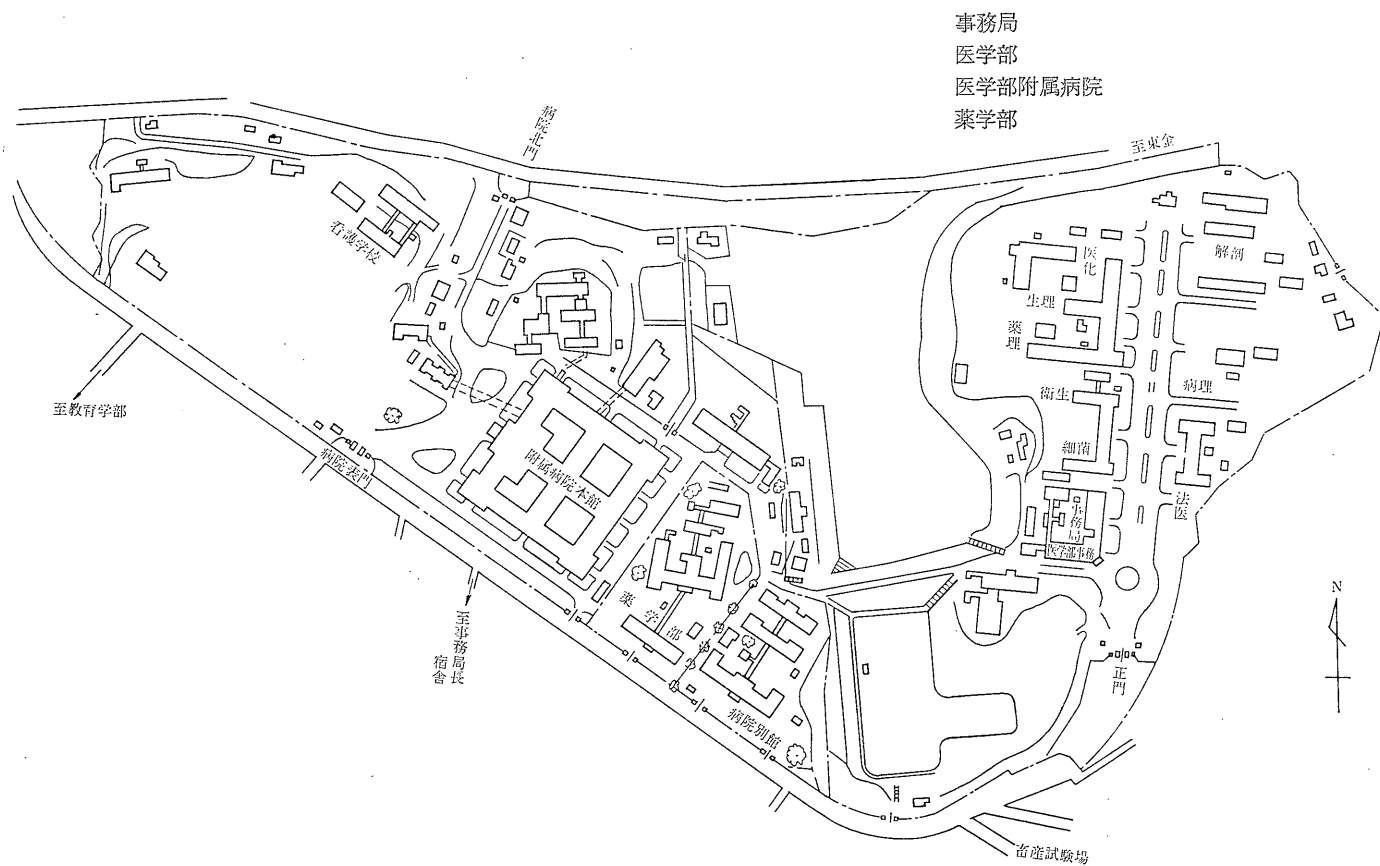
小中台町地区（千葉市小中台町824番地所在）



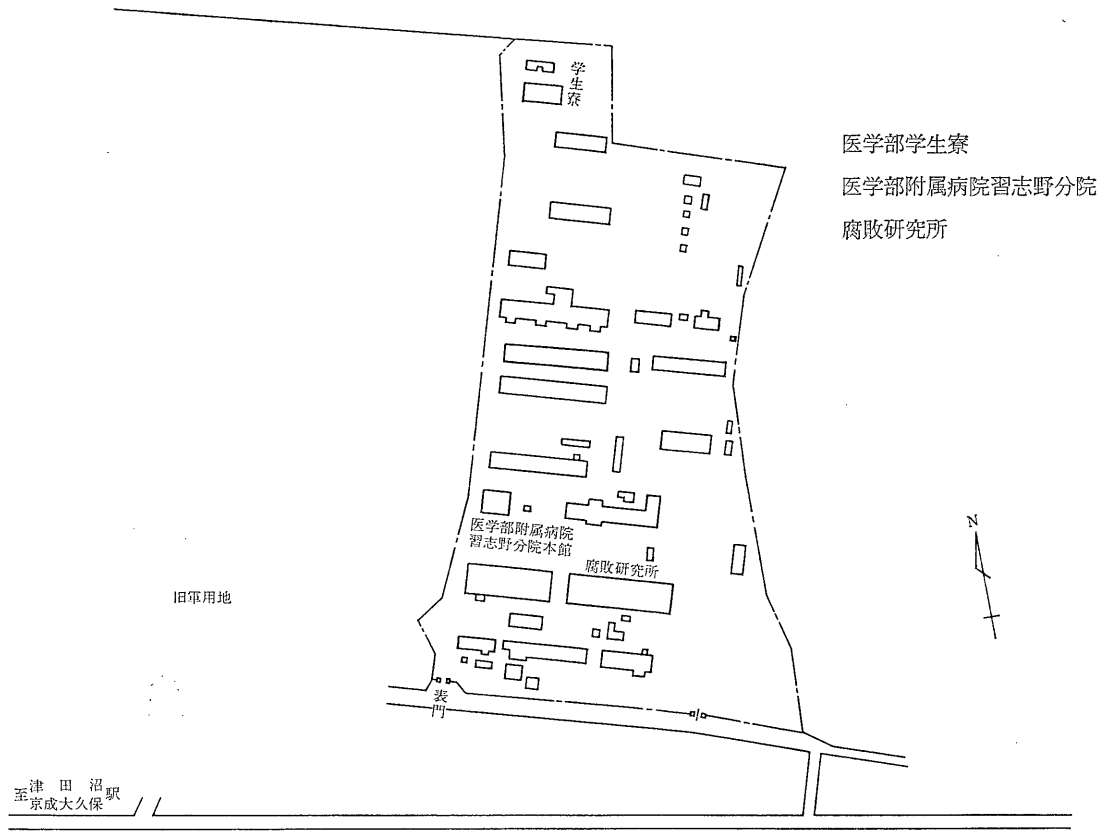
市場町地区（千葉市市場町26番地所在）



四街道地区（千葉県印旛郡千代田町四街道1523番地所在）

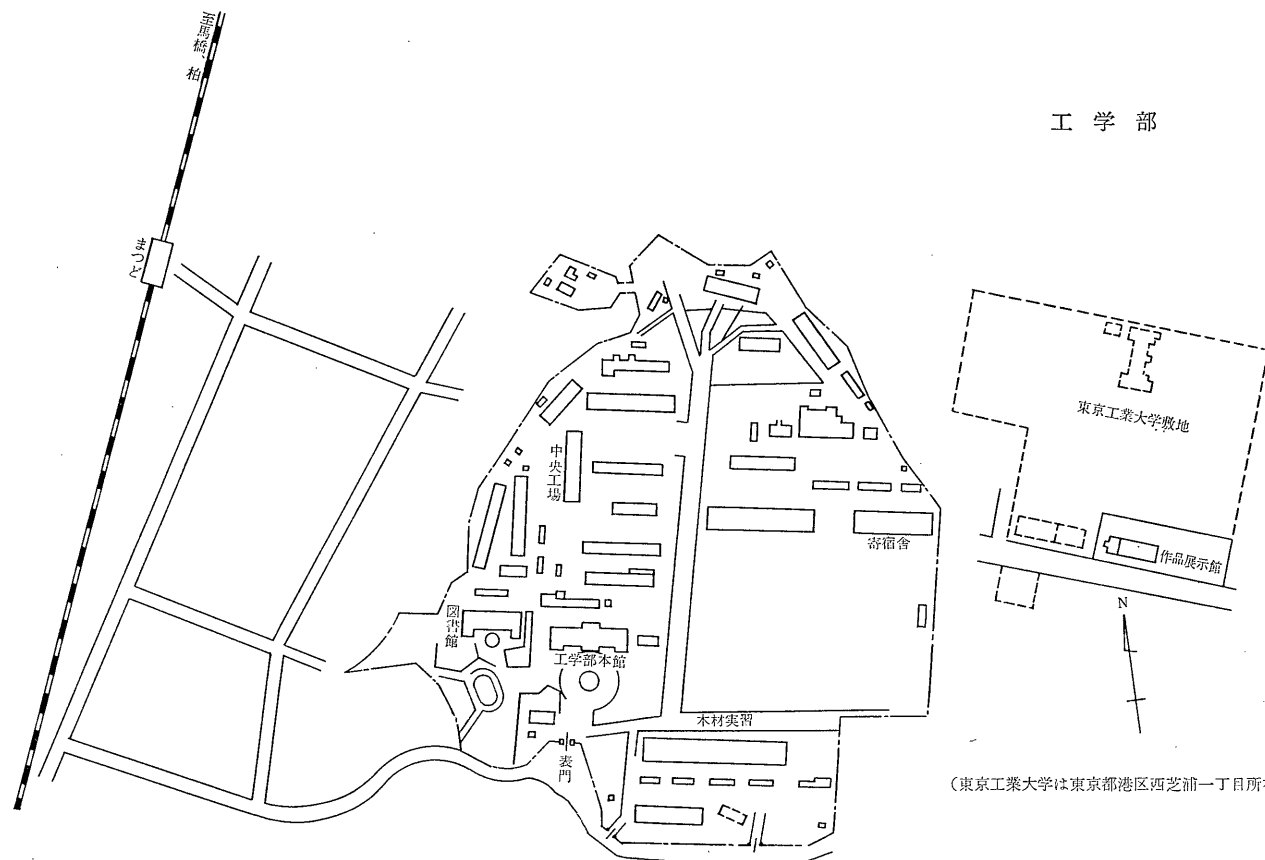


亥鼻・矢作町地区 (千葉市亥鼻町313番地所在)
(千葉市矢作町785番地所在)



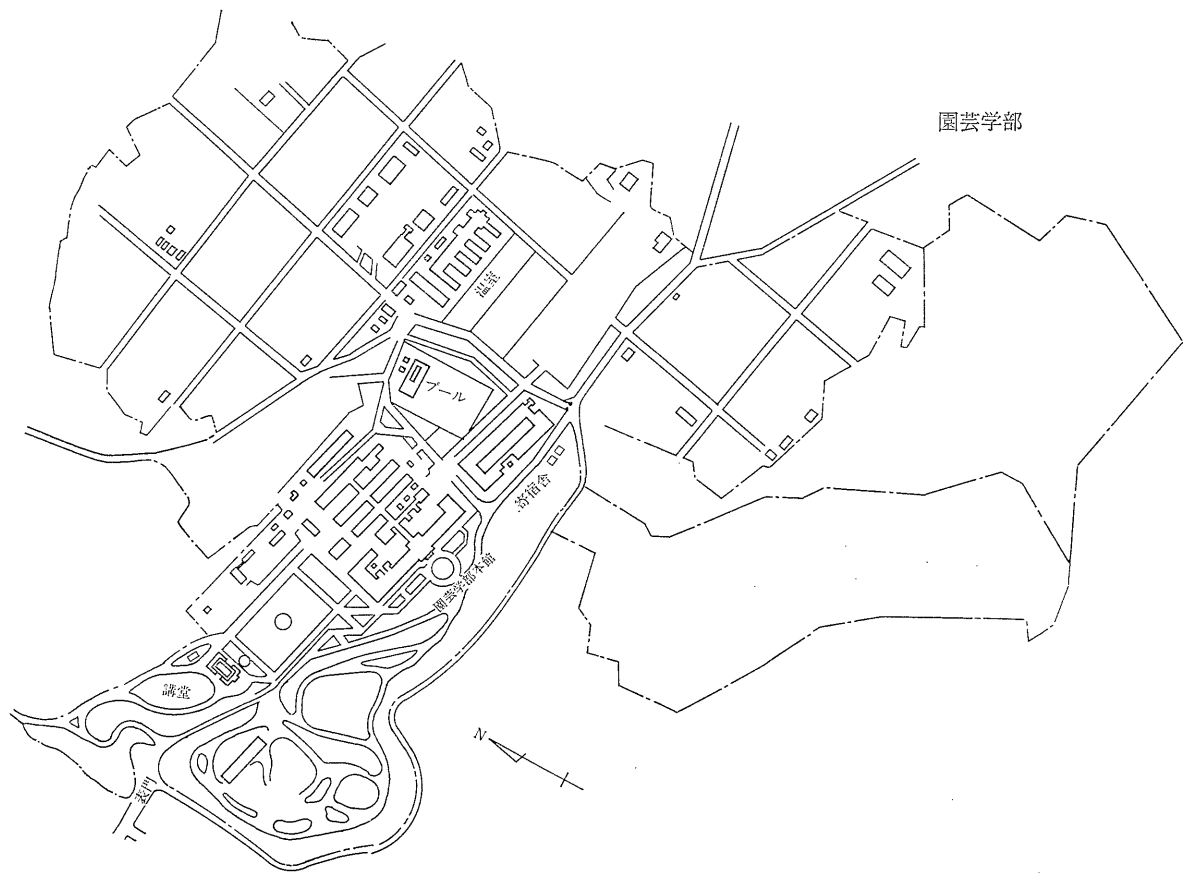
習志野地区（千葉県千葉郡津田沼町大久保113番地所在）

工 学 部



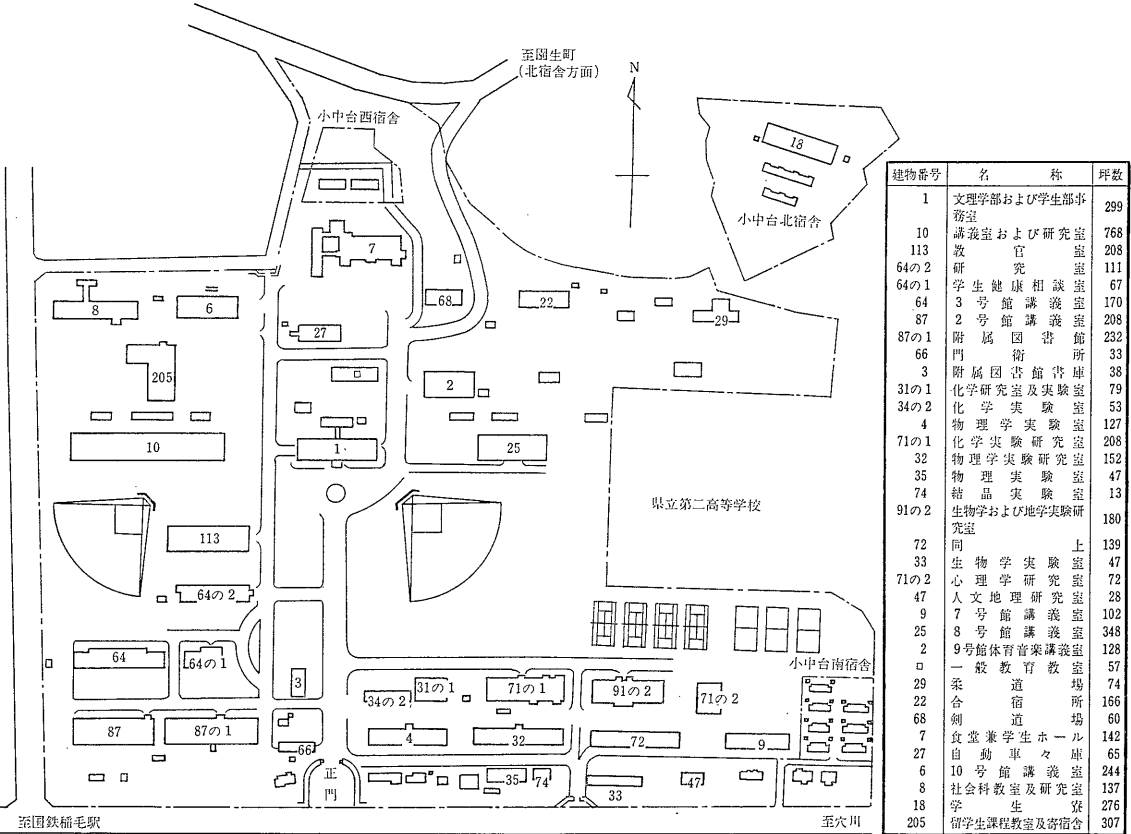
(東京工業大学は東京都港区西芝浦一丁目所在)

岩瀬地区 (松戸市岩瀬351番地所在)



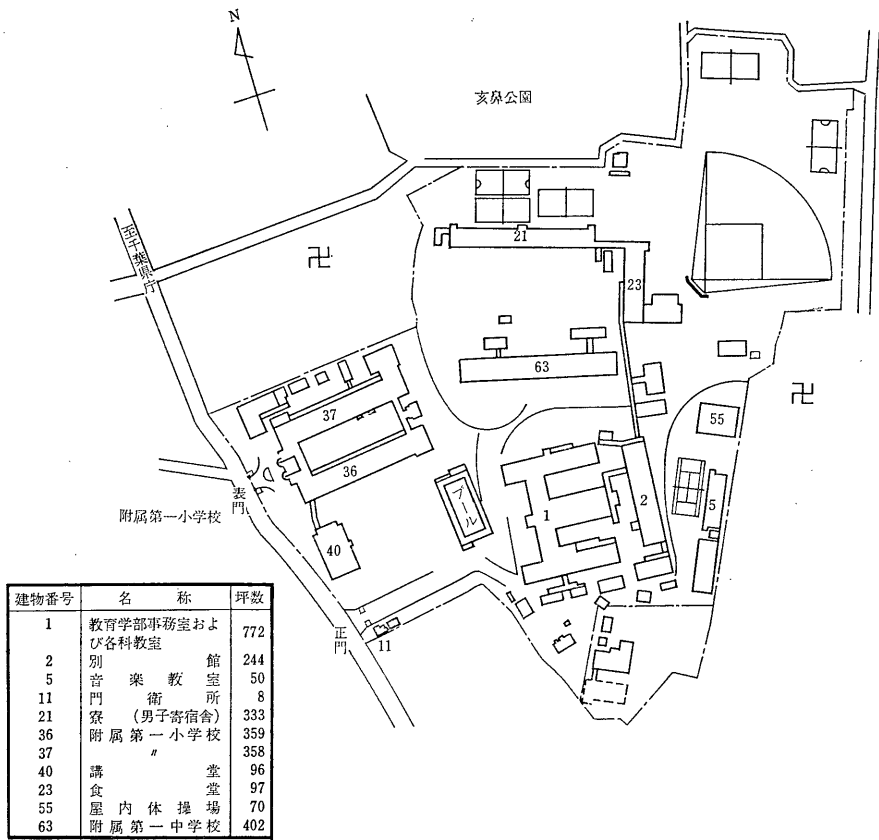
戸定地区（松戸市戸定648番地所在）

○西千葉地区移転統合直前（昭和36.9現在）

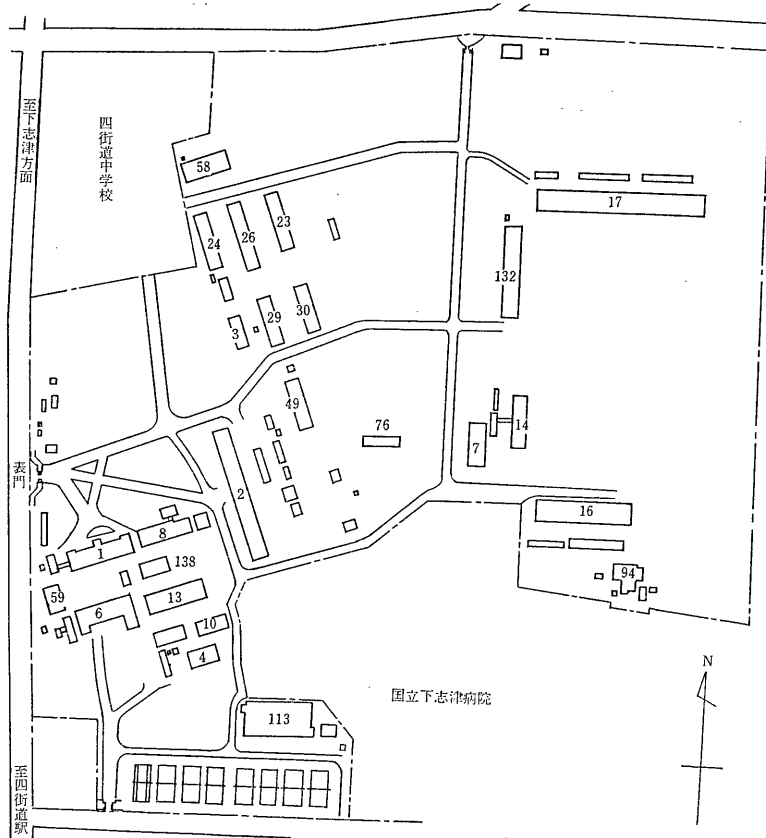


小中台町地区（千葉市小中台町824番地所在）

建物番号	名称	坪数
1	文理学部および学生部事務室	299
10	講義室および研究室	768
113	数 学 講 義 室	208
64の2	研 究 室	111
64の1	学 生 健 康 相 談 室	67
64	3 号 館 講 義 室	170
87	2 号 館 講 義 室	208
87の1	附 属 図 書 館	232
66	門 衛 所	33
3	附 属 図 書 館 書 庫	38
31の1	化学研究室及実験室	79
34の2	化 学 実 験 室	53
4	物 理 学 実 験 室	127
71の1	化学実験研究室	208
32	物理学実験研究室	152
35	物 理 実 験 室	47
74	結 晶 実 験 室	13
91の2	生物学および地学実験研究室	180
72	同	139
33	生 物 学 実 験 室	47
71の2	心 理 学 研 究 室	72
47	人 文 地 理 研 究 室	28
9	7 号 館 講 義 室	102
25	8 号 館 講 義 室	348
2	9号館体育音楽講義室	128
ロ	一 般 教 育 教 室	57
29	柔 道 場	74
22	合 宿 所	166
68	剣 道 場	60
7	食 堂 兼 学 生 ホール	142
27	自 動 車 々 庫	65
6	10 号 館 講 義 室	244
8	社会科教室及研究室	137
18	学 生 寮	276
205	留学生課程教室及寄宿舎	307



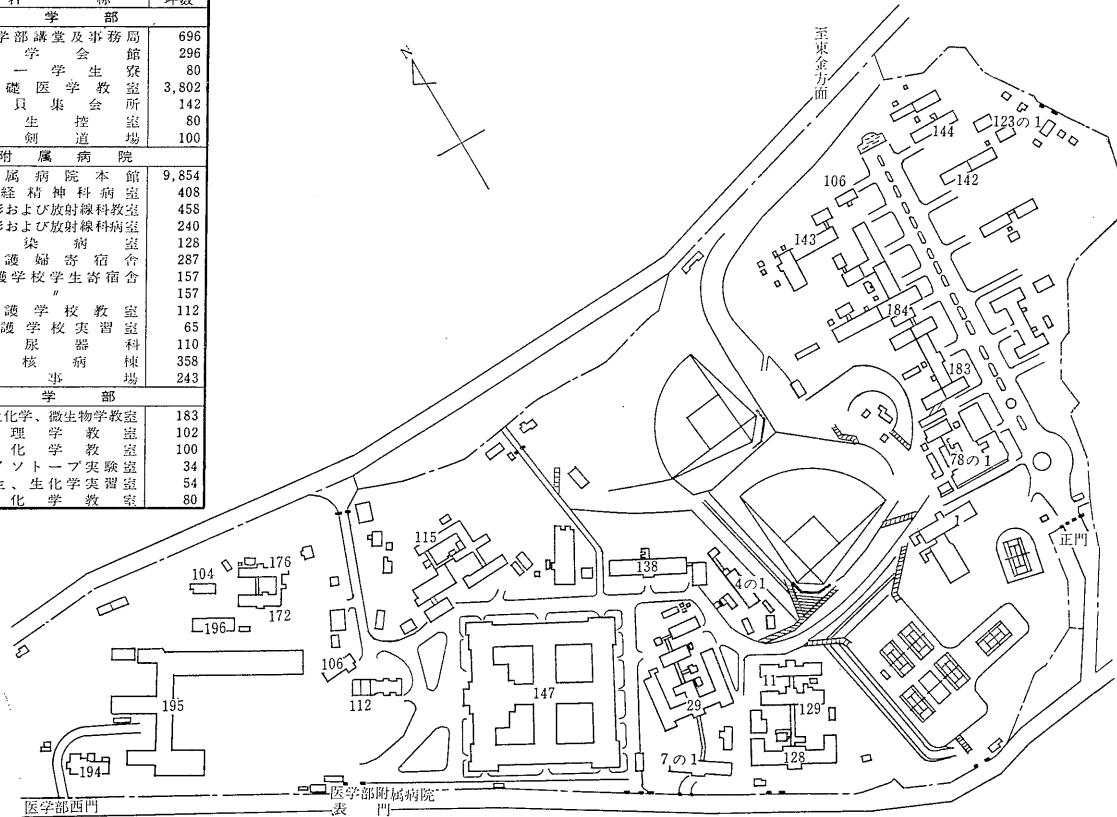
市場町地区（千葉市市場町26番地所在）



建物番号	名 称	坪数
1	教育学部分校事務室	376
	および研究室	
8	講義室	147
59	地学研究室	66
138	雨天体操場	78
6	附属図書館分館分室	206
13	講義室および講堂	462
10	講義室	70
4	工作実習室	72
113	体育館	356
2	食堂(女子寄宿舎)	784
49	寄宿舎食堂	129
76	柔剣道場	62
14	附属幼稚園	246
16	啓心寮(男子寄宿舎)	640
94	職業科作業場	101
132	附属第二小中学校	303
	雨天体操場	
17	附属第二小中学校	1,088
30	大工作業場	100
29	倉庫	100
3	物理化学教室	65
24	美術教室	150
26	生物服教室	180
23	生工学科教室	144
58	家政科教室	160
7	音楽教室	140

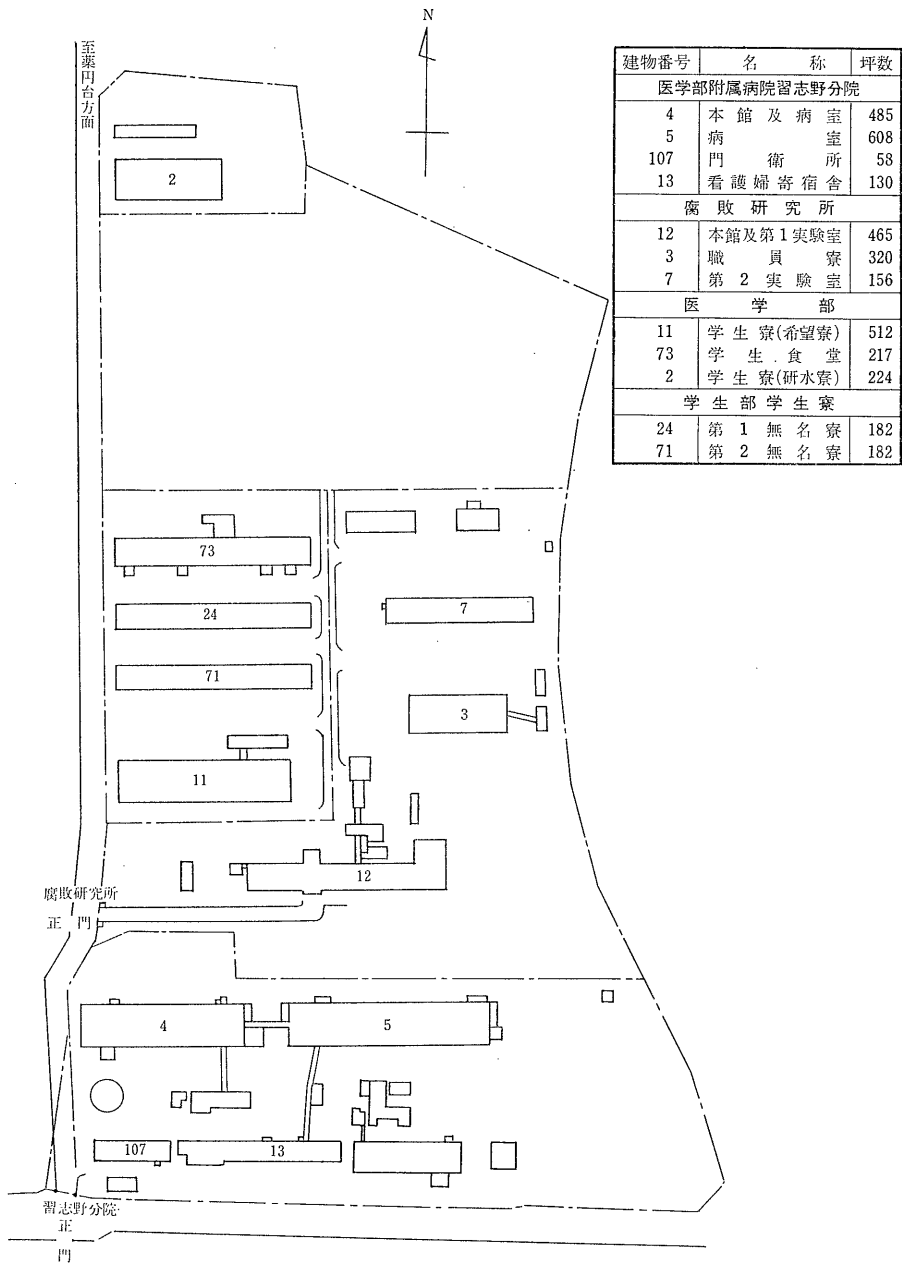
四街道地区(千葉県印旛郡四街道町四街道1523番地所在)

建物番号	名 称	坪数
医 学 部		
78の1	医学部講堂及事務局	696
1	大 学 会 館	296
144	第 一 学 生 寮	80
195	基 礎 医 学 教 室	3,802
194	職 員 集 会 所	142
196	学 生 控 室 場	80
4の1	剣 道 場	100
附 属 病 院		
147	附 属 病 院 本 館	9,854
138	神 経 精 神 科 病 室	408
128	整形外科および放射線科教室	458
129	整形外科および放射線科病室	240
11	伝 染 病 室	128
115	看護婦寄宿舎	287
172	看護学校学生寄宿舎	157
176	"	157
106	看護学校教室	112
104	看護学校実習室	65
7の1	泌尿器科棟	110
29	結核病棟	358
112	炊 事 場	243
薬 学 部		
183	衛生化学、微生物学教室	183
184	病 理 学 教 室	102
143	医 化 学 教 室	100
106	アイソトープ実験室	34
142	衛生、生化学実習室	54
123の1	生 化 学 教 室	80

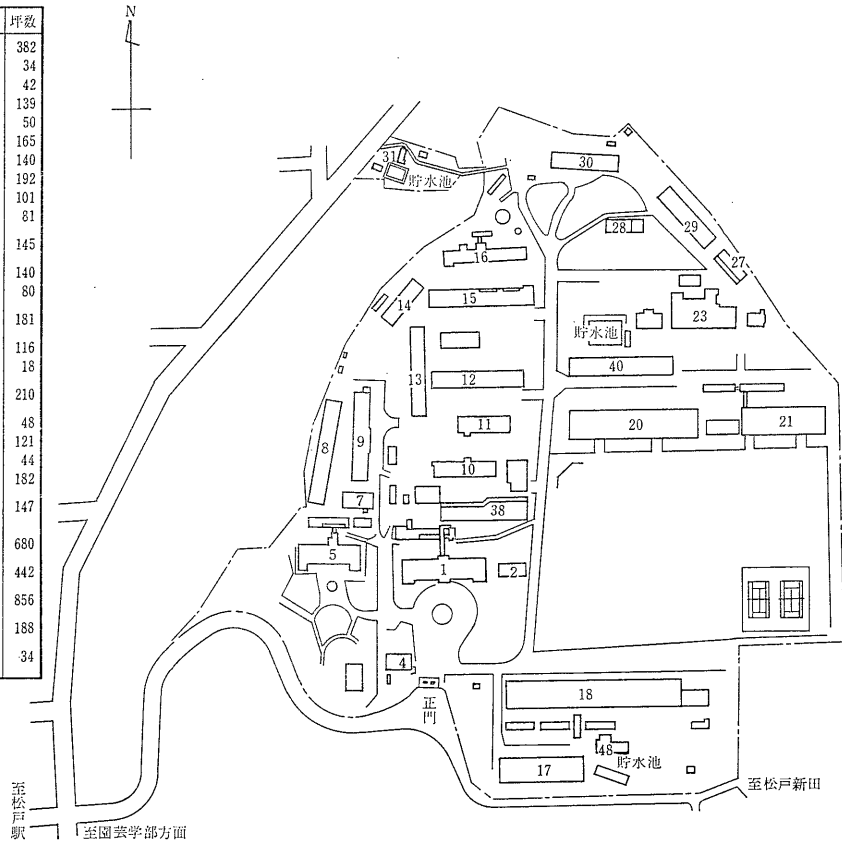


亥鼻・矢作町地区 (千葉市亥鼻町313番地所在)
千葉市矢作町785番地

資料編

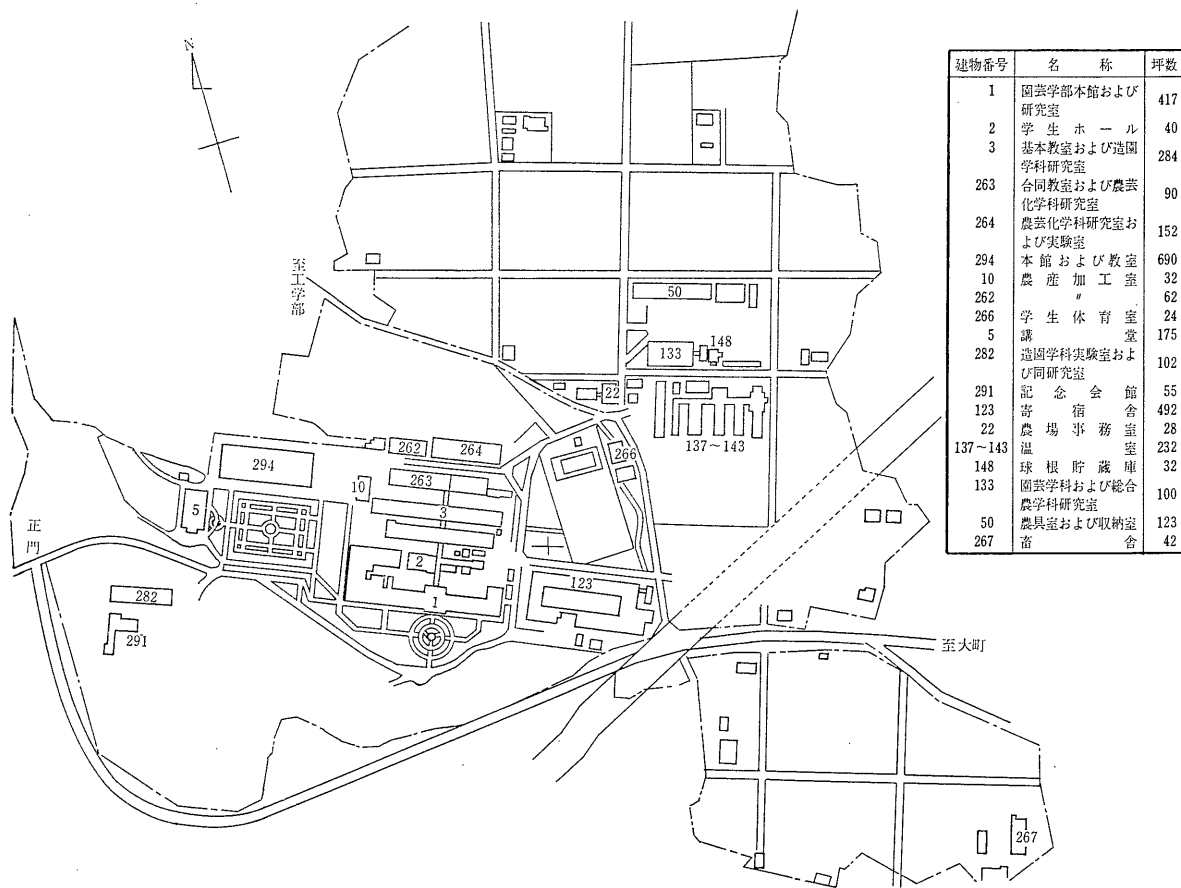


習志野地区（習志野市大久保町4の113番地所在）



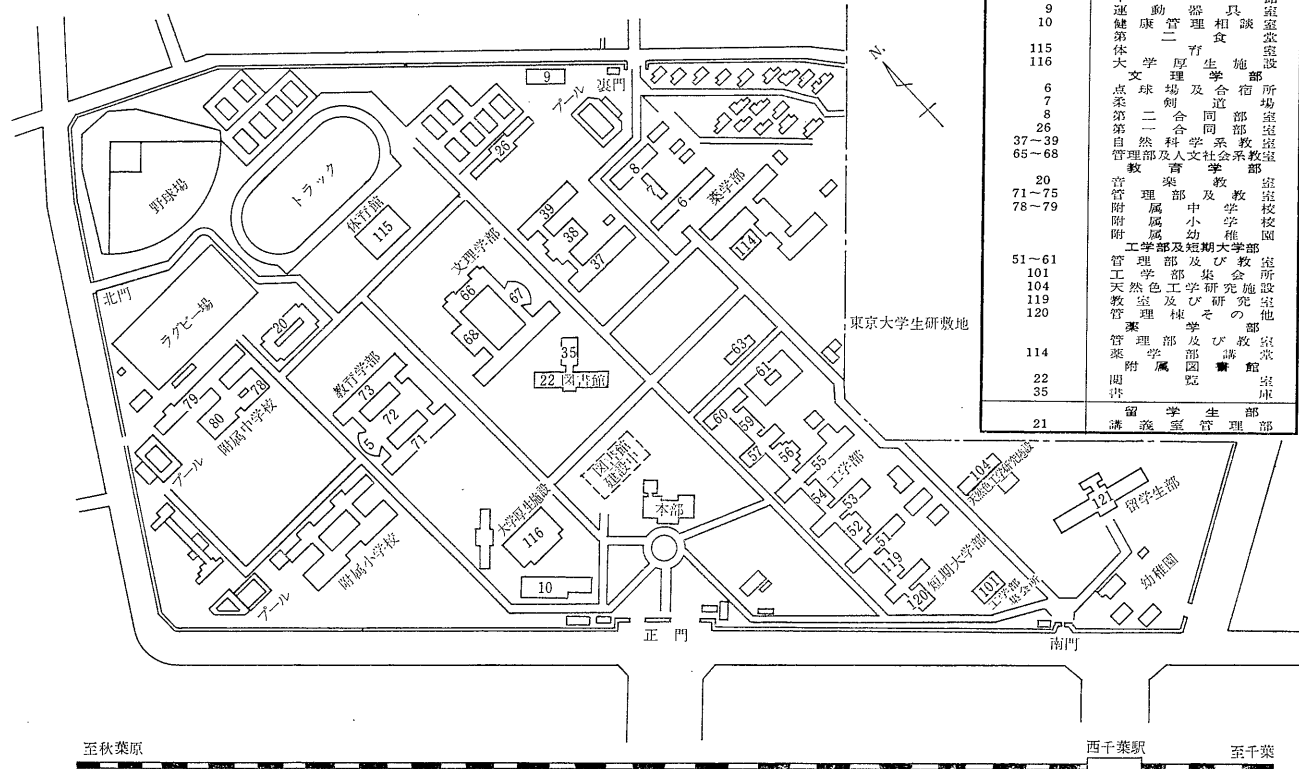
岩瀬地区（松戸市岩瀬531番地所在）

建物番号	名 称	坪数
1	工 学 部 本 館	382
2	短 大 事 務 部	34
4	門 衛 所	42
5	附 属 図 書 館 (分 館)	139
7	物 理 学 実 験 室	50
8	木 材 工 藝 実 験 室	165
9	機 械 工 学 科 実 験 室	140
38	図 案 絵 画 教 室	192
10	印 刷 凸 版 実 習 室	101
11	プ レ ス 工 場	81
12	変電室および電気工学科 実験室	145
13	旋 盤 工 場	140
14	印 刷 平 版 実 習 室	80
15	機 械 工 学 お よ び 工 業 化 学 科 実 験 室	181
16	機 械 工 学 科 研 究 室	116
31	揚 水 場	18
30	機 械 工 学 科 製 図 室 お よ び 化 学 科 研 究 室	210
28	鑄 造 熔 解 工 場	48
29	熱 機 関 実 験 室	121
27	鍛 造 工 場	44
23	無 機 化 学 科 実 験 室	182
40	工 業 化 学、工 業 意 匠 学 科 実 験 室	147
20	電 気 工 学、工 業 意 匠 学 科 研 究 室 お よ び 共 通 教 室	680
21	学 生 寮	442
18	建 築、電 気、写 真 科 研 究 室 お よ び 実 験 室	856
17	講 堂	188
48	写 真 印 刷 工 学 科 映 写 研 究 室	34



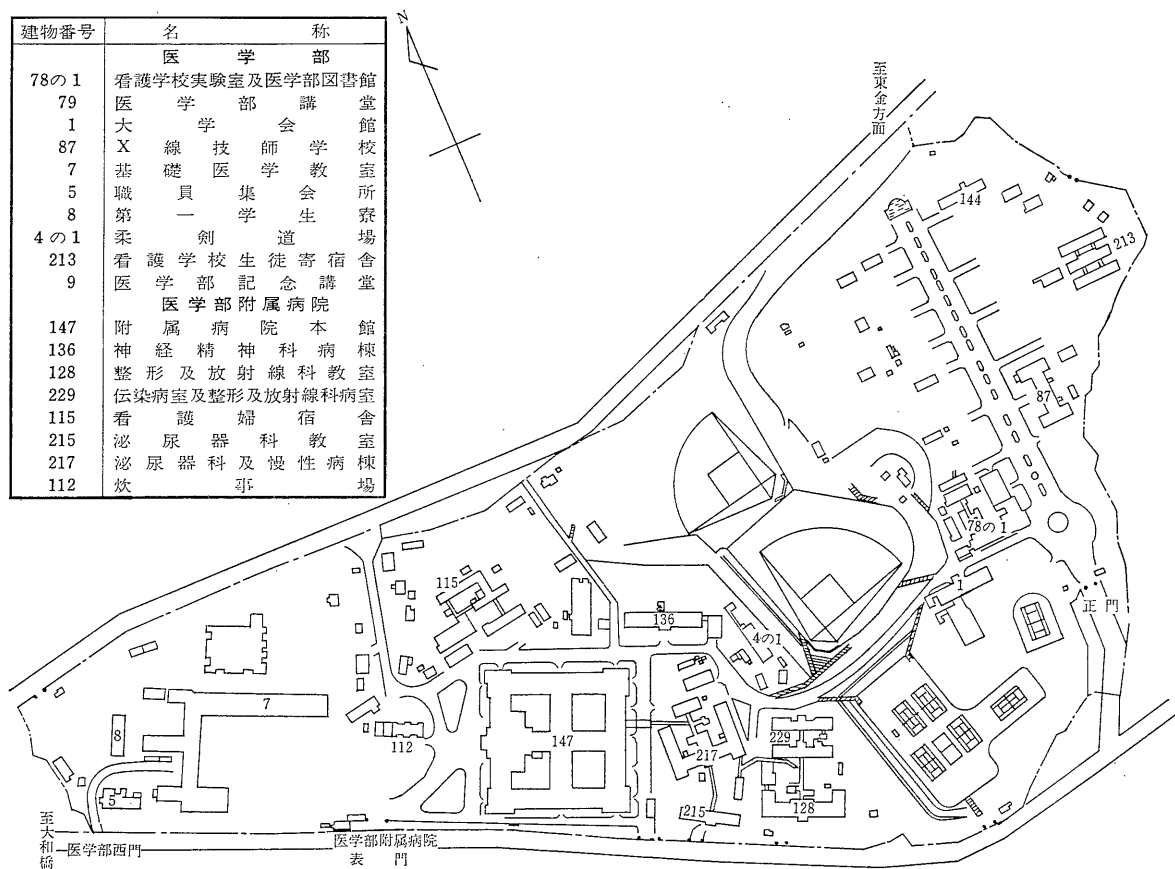
戸定地区 (松戸市戸定648番地所在)

○西千葉地区移転統合直後（昭和42.12現在）



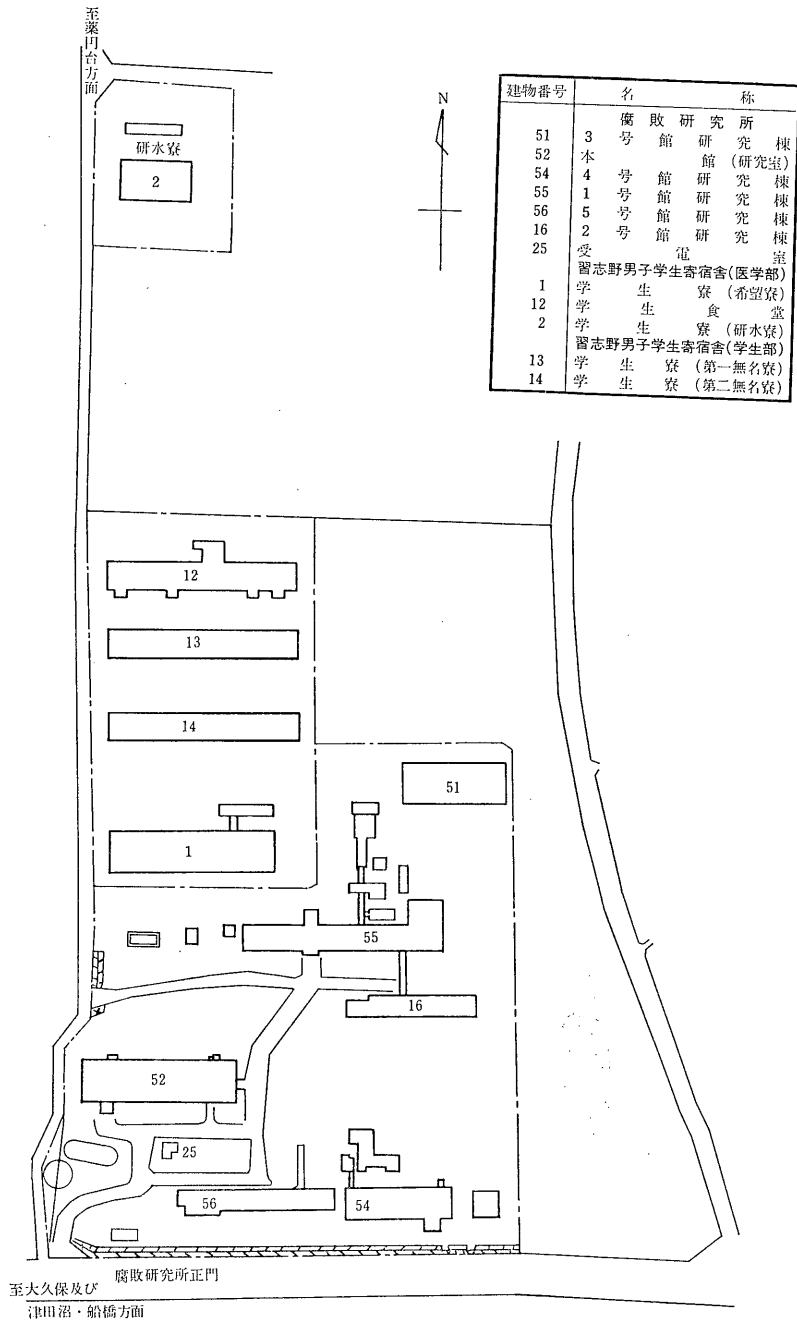
西千葉地区（千葉市弥生町1番33号所在）

建物番号	名 称
	医 学 部
78の1	看護学校実驗室及医学部図書館
79	医 学 部 講 堂
1	大 学 会 館
87	X 線 技 師 学 校 室
7	基 礎 医 学 教 室
5	職 員 集 会 所
8	第 一 学 生 寮
4の1	柔 剣 道 場
213	看 護 学 校 生 徒 寄 宿 舎
9	医 学 部 記 念 講 堂
	医 学 部 附 属 病 院
147	附 属 病 院 本 館
136	神 經 精 神 科 病 棟
128	整 形 及 放 射 線 科 教 室
229	伝染病室及整形及放射線科病室
115	看 護 婦 宿 舎
215	泌 尿 器 科 教 室
217	泌 尿 器 科 及 慢 性 病 棟
112	炊 事 場



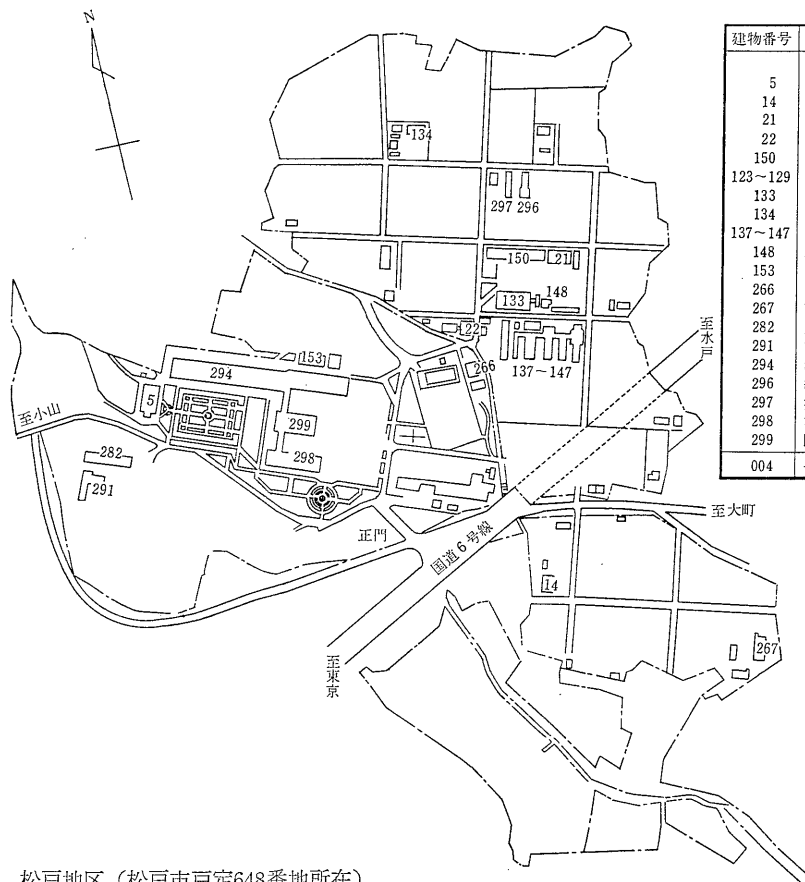
友鼻・矢作町地区 (千葉市友鼻町313番地所在)
 (千葉市矢作町785番地所在)

施設



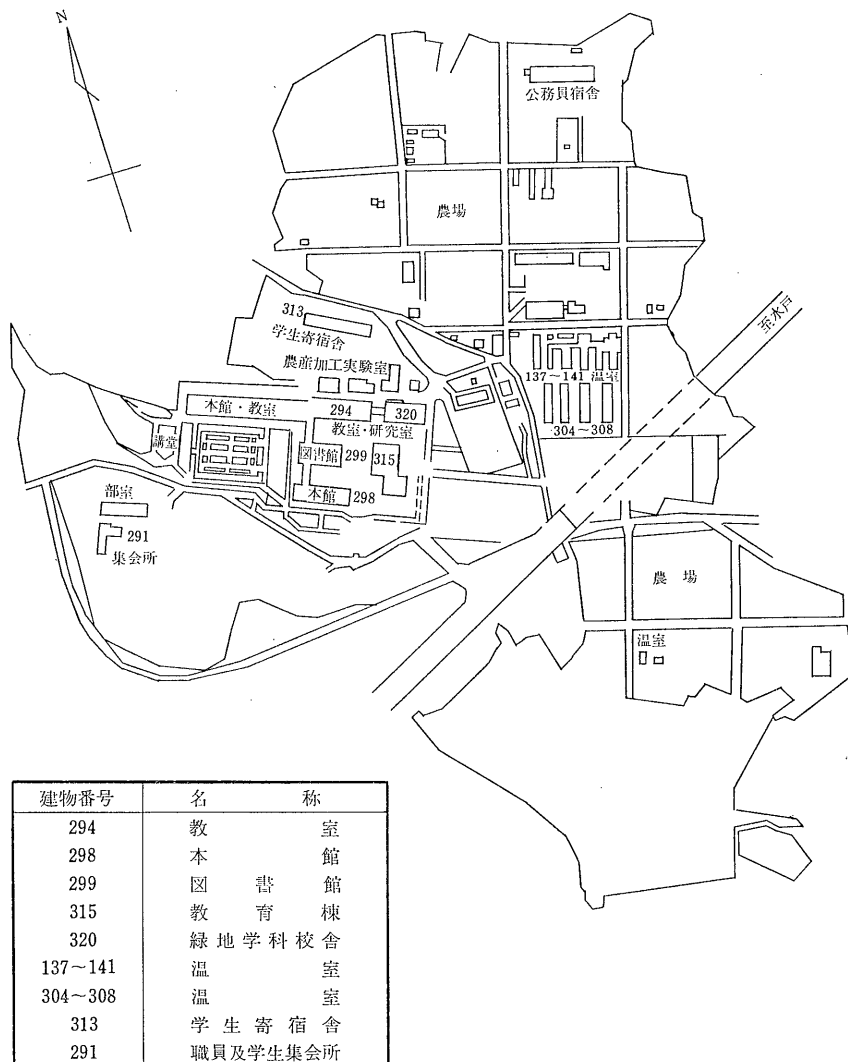
習志野地区(習志野市泉町3丁目9番1号所在)

建物番号	名 称
5	講 堂
14	園 芸 学 部
21	講 堂
22	農 場 事 務 室
150	農 具 室
123~129	寄 宿 舎
133	園芸学科及総合農学科研究室
134	特 殊 農 場 事 務 室
137~147	温 室 庫
148	球 根 貯 蔵 室
153	農 産 加 工 室
266	学 生 体 育 室
267	畜 舎
282	造園学科実験室及同研究室
291	記 念 会 館
294	教 室
296	網 球 場
297	実 験 ガ ラ ス 室
298	本 図 書 館
299	一 号 温 室
004	一 号 温 室



松戸地区（松戸市戸定648番地所在）

施設



松戸地区（松戸市松戸648番地所在）

(2) 千葉大学土地・建物一覧

(昭和54.4現在)

地区名	部 局 名	施 設 名	所 在 地	土 地 m ²	建物(総面積) m ²			備 考
					鉄筋鉄骨	木 造	計	
西 千 葉 地 区	本 部	本 部 庁 舎	千葉市弥生町1番33号	389,170	3,809		16,056	※内訳 体育館 2,625 厚生施設(食堂) 1,612 学生食堂 1,119 武道場 984 宿泊施設 231 その他 2,750 ※※内訳 附属中学校 6,160 附属小学校 6,724 附属幼稚園 1,418 附属養護学校 1,341
		そ の 他			※ 9,321	2,926		
	保健管理センタ ー				590		590	
	附 属 図 書 館				4,427		4,427	
	人 文 学 部				5,616		5,616	
	教 育 学 部	学 部			15,240	179	31,062	
		附 属 学 校			※※ 15,643			
	理 学 部				11,617		11,617	
	薬 学 部				8,508		8,508	
	工 学 部				36,463		36,463	
亥 鼻 地 区	教 養 部		千葉市亥鼻1丁目 8番1号	262,289 (他に借入 935)	17,812		17,812	※医学部所属 ※※ 看護婦宿舎 2,841 亥鼻宿舎 1,898
	職 員 宿 舎					1,095	1,095	
	医 学 部				17,890	2,664	20,554	
	附 属 病 院				101,643	6,810	108,453	
	看 護 学 部				2,400		2,400	
	生物活性研究所				3,458		3,458	

資料編

地区名	部 局 名	施 設 名	所 在 地	土 地 m ²	建物(総面積) m ²			備 考
					鉄筋鉄骨	木 造	計	
	学 生 寮				※ 1,094			
	職 員 宿 舎				※※ 4,739	269	5,008	
松 戸 地 区	園 芸 学 部	学 部	松戸市松戸648	※ 202,254 (他に借入 19)	17,523	4,146	21,669	※内訳 学部 22,189 附属農場 180,065 ※※園芸学部所属
		附 属 農 場						
	学 生 寮	浩 気 寮			2,019		※※ 2,019	
	職 員 宿 舎				1,338	123	1,461	
	園 芸 学 部	附属農場樹木実験地	松戸市小金字大谷	3,361				
	学 生 部	江 戸 川 艇 庫	松戸市栄町字西5丁目	543	195		195	
習志 地区 野	事 務 局		習志野市泉町3の76の30	33,290				
小 中 台 地 区	学 生 寮	稲 毛 寮	千葉市小中台町824	11,145	3,439		3,439	
		無 名 寮			1,800		1,800	
		睦 寮			8,015	2,056	158	
		留 学 生 寮			11,068	4,175	137	
	職 員 宿 舎		千葉市小中台町824・877	19,796	9,444	302	9,746	
そ	教 育 学 部	臨 海 実 習 所	館山市大賀字西台	6,518 (他に借入32)	649		649	
		臨 海 実 験 室	千葉県安房郡鋸南町	1,512		396	396	

の 他	医 学 部	気候医学研究室	山梨県南都留郡山中湖村	22,730		297	297	
		環境疫学研究施設	静岡県磐田郡佐久間町	(借入1,212)	451		451	
	薬 学 部	薬 用 植 物 園 場 館 山 圃 場	館山市山本字上洲垂	8,535	153		153	
		高 冷 地 農 場	群馬県沼田市下川田町	71,358 (他に借入338)	244	152	396	
	園 芸 学 部	暖 地 農 場	静岡県賀茂郡東伊豆町	48,363 (他に借入319)	1,680	200	1,880	
		職 員 宿 舎	千葉市緑町ほか	1,829 (他に借入248)	1,745	53	1,798	
	貸 付			4,233				
	そ の 他			(借入876)	9	82	91	
合 計				1,106,009 (他に借入3,979)	307,190	19,989	327,179	学生部艇庫 医学部納骨堂

施設

(3) 施設・設備拡充整備の推移

年 度	建 物 等 名 称	構造、階	面 積	備 考
昭和				
26	医学部気候医学研究室(山中)	木造 1階建	223 ^{m²}	財団法人同仁会から寄附
28	医学部基礎医学本館教室	鉄筋コンクリート造地下1階地上4階建	11,660	昭和33年度完成
29	医学部職員集会所	木造 2階建	530	いのほな同窓会 いのほな奨学会 財団法人同仁会 から寄附
32	園芸学部職員及び学生集会所	木造 1階建	180	園芸学部戸定会から寄附
34	園芸学部本館(研究棟)	鉄筋コンクリート造4階建	1,133	
35	園芸学部教室研究室	〃 4階建	7,476	昭和37年度完成
	留学生課程寄宿舎(留学生寮)	〃 3階建	3,611	昭和37年度完成
36	教育学部音楽教室	〃 1階建	512	
37	文理学部教室研究室	〃 4階建	8,773	
38	工学部及び工業短期大学部教室研究室	〃 5階建	19,355	
	女子学生寄宿舎(陸寮)	〃 4階建	1,884	
39	文理学部教室研究室(教養部)	〃 5階建	9,841	
	教育学部教室研究室	〃 4階建	11,173	
	教育学部附属中学校校舎及び体育館等	〃 4階建	6,076	6,076 ^{m²} のうち933 ^{m²} はP.T.Aから寄附
	男子学生寄宿舎(稲毛寮)	〃 4階建	1,692	
	医学部附属農山村医学研究施設(浦川)	木造 2階建	451	静岡県磐田郡佐久間町から寄附
40	教育学部附属幼稚園舎	鉄筋コンクリート造2階建	872	
	薬学部教室研究室	〃 5階建	5,150	
	医学部記念講堂	〃 2階建	2,209	医学部創立85周年記念会から寄附
	留学生寄宿舎(女子寮)	〃 2階建	674	
41	教育学部附属小学校校舎及び体育館等	〃 3階建	4,300	千葉県から寄附
	教育学部附属小学校校舎及び体育館等	〃 2階建	1,242	P.T.Aから寄附
	工学部合成化学科教室研究室	〃 5階建	2,230	
	工学部附属天然色工学研究施設	〃 3階建	860	
	薬学部製薬化学科教室研究室	〃 4階建	2,230	
	教育学部附属中学校特殊学級校舎	〃 2階建	780	
	西千葉地区環境整備			構内道路舗装、外灯
	工学部集会所(松韻会館)	鉄筋コンクリート造2階建	560	工学部40周年事業会から寄附
42	教育学部校舎	〃 2階建	360	
	附属図書館本館	〃 3階建	4,427	昭和43年度完成
	西千葉地区体育館	〃 2階建	2,625	千葉県から寄附

資 料 編

42	西千葉地区厚生施設	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,612	千葉県から寄附
	薬学部講堂	〃 2 階建	498	薬学部新築施設拡充事業会から寄附
	工学部教室	〃 5 階建	3,194	短大拡充強化後援会から寄附
	看護婦宿舍	〃 5 階建	2,841	昭和43年度完成 ポンプ室及び貯水槽
43	西千葉地区給水施設			
	教育学部附属小学校校舎	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,113	
	工学部附属天然色工学研究施設	〃 3 階建	560	
	教養部校舎	〃 5 階建	3,083	
44	本部庁舎	〃 5 階建	3,996	昭和44年度完成
	教養部校舎	〃 5 階建	2,740	
	工学部印刷実習工場	〃 2 階建	585	585㎡のうち390㎡は印刷実験工場設置協力会から寄附
	人文学部校舎	〃 5 階建	4,140	
45	工学部校舎	〃 5 階建	3,450	3,450㎡のうち720㎡は、短大拡充強化後援会から寄附。寄附建物以外は昭和45年度完成
	養護教諭養成所・教育学部校舎	〃 5 階建	2,840	昭和45年度完成
	西千葉地区既設建物暖房			昭和47年度完成
	西千葉地区環境整備			植栽、道路舗装等
46	医学部図書分館	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,130	
	園芸学部既設建物暖房			
	園芸学部学生寄宿舎	鉄筋コンクリート造 3 階建	1,990	昭和46年度完成
	本部武道場	〃 1 階建	880	
47	医学部附属病院防火施設			自動火報、避難階段（神経科病棟）
	医学部附属病院基幹整備			電気、ガードレール、門、擁壁
	園芸学部大学院等実験研究室	鉄筋コンクリート造 5 階建	3,639	
	工学部附属天然色工学研究施設	〃 3 階建	560	昭和48年度完成
48	医学部附属病院診療棟病棟その他	鉄骨鉄筋コンクリート造地下2階地上12階建	51,414	昭和52年度完成
	医学部附属病院防火施設			自動火報、誘導灯（旧病院）
	園芸学部附属熱川暖地農場実習施設	鉄筋コンクリート造 3 階建	1,322	昭和48年度完成

施設

48	西千葉地区学生食堂 西千葉地区防火施設 医学部附属病院基幹整備	〃 1階建	1,199	昭和49年度完成 貯水池 電波障害に伴う電気通信、特高受電工事負担金
49	工学部機械工学科第二学科校舎	鉄筋コンクリート造5階建	1,340	昭和50年度完成
	医学部附属看護学校及び助産婦学校生徒寄宿舎	〃 6階建	2,570	昭和50年度完成
50	教養部校舎	〃 5階建	2,050	
	看護学部校舎	〃 7階建	2,400	昭和51年度完成
	医学部附属病院基幹整備			配水管工事負担金、給水申込納付金
	学生寄宿舎(無名寮)	鉄筋コンクリート造5階建	1,800	昭和51年度完成
51	西千葉地区学生食堂防火施設			非常警報
	生物活性研究所	鉄筋コンクリート造6階建	3,440	昭和52年度完成
	医学部附属病院基幹整備			ガス供給設備工事負担金、屋外排水接続
	医学部附属病院精神神経科病棟等	鉄筋コンクリート造3階建	7,362	昭和52年度完成
	医学部附属病院基幹整備			新病院玄関周辺的环境整備、昭和52年度完成
	園芸学部環境緑地学科等校舎	鉄筋コンクリート造5階建	2,200	昭和52年度完成
	園芸学部附属熱川暖地農場砂防堰堤			昭和52年度完成
52	人文学部校舎	鉄筋コンクリート造5階建	1,411	
	理学部地学科等校舎	〃 6階建	2,780	
	保健管理センター	〃 2階建	590	
	西千葉地区排水末端測定施設			スプリンクラー設備、煙感知器、配水管負担金
	医学部附属病院基幹整備			道路舗装、駐車場、芝貼り、擁壁
	医学部附属病院環境整備			
	亥鼻地区排水末端測定施設			
	松戸地区排水末端測定施設			
53	西千葉地区給水基幹整備			便所節水装置その他
	本部共通棟	鉄筋コンクリート造2階建	1,456	昭和54年度完成予定
	工学部共通棟	〃 3階建	1,671	昭和54年度完成予定
	西千葉地区給水基幹整備(2系統配管)			昭和54年度完成予定

53	亥鼻地区環境整備 医学部校舎改修等 亥鼻地区給水基幹整備（2系 統配管） 亥鼻地区学生寄宿舍 松戸地区給水基幹整備（2系 統配管） 留学生寄宿舍防火施設	鉄筋コンクリ ート造3階建	1,093	病院周辺 昭和54年度完成予定 昭和54年度完成予定 昭和54年度完成予定 自動火報
----	---	------------------	-------	--

注：1 文部省会計課所管によるものについては除いた。
2 「構造、階」欄は主たる建物を記載した。

学 生

9 学 生

(1) 千葉大学学生定員の推移 (その1)

学部等		年度	昭和24		25		26		27		28		29		30	
		定 員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員
学 部	学 芸 学 部		560	560												
	文 理 学 部				180	180	180	360	300	660	300	960	300	900	(100) 120	(100) 660
	人 文 学 部															
	教 育 学 部	4 年課程			120	120	260	380	260	640	260	900	260	1,040	260	1,040
		2 年課程			360	360	310	670	310	620	310	620	310	620	310	620
	理 学 部															
	医 学 部						80	80	80	160	80	240	80	320	80	400
	薬 学 部		40	40	40	80	40	120	40	160	40	160	40	160	40	160
	看 護 学 部															
	工 芸 学 部		180	180	180	360										
	工 学 部						180	180	180	360	180	540	180	720	180	720
	園 芸 学 部		100	100	110	210	120	330	120	450	120	470	120	480	120	480
	計		880	880	990	1,310	1,170	2,120	1,290	3,050	1,290	3,890	1,290	4,240	(100) 1,110	(100) 4,080
大 学 院	留 学 生 部	(昭和38年度以前は 文理学部留学生課程)														
	理 学 研 究 科															
	医 学 研 究 科														52	52
	薬 学 研 究 科															
	看 護 学 研 究 科															
	工 学 研 究 科															
	園 芸 学 研 究 科															
専 攻 科	計														52	52
	人文学専攻科															
	教育専攻科															
	薬学専攻科															
	工学専攻科														25	25
	園芸学専攻科												15	15	15	15
園 芸 学 部 園 芸 別 科	計												15	15	40	40
	園芸学部農業別科						40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	1 年コース															
	2 年コース															
養護教諭養成所																
工業短期大学部									60	60	60	120	60	180	60	180

注：()書は、東京医科歯科大学医学・歯学進学課程定員を外数で示す。

31		32		33		34		35		36		37		38		39	
入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員
(100) 120	(200) 480	(100) 120	(200) 480	120	(100) 480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
310	1,090	335	1,165	325	1,230	325	1,295	325	1,310	360	1,370	360	1,440	360	1,440	360	1,440
210	520	70	280	70	140	70	140	70	140	—	70						
80	480	80	480	80	480	80	480	80	480	80	480	80	480	80	480	80	480
40	160	40	160	40	160	40	160	40	160	40	160	40	160	40	160	40	160
180	720	190	730	225	775	225	820	245	885	265	960	285	1,020	305	1,100	340	1,195
120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
(100) 1,060	(200) 3,930	(100) 955	(200) 3,775	980	(100) 3,745	980	3,855	1,000	3,935	985	4,000	1,005	4,060	1,025	4,140	1,060	4,235
								60	60	60	120	60	180	60	180	60	180
52	104	52	156	52	208	52	208	52	208	52	208	54	210	54	212	54	214
																18	18
52	104	52	156	52	208	52	208	52	208	52	208	54	210	54	212	72	232
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	30	30	35	35	35	35	35	35
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	52	52	57	57	57	57	50	50
40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
60	180	90	210	90	240	130	310	130	350	130	390	130	390	130	390	130	390

(1) 千葉大学学生定員の推移 (その2)

学 部 等		年 度		昭和40		41		42		43		44		45		46	
		定 員		入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員	入学 定員	総定員
学 部	学 芸 学 部																
	文 理 学 部			120	480	120	480	120	480	—	360	—	240	—	120		
	人 文 学 部									160	160	160	320	160	480	160	640
	教 育 学 部	4 年課程		410	1,490	470	1,600	470	1,710	500	1,850	520	1,960	520	2,010	560	2,100
		2 年課程															
	理 学 部									125	125	125	250	125	375	125	500
	医 学 部			100	500	100	520	100	540	100	560	100	580	100	600	100	600
	薬 学 部			40	160	80	200	80	240	80	280	80	320	80	320	80	320
	看 護 学 部																
	工 芸 学 部																
	工 学 部			340	1,270	380	1,365	380	1,440	380	1,480	400	1,540	400	1,560	400	1,580
	園 芸 学 部			120	480	120	480	130	490	140	510	130	520	130	530	130	530
	計			1,130	4,380	1,270	4,645	1,280	4,900	1,485	5,325	1,515	5,730	1,515	5,995	1,555	6,270
	留 学 生 部			60	180	60	180	60	180	60	180	60	180	—	120	—	60
大 学 院	理 学 研 究 科																
	医 学 研 究 科			54	216	58	220	58	224	60	230	61	237	63	242	63	247
	薬 学 研 究 科			18	36	18	36	18	36	18	36	18	36	26	44	27	53
	看 護 学 研 究 科																
	工 学 研 究 科			50	50	58	108	66	124	70	136	70	140	78	148	78	156
	園 芸 学 研 究 科											32	32	32	64	44	76
	計			122	302	134	364	142	384	148	402	181	445	199	498	212	532
専 攻 科	人文学専攻科																
	教育専攻科			5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	薬学専攻科																
	工学専攻科			10	10	5	5										
	園芸学専攻科			15	15	15	15	15	15	15	15						
	計			30	30	25	25	20	20	20	20	5	5	5	5	5	5
園芸学部農業別科				40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
園芸学部 園芸別科	1 年コース																
	2 年コース																
看護教諭養成所												40	40	40	80	40	120
工業短期大学部				130	390	250	510	250	630	250	750	250	750	250	750	250	750

資料編

47		48		49		50		51		52		53		54	
入学 定員	総 定員	入学 定員	総 定員	入学 定員	総 定員	入学 定員	総 定員	入学 定員	総 定員	入学 定員	総 定員	入学 定員	総 定員	入学 定員	総 定員
160	640	170	650	170	660	250	750	250	840	260	930	280	1,040	310	1,100
560	2,160	560	2,200	560	2,240	560	2,240	600	2,280	600	2,320	600	2,360	600	2,400
125	500	125	500	160	535	160	570	160	605	160	640	160	640	160	640
100	600	100	600	120	620	120	640	120	660	120	680	120	700	120	720
80	320	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
						60	60	60	120	60	180	60	240	60	250
400	1,600	420	1,620	420	1,640	420	1,660	620	1,900	620	2,120	670	2,430	670	2,740
130	520	140	530	180	580	180	630	180	680	180	720	190	730	200	750
1,555	6,340	1,595	6,420	1,690	6,595	1,830	6,870	2,070	7,405	2,080	7,910	2,160	8,460	2,200	8,920
						40	40	40	80	40	80	40	80	40	80
63	250	65	254	65	256	77	270	81	288	81	304	81	320	81	324
27	54	27	54	27	54	27	54	27	54	27	54	28	55	29	69
														15	15
78	156	78	156	82	160	88	170	88	176	94	182	96	190	98	194
44	88	44	88	44	88	44	88	44	88	46	90	50	96	50	100
212	548	214	552	218	558	276	622	280	686	288	710	295	741	313	782
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
40	40	40	40	40	40										
						25	25	25	25	25	25	25	25		
						25	25	25	50	25	50	25	50	65	65
40	120	40	120	40	120	40	120	—	80	—	40				
250	750	250	750	250	750	250	750	—	500	—	250				

(2) 千葉大学入学志願者数の推移

[illegible]

院	看護学 研究科																
	工 学 研 究 科																
	園 芸 学 研 究 科																
	計						18	44	16	41	49	44	57	49	50	75	
専攻科	人文学 専攻科																
	教 育 専 攻 科																
	薬学 専攻科							5	10	4	6	6	2	4	1		
	工 学 専 攻 科						2	3	7	3	3	1	3	1	0	6	
	園芸学 専攻科					6	8	14	9	5	9	6	7	7	11	11	
	計					6	10	22	26	12	18	13	12	12	12	17	
園芸学部 農業別科				36	61	42	79	89	105	72	68	75	71	55	47	65	47
園芸別科	1 年 コ ー ス																
	2 年 コ ー ス																
養 護 教 諭 養 成 所																	
工 業 短 期 大 学 部					71	106	159	190	156	216	230	236	239	237	176	247	234

注：1 文理学部の（ ）書は、東京医科歯科大学医学・歯学進学課程入学志願者を外数で示す。

2 医学部の（ ）書は、医学専門課程入学志願者を外数で示す。

学 部 等		年 度															
		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	
学 部	学 芸 学 部																
	文 理 学 部	1,628	2,091	1,628	1,751												
	人 文 学 部					1,829	1,404	1,168	1,434	1,343	1,626	1,943	2,461	2,507	2,266	775	
	教 育 学 部	4 年 制	2,436	4,933	4,561	4,283	4,648	3,228	3,282	3,750	4,220	4,440	4,938	7,194	6,258	6,074	7,706
		2 年 制															
	理 学 部					1,279	1,125	907	1,051	927	1,134	1,304	2,603	2,359	2,200	650	
	医 学 部	844	1,272	1,301	1,505	1,446	1,775	1,381	1,304	1,267	1,031	1,243	1,415	1,363	1,328	315	
	薬 学 部	300	495	630	604	569	549	528	535	533	550	608	594	608	587	337	
	看 護 学 部											466	210	261	321	217	
	工 芸 学 部																
	工 学 部	2,899	4,138	3,791	3,721	4,166	4,811	4,738	4,024	3,522	3,358	3,355	6,833	6,449	7,050	2,887	
	園 芸 学 部	621	1,077	878	984	1,140	826	649	733	842	1,007	1,136	1,407	1,448	1,247	740	
	計		8,728	14,006	12,789	12,848	15,077	13,718	12,653	12,831	12,654	13,146	14,993	22,717	21,253	21,073	13,627
留学生部（昭和38年度以前 は文理学部留学生課程）																	
大 学	理 学 研 究 科											49	102	91	102	97	
	医 学 研 究 科	57	62	58	13	14	10	16	4	11	11	15	11	12	20	16	
	薬 学 研 究 科	24	38	31	30	33	56	26	50	60	60	57	50	44	45	44	

院	看護学 研究科															29
	工 学 研 究 科	31	71	74	71	106	124	73	136	124	120	138	131	159	140	133
	園芸学 研究科					18	30	26	66	61	60	63	63	75	71	60
	計	112	171	163	114	171	220	141	256	256	251	322	357	381	378	379
専攻科	人文学専攻科								1	10	11	16	11	11	6	7
	教育専攻科	1	5	5	4	1	3	8	9	5	6	7	6	9	5	7
	薬学専攻科															
	工学専攻科	4	0													
	園芸学専攻科	13	5	8	16											
	計	18	10	13	20	1	3	8	10	15	17	23	17	20	11	14
園芸学部 農業別科		100	123	133	148	112	88	62	55	57	56	78				
園芸別科	1 年 コ ー ス												17	15	28	
	2 年 コ ー ス												72	72	78	91
養 護 教 諭 養 成 所						56	51	118	135	118	183	265				
工 業 短 期 大 学 部		418	475	452	395	554	555	463	442	386	285	278				

(3) 千葉大学入学者数の推移

[illegible]

院	看護学 研究科																
	工学 研究科																
	園芸学 研究科																
	計						16	21	14	25	45	41	51	44	43	66	
専攻科	人文学 専攻科																
	教育 専攻科																
	薬学 専攻科							5	10	4	6	5	2	4	1		
	工学 専攻科						2	3	7	3	3	1	3	1	0	4	
	園芸学 専攻科					6	8	14	9	5	9	3	6	6	9	9	
	計					6	10	22	26	12	18	9	11	11	10	13	
園芸学部 農業別科				22	32	31	46	37	40	33	38	40	37	40	36	44	30
園芸別科	1 年 コース																
	2 年 コース																
養護教諭養成所																	
工業短期大学部				58	70	71	61	60	97	90	123	126	125	119	129	127	

注：1 文理学部の（ ）書は、東京医科歯科大学医学・歯学進学課程入学者を外数で示す。

2 医学部の（ ）書は、医学専門課程入学者を外数で示す。

学部等		年 度															
		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	
学 <																	

院	看護学 研究科															14
	工学 研究科	28	46	47	51	63	75	73	68	76	79	80	87	88	92	80
	園芸学 研究科					15	19	26	34	32	33	32	29	31	36	32
	計	100	122	115	82	100	125	141	129	141	143	178	178	179	207	198
専攻科	人文学 専攻科								1	4	5	6	5	5	4	3
	教育 専攻科	1	3	5	4	0	2	2	1	4	2	3	3	5	3	5
	薬学 専攻科															
	工学 専攻科	2	0													
	園芸学 専攻科	10	4	7	14											
	計	13	7	12	18	0	2	2	2	8	7	9	8	10	7	8
園芸学部 農業別科		49	44	43	40	40	40	41	35	40	41					
園芸別科	1 年 コース											25	18	18	18	
	2 年 コース											25	23	26	29	39
養護教諭養成所						24	16	28	31	28	32	38				
工業短期大学部		193	235	232	231	235	185	199	191	186	191	247				

(4) 学生在籍者数の推移

年
生

年度	種別	学			部							大 学 院 研 究 科								専攻科	別科	合 計	工業短期大学部		養護教諭養成所		
		学		芸	医	薬	看護	工	園芸	計	定員外学 (再掲)	医学 (D)	薬学 (M)	理学 (M)	看護学 (M)	工学 (M)	園芸学 (M)	計	定員外学 (再掲)								
		文 人文	理 理	教育																			定員外学 (再掲)				
昭和24		325				40		180	104	649																	
25		260		546		93		359	211	1,469	2																
26		394		935	100	143		499	319	2,390										22	2,412						
27		616		1,129	179	181		672	416	3,193										32	3,225						
28		725		1,253	262	176		713	452	3,581	19									28	3,609	114					
29		853		1,385	344	179		727	452	3,940	18								6	46	3,992	172	1				
30		722		1,428	397	190		723	482	3,942	43	15						15	7	36	4,000	186	2				
31		717		1,500	465	181		733	488	4,084	63	36						36	20	40	4,180	184	2				
32		721		1,382	468	182		760	471	3,984	65	50						50	25(4)	32	4,091	214					
33		620		1,224	467	181		810	490	3,792	59	75						75	10	38	3,915	240					
34		501		1,183	492	177		862	492	3,707	61	102						102	18	39	3,866	303	2				
35		483		1,151	507	173		921	485	3,720	68	121						121	2	8(1)	36	3,885	345	4			
36		501		1,105	513	171		984	490	3,764	68	155						155	2	12(1)	40	3,971	385	2			
37		513		1,036	537	173		1,048	491	3,798	81	172						172	2	9(1)	36	4,015	374	2			
38		540		1,087	544	177		1,134	481	3,963	99	174						174	2	12(1)	44	4,193	377	4			
39		538		1,162	550	186		1,243	482	4,161	110	190	12					202	1	18(5)	30	4,411	370	4			
40		535		1,282	573	187		1,328	491	4,396	120	194	29			28		251	2	14	49	4,710	424	4			
41		530		1,504	596	220		1,421	498	4,769	115	205	37			73		315	11	7	44	5,135	562	5			
42		521		1,616	611	263		1,487	510	5,008	109	214	37			94		345	13	11	43	5,407	665	3			
43		393 152	118	1,768	628	308		1,535	537	5,439	105	172	38			101		311	10	20	41	5,811	695	4			

44	281 311	242	1,860	636	348		1,587	557	5,822	99	137	34			116	15	302	7	2	40	6,166	719	4	24
45	151 468	367	1,871	651	346		1,610	564	6,028	97	91	40			142	33	306	9	2	40	6,376	714	5	40
46	19 634	489	1,973	642	335		1,631	562	6,285	90	63	50			159	50	322	10	2	41	6,650	682	4	65
47	9 654	515	1,997	656	333		1,658	559	6,381	65	42	52			155	68	317	8	2	35	6,735	674	3	71
48	6 673	529	2,096	640	332		1,684	575	6,535	55	39	49			152	70	310	8	9	39	6,893	667	7	82
49	3 699	555	2,163	676	327		1,697	618	6,738	52	38	47			161	69	315	7	8	41	7,102	656	5	87
50	793	586	2,224	669	328	60	1,725	682	7,067	36	33	51	24		167	69	344	5	10	50	7,471	638	3	101
51	902	624	2,282	691	322	117	1,899	732	7,569	29	39	52	54		182	61	388	1	11	69	8,037	438	0	69
52	984	671	2,345	713	325	175	2,069	768	8,050	27	39	47	66		191	59	402	6	11	67	8,530	233	0	38
53	1,092	679	2,364	719	328	232	2,218	774	8,406	24	49	50	70		198	68	435	9	9	72	8,922	13	0	—

注： 1 24年度は、7月15日現在、25年度は4月30日現在、26年度は9月30日現在、27年度は5月15日現在、28年度は29年1月31日現在、29年度は6月30日現在、30年度は11月1日現在、31年度は5月31日現在、32～33年度は10月31日現在、34～37年度は10月1日現在、38～53年度は5月1日現在における学生数である。

2 定員外学生とは外国人留学生（本土復帰前の沖縄出身学生も含む）をいう。

3 24、26、27年の各年度の定員外学生数については不明の部分があるので、とくに記してない。

(5) 千葉大学卒業生・修了者数

卒業生

区 分		昭和 26年	27 年		28 年		29 年		30 年		31 年		32 年		33 年		34 年		35 年		36 年		37 年		38 年		39 年		40	
		3 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	10 月	3 月	
学 部	文理学部				21		46		36		85		100		104		139	1	145		109		124		116		128	1	124	
	人文学部																													
	教育学部	4 年 課程				62		87	3	142	4	131	1	169	3	229	6	241	2	284	4	271	4	240	1	227	2	244	6	257
		2 年 課 程	112	227	(6月2名を含む)	227	5	260		288	2	285	2	289	2	209	1	66		35		37	2	46						
	理 学 部																													
	医 学 部								103		81		85		81		79		88		83		75		87	1	85		86	
	薬 学 部				39		42		44		42		44		44		47		41		46		44		44		36		43	
	看護学部																													
	工 学 部				122		155		161	(5月) 1	166		155		168		176		191		202		226	1	229	1	244		265	
	園芸学部				70	2	93		92		102		96		96	1	115	1	115		106	3	111		123		112		111	
計		112	227	6	541	7	683	3	866	7	892	3	938	5	931	8	863	4	899	4	854	9	866	2	826	4	849	7	886	
留 学 生 部 (昭和33年3月以前は文理学部留学生課程)																									18		9		19	
大 学	理学研究科																													
	医学研究科																15		21		14		22		41		38		48	

[illegible]

区 分		年	41 年		42 年		43 年		44 年		45 年		46 年		47 年		48 年		49 年		50 年		51 年		52 年		53 年		54年	
		10月	3月	10月	3月	10月	3月	10月	3月	10月	3月	10月	3月	10月	3月	10月	3月	10月	3月	9月	3月	9月	3月	10月	3月	9月	3月	9月	3月	
学 部	文理学部	1	130		134	126		112		125		128	1	7		3		3		2										
	人文学部													131	1	142		138	1	155	3	132		170	1	158	1	248		
	教育学部	4 年 課 程	1	227		278	4	320		376	5	418		378	2	460	2	428	6	443	7	463	3	487	4	505	7	538	2	548
		2 年 課 程																												
	理 学 部													89		102		127	1	115		113		107		139		162		
	医 学 部		84	2	94		92		95 ^(7月) ₃	83 ^(7月) ₃	105 ^(7月) ₁	90 ^(7月) ₇	107 ^(7月) ₃	81 ^(7月) ₂	123 ^(7月) ₂	96 ^(7月) ₄	93 ^(7月) ₁	114 ^(7月) ₁									85			
	薬 学 部	1	51		44		45		46		86		89		84		81		83		75		81		75		76		78	
	看護学部																											52		
	工 学 部	1	288	2	319		330	1	344	1	363	1	371	2	361	2	382		391	4	383		378	2	398	2	425	2	451	
	園芸学部		112		115		106		117		118		124		128	1	121		134	1	117	1	126	1	145	1	181		168	
	計	4	892	4	984	4	1,019	1	1,090	9	1,193	4	1,195	6	1,350	13	1,366	9	1,400	16	1,433	9	1,413	11	1,493	12	1,631	5	1,792	
大 学	留 学 生 部 (昭和38年3月以前は文理学部留学生課程)		11		20		17		10		7		12		7															
	理学研究科																							16		29	2	32		
	医学研究科		41		42		51		51		48	1	38	10	12	4	8		7		14	1	2		7	2	5	1	13	

院	薬学研究科		11		18		18		18		17		15		23		26		24		24		21		28		22		23
	工学研究科				25		44		46		48		56		72		75		66		70		69		79		82	2	101
	園芸学研究科										9		12		24		33		29		34		31		23			32	
	計		52		85		113		115		113	1	118	10	119	4	133		130		137	1	126		161	2	161	5	201
専攻科	人文学専攻科																3		4		5		6		5			4	
	教育専攻科		1		2		5		3		1		2		2		1		4		2		2		2		1	1	4
	薬学専攻科																												
	工学専攻科																												
	園芸学専攻科		10		3		4		15		1																		
	計		11		5		9		18		2		2		2		1		7		6		7		8		6	1	8
園芸学部	農業学部別科		49		42		41		40		40		39		41		35		38		41								
園芸別科	1年コース																						18		17		17		15
	2年コース																							28		22		25	
	養護教諭養成所														24		14		26		22	2	27	1	30		38		
	工業短期大学部	1	90		88		141		171	1	143	15	156	5	139	5	138	1	135	6	152	4	138	5	148	1	174	4	4

(6) 千葉大学外国人留学生受入れ状況一覧

生 年

年 度	昭和26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	計
国 籍																														
台 湾		1	7	15	23	16	17 (1)	9 (1)	10	9	7	10	14	12	15	17 (1)	16	12	11	11 (1)	7 (1)	2	3	1	7	3	9	13	5	282 (5)
インドネシア				2	1		1				2	2	1	1				2	3 (1)	1 (1)	3 (3)	2		1	1 (1)	1 (1)	1 (1)			25 (8)
ビ ル マ						1 (1)	1 (1)			3 (1)					1 (1)	1 (1)							1 (1)							8 (6)
タ イ						1 (1)		1	1		1	1	5 (2)	7 (3)	3 (1)	2 (1)	3 (3)	1 (1)		3 (3)	1	1 (1)	1		2 (1)		2 (2)	1 (1)		37 (20)
オ ラ ン ダ						1 (1)																								1 (1)
イ ギ リ ス					1							2	2																	5
ポ ル ト ガ ル					1																									1
朝 鮮							2	1	1		1	1			2	1		2			1									12
韓 国	1			1		1	2		1	1	1	2	7	1	3	3	5	2	2	2	2		2		1		1 (1)	3 (2)	1 (1)	45 (4)
フ ィ リ ピ ン					1										1	1 (1)									1 (1)	1 (1)			1 (1)	6 (4)
メ キ シ コ							1 (1)																	1 (1)					1 (1)	3 (3)
ベ ト ナ ム							1 (1)					1		1	1	1	1	2 (1)	1	4	7	7	7	6	2					34 (2)
カ ン ボ ジ ア							1 (1)	1 (1)				2 (2)	1 (1)			1 (1)														6 (6)
ラ オ ス								2 (2)											1 (1)		1 (1)									4 (4)
マ レ ー シ ア							1		2			2	1	3	1 (1)	1	3	2	5 (1)		2 (1)								1 (1)	24 (4)
シンガポール								1		1		1		1			1	1		1 (1)	1 (1)		1 (1)							9 (3)
セ イ ロ ン									1 (1)								1 (1)						1							3 (2)

[illegible]

国 籍 \ 年 度	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	計
バングラディシュ																									1 (1)					1 (1)
スリランカ																									1 (1)					1 (1)
パキスタン												1														2 (2)				3 (2)
コロンビア																										1 (1)				1 (1)
イタリア																										1 (1)				1 (1)
フランス																										1 (1)				1 (1)
エクアドル																											1 (1)			1 (1)
ウルグアイ																											1 (1)			1 (1)
中華人民共和国																												2		2
ベネズエラ																													1 (1)	1 (1)
計	1	1	7	18	27	20 (3)	24 (3)	14 (3)	17 (3)	19 (3)	14 (1)	20 (1)	40 (7)	25 (5)	31 (3)	28 (5)	31 (7)	28 (4)	26 (6)	27 (8)	28 (11)	22 (7)	18 (2)	14 (4)	21 (9)	11 (6)	19 (8)	21 (6)	14 (7)	586 (122)

注：（ ）書は国費外国人を内数で示す。

(7) 学 位 授 与

旧制学位、医学博士 2,590・新制学位 医学博士 1,017																									
新制学位内訳	種 別	年 度	昭和33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	計	
		課程修了によるもの	15	21	14	22	41	38	48	41	42	51	51	48	39	22	12	7	14	3	7	7	13	556	
	論文提出によるもの				3	5	27	51	40	32	26	32	45	26	31	20	14	23	37	16	20	13	461		
	計	15	21	14	25	46	65	99	81	74	77	83	93	65	53	32	21	37	40	23	27	26	1,017		

(8) 千葉大学学寮一覧

※
※

所 属	寮 名	入 寮 対 象 者	収容定員	施 設 の 概 況				所 在 地	備 考
				構 造	面 積 _m ²	建築年月	1 室 の 収容人員		
学 生 部	北 寮	文理学部 男子	32	W 2	1,505.4 3,010.6	昭和 18. 3	2～3	千葉市小中台町877	昭和40. 4稲毛寮 A 棟完成に伴い廃寮
	無 名 寮	一般教養 課程男子	103	W 1	1,209	明治 23.10	2～3	習志野市大久保町 4—113	昭和51. 9 現無名寮完成に伴い廃寮
	陸 寮	全学女子	118	R 4	1,049 1,890	昭和 39. 3	2	千葉市小中台町824	猪丘寮代替として B 棟完成に伴い、工学部所管の A 棟を統合して 学生部所管となる
	稲 毛 寮	A 棟 専門課程	88	R 4	1,654 3,439	昭和 40. 3	2		
		B 棟 男 子	120	R 4		昭和 41. 3	2		
	無 名 寮	教養課程 男子	100	R 5	381 1,800	昭和 51. 7	1～2		
教育学部	猪 丘 寮	教育学部 男子	110	W 2	1,069.2 2,138.4	明治 33.10	3～4	千葉市市場町26	昭和41. 4現稲毛寮 B 棟完成に伴い廃寮
教育学部 分 校	拓 心 寮	2 年課程 男子	192	W 2	1,056.0 2,112.0	明治 30. 1	2～6	印旛郡千代田町四 街道1,523	昭和27. 3焼失
	陸 寮	主として 2 年課程 女子	114	W 2	1,293.6 2,587.2	明治 30. 1	1～2		昭和39. 4女子統合寮として現陸寮 完成に伴い廃寮
	啓 心 寮	2 年課程 男子	36	W 2	1,056 2,112	明治 33.10	2		昭和36年度 2 年課程学生募集停止 に伴い入寮停止昭和38. 2廃寮
医 学 部	研 水 寮	医 学 部 男子	18	W 2	369.6 739.2	不詳	1～2	千葉郡津田沼町大 久保	昭和45. 8廃寮
	人 生 希 望 寮	医 学 部 男子	47	W 2	844.8 1,689.6	昭和 13. 6	1～2		昭和54. 4寄宿舎開寮に伴い同年 3 月廃寮

医 学 部	第 一 学 生 寮		医 学 部 男 子	25	W 1	330 330	昭和 30. 2	1	千葉市矢作町785	昭和54.4寄宿舎開寮に伴い、同年3月廃寮	
	医学部学生寄宿舍		医学部専門課程男子	60	P C 3	359 1,093	昭和 54. 2	1	千葉市亥鼻1ー8ー1	第1学生寮（20名収容） 人生希望寮（54名収容） 共に木造老朽寮のため建替えたもの	
工 学 部	松 芸 寮		工 学 部 男 子	68	W 2	729.3 1,458.6	大正 9. 8	2～6	松戸市岩瀬531	昭和40.4現稲毛寮A棟完成に伴い廃寮	
園芸学部	浩 気 寮		園芸学部男子	80	W 2	1,066.4 1,625.1	昭和 9. 3	4	松戸市松戸648	昭和46.5新寮に建替え	
	浩 気 寮		園芸学部男女	84 26	R 3	892 2,019	昭和 46. 5	男女 4 2			
学 生 部	留学生寮	A棟	外国人留学生	男	139	R 3	1,259 2,519	昭和 36. 6	1	千葉市小中台町824	東京地区国立大学の外国人学生も含む
		B棟		女	30	R 3 一部R 2	629 1,656	昭和 38. 3	1		

10 公開講座

公開講座の実施状況

年度	講座名	講座の趣旨	実施学部 (協力学部)	開催日数・時間	会場	募集定員	受講料 (1人あたり)	所要経費	備考
昭和									
47	「環境と公害」	京葉工業地帯の急速な発展に伴い、地域住民の重大な関心事となっている環境と公害問題を選定し、環境問題の主要点と環境基準について住民の理解を深めることを目的とする。	全学	6日間 (7月19日～7月26日) 延べ36時間	本部 会議室	70人	1,000円	206,000円 {謝金165,000 校費 41,000}	社会教育局 (開放講座)
48	「環境汚染と人間生活」	前年度の「環境と公害」の講座に続いて「環境汚染と人間生活」と題して講座を開講し、地域住民の教養を身につける機会を与えることを目的とする。	全学	9日間 (8月21日～9月6日) 延べ36時間	医学部 講堂	300	1,000円	580,000 {謝金234,000 校費346,000}	社会教育局 (開放講座)
49	「生活文化と技術」	産業革命以来、技術の進歩がくらしの中で我々にどのように結びついてきたかを見直して、そこから人間のための技術はいかにあるべきかを見出してゆくことを目的とする。	工学部 (工学部 短 人文文学部 教育学部 理学部 医学部)	5日間 (8月26日～8月30日) 延べ30時間	本部 会議室	100	750	379,000 {謝金261,000 校費118,000}	社会教育局 (公開講座)
50	(学内事情により中止)								
51	「くらしとこころ」	文明の進歩は、物質文明と精神文明のよきバランスによるものであり、両者の上にたつ人間性を基盤とした新しい価値の創造が今強く求められている。このため、それらの本質を講座を通して理解することにより、より人間的な創造の意義を探究することを目的とする。	工業短期大学 (教育学部 工学部 教養部)	5日間 (7月26日～7月30日) 延べ30時間	教養部 F号館	80	1,500	483,000 {謝金296,000 校費187,000}	大学局 (公開講座)

52	「くらしと健康」	くらしの中の健康の実態を知り、「心身の異常」の場合に取るべき処置と、自他の健康を守る手だてについてわかりやすくガイドを行うことを目的とする。	医 学 部 (看護学部 生物活性 研 究 所 教育学部)	5日間 (7月25日～ 7月29日) 延べ30時間	教養部 F号館	100	1,500	382,000 {謝金187,000 校費195,000	大 学 局 (公開講座)
53	「くらしと文化を 探る」 —日本と世界—	激動の時代である現代は、いろいろな政治問題、経済的困難、社会的緊張関係が発生し、国民のくらしや文化にさまざまな影響を与えている。この講座では現代が直面している基本的な問題の所在を明らかにし、日本といくつかの諸国を加えて現代における「くらしと文化」を総合的に解明することを目的とする。	人 文 学 部	7日間 (5月27日～ 7月8日) (毎週土曜日) 延べ21時間	人文学部 21番教室	100	1,000	302,000 {謝金142,000 校費160,000	大 学 局 (公開講座)

